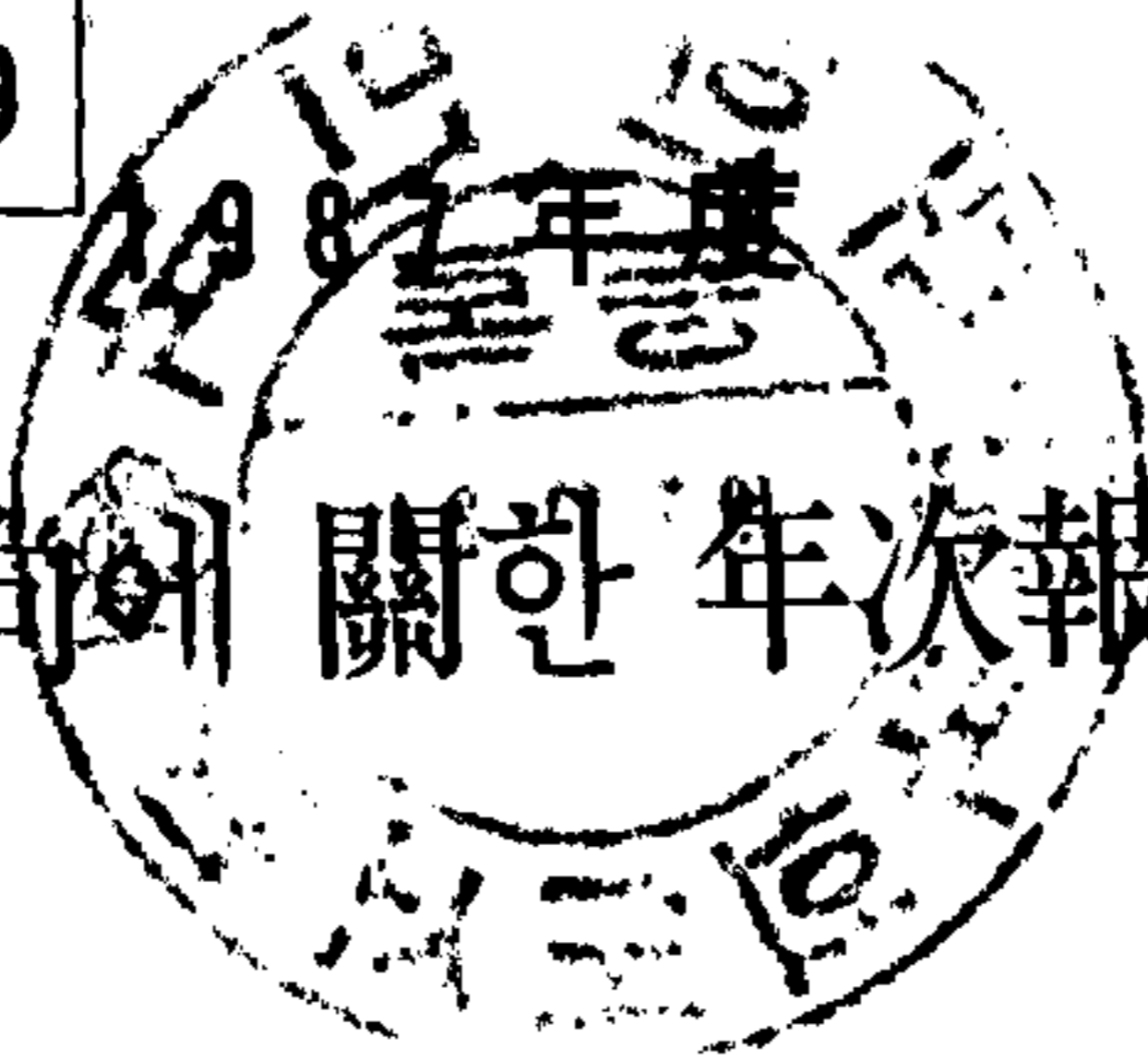


19202289



農業動向에 관한 年次報告書

寄贈	
경인우선국립중앙도서관	一九八七年十月十四日

農 林 水 産 部

目 次

第1部 農業部門

第1編 1986年度 農業動向	1
第1章 國內外 經濟動向	3
第1節 國內 經濟動向	3
第2節 海外 經濟動向	8
第2章 農村經濟	16
第1節 農業構造	16
第2節 農家經濟	23
第3節 農村物價	35
第4節 農業投資	39
第3章 農畜產物 生産	42
第1節 食糧作物	42
第2節 園藝作物	50
第3節 特用作物 및 蠶業	52
第4節 畜産物	54
第4章 農業生産基盤造成과 營農支援	60
第1節 農業生産基盤의 擴充	60
第2節 營農資材의 供給	64
第3節 營農資金支援	72
第5章 農畜産物 需給 및 流通改善	74
第1節 農畜産物 需給動向	74

第2節 農畜產物 價格安定	86
第3節 農水產物 流通改善	95
第4節 農林水產物 輸出入	99
第6章 農業技術開發과 專門人力養成	103
第1節 尖端技術開發.....	103
第2節 農業技術開發普及.....	104
第3節 農漁民後繼者 育成	114
第7章 農漁村所得源擴充과 地域開發	116
第1節 複合營農 示範事業	116
第2節 農工地區造成.....	117
第3節 副業團地造成 및 觀光農業開發.....	118
第4節 農漁村地域綜合開發.....	120
第8章 農漁村綜合對策 推進	121
第1節 農漁民 負擔輕減	121
第2節 農漁家 所得源擴充	124
第3節 農漁村 生活環境改善	126
第4節 農漁村 支援制度의 改善	128
第2編 1987年度 農業施策	131
第1章 農業政策의 基本方向	133
第1節 基本目標.....	133
第2節 重點施策.....	134
第3節 投資規模.....	138
第2章 쌀自給의 持續과 밭作物의 擴大生産	140
第1節 쌀自給의 持續	140

第2節 需要增加에 副應한 밭作物의 擴大生産	145
第3節 特用作物 増産	150
第3章 農林水産業 構造改善과 資源開發	154
第1節 農地制度의 改善	154
第2節 營農의 機械化 促進.....	156
第3節 農業生産基盤의 擴大造成	159
第4節 國內 賦存飼料資源의 擴大開發	164
第4章 農水産物の 價格安定과 流通改善	167
第1節 果菜類의 需給 및 價格安定	167
第2節 畜産物 需給 및 價格安定	170
第3節 政府糧穀의 需給管理制度改善	173
第4節 農水産物の 流通改善	175
第5節 農林水産物 輸出擴大와 對外協力強化.....	177
第5章 食品加工開發과 育成	179
第1節 食品加工業 動向	179
第2節 加工食品 標準化 本格推進.....	182
第3節 綜合食品研究院의 設置	183
第6章 農漁村所得源과 福祉基盤의 擴充	185
第1節 農林水産所得源의 多樣化	185
第2節 農外所得源의 擴充	185
第3節 農漁村地域 綜合開發	188
第4節 農漁村福祉基盤의 擴充	189
第7章 農漁村 專門人力과 尖端技術開發	190
第1節 農漁民後繼者 育成과 精銳化.....	190
第2節 尖端技術開發의 促進	191
第3節 農業技術開發 및 指導.....	192

第8章 農漁村經濟活性化를 위한 支援強化	194
第1節 農漁村綜合對策의 着實한 推進	194
第2節 農林水産金融支援 強化	196
第3節 農業災害復舊支援 強化	197
第4節 農業災害保險制度 開發	200
第9章 農漁家 負債輕減對策	202
第1節 推進背景	202
第2節 負債輕減對策 內容	203
第3節 負債輕減對策推進狀況과 期待效果	206

第2部 林業部門

第1編 1986年度 林業動向	211
第1章 概 況	213
第1節 山林現況	213
第2節 林業生産	216
第3節 林業投資	218
第2章 山林資源造成	221
第1節 造 林	221
第2節 天然林保育과 育林	223
第3節 優良種苗安定供給	225
第3章 林業經營基盤의 擴充	227
第1節 林道施設의 開發	227
第2節 私有林 協業經營의 活性化	228
第3節 林業技能人養成과 營林計劃作成	230

第4節 國有林 經營管理	232
第4章 山林資源의 保護와 公益機能增進	235
第1節 山林被害의 防止	235
第2節 野生動植物 保護	239
第3節 山林公益機能 增進	242
第5章 林產物 需給動向.....	246
第1節 木材의 安定的 供給.....	246
第2節 林產物 輸出入	249
第3節 木材利用加工.....	253
第6章 林業技術開發 및 普及	257
第1節 林業技術開發.....	257
第2節 林業技術指導.....	260
第3節 林業研修.....	261
第2編 1987年度 林業施策	263
第1章 林業政策의 基本方向.....	265
第1節 基本目標와 重點施策	265
第2節 林業投融資規模.....	266
第2章 山地資源化 10個年計劃 樹立推進	269
第1節 推進背景.....	269
第2節 計劃의 主要內容	269
第3章 山林資源의 增殖과 保護	271
第1節 造林과 育林	271
第2節 山林保護의 強化	275
第4章 林業基盤의 擴充.....	278

第1節 林業經營의 合理化	278
第2節 林業專門人力의 養成	281
第5章 林產物需給安定과 所得源開發	283
第1節 木材需給安定.....	283
第2節 林產物流通構造의 合理化	285
第3節 山林所得源開發 및 輸出擴大.....	286
第6章 山林의 公益機能增進	288
第1節 山林의 國土保全機能提高	288
第2節 山林休養空間擴充 및 景觀造成.....	289
第7章 林業試驗研究 促進과 技術普及	292
第1節 林業試驗研究 促進	292
第2節 林業技術指導 普及擴大	295
第3節 林業研修.....	297
附 錄	299

圖 表 目 次

第1部 農業部門

<圖 1-1- 1>	世界の 經濟成長率 推移	9
<圖 1-2- 1>	勞動集約度 및 資本集約度 變化推移.....	22
<圖 1-2- 2>	農家交易條件	35
<圖 1-3- 1>	食糧作物 生産推移.....	42
<圖 1-3- 2>	豆類生産量 推移.....	47
<圖 1-4- 1>	農機械 普及狀況.....	65
<圖 2-9- 1>	私債代替資金 支援節次.....	206
<表 1-1- 1>	經濟成長 推移.....	3
<表 1-1- 2>	農林漁業 成長率.....	4
<表 1-1- 3>	物價上昇率	5
<表 1-1- 4>	就業動向	6
<表 1-1- 5>	輸出 및 輸入	7
<表 1-1- 6>	經常收支	8
<表 1-1- 7>	先進國의 失業率.....	10
<表 1-1- 8>	世界 消費者 物價上昇率	11
<表 1-1- 9>	世界 交易 伸張率(物量基準)	12
<表 1-1-10>	世界그중別 經常收支.....	13
<表 1-1-11>	世界食糧需給	14
<表 1-1-12>	國際穀物價格	15
<表 1-2- 1>	農家人口	16
<表 1-2- 2>	農林漁業就業者	17
<表 1-2- 3>	農耕地面積	18
<表 1-2- 4>	'86年 農耕地 增減內容	18

<表 1-2-5>	農耕地 利用度	19
<表 1-2-6>	農耕地規模別 農家分布	19
<表 1-2-7>	經濟活動別 附加價值比重	20
<表 1-2-8>	農林漁業部門의 附加價值比重	21
<表 1-2-9>	農家戶當 生産要素別 狀況	21
<表 1-2-10>	農業生産性 指標	22
<表 1-2-11>	農家所得의 構成	23
<表 1-2-12>	'86年 耕地規模別 農家所得	24
<表 1-2-13>	'86年 地帶別 農家所得	24
<表 1-2-14>	農家戶當 農業所得의 構成	25
<表 1-2-15>	'86年 耕地規模別 農業所得	26
<表 1-2-16>	'86年 地帶別 農業所得	26
<表 1-2-17>	農家戶當 農外所得의 構成	27
<表 1-2-18>	'86年 耕地規模別 農外所得	28
<表 1-2-19>	'86年 地帶別 農外所得	28
<表 1-2-20>	農家戶當 農家資産의 構成內容	29
<表 1-2-21>	農家戶當 可處分所得 및 家計費	30
<表 1-2-22>	農家戶當 家計費支出內容	30
<表 1-2-23>	借入處別 農家負債	31
<表 1-2-24>	用途別 農家負債	31
<表 1-2-25>	負債規模別 農家分析	33
<表 1-2-26>	'86年 耕地規模別 農家負債	33
<表 1-2-27>	農家負債와 所得 및 資産과의 比較	34
<表 1-2-28>	農家의 文化用品 保有狀況	34
<表 1-2-29>	農家販賣價格 指數	37
<表 1-2-30>	農家購入價格 指數	38
<表 1-2-31>	農業勞動賃金	39
<表 1-2-32>	農林水産資金支援	40

<表 1-2-33>	農業部門 豫算	41
<表 1-3- 1>	쌀 生産量	43
<表 1-3- 2>	統一系 및 一般系 主要品種	44
<表 1-3- 3>	灌溉施設別 段收	45
<表 1-3- 4>	'86年移秧時期別 段收	45
<表 1-3- 5>	耕地整理別 10a當 收量	46
<表 1-3- 6>	麥類 生産量	46
<表 1-3- 7>	薯類 生産量	48
<表 1-3- 8>	雜穀 生産量	49
<表 1-3- 9>	菜蔬 生産量	50
<表 1-3-10>	果實 生産量	51
<表 1-3-11>	花卉生産 및 輸出入	52
<表 1-3-12>	特用作物 生産量	53
<表 1-3-13>	蠶業現況	54
<表 1-3-14>	家畜飼育頭數와 戶數	55
<表 1-3-15>	畜産物 生産量	57
<表 1-3-16>	草地造成 現況	58
<表 1-3-17>	飼料作物 栽培實績	58
<表 1-3-18>	屠畜場 現況	59
<表 1-4- 1>	農業用水開發 10個年計劃 推進實績	61
<表 1-4- 2>	農地(畝)의 整備現況	62
<表 1-4- 3>	'86年 農業生産基盤造成事業 實績	63
<表 1-4- 4>	主要農機械 保有臺數 및 資金支援額	64
<表 1-4- 5>	機械化營農團 育成現況	66
<表 1-4- 6>	農業機械修理施設 設置現況	66
<表 1-4- 7>	農業機械 技術訓練實績	67
<表 1-4- 8>	肥料消費量 및 消費比率	68
<表 1-4- 9>	單·複肥 供給實績	69

<表 1-4-10>	肥料計定 赤字現況	69
<表 1-4-11>	水稻 病虫害發生 및 防除狀況	71
<表 1-4-12>	營農資金 支援實績	73
<表 1-5- 1>	1人當 年間 糧穀消費量	74
<表 1-5- 2>	'86年 全體糧穀需給實績(暫定)	75
<表 1-5- 3>	'86年 政府管理糧穀 需給實績(暫定)	76
<表 1-5- 4>	'86年 糧穀管理基金 運用實績	77
<表 1-5- 5>	糧穀管理基金 赤字現況	78
<表 1-5- 6>	畜產物 消費量	78
<表 1-5- 7>	1人當 年間 畜產物消費量	79
<表 1-5- 8>	'86年 畜產物 需給實績	80
<表 1-5- 9>	飼料供給量	80
<表 1-5-10>	配合飼料 生産量	81
<表 1-5-11>	飼料原料 導入實績	81
<表 1-5-12>	菜蔬類 需給實績	83
<表 1-5-13>	果實類 需給實績	83
<表 1-5-14>	참깨, 땅콩 需給實績	84
<表 1-5-15>	熱量供給推移	85
<表 1-5-16>	1人 1日當 營養供給量	85
<表 1-5-17>	物價上昇率	86
<表 1-5-18>	農産食品 都賣物價上昇率	87
<表 1-5-19>	食料品중 類別 消費者物價上昇率	88
<表 1-5-20>	糧穀收買量 및 收買價格	89
<表 1-5-21>	畜產物 價格動向	90
<表 1-5-22>	配合飼料 價格動向	91
<表 1-5-23>	菜蔬類 價格安定事業 實績	91
<表 1-5-24>	果實類 價格安定事業 實績	92
<表 1-5-25>	農水産物價格安定基金 運用實績	93

<表 1-5-26>	'86年 畜産振興基金 運用實績	94
<表 1-5-27>	產地協同出荷班 組織 및 資金支援.....	96
<表 1-5-28>	農林水産物 輸出實績.....	100
<表 1-5-29>	農林水産物 輸入實績.....	102
<表 1-6- 1>	벼 新品種 育成	104
<表 1-6- 2>	麥類 新品種 育成	105
<表 1-6- 3>	所得作目 新品種育成.....	106
<表 1-6- 4>	主要家畜 疾病發生率.....	107
<表 1-6- 5>	새로운 農機械開發現況.....	107
<表 1-6- 6>	微粉劑 農藥效果.....	108
<表 1-6- 7>	벼 示範圃 現況과 段收比較.....	109
<表 1-6- 8>	病虫害에 의한 減收率	110
<表 1-6- 9>	所得作目 示範圃의 生産性比較	110
<表 1-6-10>	飼料作物 示範圃의 生産性比較	111
<表 1-6-11>	農民教育 實績.....	112
<表 1-6-12>	農漁民 後繼者 育成人員 및 支援額	114
<表 1-7- 1>	複合營農 示範事業 推進實績	116
<表 1-7- 2>	農工地區 指定現況.....	117
<表 1-7- 3>	農漁村副業團地 育成現況.....	119
<表 1-7- 4>	觀光農業 開發示範事業 現況	119
<表 1-7- 5>	農漁村地域綜合開發事業費 支援實績.....	120
<表 1-8- 1>	農漁村關聯資金 金利引下內容.....	122
<表 2-1- 1>	'87年 農林水産資金支援計劃	138
<表 2-1- 2>	農業部門 豫算規模.....	139
<表 2-2- 1>	'87年 쌀生産計劃	140
<表 2-2- 2>	'87年 벼種子確保 및 供給實績	141
<表 2-2- 3>	低位生産地 現況.....	142
<表 2-2- 4>	肥料供給計劃	143

<表 2-2- 5>	專用複合肥料	144
<表 2-2- 6>	麥類 生產量.....	147
<表 2-2- 7>	豆類 生產計劃.....	148
<表 2-2- 8>	薯類 生產計劃.....	149
<表 2-2- 9>	雜穀 生產計劃.....	149
<表 2-2-10>	油脂作物 生產計劃.....	150
<表 2-2-11>	蠶業振興事業 計劃.....	152
<表 2-2-12>	'87年 受產業育成計劃	152
<表 2-3- 1>	農地貸貸借管理法 施行令 主要立法 預告內容	154
<表 2-3- 2>	農地關聯稅制 改善內容.....	156
<表 2-3- 3>	農業機械 供給計劃.....	157
<表 2-3- 4>	機械化營農團 育成計劃.....	158
<表 2-3- 5>	大單位 農業綜合開發事業.....	161
<表 2-3- 6>	'87年 農業基盤造成事業計劃	164
<表 2-3- 7>	厩飼料 栽培面積.....	166
<表 2-4- 1>	菜蔬類 生產計劃.....	168
<表 2-4- 2>	菜蔬類 價格安定事業計劃.....	168
<表 2-4- 3>	果實類 生產計劃.....	169
<表 2-4- 4>	果實類 價格安定事業計劃.....	170
<表 2-4- 5>	家畜飼育頭數外 價格動向.....	171
<表 2-4- 6>	肉類需給展望	172
<表 2-4- 7>	牛乳需給動向	173
<表 2-4- 8>	'87糧穀年度 全體糧穀 需給計劃	174
<表 2-5- 1>	果實類 加工實績.....	180
<表 2-5- 2>	主要肉加工品 生產動向.....	180
<表 2-5- 3>	牛乳處理動向	181
<表 2-5- 4>	加工食品 KS規格 運用現況.....	183
<表 2-6- 1>	農漁村副業團地現況	187

<表 2-6- 2>	觀光農業開發 示範地區造成	188
<表 2-6- 3>	農漁村地域綜合開發事業 計劃	188
<表 2-8- 1>	'87年 農漁村綜合對策 關聯豫算	195
<表 2-8- 2>	主要農業資金 支援狀況	196
<表 2-8- 3>	'87年 農漁村地域開發基金 運用計劃	197
<表 2-9- 1>	1ha以下에 準하는 農漁家の 範圍	204
<表 2-9- 2>	私債代替資金支援	204
<表 2-9- 3>	0.5ha以下에 準하는 農漁家の 範圍	205
<表 2-9- 4>	私債代替資金 申請 및 配定現況	207
<表 2-9- 5>	負擔輕減效果 推定	208
<表 2-9- 6>	低利의 資金供給規模	209

第2部 林業部門

<圖 1-1- 1>	先進林業國의 ha當 林木蓄積	214
<圖 1-4- 1>	山林病虫害發生 推移	238
<圖 1-5- 1>	國產材利用推移	247
<圖 1-5- 2>	林產物輸出實績 推移	250
<圖 1-5- 3>	國內材 流通經路	254
<圖 2-5- 1>	木材需給 推移	283
<表 1-1- 1>	所有別 山林面積 및 蓄積	213
<表 1-1- 2>	林相別 齡級別 山林面積	214
<表 1-1- 3>	私有林野 所有規模 現況	215
<表 1-1- 4>	國民總生產斗 林業生產	216
<表 1-1- 5>	林產物生產 推移	217
<表 1-1- 6>	林業部門 豫算	218
<表 1-1- 7>	林業融資 現況	219
<表 1-2- 1>	造林實績	221

<表 1-2- 2>	農村經濟樹심기 實績	223
<表 1-2- 3>	育林事業實績	225
<表 1-2- 4>	採種園造成 現況	226
<表 1-2- 5>	'86年 養苗實績	226
<表 1-3- 1>	林道施設實績	227
<表 1-3- 2>	私有林協業體 造成實績	229
<表 1-3- 3>	協業經營地 山林施業實績	230
<表 1-3- 4>	專門技能人 養成實績	231
<表 1-3- 5>	'86年 營林計劃編成實績	231
<表 1-3- 6>	國有林 山林資源現況	232
<表 1-3- 7>	'86年 國有林野管理特別會計 現況	233
<表 1-4- 1>	산불 發生現況	235
<表 1-4- 2>	原因別 산불發生現況	236
<表 1-4- 3>	山林事故 發生現況	237
<表 1-4- 4>	山林病虫害 防除實績	238
<表 1-4- 5>	野生鳥獸 棲息密度	239
<表 1-4- 6>	狩獵場 運營實績	240
<表 1-4- 7>	天然保護林 指定現況	241
<表 1-4- 8>	砂防事業實績	242
<表 1-4- 9>	砂防事業效果	242
<表 1-4-10>	保安林 指定現況	243
<表 1-4-11>	街路樹 植栽實績	244
<表 1-4-12>	山林樹木園・博物館造成實績	245
<表 1-5- 1>	木材需要推移	246
<表 1-5- 2>	木材供給實績	247
<表 1-5- 3>	海外山林開發 進出現況	248
<表 1-5- 4>	購買導入 및 開發導入實績	249
<表 1-5- 5>	林產物 輸出實績	251

<表 1-5- 6>	用途別 國別 外材導入實績	252
<表 1-5- 7>	林產物 輸入實績.....	253
<表 1-5- 8>	國有林產物 生産.....	254
<表 1-5- 9>	主要 原木價格推移.....	255
<表 1-5-10>	原木導入 價格推移.....	255
<表 1-5-11>	製材工場 現況.....	256
<表 1-5-12>	合板工場 現況.....	256
<表 1-6- 1>	林業試驗研究實績	257
<表 1-6- 2>	林業技術指導員 配置現況.....	260
<表 2-1- 1>	山林部門 豫算比率.....	266
<表 2-1- 2>	事業別 林業豫算.....	267
<表 2-1- 3>	林業資金 支援規模.....	268
<表 2-3- 1>	'87年 春期造林實績	272
<表 2-3- 2>	育林事業現況	273
<表 2-3- 3>	間伐促進團地 指定現況.....	273
<表 2-3- 4>	養苗生産計劃	274
<表 2-3- 5>	산불 發生現況.....	275
<表 2-3- 6>	山林病虫害 防除現況.....	276
<表 2-4- 1>	林道施設實績 및 計劃	278
<表 2-4- 2>	私有林協業經營事業地 現況.....	279
<表 2-4- 3>	國有林 擴大計劃.....	280
<表 2-4- 4>	篤林家 現況	281
<表 2-5- 1>	木材需給實績 및 計劃	284
<表 2-5- 2>	海外山林資源開發實績 및 導入計劃	284
<表 2-5- 3>	林產物 輸出實績 및 計劃.....	287
<表 2-6- 1>	砂防事業計劃 및 實績	288
<表 2-7- 1>	林業試驗研究 獎勵金 運營現況	292
<表 2-7- 2>	第3次 山林資源調查計劃	294
<表 2-7- 3>	林業技術指導員 配置現況.....	296

第1部 農業部門

第1編 1986年度 農業動向

여백

第1章 國內外 經濟動向

第1節 國內 經濟動向

1. 經濟成長

'86年の 우리 經濟는 '77年 이후 가장 높은 12.5%의 成長을 이룩한 것으로 잠정추계 되었으며 이는 前年の 5.4% 成長을 크게 上廻하는 水準으로 이같은 高度成長을 가져오게 된 주요 原因은 輸出이 크게 伸張되고 企業의 設備投資가 활발하였기 때문이다.

産業別 成長을 보면, 農林漁業部門이 4.4%가 成長한 반면 非農林漁業은 製造業 部門의 急成長으로 前年の 5.5%成長 보다는 매우 높은 13.9%의 성장을 記錄하였으며 이中 鑛工業은 輸出 및 設備投資의 好調로 16.8%의 높은 성장을 보였고, 建設 및 電氣·가스·水道事業도 住宅 및 工場建設의 回復과 電力需要가 늘어남에 따라 10.5%가 성장하였다. 또한 서비스業은 製造業 部門의 活況에 따라 都小賣業, 運輸業 등을 중심으로 11.8%가 成長된 것으로 나타났다.

<表 1-1-1>

經濟成長推移

(單位: %)

	'75	'80	'85	'86 (P)
全體	6.8	△ 4.8	5.4	12.5
農林漁業	4.2	△19.9	4.8	4.4
非農林漁業 (製造業)	7.6 (12.0)	△1.4 (△1.1)	5.5 (3.8)	13.9 (17.4)

註: '80年 不變價格基準임.

資料: 韓國銀行

이러한 우리經濟의 高度成長에 따라 '86年の 國民總生産 規模는 '80年 不變價格으로 59兆 2,898億 원으로 늘어났으며, 이에 따라 1人當 GNP는 2,296 달러로서 '85年보다 249달러가 增加하였다.

한편 '86年 農林漁業部門의 總生産은 '80年 不變價格으로 8兆 1,565億 원을 기록하였으며 農林漁業部門의 成長率은 4.4%로서 例年보다는 다소 높은 水準이나 지난해의 4.8%의 成長보다는 낮은 水準이다. 이를 各部門別로 보면 農業은 栽培業과 畜産業의 安定成長으로 4.5%가 成長한 것으로 나타났으며 林業은 지난해에 이어 8.7%의 마이너스成長을 가져왔다. 그러나 漁業은 김, 미역 등의 養殖이 26.0%가 늘어나고, 명태, 오징어, 참치류 등 遠洋漁獲이 15.8%가 증가함으로써 전체적으로 12.6%의 높은 성장을 이룩하였다.

<表 1-1-2> 農林漁業 成長率 (單位: %)

	'75	'80	'85	'86 (P)
農 林 漁 業	4.2	△19.9	4.8	4.4
農 業	5.3	△23.7	5.3	4.5
栽 培 業	9.2	△25.5	3.4	4.4
畜 產 業	△19.8	△ 5.8	23.8	5.3
農 業 服 務	6.4	△ 8.5	△ 1.1	4.3
林 業	△ 3.4	17.0	△ 4.7	△ 8.7
漁 業	△ 2.2	4.1	6.7	12.6

註: '80年 不變價格基準임.
資料: 韓國銀行

2. 物 價

'86年中 物價는 前年에 이어 계속 安定基調를 유지하여, 年平均基準으로 都賣物價가 2.2%로 하락하였고, 消費者物價는 2.3%가 상승하였다.

都賣物價가 큰 폭으로 내린 것은 國際 原油價下落에 따라 國內石油類價格 및 石油關聯 化學製品價格 등이 인하되었고, 菜蔬類의 豐作과 畜產物의 供給增大로 農畜產物 價格이 하락한 데에 기인하였다. 消費者物價는 貨貸料 상승, 保健의료비 및 教育비등의 引上調整에도 불구하고 農畜產物價格이 전반적으로 하락한 데다가 石油價格의 引下로 인한 燃料 및 電氣料 등이 내려 安定勢를 유지하였다.

특히, 農水産食品의 都賣物價는 前年보다 0.2%가 下落하였으며 이中 쌀, 豆類 등 價格은 上昇한 反面 果實類, 畜產物, 海藻類價格은 크게 下落하였다.

또한, 輸出物價는 日本 엔貨 및 유럽通貨의 強勢가 지속되어 수출상품의 價格競爭力이 높아짐에 따라 小幅으로 1.3%가 上昇하였고 輸入物價는 國際原油價格의 하락으로 原油導入價格이 떨어지고, 主要 農產物의 國際價格도 떨어져 지난해 보다 14.3%가 下落하였다.

<表 1-1-3> 物 價 上 昇 率 (單位：%)

	'75	'80	'85	'86
都 賣 物 價	26.5	38.9	0.9	△ 2.2
(農水産食品)	(41.6)	(24.5)	(6.0)	(△ 0.2)
消 費 者 物 價	25.2	28.7	2.5	2.3
(食 料 品)	(31.8)	(26.6)	(3.7)	(1.1)
輸 出 物 價	1.5	4.6	△ 2.3	1.3
輸 入 物 價	△ 5.8	27.6	△ 3.9	△ 14.3
GNP 디플레이터	24.6	25.3	4.1	2.3(P)

資料：經濟企劃院, 韓國銀行

그리고 國家經濟全體의 綜合物價指數로 볼 수 있는 GNP 디플레이터는 '85년의 4.1%보다 1.8%포인트가 낮은 2.3% 상승에 그쳐 82年 以來 安定勢를 持續하였다.

3. 雇 傭

'86年の 經濟活動人口는 '85年보다 3.4% 증가한 16,116千명으로 이중 就業者는 '85年보다 3.6%가 늘어난 15,505千명 수준이었다. '86年の 雇傭事情은 景氣好調로 '85年보다 호전되어 특히 製造業部門의 취업자는 9.2%나 늘었으며 失業者數는 '85年보다 1萬여명이 감소한 611千명 수준으로 失業率은 4.0%에서 3.8%로 떨어졌다.

한편, 農林漁業部門의 취업자는 '85年보다 71千명이 준 3,662千명이었으며, 非農林漁業部門은 606千명이나 증가한 11,843千명에 달하는 것으로 推計되었다. 이에 따라 農林漁業部門의 취업자 比重은 '85年の 24.9%에서 '86년에는 23.6%로 계속 減少趨勢를 나타내고 있다.

<表 1-1-4> 就 業 動 向 (單位：千名)

	'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B/A)
總 就 業 者	11,692	13,683	14,970	15,505	3.6%
(農 林 漁 業)	(5,339)	(4,654)	(3,733)	(3,662)	(△1.9)
(製 造 業)	(2,175)	(2,955)	(3,504)	(3,826)	(9.2)
失 業 率 (%)	4.1	5.2	4.0	3.8	--

資料：經濟企劃院

4. 交易 및 國際收支

'86年の 通關基準 總輸出額은 '85년에 비하여 14.6%가 증가한 347.1億 달러로서 특히, 修理船을 제외한 輸出增加率은 27.7%에 이르러 '77年 이후 가장 높은 增加勢를 나타냈다.

이를 製品別로 보면, 최근 몇년간 주요 선진국의 輸入規制 強化 등으로 부진을 면치못하던 輕工業製品輸出이 恩貨 強勢의 영향을 받아 전반적으로

好調를 보였으며 重化學工業 製品中에서는 電氣, 電子, 自動車등 技術集約的이고 附加價値가 높은 품목의 수출이 好調를 보였다.

地域別 수출을 보면, 恩貨 및 主要 유럽通貨의 강세로 價格競爭力이 높아짐에 따라 미국, EC, 日本 등 대부분의 先進國에 대한 수출이 활기를 띠어 美國에의 수출비중은 '85年の 35.5%에서 '86年은 40%, EC地域은 10.4%에서 11.9%, 對日本 輸出은 15.0%에서 15.6%로 높아졌다.

한편 인접국가의 輸出伸張率을 보면 日本은 19.1%, 自由中國은 29%, 홍콩은 17.4%가 늘어 났으나 싱가포르는 1.3%가 감소한 것으로 나타났다.

<表 1-1-5> 輸 出 및 輸 入 (單位: 百萬\$)

	'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B/A)
輸 出 (A)	5,081	17,505	30,283	34,715	14.6%
輸 入 (B)	7,274	22,292	31,136	31,584	1.4
對 比 (A-B)	△2,193	△4,787	△853	3,131	-

註: 通關基準 FOB 및 CIF 價格임.
資料: 關稅廳

한편 '86年 우리나라의 輸入總額은 315.8億 달러로서 '85年 對比 1.4%가 증가하여 輸出增加率을 크게 밀돌았다. 그러나 修理船을 제외한 수입은 12.5%가 증가했으며, 修理船과 原油를 제외한 輸入은 25.5%가 늘어났다. 이는 素材·部品の 輸入代替에도 불구하고, 수출 및 設備投資의 急增으로 資本財 輸入物量이 늘어난 데다가 對日 輸入依存도가 높은 機械類의 輸入單價가 크게 상승하였기 때문이다. '86年中 地域別輸入動向을 보면 日本으로부터의 輸入伸張勢가 두드러진 반면 美國 및 EC地域으로부터의 輸入은 소폭 증가하는 데 그쳤으며 특히 아프리카, 中南美, 中東地域으로 부터의 수입은 크게 감소하였다.

'86年の 우리나라 經常收支는 貿易收支의 대폭적인 黑字와 貿易外收支와 移轉收支의 개선으로 46.2億 달러의 黑字를 이룩함으로써 國際收支 黑字의

元年을 記錄하였다.

특히 貿易收支는 수출이 수입을 초과하는 높은 伸張을 보임으로써 史上 처음으로 42億 달러의 黑字를 나타냈으며 또한 '83年 이후 海外建設受入의 減少로 크게 惡化되었던 貿易外收支도 '86年에 6.3億 달러의 赤字를 보였으나 '85年에 비하면 赤字幅이 8億 달러이상 줄어들었으며 移轉收支도 '85年보다 4.6億 달러나 개선된 10.4億 달러의 黑字를 나타내었다.

이 처럼 經常收支가 크게 개선된 것은 原油價格 不落과 달러貨 弱勢 등 對外與件의 호전과 함께 對內的으로도 消費需要가 안정된 가운데 設備投資 擴大로 輸出産業의 供給能力이 확충되고, 素材·部品の 輸入代替가 進전되었기 때문이다.

<表 1-1-6>

經 常 收 支

(單位：百萬\$)

	'75	'80	'85	'86
經 常 收 支	△1,887	△5,321	△ 887	4,617
貿易收支	△1,671	△4,384	△ 19	4,206
貿易外收支	△ 442	△1,386	△1,446	△ 628
移 轉 去 來	226	449	578	1,039

註：國際收支 基準

資料：韓國銀行

第2節 海外 經濟動向

1. 經濟成長과 雇傭

'85年에 크게 둔화된 바 있는 世界經濟는 '86年에도 油價 및 原資材價格의 下落과 달러貨의 弱勢, 그리고 低金利 등의 與件好轉에도 불구하고 成長

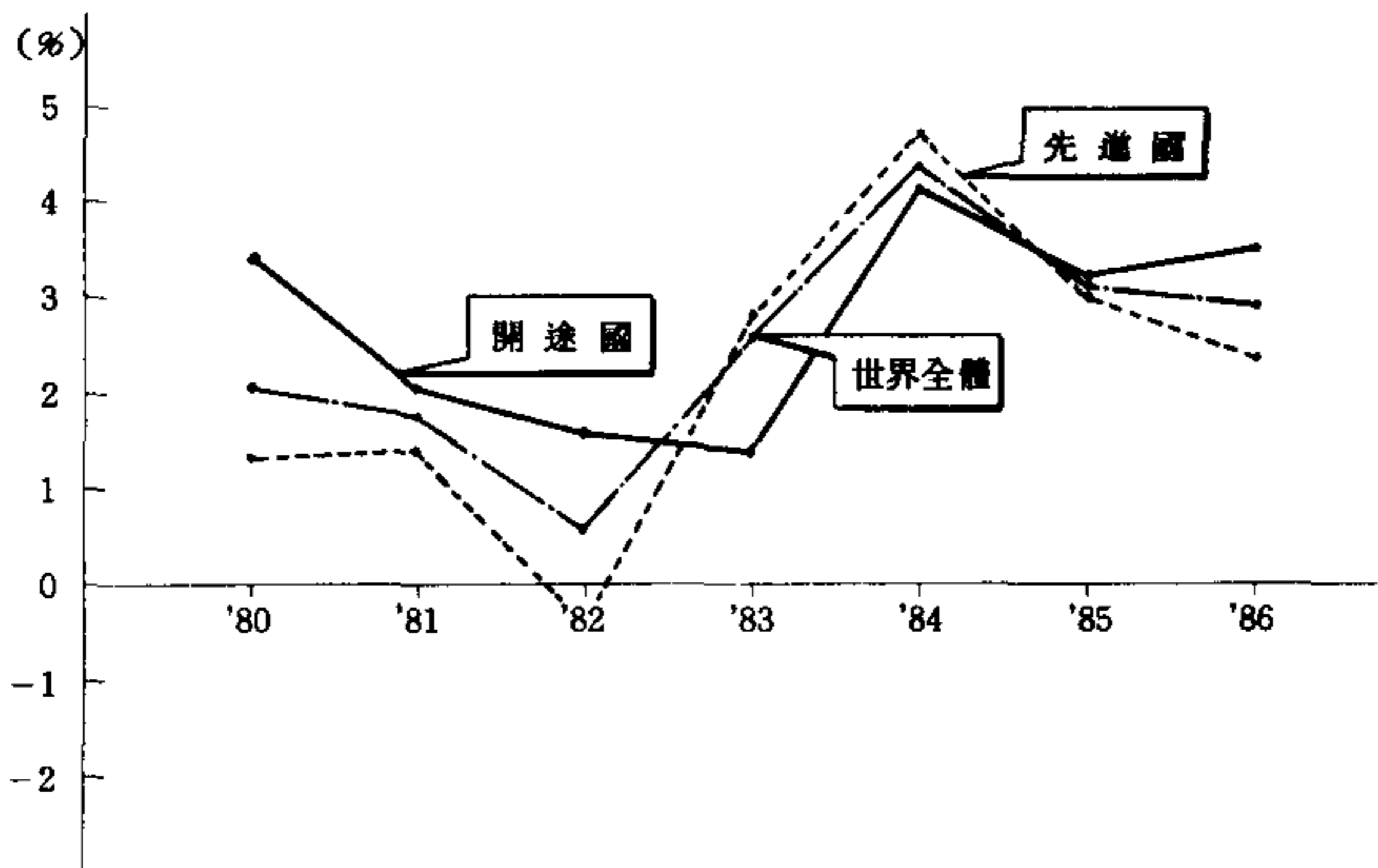
鈍化現象을 벗어나지 못하였다. 전반적으로 볼 때 '86年の世界經濟는 '85年の 3.1%成長에 미치지 못하는 2.9% 정도의 成長에 그친 것으로 나타났다.

先進國 經濟도 '85年の 3% 成長에서 '86년에는 2.4% 成長에 머물렀는데, 그 이유는 달러貨 弱勢에도 불구하고 美國經濟가 不振狀態를 벗어나지 못하였고, 다른 先進國들도 自國通貨의 強勢에 의한 輸出需要 위축과 함께 換率, 金利, 油價의 급격한 變化에 적절한 對應을 못하였기 때문이다.

低物價下의 低成長의 特徵을 보인 世界經濟는 최근 主要先進國을 中心으로 經濟沈滯의 打開을 위한 努力을 시도하고 있으나 아직도 큰 效果를 보지 못하고 있다.

開發國의 經濟는 保護貿易主義의 強化, 原油價 急落 및 原資材價格 下落 등의 影響을 받기는 했지만 成長率은 '85年の 3.2%에서 3.5% 수준으로 높아졌다.

<圖 1-1-1> 世界의 經濟 成長率 推移



資料 : IMF, World Economic Outlook (1987.4)

특히 開途國中 石油輸出國이 마이너스成長을 나타낸 반면 韓國, 台灣 等 일부 아시아 新興工業國들은 世界景氣의 不振에도 不拘하고 괄목할 만한 成長을 이룩하였다.

또한 소련을 포함한 東유럽 共產國들은 '85年보다 0.8%포인트가 높은 4.3%의 成長을 이룩한 것으로 나타났다.

한편 先進國의 雇傭事情은 '86年에도 큰 改善을 보이지 못하여 '85年과 같은 失業率 8% 수준에 머물렀다. 美國의 경우 2.5%의 낮은 成長 속에서도 女性을 중심으로 한 서비스部門의 雇傭增大에 힘입어 失業率은 '85年の 7.2%에서 '86년에는 7.0%로 낮아졌다. 그러나 日本은 엔貨強勢에 따른 生産위축으로 製造業部門의 雇傭이 줄어들어 失業率은 去年의 2.6%에서 2.8%로 높아졌다. 西유럽 主要國에서도 各국 政府가 多角的인 雇傭增大 施策을 強化하였으나 失業率은 '85年과 비슷한 수준에 머물렀다. 그러나 상대적으로 높은 成長을 보인 西獨은 '85年の 失業率이 8.2%이었으나 '86년에는 7.9%로 낮아짐으로써 고용사정이 호전된 것으로 나타났다.

<表 1-1-7>

先進國의 失業率

(單位: %)

	'69~'78	'80	'84	'85	'86
全體	4.0	5.8	8.1	8.0	8.0
主要 7 個 國	4.2	5.6	7.5	7.4	7.4
美國	6.0	7.2	7.5	7.2	7.0
카 나 다	6.4	7.4	11.3	10.5	9.6
日 本	1.6	2.0	2.7	2.6	2.8
프 랑 스	3.7	6.6	10.0	10.4	10.7
西 獨	2.2	3.4	8.1	8.2	7.9
이 태 리	6.3	7.6	9.9	10.3	11.1
英 國	3.7	6.5	11.4	11.3	11.6
7 個 國 以 外	3.0	6.7	11.6	11.7	11.4

資料: IMF

先進國의 失業率이 높은 이유는 戰後 베이비붐 世代의 勞動市場 참가 및 女性의 社會進出 增加로 勞動供給이 急増한 반면 勞動需要는 勞動節約的 技術革新 등으로 정체되어 있기 때문이며 特히 先進國의 産業調整 지연, 勞動市場의 硬直性 등도 失業率을 提高시키는 要因으로 지적되고 있다.

2. 物 價

'86年の 世界 物價는 '85년에 이어 전반적으로 安定趨勢를 보였다. 이러한 추세를 가져오게 된 것은 年初부터 原油價 急落과 기타 原資材 價格의 弱勢, 그리고 雇傭事情의 악화로 인하여 賃金上昇率이 둔화되었기 때문이다.

<表 1-1-8> 世界 消費者 物價 上昇率 (單位: %)

	'69~'78	'80	'84	'85	'86
先 進 國	7.8	11.7	4.6	4.1	2.3
主 要 7 個 國	7.6	12.0	4.4	3.8	1.9
美 國	6.5	13.5	4.3	3.6	1.9
日 本	10.7	7.7	2.3	2.0	0.6
開 途 國	16.7	27.2	39.4	40.6	28.6
아 프 리 카	11.6	16.4	20.3	12.8	14.8
아 시 아	8.7	13.1	7.2	7.4	5.9
유 럽	11.7	37.9	28.0	28.6	27.4
中 東	10.8	16.8	14.9	12.2	11.1
中 南 美	31.0	54.6	129.3	150.3	86.5
石 油 輸 出 國	11.1	13.3	10.6	4.9	7.5
非 產 油 國	18.3	31.6	50.5	54.7	36.1

註: 開途國은 最近 3年間 美달러貨 價値에 의한 加重幾何平均임.

資料: IMF

第2次 石油波動 以後 年10% 上昇率을 기록했던 先進國 物價는 消費者物價의 경우 '86年の 上昇率은 2.3%에 그쳐 '60年代 초반 이래 가장 낮은 수준을 기록하였다.

그러나 開發國은 아직 높은 인플레이션을 보이고 있는데, 특히 中南美地域은 상당히 높은 物價上昇率을 보이고 있다.

3. 交易 및 國際收支

'86年の 世界交易量은 油價下落, 穀物等 1次產品價格 弱勢 등의 요인이 작용하여 '85年보다 높은 4.0%의 伸張率을 보였다.

그러나 換率變動, 油價下落 등 世界交易環境의 變化로 交易內容도 상당히 달라져 先進國의 輸出 增加率은 鈍化된 반면 非產油開發國의 輸出이 크게 伸張하였으며 輸入에 있어서도 先進國의 輸入이 크게 늘어 났으나 開發國은 增加勢가 鈍化되었으며 특히, 石油輸出國의 輸入은 前年보다 22.6%가 減少하였다.

<表 1-1-9>

世界交易伸張率(物量基準)

(單位: %)

		'69~'78	'80	'84	'85	'86
世界全體		6.7	1.2	8.6	3.2	4.9
輸 出	先進國	7.3	3.9	9.7	4.4	2.9
	石油輸出國	3.2	△13.5	0.5	△5.7	9.8
	非產油開發國	6.1	8.5	11.6	5.2	7.7
輸 入	先進國	6.9	△1.6	12.4	5.0	8.9
	石油輸出國	15.0	13.4	△6.1	△11.7	△21.5
	非產油開發國	4.8	4.9	5.3	4.5	3.9

資料: IMF, World Economic Outlook (1987.4)

한편 그룹別 經常收支를 보면 先進國은 油價下落으로 인하여 交易條件이 개선됨에 따라 赤字幅이 '85年의 550億 달러에서 110億 달러 정도로 대폭 축소되었으나 開途國의 經常收支는 惡化되었으며 특히 產油國의 經常收支 赤字幅이 270億달러로 급격히 늘어났다.

美國은 달러貨 弱勢에도 불구하고 經常收支 赤字가 늘어났으며 이는 換率調整 初期의 급격한 수입증가와 수년간에 걸쳐 지속된 달러貨의 強勢를 배경으로 美國企業의 해외 部品調達이 급증하였으며 農產物交易에 있어서도 赤字를 보였기 때문이다.

開途國의 經常收支赤字는 '85年의 100億 달러 수준에서 '86년에는 280億 달러 정도로 증가하였으나 非產油國은 油價下落등에 힘입어 經常收支가 크게 改善되었다.

<表 1-1-10>

世界 그룹別 經常收支

(單位: 10億 \$)

	'83	'84	'85	'86
先進國	△ 23	△ 67	△ 55	△ 11
開途國	△ 51	△ 36	△ 10	△ 28
產油國	△ 16	△ 10	5	△ 27
非產油國	△ 35	△ 26	△ 15	△ 1

資料: WEFA (Wharton Economic Forecasting Associates, 1987.4)

國家別 經常收支를 보면, 先進國中 美國이 1,416億 달러의 赤字를 낸 반면 日本은 858億 달러의 黑字를 기록하였으며 주변국인 自由中國과 홍콩은 각각 161億 달러와 17億 달러의 黑字를 나타냈다.

4. 世界穀物需給 및 價格

'86/'87年度 世界穀物の 總生産量은 1,687.1百萬%으로서 前年度보다 22.3百萬%이 增産된 것으로 추정되고 있다.

밀은 '85/'86年度보다 6% 정도가 增産된 529.7百萬%이었으나 쌀은 前年度 보다 다소 減産된 것으로 나타났다. 또한 옥수수, 보리, 귀리, 호밀, 수수, 등 雜穀(coarse grains)도 前年度보다 減産되었으나 콩은 3百萬% 정도 增産된 것으로 推定되고 있다.

따라서 '86/'87年度の 生産량과 前年度の 移越量을 合한 總供給量은 前年度보다 증가한 2,032.3百萬%으로 늘어남으로써 糧穀年度末 在庫量은 390百萬%에 이를 것으로 추정된다.

<表 1-1-11>

世界食糧需給

(單位：百萬%)

		生産量	總供給量	交易量	消費量	在庫量
밀	'85 / '86	498.8	624.1	95.9	487.3	136.8
	'86 / '87	529.7	666.5	102.7	518.2	148.3
쌀	'85 / '86	320.3	342.5	12.5	316.8	25.7
	'86 / '87	317.7	343.4	12.1	321.3	22.1
雜穀	'85 / '86	845.7	953.5	95.8	770.7	182.8
		(483.0)	(544.1)	(62.4)	(420.1)	(124.0)
	'86 / '87	839.7	1,022.5	100.1	802.4	220.1
		(478.0)	(602.0)	(64.1)	(448.3)	(153.8)
計	'85 / '86	1,664.8	1,920.1	204.3	1,574.9	345.2
	'86 / '87	1,687.1	2,032.3	214.9	1,641.9	390.5
콩	'85 / '86	96.7	114.3	26.0	92.4	23.0
	'86 / '87	100.0	123.0	26.4	98.2	24.9

註：() 속은 雜穀중 옥수수임. '86 / '87은 推定值임.

資料：USDA

穀種別 在庫量을 보면 밀의 경우 年間 消費量의 29% 정도에 해당하는 148 百萬%에 달하며 쌀은 지난해 보다 다소 減少한 22百萬%에 이를 것으로 보이나 옥수수 在庫量은 지난해 보다 增加한 154百萬%에 達할 것으로 展望된다.

한편 世界穀物 在庫量의 增加와 함께 國際市場에서의 穀物價格도 상당히 떨어져 쌀, 밀, 콩, 옥수수 等 主要穀物이 모두 下落勢를 보였으며 특히 밀과 옥수수는 供給 過剩으로 前年보다 各各 15%, 21%가 떨어졌다.

<表 1-1-12> 國際穀物價格

	單位	'70	'75	'80	'85	'86
쌀	\$ / %	189.60	418.87	496.04	382.50	342.47
밀	\$ / 부셸	1.49	4.06	4.70	3.70	3.13
콩	\$ / %	116.92	221.67	296.25	224.42	208.42
옥수수	\$ / 부셸	1.37	2.90	3.00	2.66	2.10

註：美國市場의 年平均 價格임. 밀 1%은 36.74부셸, 옥수수는 39.37부셸임.
資料：IMF

第2章 農村經濟

第1節 農業構造

1. 農家人口

經濟成長과 함께 산업화, 도시화가 진척되는 가운데에 農家人口와 農家口의 減少現象은 持續되어 왔다.

'86年末 현재 農家人口는 지난해 보다 341千名이 줄어든 8,180千名으로서 總人口에서 차지하는 比率도 '85年の 20.8%에서 '86년에는 19.7%로 낮아졌으며, 農家戶數도 '86年末 현재 1,906千戶로 '85年보다 20千戶가 줄어들었다.

그러나 '86年の 農家人口 減少率은 지난 10年間 每年 450千여명씩 줄어든 추세에 比하면 다소 鈍화된 水準이었다. 한편 年齡層別 減少 推移를 보면 靑壯年層에서 감소현상이 두드러지게 나타나 20~49세의 農家人口는 '85年보다 5.2%나 줄어들고 50세이상의 農家人口는 1.8%가 증가하는 현상을 보였다.

<表 1-2-1> 農 家 人 口

		單位	'75	'80	'85	'86	年間增減率(%)	
							'86/'85	'75~'86
農 家 口		千戶	2,379	2,155	1,926	1,906	△1.0	△2.0
農 家 人 口		千名	13,244	10,827	8,521	8,180	△4.0	△4.4
(總人口中比重)		(%)	(37.5)	(28.4)	(20.8)	(19.7)		
戶 當 農 家 人 口		名	5.57	5.02	4.42	4.29	△2.9	△2.5
年 齡 別 農家人口	19歲以下	千名	6,760	4,914	3,385	3,149	△7.0	△7.0
	20 ~ 49	"	4,212	3,701	2,830	2,682	△5.2	△4.1
	50歲以上	"	2,272	2,212	2,306	2,348	1.8	0.3

資料：農林水産部 農水産統計官室

또한 農林漁業就業者를 보면, 總就業者는 '85年보다 3.6%가 늘어난 반면 農林漁業就業者는 '85年보다 1.9%가 줄어들어 總 就業者중 農林漁業就業者 比重은 '85年の 24.9%에서 '86년에는 23.6%로 낮아졌다. 한편 농림어업부문의 취업구조中 50歲以上 老齡層의 就業者가 '85年の 39.9%에서 '86년에는 42.0%로 높아짐으로써 農村勞動力의 老齡化가 심화되고 있는 것으로 나타났다.

<表 1-2-2> 農 林 漁 業 就 業 者 (單位: 千名)

	'75	'80	'85	'86
總 就 業 者 (A)	11,692	13,683	14,970	15,505
農林漁業就業者 (B)	5,339	4,654	3,733	3,662
(B / A, %)	(45.7)	(34.0)	(24.9)	(23.6)
50 歲 以 上 (C)	1,423	1,499	1,488	1,537
(C / B, %)	(26.7)	(32.2)	(39.9)	(42.0)

資料: 經濟企劃院

2. 農 耕 地

農耕地 面積은 都市의 急速한 膨脹과 都市施設의 擴充등 農業外 目的의 利用이 늘어남에 따라 지난 10年間 每年 10千ha씩 줄어들고 있다.

'86年末 현재 農耕地面積은 논이 1,329千ha, 밭이 812千ha로 總 2,141千ha로서 '85年の 2,144千ha보다 3千ha가 줄어들었으며 이중 논은 4千ha가 늘어난 데 비해 밭은 7千ha가 줄었다. 그리고 農家戶當 耕地面積은 農家戶數가 減少됨에 따라 '85年の 1.11ha에서 '86에는 1.12ha로 약간 증가된 것으로 나타났다.

'86年の 農耕地 變動狀況을 要因別로 살펴보면 논은 밭에서 轉換한 面積이 8.8千ha, 干拓이 1.4千ha 등으로 3.6千ha가 증가하였으며, 밭은 野山을 開發하여 造成한 面積이 4.1千ha에 달하였음에도 불구하고 既存의 밭을 논으로 轉換하거나 建物建築, 公共施設 등의 使用이 늘어남으로써 7千ha가 減少되었다.

<表 1-2-3>

農 耕 地 面 積

(單位：千ha)

	'75	'80	'85	'86
耕 地 面 積	2,240	2,196	2,144	2,141
논 面 積	1,277	1,307	1,325	1,329
밭 面 積	963	889	819	812
農 家 戶 當 面 積(ha)	0.94	1.02	1.11	1.12

資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1 2-4>

'86年 農耕地 增減內容

(單位：千ha)

	增 加					減 少					
	計	地 目 變 更	開 墾	干 拓	復 舊 其 他	計	地 目 變 更	流 失 埋 沒	建 物 建 築	公 共 施 設	其 他
合 計	18.2	12.2	4.2	1.4	0.4	21.6	12.2	0.1	3.3	3.1	2.9
畓	10.4	8.8	0.1	1.4	0.1	6.8	3.4	0.03	1.1	1.6	0.6
田	7.8	3.4	4.1	-	0.3	14.8	8.8	0.1	2.1	1.5	2.3

資料：農林水産部 農水産統計官室

이러한 農耕地의 減少傾向은 都市化의 進進과 産業施設의 擴大에 따른 일반적인 추세라고 할 수 있으나 논은 조금씩이나마 계속 증가하고 있는데 비해 밭面積은 과거 10여년간 논 轉換 등으로 年平均 15千ha씩 減少趨勢를 보이고 있다. 이는 그 동안 主穀自給政策의 적극적인 추진과 함께 米穀에 대한 價格支持가 병행되어 왔으나 밭作物 基盤施設의 취약과 밀, 콩 등의 穀物 輸入量 增加에 따른 國內生産의 위축, 일부 밭作物의 일시적인 需給 및 價格不安定으로 인하여 栽培作目の 적절한 選擇의 어려운 점 등 農作物의 收益性이나 經營의 安定性에 있어서 아직도 밭作物이 水稻作에 비해 상대적으로 低位에 있음을 시사해 준다고 할 수 있다.

또한 '86年の 耕地利用面積은 2,571千ha로 '85年보다 21千ha가 줄었으며, 이에 따라 耕地利用率도 '85年の 120.4%에서 '86년에는 119.9%로 낮아졌다. 이같은 耕地利用率의 低下趨勢는 麥類, 豆類 等 食糧作物의 栽培面積이 줄어들고 있기 때문이다.

그러나 經濟作物의 경우에는 비닐하우스 및 特用作物과 果實類의 栽培面積이 擴大되고 있으며 淸飼料 確保를 위한 畜養作 飼料作物의 耕地利用도 늘어나고 있다.

<表 1-2-5> 農 耕 地 利 用 (單位：千ha)

	'80	'82	'84	'85	'86
耕地利用面積	2,765	2,678	2,707	2,592	2,571
食糧作物	1,982	1,907	1,917	1,780	1,707
(米 穀)	(1,233)	(1,188)	(1,231)	(1,237)	(1,236)
(麥 類)	(360)	(339)	(346)	(242)	(193)
(豆類·其他)	(389)	(380)	(340)	(301)	(278)
經濟作物	783	771	790	812	864
(菜 蔬)	(359)	(343)	(318)	(337)	(368)
(果 樹)	(99)	(101)	(107)	(109)	(112)
(其 他)	(325)	(327)	(365)	(366)	(384)
耕地面積	2,196	2,180	2,152	2,144	2,141
耕地利用率(%)	125.3	122.4	124.9	120.4	119.9
(논)	(118.8)	(115.8)	(119.7)	(114.9)	(113.0)
(밭)	(134.8)	(132.1)	(133.1)	(129.2)	(131.0)

資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1-2-6> 農耕地 規模別 農家分布 (單位：%)

	'75	'80	'85	'86
耕種外農家	4.0	1.3	2.4	2.3
耕種農家	96.0	98.7	97.6	97.7
0.5ha 未滿	29.0	28.4	27.7	28.3
0.5 ~ 1.0	34.8	34.7	35.6	34.8
1.0 ~ 1.5	18.1	20.4	20.3	20.3
1.5 ~ 2.0	7.9	8.8	8.3	8.4
2.0 ~ 3.0	4.7	5.0	4.5	4.6
3.0ha 以上	1.5	1.4	1.2	1.3

資料：農林水産部 農水産統計官室

한편 耕地規模別 農家分布를 보면, '86年末 현재 0.5ha 미만의 農家が 28.3%, 0.5~1.0ha미만의 農家が 34.8%로서 아직도全體 農家の 63.1%가 1ha以下의 農耕地를 갖고 營農을 하고 있는 것으로 나타났다.

3. 農業部門 附加價值

'86年 農林漁業 附加價值는 經常價格 基準으로 前年보다 4.8%가 늘어난 10兆 6,485億 원으로 推計되었으며 農林漁業이 國民總生産에 차지하는 比重은 '85年度의 13.9%에서 '86年度에는 12.7%로 낮아졌다.

<表 1-2-7> 經濟活動別 附加價值 比重 (單位: %)

	'75	'80	'85	'86
國民總生産 (經常, 10億 원)	10,065	36,672	72,850	83,833
農林漁業 (農業)	24.9 (21.8)	15.1 (12.7)	13.9 (11.6)	12.7 (10.3)
鑛工業	28.0	32.0	30.7	32.4
社會間接資本	12.1	18.7	20.2	19.6
其他서비스	35.0	34.3	35.1	35.3

資料: 韓國銀行

'86年度 農林漁業 附加價值增加의 具體的인 內容을 보면 農業에 있어서는 大宗을 이루고 있는 쌀의 生産이 '85年度와 비슷한 水準을 維持하고 또한 生産量이 늘어난 菜蔬類는 價格이 떨어짐에 따라 栽培業의 附加價值 增加率은 前年보다 鈍化된 2.6%에 그쳐 農林漁業 中 栽培業의 比重은 '85年の 71.6%에서 70.0%로 줄어들었으며 畜産業도 소 飼育頭數의 減少로 10%線에서 머물고 있다.

한편 漁業은 遠洋漁業, 沿近海漁業, 養殖漁業이 모두 크게 伸張되어 農林漁業成長을 主導함으로써 農林漁業部門에서 차지하는 比重도 '85年度의 10.

8%보다 훨씬높은 13.0%를 차지하였다.

<表 1-2-8> 農林漁業部門의 附加價值 比重 (單位: %)

	'75	'80	'83	'84	'85	'86 (P)
農 林 漁 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
農 業	87.5	84.4	81.3	83.0	83.1	81.5
栽 培 業	80.1	74.6	65.3	70.2	71.6	70.0
畜 產 業	6.2	8.1	14.0	10.9	9.7	9.7
서 비 스 業	1.1	1.7	2.0	1.9	1.8	1.8
林 業	5.1	6.3	7.7	7.3	6.1	5.5
漁 業	7.4	9.3	11.0	9.7	10.8	13.0

註: 經常價格基準임.

資料: 韓國銀行

4. 農 業 生 產 性

'86년에 農家戶當 營農에 投入된 主要要素를 보면, 勞動時間은 農業機械化 促進과 함께 動力機械를 利用한 營農時間이 늘어남에 따라 全體勞動投下量은 '85年보다 21時間이 줄어든 1,900時間이었다. 作物別로 보면 機械化 營農이 進展된 水稻作과 栽培面積이 감소추세에 있는 麥類, 서류등食糧作物의 勞動投下量이 계속 줄어든 반면 菜蔬類를 비롯한 經濟作物에대한 勞動投下量은 증가하고 있다.

<表 1-2-9> 農家戶當 生產要素別 狀況

	單 位	'75	'80	'84	'85	'86
營 農 時 間	時 間	1,530	1,654	1,898	1,921	1,900
農 業 資 本 額	千 圓	971	2,497	6,541	6,488	6,555
耕 地 面 積	10a	9.62	10.27	11.10	11.38	11.50

資料: 農林水産部 農水産統計官室

한편 農業生産에 投入된 戶當資本額은 農機械 等 固定資産의 增大에도 불구하고 소값下落으로 인한 大動物의 投入資本額이 크게 줄어들어 前年에 비해 1.0%의 增加에 그쳤다.

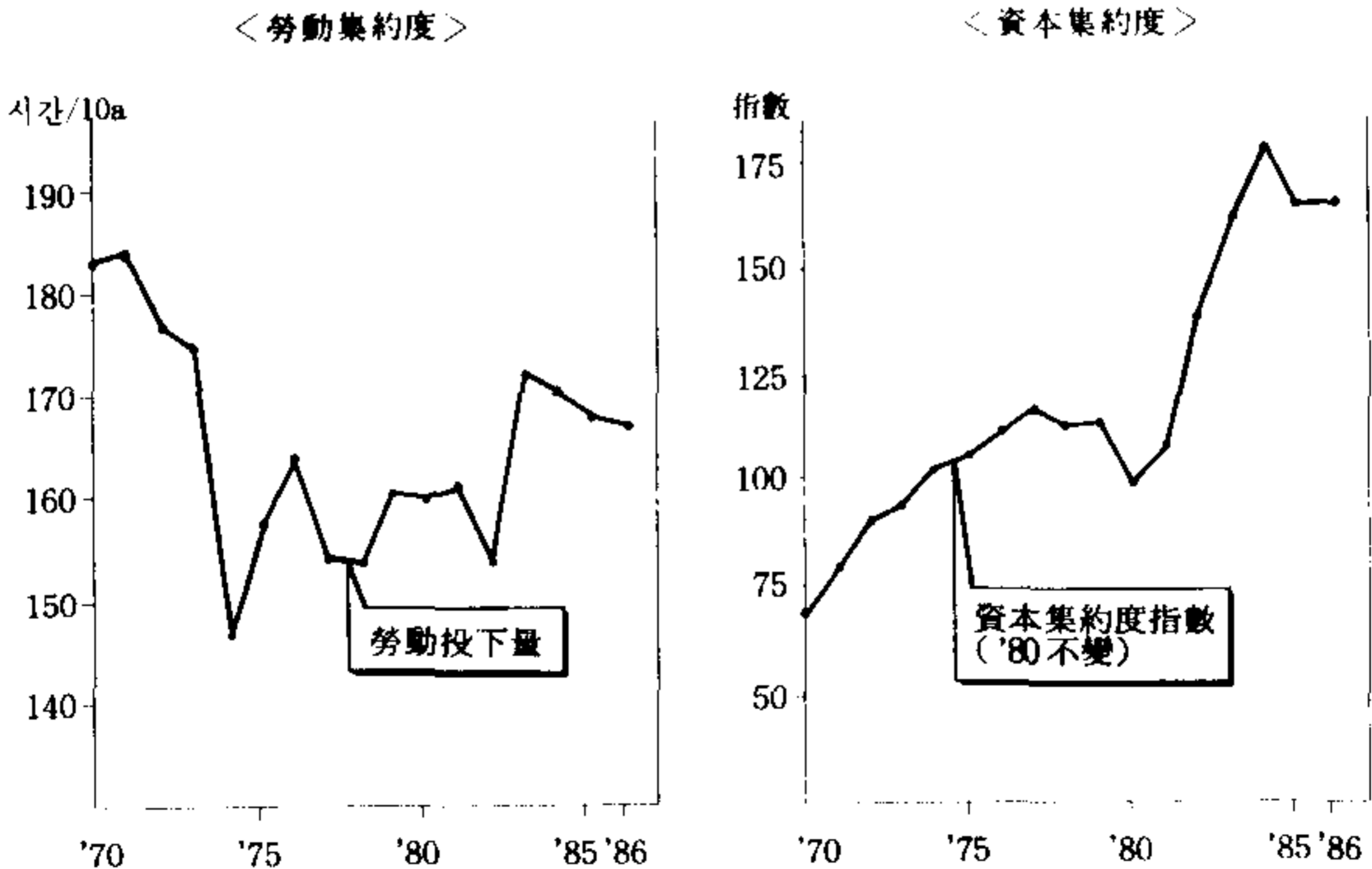
'86年度 農業生産性を 보면 勞動生産性은 營農時間의 減少로 지난해 보다 0.6%가 늘어난 반면 土地生産性은 耕地利用率의 低下로 '85年보다 줄어들었으며 資本生産性은 지난해와 비슷한 水準을 維持하고 있다.

<表 1-2-10> 農業生産性指標

	單位	'75	'80	'84	'85	'86
勞動生産性	원/시간	467	1,061	1,949	1,925	1,936
土地生産性	千원/10a	74	171	333	325	320
資本生産性	원/원	0.74	0.70	0.57	0.57	0.56
勞動集約度	시간/10a	159	161	171	169	165
資本集約度	千원/10a	101	243	589	570	570

資本：農林水産部 農水産統計官室

<圖 1-2-1> 勞動集約度 및 資本集約度 變化推移



한편 單位面積當 勞動集約도는 前年보다 줄어 들었으며 資本集約도는 前年과 同一한 10a當 570千원으로 나타났다.

第2節 農家經濟

1. 農家所得

'86年 戶當 農家所得은 5,995千원으로 '85年보다 4.5% 增加되었다. 이중 農業所得은 3,677千원으로서 前年과 비슷한 수준이었으나, 農外所得은 2,318千원으로 '85年보다 13.8%가 增加하였다.

<表 1-2-11> 農家所得의 構成 (單位: 千원)

	'81	'82	'84	'85 (A)	'86 (B)	增減率 (B/A)
農家所得	3,688	4,465	5,549	5,736	5,995	4.5%
農業所得	2,477	3,031	3,699	3,699	3,677	△ 0.6
農外所得	1,211	1,434	1,850	2,037	2,318	13.8
農外所得率	32.8%	32.1	33.3	35.5	38.7	

資料: 農林水産部 農水産統計官室

耕地規模別 農家所得水準을 보면, 0.5ha미만의 耕地를 가진 農家の 所得은 全國平均의 72.5% 水準인 4,348千원이며, 0.5~1.0ha의 耕地를 가진 農家の 所得은 全國平均의 87.3% 水準인 5,233千원으로서 1ha 未滿의 農家所得이 前年에 비하여 平均所得에 가까와 짐으로써 階層間 所得隔差가 줄어든 것으로 나타났다.

地帶別로는 農外部門에의 就業機會가 많은 都市近郊가 農業所得은 적으나 農外所得이 매우 높기 때문에 全體所得水準은 상대적으로 높게 나타나

고 있으며, 中山間 및 山間地域의 農家所得은 全國平均 農家所得보다 낮게 나타났다.

<表 1-2-12> '86年 耕地規模別 農家所得 (單位: 千원, %)

	全國平均	0.5ha未滿	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha以上
農家所得	5,995	4,348	5,233	5,833	7,082	9,233
(平均對比)	(100.0)	(72.5)	(87.3)	(97.3)	(118.1)	(154.0)
農業所得	3,677	1,155	2,651	3,817	5,231	7,528
農外所得	2,318	3,193	2,582	2,016	1,851	1,705
(農外所得率)	(38.7)	(73.4)	(49.3)	(34.6)	(26.1)	(18.5)

資料: 農林水産部 農水産統計官室

<表 1 2-13> '86年 地帶別 農家所得 (單位: 千원, %)

	全國平均	都市近郊	平野	中山間	山間
農家所得	5,995	7,153	6,044	5,990	5,802
	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
農業所得	3,677	3,076	3,694	3,768	3,627
	(61.3)	(43.0)	(61.1)	(62.9)	(62.5)
農外所得	2,318	4,077	2,350	2,222	2,175
	(38.7)	(57.0)	(38.9)	(37.1)	(37.5)

資料: 農林水産部 農水産統計官室

가. 農業所得

'86年の 農業粗收入은 '85年보다 2.6% 增加한 5,619 千원인 반면 農業經營費는 '85年보다 9.2%가 增加한 1,942 千원으로 農業粗收入에서 農業經營費를 減한 農業所得은 前年보다 0.6%가 減少한 3,677 千원으로 나타났다.

農業粗收入중 食糧作物收入은 3,117 千원으로 쌀 收買價引上(6%) 및 일반米價格의 上昇등 쌀收入의 增加에 힘입어 全體農業粗收入중 55.5%로 比重이 늘어났고, 菜蔬, 特作 및 果樹 등 經濟作物 收入은 1,421 千원으로前

年보다 101千원이 減少하였는데, 이것은 菜蔬價格下落에 따라 菜蔬의 粗收入이 前年보다 17.8%나 줄었기 때문이다.

또한 農業經營費는 肥料, 農藥 等 營農資材의 使用量이 늘어나고 農機械 保有臺數 增加로 修理費 및 減價償却費가 크게 增加하였을 뿐 아니라 農地

<表 1-2-14>

農家戶當 農業所得의 構成

(單位：千원)

	'84	'85	'86	增 減 率 (%)	
				'85/'84	'86/'85
農 業 所 得	3,699	3,699	3,677	0.0	△0.6
農 業 粗 收 入	5,277	5,477	5,619	3.8	2.6
쌀	2,477	2,628	2,827	6.1	7.6
其 他 穀 物	344	316	290	△8.1	△8.2
菜 蔬	775	950	781	22.6	△17.8
特 作	241	225	290	△6.6	28.9
果 樹	311	347	350	11.6	0.9
畜 產	1,023	932	991	△8.9	6.3
其 他	106	79	90	△25.5	13.9
農 業 經 營 費	1,578	1,778	1,942	12.7	9.2
肥 料	177	192	209	8.5	8.9
農 藥	96	124	136	29.2	9.7
農 機 具	139	158	176	13.7	11.4
養 畜	334	364	404	9.0	11.0
勞 賃	192	207	213	7.8	2.9
賃借料 및 水利費	335	396	451	18.2	13.9
鴉 精 料	61	71	77	16.4	8.5
其 他	243	266	276	9.5	3.8

資料：農林水産部 農水産統計官室

賃借料의 上昇으로 '85年보다 9.2%가 增加하였다.

한편 農業所得을 耕地規模別로보면, 0.5ha미만을 耕作하는 農家は 農業所得이 1,155千원으로 지난해보다 줄어들었으나 2.0ha이상을 耕作하는 農家は 7,528千원으로 지난해보다 4.5%가 늘어남으로써 2.0ha以上 農家の 農業所得이 0.5ha未滿農家に 비해 '85年の 5.5倍水準에서 '86년에는 6.5倍水準으로 늘어났다.

<表 1-2-15> '86年 耕地規模別 農業所得 (單位: 千원, %)

	全國平均	0.5ha未滿	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha以上
農業所得	3,677	1,155	2,651	3,817	5,231	7,528
(農業所得率)	(65.4)	(54.7)	(66.8)	(64.3)	(66.9)	(67.0)
農業粗收入	5,619	2,111	3,969	5,934	7,824	11,240
農業經營費	1,942	956	1,318	2,117	2,593	3,712

資料: 農林水産部 農水産統計官室

또한 地帶別 農業所得을 보면 都市近郊 農家の 農業所得은 前년에 비하여 크게 增加한 반면 平野地帶와 中山間地는 완만한 增加勢를 보였으며 山間地의 農業所得은 줄어들었다.

<表 1-2-16> '86年 地帶別 農業所得 (單位: 千원, %)

	全國平均	都市近郊	平野	中山間	山間
農業所得	3,677	3,076	3,694	3,768	3,627
(農業所得率)	(65.4)	(59.5)	(66.0)	(65.3)	(66.0)
農業粗收入	5,619	5,172	5,599	5,770	5,494
農業經營費	1,942	2,096	1,905	2,002	1,867

資料: 農林水産部 農水産統計官室

나. 農外所得

'86年の 農外所得은 前年보다 281千원이 늘어난 2,318千원으로 農家所得에서 차지하는 比率은 '85年の 35.5%에서 38.7%로 3.2%포인트가 높아졌다.

<表 1-2-17>

農家戶當 農外所得의 構成

(單位：千圓)

	'81	'82	'83	'84	'85	'86
農外所得	1,211	1,434	1,797	1,850	2,037	2,318
兼業所得	106	71	183	192	214	274
兼業收入	260	249	379	422	565	531
兼業支出	154	178	196	230	351	257
事業以外所得	609	706	730	763	846	935
事業以外收入	609	706	889	979	1,068	1,172
勞賃·給料	441	524	670	717	791	854
賃貸料·配當利子	92	97	130	155	182	221
其他	76	85	89	107	95	97
事業以外支出	-	-	159	216	222	237
借入金利子	-	-	155	211	218	231
其他	-	-	4	5	4	6
移轉收入	496	657	884	895	977	1,109
送金補助	154	181	220	248	270	305
被贈補助	318	415	657	636	695	786
其他	24	61	7	11	12	18

資料：農林水産部 農水産統計官室

이중 兼業所得은 274千圓으로 前年對比 28.0%가 늘어났으며 事業以外所得도 景氣好調에 힘입어 勞賃, 給料 등이 늘어남으로써 10.5% 증가하였다.

'86年の 農外所得 構成比를 보면 移轉收入이 47.9%, 事業以外所得이 40.3%, 兼業所得이 11.8%로 아직도 移轉收入이 農外所得의 大宗을 이루고 있다. 耕地規模別 農外所得을 보면 0.5ha미만의 農家가 平均戶當 農外所得의 1.4%倍 水準인 3,193千圓으로 이들 農家は 특히 勞賃, 給料 등이 많기 때문에 事業以外所得이 높은 것으로 나타나고 있다. 또한 耕地規模가 클수록 農外所得이 적어져 2.0ha以上 農家の 경우 農外所得은 1,705千圓으로

<表 1-2-18>

'86年 耕地規模別 農外所得

(單位：千圓)

	全國平均	0.5ha未滿	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha以上
農外所得	2,318	3,193	2,582	2,016	1,851	1,705
兼業所得	274	559	298	188	130	161
事業以外所得	935	1,509	1,214	713	574	468
移轉收入	1,109	1,125	1,070	1,115	1,147	1,076

資料：農林水產部 農水產統計官室

0.5ha未滿農家の 53%水準에 지나지 않는다. 地帶別로는 都市近郊 農家の 農外所得이 山間地帶 農家の 거의 2倍에 달하고 있다. 이것은 都市近郊에서는 生活圈이 廣域化됨에 따라 都市所在工場에 就業機會가 많아 勞賃, 給料 등 事業以外收入이 많기 때문이다.

<表 1-2-19>

'86年 地帶別 農外所得

(單位：千圓)

	全國平均	都市近郊	平野	中山間	山間
農外所得	2,318	4,077	2,350	2,222	2,175
兼業所得	274	559	341	235	236
事業以外所得	935	2,041	1,003	878	802
移轉收入	1,109	1,477	1,006	1,109	1,137

資料：農林水產部 農水產統計官室

2. 農家資產

'86年の 農家戶當 平均資產은 前年對比 5.9%가 늘어난 30,043千圓으로 內容別로 보면 固定資產이 25,985千圓, 流動資產이 1,854千圓, 流通資產이 2,204千圓으로 固定資產이 總資產의 86.5%를 차지하고 있다.

이들 細部內譯別로 보면 固定資產中 土地, 建物の 評價額 및 農機械保有台數는 增加되었으나 大動物은 소의 飼育頭數 減少 및 價格 下落으로 인하여 30.7%나 줄어 들었으며 流動資產中 小動物은 크게 늘어났으나 在庫生產資材는 8.9%가 줄었다. 한편 流通資產은 貯蓄增大에 힘입어 지난해에 비하여

25.1%가 증가하였으며 이에 따라 農家 資産中 流通資産의 比重도 85年の 6.2%에서 86년에는 7.3%로 높아졌다.

<表 1-2-20> 農家戶當 農家資産의 構成內容 (單位：千圓)

		'83	'84	'85 (A)	'86 (B)	增 減 率 (B/A)
農 家 資 産		24,532	26,894	28,378	30,043	5.9%
固 定 資 産	土 地	15,854	17,357	18,995	20,476	7.8
	建 物	3,177	3,283	3,459	3,544	2.5
	農 機 具	550	590	620	665	7.3
	大 動 物	2,236	1,931	1,490	1,033	△30.7
	大 植 物	236	242	246	267	8.5
	小 計	22,053	23,403	24,810	25,985	4.7
流 動 資 産	小 動 物	22	22	40	52	30.0
	在 庫 農 産 物	1,285	1,648	1,721	1,761	2.3
	在 庫 生 産 資 材	45	42	45	41	△8.9
	小 計	1,352	1,712	1,806	1,854	2.7
流 通 資 産	現 金	107	229	190	212	11.6
	貯 蓄	529	889	924	1,277	38.2
	貸 付 金	311	401	415	465	12.0
	契	166	244	215	245	14.0
	其 他	14	16	18	5	△72.2
小 計	1,127	1,779	1,762	2,204	25.1	

資料：農林水産部 農水産統計官室

3. 家 計 費

農家所得 中 租稅公課金を 控除한 可處分所得은 '85年보다 4.6%가 늘어 난 5,950千圓으로 이중 家計費로 前年보다 6.5%가 늘어난 4,995千圓을 支出

함으로써 農家의 經濟剩餘는 前年보다 5.9%가 줄어든 905千원인 것으로 나타났습니다.

한편 平均消費性向은 可處分所得이 늘어난 것보다 家計費 支出이 더 큰 폭으로 늘어남으로써 前年보다 1.5%포인트가 높아진 83.9%로 나타났습니다.

<表 1-2 21> 農家戶當 可處分所得 및 家計費 (單位：千원)

	'80	'84	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B/A)
農家所得	2,693	5,549	5,736	5,995	4.5%
可處分所得	2,579	5,467	5,690	5,950	4.6
家計費	2,138	4,272	4,691	4,995	6.5
經濟剩餘	405	1,163	962	905	△5.9
平均消費性向	82.9%	78.1	82.4	83.9	

資料：農林水產部 農水產統計官室

農家 家計費의 費目別 支出內容을 보면 住居費 및 教育費와 交際費, 冠婚喪祭費 等の 家計雜費가 크게 增加한 반면 飲食物費와 光熱費는 前年에 비하여 增加率이 鈍化되었으며 家計費중 飲食物費의 比重이 낮아짐에 따라 engel係數는 '85년의 28.4%에서 '86년에는 27.4%로 떨어졌다.

<表 1-2-22> 農家戶當 家計費 支出內容 (單位：千원)

	'80	'84	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B/A)
家計費	2,138	4,272	4,691	4,995	6.5%
飲食物費	788	1,258	1,333	1,371	2.9
住居費	144	315	359	387	7.8
被服費	130	178	190	189	△0.5
光熱費	101	179	192	199	3.6
教育費	200	547	609	643	5.6
家計雜費	775	1,795	2,008	2,206	9.9

資料：農林水產部 農水產統計官室

4. 農 家 負 債

'86年 農家戶當 負債는 2,192千원으로 前年보다 8.3%가 증가하였으나 그 增加率은 '84年の 38.8%, '85年の 13.5%등 과거에 비해 크게 鈍化되었다.

借入處別로는 農協 등 金融機關 負債가 1,550千원으로 70.7%를 차지하고 있으며 私債는 全體의 29.3%를 차지하고 있다.

<表 1-2-23> 借入處別 農家負債 (單位：千원)

		'81	'82	'83	'84	'85	'86
農 家 負 債		437	830	1,285	1,784	2,024	2,192
(增加率, %)		(29.3)	(89.9)	(54.8)	(38.8)	(13.5)	(8.3)
金 融 機 關		227	554	864	1,226	1,440	1,550
(農 協)		(216)	(524)	(823)	(1,147)	(1,337)	(1,436)
私 債		210	276	421	558	584	642
借入 比重 (%)	金 融 機 關	51.9	66.7	67.2	68.7	71.1	70.7
	私 債	48.1	33.3	32.8	31.3	28.9	29.3

資料：農林水産部 農水産統計官室

'86年 農家負債의 用途別 內譯을 보면 土地, 建物, 家畜, 農機械, 營農費 등 에 사용된 生産性 負債가 61.9%에 해당하는 1,357千원이고, 教育費, 家計雜費 등 家計性負債가 537千원으로 24.5%를 차지하고 있다. 特히, '86년에는 家計性負債의 增加率이 生産性 負債 增加率을 上廻한 것으로 나타났다.

또한 負債規模別 農家分布를 보면 負債가 없는 農家は 全國 農家の 21.9%이며, 1千萬원 이상의 農家도 2.4%를 차지하고 있다. '85年과 '86年을 비교해 보면 負債없는 農家の 比重이 前年보다 늘어났으며 200萬원 미만의 負債保有農家數는 66.2%에서 63.1%로 줄어든 반면 200萬원 이상의 農家は 33.8%에서 36.9%로 늘어났다.

<表 1-2-24>

用途別 農家負債

(單位：千圓)

		'81	'82	'83	'84	'85	'86
生 產 性 負 債	生産施設投資	175	378	661	940	977	1,001
	土地・建物	88	143	238	369	419	471
	家畜	46	122	215	311	290	260
	農機械	41	113	208	260	268	270
	短期營農費	66	131	139	200	329	356
	小計	241	509	800	1,140	1,306	1,357
	(增加率, %)	(17.6)	(111.2)	(57.2)	(42.5)	(14.6)	(3.9)
家 計 性 負 債	教育費	28	48	70	78	97	103
	生活費	44	64	159	316	290	335
	冠婚喪祭	92	151	133	61	89	99
	小計	164	263	362	455	476	537
	(增加率, %)	(46.4)	(60.4)	(37.6)	(25.7)	(4.6)	(12.8)
債務償還		32	58	123	189	242	298
	(增加率, %)	(52.4)	(81.3)	(112.1)	(53.7)	(28.0)	(23.1)
比 重 (%)	生産性負債	55.2	61.3	62.2	63.9	64.5	61.9
	家計性負債	37.5	31.7	28.2	25.5	23.5	24.5
	債務償還	7.3	7.0	9.6	10.6	12.0	13.6

註：生活費 중에는 文化用品 購入費가 包含됨.

資料：農林水産部 農水産統計官室

한편 耕地規模에 따른 負債保有의 정도를 보면 耕地規模 2ha까지의 農家에 있어서는 그 規模가 클수록 農地購入 등 固定資産에 投入한 負債가 증가하고 있지만, 2.0ha를 넘어서면 固定資産 投資 보다는 營農費 및 家計費에 사용된 負債가 많았다.

<表 1-2-25>

負債規模別 農家分布

(單位：%)

	'84		'85		'86	
	分布	累積分布	分布	累積分布	分布	累積分布
負債 없는 農家	22.0	22.0	20.8	20.8	21.9	21.9
100萬원 未滿	29.0	51.0	28.6	49.4	25.1	47.0
100 ~ 200	19.2	70.2	16.8	66.2	16.1	63.1
200 ~ 300	10.1	80.3	11.5	77.7	11.6	74.7
300 ~ 500	11.7	92.0	11.2	88.9	12.4	87.1
500 ~ 800	5.0	97.0	7.3	96.2	7.9	95.0
800 ~ 1,000	1.6	98.6	1.7	97.9	2.6	97.6
1,000萬원 以上	1.4	100.0	2.1	100.0	2.4	100.0

資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1-2-26>

'86年 耕地規模別 農家負債

(單位：千원)

		平均	0.5 ha 미 만	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0 ha 이상
用途別	固定資産	1,001	508	731	1,171	1,420	1,477
	營農費	356	276	318	363	284	667
	家計費 (教育·文化生活費等)	537	347	541	512	615	767
	債務償還	298	153	268	369	284	422
負債		2,192	1,284	1,858	2,415	2,603	3,333
借入處別	金融機關 (構成比, %)	1,550 (70.7)	877 (68.3)	1,303 (70.1)	1,782 (73.8)	1,833 (70.4)	2,298 (68.9)
	私債	642	407	555	633	770	1,035

資料：農林水産部 農水産統計官室

그리고 農家負債를 農家所得 및 農家資産과 비교해 보면 農家負債는 農家所得의 36.6%, 農家資産의 7.3% ('85年 日本: 6.8%)水準이며 流通資産과는 거의 비슷한 規模에 있다.

<表 1-2-27>

農家負債와 所得 및 資産과의 比較

(單位：%)

	'80	'81	'82	'84	'85	'86
負債 / 農家所得	12.6	11.8	18.6	32.1	35.3	36.6
負債 / 家計剩餘	83.5	54.4	85.7	153.4	210.4	242.2
負債 / 農家資産	2.5	2.6	4.4	6.6	7.1	7.3
負債 / 流通資産	54.1	62.2	93.8	100.3	114.9	99.5

資料：農林水産部 農水産統計官室

5. 農家文化用品 保有狀況

農家生活水準의 向上과 함께 農家가 保有한 文化用品도 크게 늘어나 칼라TV는 85年보다 36%가 늘어나 100戶當 39台를 保有하고 있는 것으로 나타나고 있으며 農村電話普及率도 100戶當 62台 水準으로 擴充되었다.

아울러 住居生活의 便益欲求가 커짐에 따라 最近 冷蔵庫와 洗濯機의 購入이 크게 늘어나 '86年末 現在 冷蔵庫는 100戶當 70台, 세탁기는 100戶當 10台 水準으로 늘어났다.

<表 1-2-28>

農家の 文化用品 保有狀況

(單位：台/100戶)

	'81	'82	'83	'84	'85	'86
T.V (黑白)	91.4	95.9	96.9	95.1	91.5	85.3
T.V (칼라)	1.9	4.4	12.2	20.3	28.5	38.9
電 蓄	17.6	18.1	14.7	15.2	16.6	18.2
錄 音 器	41.4	51.1	62.6	70.3	76.9	83.7
冷 藏 庫	16.7	21.7	33.1	44.0	57.7	69.6
扇 風 機	83.9	90.9	97.9	103.2	109.0	113.3
洗 濯 機	1.3	1.5	3.2	4.3	6.5	10.0
카 啡 라	4.1	4.9	9.2	9.4	9.8	11.3
電 話	18.4	22.4	35.8	41.9	51.3	61.9

資料：農林水産部 農水産統計官室

第3節 農村物價

'86年の農村物價는 農家販賣價格과 農家購入價格이 모두 1%未滿의 낮은上昇率을 나타냄으로써 安定勢를 維持하였다.

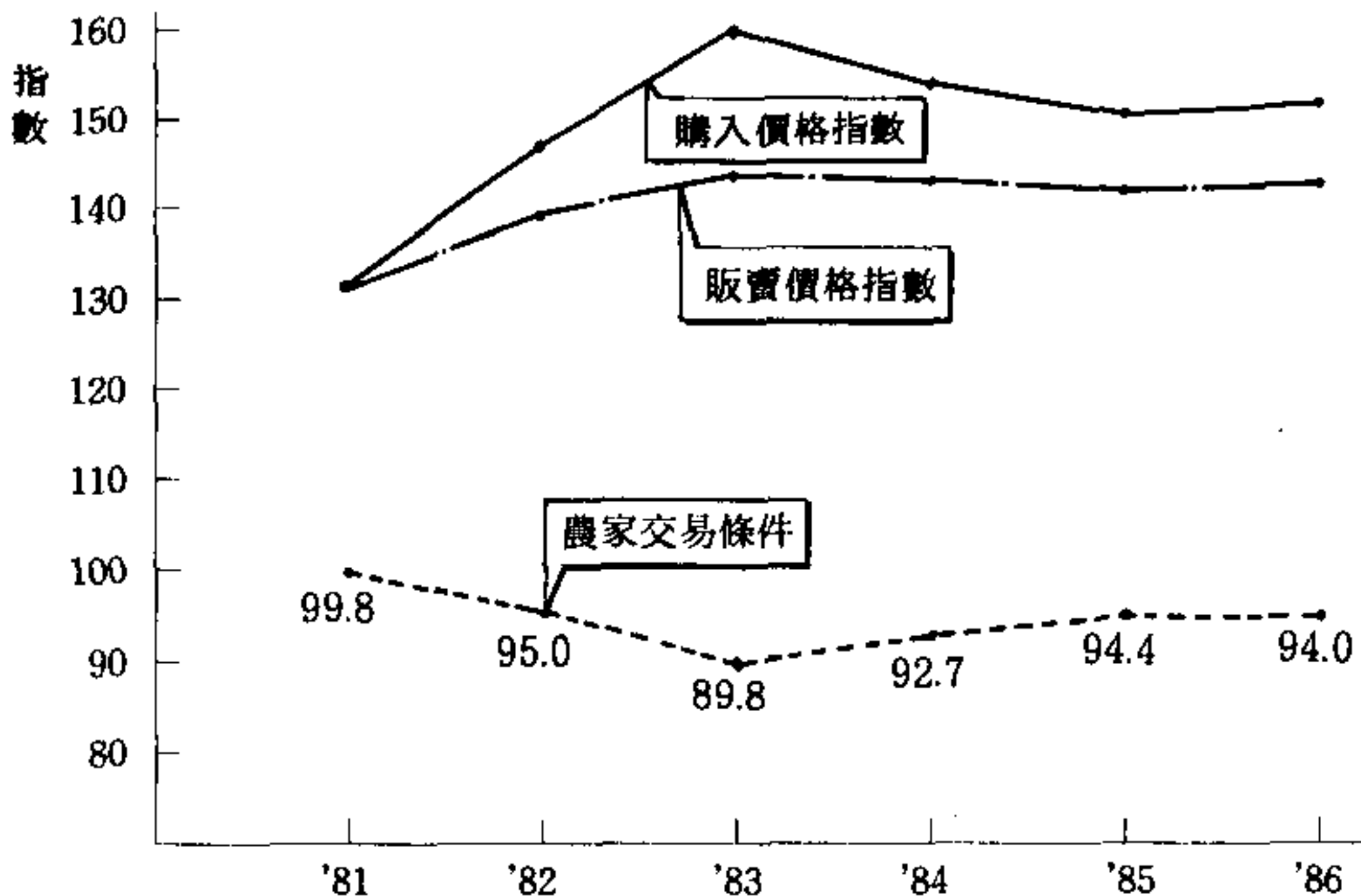
'86年中 農家販賣價格은 年平均 基準으로 前年보다 0.3% 上昇하였는데, 이 中 쌀과 보리쌀 等 穀物이 오름세를 보인 반면 대부분의 菜蔬는 供給過剩으로 年初부터 下落勢를 지속했으며, 畜産物도 돼지를 제외하고는 전반적으로 沈滯局面에서 벗어나지 못했기 때문이다.

또한 農家購入價格은 年平均 基準으로 前年보다 0.8%가 上昇하였으며 이는 家計用品과 農村賃料金이 올랐으나 農業用品中 송아지 價格이 내리고 일부營農資材價格이 引下되었기 때문이다.

따라서 '86年の 農家交易條件은 94.0으로서 前年の 94.4와 비슷한 수준을 維持하고 있다.

<圖 1-2-2>

農家交易條件 ('80=100)



資料：農協中央會

1. 農家販賣價格

가. 穀 物

'86年の穀物價格은 年平均으로 볼 때 '85年보다 8.4%가 上昇하였으며 그 중 比重이 가장 큰 米穀이 7.1% 上昇하였다. 品目別로는 一般米가 年平均 8.6% 上昇하여 80kg 가마當 71,914원에 去來되었으며 新品種米는 年平均 58,991원으로 前年對比 4.9%가 上昇하였다.

麥類의 價格은 生産量의 減少에 따른 供給 不振으로 前年對比 14.5%가 上昇하였으며 豆類와 薯類도 各各 5.3%, 18.0% 上昇하였다.

나. 青 果 物

'84年 以後 계속 上昇勢를 보였던 青果物價格은 '86년에는 年平均 基準으로 前年對比 13.2%나 下落하였다.

이러한 青果物價格의 下落要因은 果實價格이 7.9% 올랐음에도 불구하고 菜蔬價格이 19.9%나 떨어졌기 때문이다.

'86年中 主要菜蔬의 年平均 價格을 보면 豊作으로 인한 供給過剩으로 고추가 600g 當 1,952원으로 前年보다 36.8%가 떨어졌으며, 마늘도 38.8%가 내린 3,674원이었고, 배추도 30.0%가 하락한 276원(3.75kg 當)이었다.

그러나 양파는 生産量의 減少로 14.4%가 上昇하여 20kg 當 4,022원에 거래되었다.

한편 果實類中 사과는 홍옥, 국광, 부사의 平均價格이 15kg 當 7,688원으로 20% 떨어졌으나, 배는 7,895원으로 26.9%가 올랐으며 감귤은 生産量이 減少하여 價格은 32.0%가 오른 3.75kg 當 7,284원이었다. 이외에 복숭아는 8.4%가 올랐고 포도는 5.1% 下落하였다.

다. 畜 産 物

畜産物價格은 '83年 上半期이후 계속 下落하여 '86年에도 前年보다 6.6%

가 下落하였다. 이를 類別로 보면 소, 돼지 등 家畜이 6.8%, 계란과 우유 등 乳卵이 4.9% 떨어졌다.

'86年中 소값은 前年에 비하여 큰소가 13.9%, 송아지가 25.7% 下落하였다. 큰소의 경우 300kg짜리 암소가 年平均 610千원으로 18.8%, 400kg짜리 숫소가 954千원으로 10.5%가 내렸으며 4~6個月된 송아지의 경우 암송아지는 234千원, 숫송아지는 353千원으로 各各 34.5%, 18.3%가 떨어졌다.

돼지價格은 '85년에 이어 '86年에도 上昇하여 90kg짜리 큰 돼지의 경우前年對比 15.2% 上昇한 年平均 146千원에 販賣되었다.

한편, 飼育頭數가 증가한 닭은 kg當 年平均 869원으로 '85年보다 14.0%가 떨어진 價格에 거래되었고 계란價格도 前年보다 9.1% 下落하였으나 우유는 1.6%가 上昇하였다.

라. 其他 農產物

特用作物, 누에고치 및 副產物 등 其他農產物은 '86年中 前年對比 6.5%가 上昇하였으며 이중 特用作物은 6.5%가 올랐는데 참깨와 들깨가 각각 22.3%, 8.3%가 올랐다.

그리고 누에고치價格은 收買價格引上에 따라 春蠶이 6.1%, 秋蠶이 6.2% 오름으로써 전체적으로는 6.1%가 上昇하였으며, 벧짚도 前년대비 12.2%가 올랐다.

<表 1-2-29>

農家販賣價格指數

(80=100)

	'82	'83	'84	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B/A)
全體	137.1	140.3	139.1	138.2	138.6	0.3%
穀物	122.4	123.8	127.3	137.7	149.2	8.4
(米穀)	(121.0)	(121.9)	(125.1)	(136.0)	(145.6)	(7.1)
青果物	115.2	98.1	128.6	134.6	116.8	△13.2
畜產物	186.1	207.1	174.9	145.7	136.1	△ 6.6
(家畜)	(192.9)	(215.4)	(179.6)	(147.6)	(137.1)	(△7.1)
其他	115.2	117.0	116.8	124.7	132.8	6.5

資料：農協中央會

2. 農家購入價格

가. 家計用品

'86年の 農家購入用品中 家計用品은 前年보다 3.6% 올랐으며 이중 穀類와 海藻魚類는 각각 11.1%와 12.6%로 크게 오르고 肉類는 돼지고기가 9.9% 올랐으나, 쇠고기와 닭고기가 各各 11.5%, 10.1% 下落함으로써 전체적으로 0.3%가 떨어졌다.

또한 被服費와 住居費는 각각 1.5%와 1.2%가 상승하였으며 家計光熱費는 電氣料와 石油값이 引下되었으나 연탄값이 4.5%오름에 따라 전체적으로 0.1% 상승하였다.

나. 農業用品

營農에 필요한 農業用品은 種子類를 제외한 肥料, 營農光熱, 家畜 등 거의 모든 農業用品價格이 떨어져 前年보다 4.6%가 하락하였다.

특히 家畜類는 250kg짜리 肥育牛가 암수 平均 567千원으로 前年對比 12.9%나 下落하였으며, 4~6個月된 송아지도 301千원으로 26.3%나 떨어졌다. 그러나 새끼돼지는 農家の 飼育規模擴大에 따라 前年보다 24.5%가 오른 43千원에 去來되었다.

<表 1-2-30>

農家購入價格指數

('80-100)

	'82	'83	'84	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B/A)
全體	144.3	156.2	150.1	146.4	147.5	0.8%
家計用品	133.6	139.2	142.3	146.3	151.6	3.6
農業用品	165.0	187.7	164.1	145.6	138.9	△4.6
(農畜)	(215.5)	(272.4)	(201.5)	(148.3)	(134.5)	△9.3
農村賃料金	128.9	136.5	142.1	149.7	156.1	4.3

資料：農協中央會

다. 農村賃料金

農村賃料金は年平均 5.3%가 上昇하였다. 이를 類別로 보면, 農業勞動賃금이 4.5% 올라 給食物을 포함하여 成人의 경우 日當 平均勞賃은 男子가 10,142원, 女子가 7,254원으로 나타났다.

한편 其他賃金과 精白賃 등의 農業用料金도 '85年보다 각각 8.3%와 1.2%가 上昇하였다.

<表 1-2-31> 農業勞動賃金 (單位: 원)

		'80	'82	'83	'84	'85	'86
男 子	現金支給額	4,746	5,784	6,104	6,515	7,082	7,441
	給食物評價額	1,763	2,379	2,522	2,619	2,613	2,701
	計	6,509	8,163	8,656	9,134	9,695	10,142
女 子	現金支給額	3,312	4,214	4,396	4,471	4,780	5,020
	給食物評價額	1,529	1,997	2,142	2,172	2,160	2,234
	計	4,841	6,211	6,538	6,643	6,940	7,254

資料: 農協中央會

第4節 農業投資

1. 農林水產資金 支援

'86년에 農林水產部門에 支援된 總資金規模는 '85年보다 8.6%가 增加된 6兆 5,240億원으로 이중 政府 및 地方自治團體, 農協 등 농수산 相關기관 등 에 의한 投融資支援이 3兆 8,894億원으로 '85年の 3兆 4,321億원보다 13.3%가 늘어났으며, 각종 農水產物收買에 支援된 資金은 前年보다 2.2% 增加된 2兆 6,346億원이었다.

投融資支援에 있어서는 耕地整理, 排水改善, 機械化 等 農業生産構造 整備와 農工地區 造成, 水産増養殖事業 等 農漁民所得増大分野에 대한 지원이 強化되었으며, 營農·營漁資金, 農水産物 出荷調節資金 等 短期性 農水産資金도 '85年보다 14.1%가 많은 1兆 4,974億원이 지원된 것으로 나타났다.

또한 收買資金支援에 있어서 糧穀은 收買價格 引上에 따라 前年보다 10.5%가 增加되었으나 其他 農水産物 收買資金은 畜産物을 제외하고는 대부분이 '85年 수준에 머물거나 혹은 축소됨으로써 3%가 줄어들었다.

<表 1 2 -32>

農林水産資金支援

(單位: 億圓)

	計	投資	融 資			收 買 資 金		
			小 計	中長期	短 期	小 計	糧 穀	其 他
'85	60,094	13,556	20,765	7,637	13,128	25,773	9,915	15,858
'86	65,240	15,227	23,667	8,693	14,974	26,346	10,957	15,389
増減率(%)	8.6	12.3	14.0	13.8	14.1	2.2	10.5	△ 3.0

資料: 農林水産部 企劃管理室

2. 農 業 豫 算

'86年 農業部門 豫算規模는 一般會計와 資金管理特別會計를 合하여 9,737 億圓으로서 이中 事業費豫算은 前年보다 24%가 增加한 5,799億圓으로 '86 년도 國家全體豫算増加率 10.4%를 크게 상회하는 수준이다.

그러나 統合財政收支赤字改善을 위한 支援은 糧穀管理基金에서 前年보다 1千億圓이 줄어들고 肥料計定の 支援이 中斷됨으로써 '85년에 比하여 1,462 億圓이 줄어든 3,500億圓이 投入되었다.

'86年の 主要豫算事業을 보면, 農業部門豫算中 가장 큰 比重을 차지하고 있는 生産基盤造成事業에는 '85年보다 12%가 增加된 3,458億圓이 投入됨으로써 總事業費의 60%가 支援되었으며 特히 營農近代化와 安全營農에 필요한 耕地整理와 排水改善事業 豫算이 '85年보다 50%가 増額된 986億圓이 支援되었다.

〈表 1-2-33〉

農 業 部 門 豫 算

(單位：億 圓)

	'85			'86		
	一 般	資 特	計	一 般	資 特	計
計	8,933	1,096	10,029	8,174	1,563	9,737
I. 事 業 費	3,577	1,096	4,673	4,236	1,563	5,799
1. 食 糧 增 產	111	-	111	111	-	111
2. 農 業 機 械 化	67	-	67	63	200	263
3. 農 業 用 水 開 發	1,152	258	1,410	1,132	292	1,424
4. 生 產 基 盤 擴 充	631	28	659	954	32	986
5. 大 單 位 農 業 開 發	1,019	-	1,019	808	-	808
6. 防 潮 堤 築 造	-	-	-	240	-	240
7. 流 通 改 善	105	-	105	293	-	293
8. 農 特 事 業	24	-	24	25	-	25
9. 畜 產 事 業	203	-	203	43	-	43
10. 農 業 開 發	40	760	800	358	950	1,308
11. 農 村 所 得 源 開 發	138	50	88	136	77	213
12. 農 漁 村 地 域 綜 合 開 發	87	-	87	73	12	85
II. 經 常 事 業 費	101	-	101	126	-	126
III. 基 本 的 經 費	293	-	293	311	-	311
IV. 統 合 財 政 收 支 赤 字 改 善 財 源	4,962	-	4,962	3,500	-	3,500

資料：農林水產部 企劃管理室

또한 農業機械化的 促進과 함께 農機械供給支援에 前年の 67億圓에서 資特을 포함하여 263億圓으로 크게 늘어났으며 流通改善分野에 있어서도 農水產物價格安定基金 出捐등으로 前年の 3倍 水準인 293億圓이 支援되었고 농외소득원 확충을 爲한 농공지구조성사업에 있어서도 이를 보다 本格化하기 爲하여 '85年보다 1.8倍 增額된 88億圓을 支援하였다.

그러나 '86年 豫算中 大單位 綜合開發事業은 一部 事業이 마무리됨에 따라 前年보다 200億圓이 줄어든 808億圓이 支援되었으며 畜產部門豫算에 있어서도 소 사육규모의 調整과 함께 '85년보다 크게 줄어든 43億圓이 지원되었다.

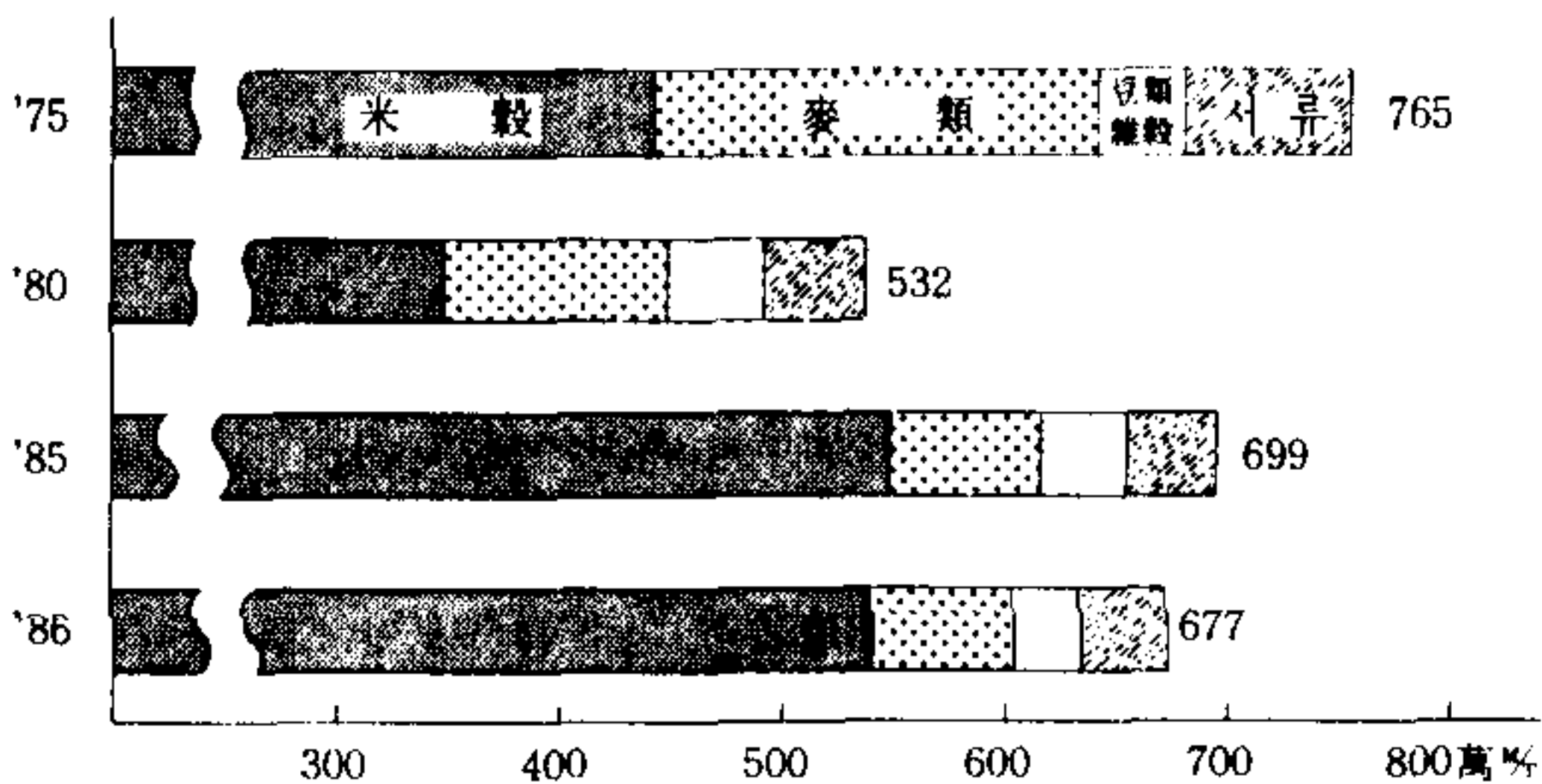
第3章 農畜產物生產

第1節 食糧作物

'86年の氣象與件은 봄철의 一時的인 旱魃과 수차례의 集中豪雨, 그리고 颱風 베라의 來襲 等 많은 氣象 異變이 있었다.

특히 봄철 4月末말까지의 降雨量은 20年 以來 가장 적은 水準으로 營農 初期에 水不足現象이 있었고 그후 7차례에 걸친 集中豪雨로 8千여ha가 浸水되었으며 7月中에는 全南地域에 突風으로 인한 비닐하우스 등의 施設被害가 발생하였을 뿐 아니라 8月末에는 第13號 颱風 베라가 우리나라 中心部를 통과하여 浸冠水, 倒伏, 白穗 등 出穗期의 벼 90千여 ha에 被害가 있었다. 또한 벼의 收穫期가 임박한 10月9日~10日에는 全南, 慶南地域의 17千여ha에 우박이 내려 벼, 果樹, 菜蔬 등의 作物에 큰 피해가 발생하기도 하였다.

<圖 1-3-1> 食糧作物生產推移



資料：農林水産部 農水産統計官室

그러나 이러한 氣象與件에도 不拘하고 그동안 持續적으로 推進되어온 農業生産基盤擴充을 통한 災害克服 餘力の 提高, 時限營農의 實踐 等に 힘입어 '86年の 食糧 總 生産量은 前年과 거의 비슷한 6,773千% (47,621千石)을 生産한 것으로 나타났다.

이를 주요 穀種別로 보면 쌀은 '85年과 비슷한 水準인 5,607千% (38,936千石)을 생산하였고 麥類는 栽培面積의 減少로 '85年보다 21.4%가 줄어든 459千%을 생산하였으며 豆類와 雜穀類는 前年보다 다소 줄어든 251千%, 131千%을 各各 生産하였다.

1. 쌀

'86年の 쌀生産量은 38,936千石으로 當初 目標 38百萬石을 上廻함으로써 '81年以後 繼續하여 6年 連續으로 豐年農事를 이룩하였다.

'86年の 벼栽培面積은 1,236千ha로서 前年の 1,237千ha와 비슷한 수준이었으며 10a當 收量은 一般系 品種이 前年보다 12kg이 증가한 반면, 統一系 品種은 32kg이 減少하여 前年보다 2kg이 낮은 454kg으로 나타났다.

<表 1-3-1>

쌀 生産 量

		面 積	10a 當收量	生 産 量	
				重 量	容 量
		千ha	kg	千%	千石
	'75	1,218	386	4,669	32,424
	'80	1,233	689	3,550	24,655
	'85	1,237	456	5,626	39,071
	'86	1,236	454	5,607	38,936
水 稻	小 計	1,333	454	5,601	38,897
	一 般 系	961	449	4,315	29,968
	統 一 系	272	472	1,286	8,929
陸 稻		3	181	6	39

資料：農林水産部 農水産統計官室

이와같이 統一系의 10a當 收量이 감소한 理由는 低溫으로 인한 生育遲延, 태풍 벼라에 의한 白穗被害 등이 주로 統一系 品種에 영향을 미쳤기 때문이다.

'86年の 全體 水稻栽培面積 중 統一系 面積은 前年の 28%에서 22%로 감소한 반면 一般系 面積은 78%로 증가하였으며 品種別 栽培面積을 보면, 統一系는 三剛벼가 가장 높은 比率를 차지하였고, 一般系는 前年과 같이 秋晴벼와 東津벼가 大宗을 이루었으나 이들 品種이외에도 統一系에서는 七星, 白羊, 新光 등의 품종이 주로 재배되었고 一般系로는 蟾津, 洛東, 大蒼 등이 많이 植付되었다.

<表 1 3 2>

統一系 및 一般系 主要品種

(單位: %, kg)

	主要品種	'86		'85		
		占有率	10a當收量	占有率	10a當收量	
一般系	合計	71.6		合計	65.5	
	秋晴	30.2	442	秋晴	29.1	421
	東津	23.3	458	東津	20.2	454
	蟾津	9.6	462	蟾津	6.7	461
	洛東	5.9	469	洛東	6.6	463
	大蒼	2.6	442	大蒼	2.8	423
統一系	合計	78.3		合計	76.2	
	三剛	52.9	486	三剛	55.4	513
	南豐	15.5	452	南豐	10.3	509
	七星	4.1	508	太白	4.1	466
	白羊	3.1	450	新光	3.2	512
	新光	2.7	486	豐產	3.2	479

資料: 農林水産部 農産局

한편 쌀 單位當 生産性を 보면 品種別 收量差異 이외에도 移秧時期, 移秧方法, 水利施設, 耕地整理 등의 여부에 따라 상당한 차이가 있었던 것으로 나타났다.

水利狀態가 가장 좋은 農地改良組合畝에서는 467kg이 생산된 반면 天水畝에서는 405kg이 생산되었으며, 水利不安全畝은 428kg, 水利安全畝에서는 449kg이 생산되었다.

<表 1-3-3> 灌溉施設別 段收 (單位: kg)

		農組畝	水利安全畝	水利不安全畝	天水畝
構 成 比 (%)		40.4	44.0	12.9	2.7
段 收	平 均	467	449	428	405
	統 一 系	483	469	441	433
	一 般 系	461	444	425	400

資料: 農林水産部 農産局

또한 移秧時期에 따라서도 5月 以前까지 모를 심은 논에서는 470kg이 생산되었으나 7月 이후에 모를 심은 논에서는 367kg이 生産됨으로써 5月以前 移秧의 78%水準에 불과했다. 移秧方法別로는 機械로 모내기를 한 논에서는 476kg이 생산된 반면, 손으로 移秧한 논에서는 442kg이 생산되어 34kg의 차이가 났으며 이 中 統一系 品種은 機械移秧이 497kg, 손移秧이 461kg이었으며, 一般系는 각각 470kg, 437kg으로 손移秧보다 機械로 移秧한 논에서 單位收量이 높았다.

<表 1-3-4> '86年 移秧時期別 段收 (單位: kg)

	5 月 以 前	6.1 ~ 6.15	6.16 ~ 6.30	7 月 以 後
段 收	470	442	411	367
植 付 比 率 (%)	58.3	26.1	14.8	0.8

資料: 農林水産部 農産局

耕地整理 與否도 收量에 크게 영향을 미쳐 耕地整理畝에서는 10a當 464kg이 생산되었는데 반하여 未整理畝에서는 446kg이 생산되어 栽培管理가 용이한 耕地整理畝이 未整理畝보다 18kg이 더 增收되었다.

<表 1-3-5>

耕地整理別 10a當 收量

(單位：kg)

	平均		統		般	
	整理	未整理	整理	未整理	整理	未整理
'85	471	447	510	499	452	431
'86	464	446	482	464	458	442

資料：農林水産部 農産局

2. 田作物

가. 麥類

보리는 食糧消費패턴의 高級化로 食用 보리쌀 消費가 크게 減少되고 있을 뿐만 아니라 보리의 收益性이 마늘, 양파 등 다른 競合作物에 비하여 낮아 栽培面積과 生産量이 크게 줄고 있다.

'86年の 麥類 栽培面積은 193 f·ha로 '85年の 242 f·ha보다 20.2%나 감소되었으며, 生産量도 459 f·% (3,329 千石)으로 前年對比 21.4%가 감소하였다.

<表 1 3 6>

麥類 生産量

(單位：f·ha, 千%)

		'75	'80	'85	'86
計 (胡麥包含)	面積	761	360	242	193
	生産量	1,806	906	584	459
大麥	面積	322	110	64	52
	生産量	699	267	162	112
裸麥	面積	386	186	101	88
	生産量	995	457	225	203
麥酒麥	面積	3	34	73	50
	生産量	6	87	184	137
小麥	面積	44	28	3	2
	生産量	97	92	11	5

資料：農林水産部 農水産統計官室

특히 大稈麥은 播種期の 늦장마로 播種適期를 놓쳐 栽培面積이 줄어들었
을 뿐 아니라 越冬期間中 低溫 및 봄가뭄 등으로 氣象條件이 좋지않아 收
량이 저조하여 '86年 生産量이 前年보다 25.5%가 減少한 137千%에 그쳤다.

한편 '86年産 보리收買는 栽培農家の 營農意慾고취와 所得保障을 위해 收
買價格을 生産獎勵金을 包含하여 '85年對比 7.5% 引上하는 한편 農家出荷
全量을 收買하였다.

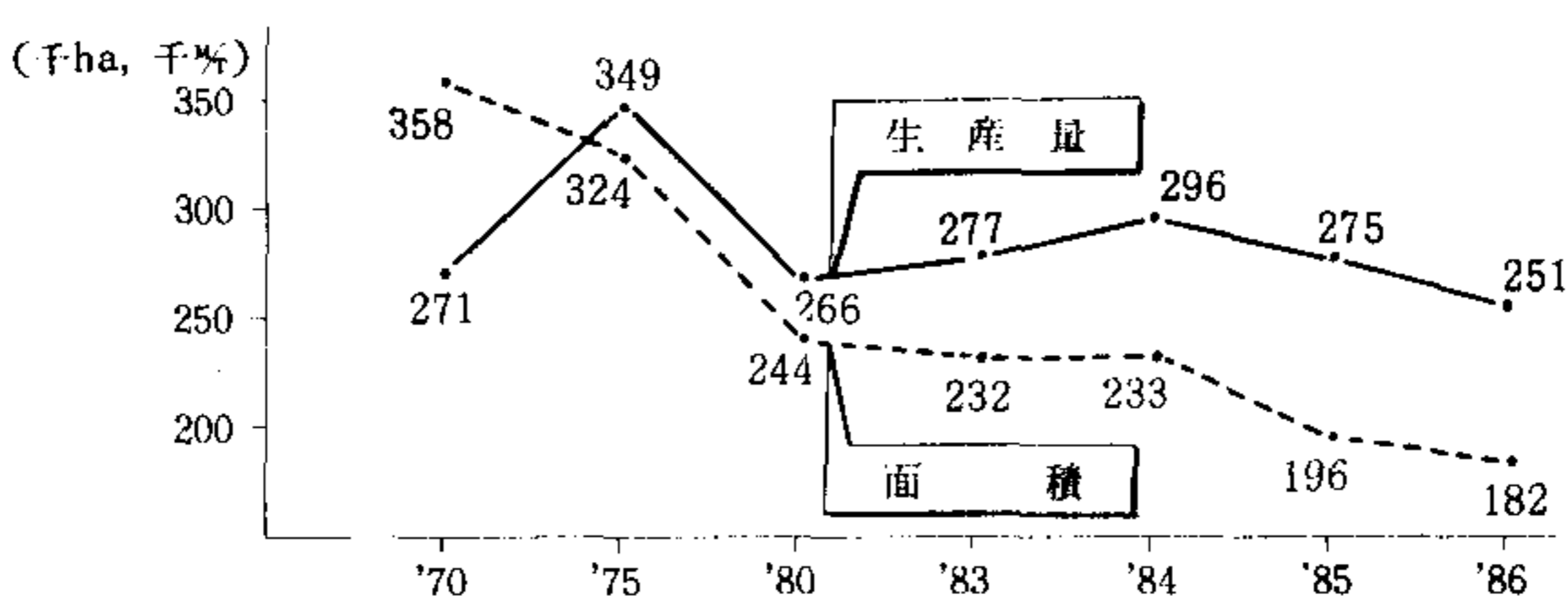
나. 豆 類

豆類의 生産量은 '70年代 中盤까지는 증가추세에 있었으나 '80年代에는
約 270千%水準에서 머물고 있다. '86年の 경우에는 栽培面積이 182千ha로 '85
年보다 7%가 감소되었으며 生産量도 9%가 줄어들어 251千%이 生産되었다.

'86年の 豆類生産量이 減少된 原因은 豆類의 主宗을 이루고 있는 콩이 競
合作物인 菜蔬類보다 상대적으로 收益이 낮은 관계로 栽培面積이 줄어들어
生産量이 前年の 85%水準인 199千%으로 줄어들었기 때문이다.

이러한 콩 生産量의 減少에도 不拘하고 콩의 需要는 계속 增大됨에 따라
輸入量이 계속 증가되어 '86年の 경우 食用 155千%, 飼料用 789千% 등 總
944千%의콩을 海外에서 導入했다. 그러나 콩은 增産可能性이 가장 큰

<圖 1-3-2> 豆 類 生 産 量 推 移



資料：農林水産部 農水産統計官室

作物로서 適正水準의 自給率 維持를 위해 '86年에도 農協으로 하여금 增産 團地를 50千ha로 擴大 造成하고, 優良種子 공급과 複合肥料의 支援등으로 生産량 증대를 유도해 나가고 있다.

한편 最近 加工需要가 크게 늘어나고 있는 팥, 綠豆도 增産을 기하기 위해 示範團地를 각각 200ha를 造成하고, '86年에 처음으로 收買價格豫示制를 실시하였다. 이에따라 팥은 栽培面積이 '85年보다 14%가 증가된 26.9千ha로 늘어나고 10a當 收量도 103kg에서 114kg으로 늘어남으로서 生産량이 前年보다 26%가 增加된 30.5千%으로 늘어났으며 綠豆도 栽培面積의 增加와 함께 生産량이 前年보다 25%가 증가한 7千%으로 늘어났다.

다. 薯 類

薯類中 감자는 最近 優良種薯의 普及, 加工食品 開發 및 契約栽培擴大 등 積極的 增産施策에 힘입어 國內生産이 增加趨勢에 있으나 고구마는 每年 栽培面積과 生産량이 減少하고 있다.

'86年 감자생산은 그동안 擴大普及해 온 優良種薯에 힘입어 10a當 收량이 前年보다 10%가 增加한 2,040kg을 記錄하였으나 栽培面積이 3千ha가 감소됨에 따라 前年과 비슷한 水準인 566千%이 生産되었다.

<表 1-3-7> 薯 類 生 産 量 (單位：千ha, 千%)

		'75	'80	'85	'86
計	面 積	147	92	65	56
	生 産 量	2,613	1,549	1,362	1,250
감 자	面 積	52	37	31	28
	生 産 量	660	446	575	566
고 구 마	面 積	95	55	34	28
	生 産 量	1,953	1,103	787	684

註：生薯基準임.

資料：農林水産部 農水産統計官室

특히 감자 加工需要의 增加와 함께 종래 全量輸入에 의존하던 튀김용감자의 自給基盤을 擴充하기 爲하여 加工用 감자品種인 長圓(Russet Burbank)을 獎勵品種으로 지정하는 한편 감자의 年中 供給을 위한 周年生産體系를 확립해 나가고 있다.

한편 '86年 고구마생산은 最近를 比伸張이 鈍化됨에 따라 栽培面積이 減少되어 生産량이 前年の 87%水準인 684千톤이 生産되었다.

라. 雜 穀

'86年の 雜穀栽培面積은 '85年과 비슷한 많은 41千ha 수준이었으나 氣象 與件이 좋지않아 段收가 全般的으로 떨어짐으로써 生産량은 '85年보다 10%가 감소한 131千톤이 生産되었다.

穀種別로 보면 옥수수는 栽培面積이 '85年보다 8%, 生産량은 14%가 감소하였으나 조와 메밀 등 其他 雜穀은 栽培面積 增大에 힘입어 18千톤이 生産됨으로써 前年보다 20%가 늘어났다.

<表 1-3-8> 雜 穀 生 產 量 (單位：千ha, 千噸)

		'75	'80	'85	'86
計	面 積	73	53	40	41
	生 產 量	92	170	147	131
옥 수 수	面 積	32	35	26	24
	生 產 量	54	154	132	113
其 他	面 積	43	18	14	17
	生 產 量	38	16	15	18

資料：農林水産部 農水産統計官室

第2節 園藝作物

1. 菜蔬

'86年の菜蔬生産은 '85년에 비해 栽培面積이 늘어나고 氣象條件도 좋아 總生産量은 8,496 F^{ha}으로 前年の 7,543 F^{ha}보다 13%가 增加되었다.

무우, 배추는 前年보다 7%와 22%가 각각 增産되었으며 그 中 김장무우는 面積이 4% 減少했음에도 불구하고 10a當收量이 크게 늘어나 지난해보다 9%가 增加되었고, 김장배추는 栽培面積이 增加됨에 따라 生産量이 '85年보다 22%가 增加되었다.

한편 고추와 마늘은 前年の 價格이 비교적 높게 形成된 데 영향을 받아 栽培面積이 增加하고 또 氣象이 순조로워 고추는 前年對比 20%, 마늘은 44%나 增産되었다. 그러나 양파는 85年度에 過剩生産으로 인한 價格下落으로 栽培面積과 收量이 모두 減少함으로써 生産量이 前년에 비해 14%가 떨어졌다.

〈表 1-3 9〉 菜蔬 生産 量 (單位: F^{ha}, F^{ha})

	'75		'80		'85		'86	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
計	243	4,630	369	7,478	356	7,543	389	8,496
무 우	36	1,370	49	1,973	38	1,586	38	1,705
배 추	39	2,263	48	3,040	41	2,790	48	3,409
고 추	99	128	133	125	118	165	129	198
마 늘	14	103	37	253	39	256	48	370
양 파	4	95	8	275	11	440	10	379
기 타	51	671	94	1,812	109	2,306	116	2,435

資料: 農林水産部 農産物流通局

2. 果 實

果實生産은 '85年과 거의 비슷한水準인 1,475千%이 生産되었으며 이중 사과, 배, 복숭아, 단감, 포도등 대부분의 果實이 平年作을 上廻하였으나 감귤은 해결이 現象으로 인하여 '85年보다 8%가 減産되었다.

'86年에도 果實의 品質向上과 商品性 提高를 위하여 사과, 배, 감귤을 中心으로 既存 在來品種 果園 650ha를 優良新品種으로 갱신하였으며 示範園地를 새로이 3個所를 造成하여 選果場, 選果機 등 共同利用施設을 擴大설치하였다. 아울러 果實需要 增加에 안정적으로 對處하기 위해 101億원의 農業開發資金으로 野山開發 등을 通하여 1,900ha의 新規果園을 造成함으로써 果實生産基盤을 擴充하였다.

<表 1-3-10>

果 實 生 産 量

(單位: 千ha, 千%)

	'75		'80		'85		'86	
	面 積	生産量	面 積	生産量	面 積	生産量	面 積	生産量
計	74.1	543.1	99.1	833.1	110.2	1,461.3	112.8	1,475.2
사 배	30.9	279.6	46.1	410.0	37.7	532.6	36.4	537.7
배	9.3	49.4	9.2	59.6	9.0	128.1	9.0	135.1
복 숭 아	9.1	61.0	10.4	88.7	13.1	131.5	14.5	138.7
포 도	7.4	49.9	7.6	56.8	16.2	149.9	17.0	165.5
감 귤	9.3	67.4	12.2	161.4	15.7	370.5	16.0	339.5
기 타	8.1	35.8	13.6	56.6	18.5	148.7	19.1	158.7

資料: 農林水産部 農水産統計官室

3. 花 卉

國民生活水準向上과 각종 國際行事, 全國土公園化事業 등으로 꽃의 需要가 增加추세에 있으며 消費性向도 多樣化, 高級化됨에 따라 꽃의 栽培面積과 栽培農家도 늘어나고 있다.

農家所得作目으로 부각되고 있는 花卉産業을 育成하기 위하여 '86년에는 꽃栽培하우스 施設 및 優良種苗生産施設改善에 所要額의 70%에 해당하는 1,820百萬원을 融資支援하였고 栽培適地에 造成하고 있는 꽃 示範團地는 '85年の 4個所(16ha)에 이어 '86年에도 630百萬원을 支援하여 5個所(20ha)를 추가로 造成하여 適地適作에 의한 特化作目을 開發育成해 나가고 있다.

이러한 生産支援施策에 힘입어 '86年 花卉類 生産額은 '85年보다 18%가 增加한 882億원으로 늘어났으며 輸出도 크게 伸張되어 지난해보다 38%가 增加한 3,614千\$는 輸出하였다. 그러나 花卉類輸入은 國內生産供給의 增大로 '85年보다 줄어든 3,681千\$로 나타났다.

<表 1-3-11> 花卉生産 및 輸出入

	單位	'75	'80	'85	'86
栽培面積	ha	1,070	1,280	2,249	2,381
農家數	戶	2,446	2,733	5,365	6,105
生産額	百萬원	6,716	21,351	74,599	88,156
1人當消費額	원	190	531	1,823	2,122
輸出額	千\$	1,219	2,836	2,620	3,614
輸入額	千\$	354	1,123	3,697	3,681

資料：農林水産部 農産物流通局

第3節 特用作物 및 蠶業

1. 特用作物

特用作物 중 需要가 증가하고 있는 참깨, 땅콩은 價格豫示制와 收買事業을 통한 價格支持와 優良品種普及 및 비닐被覆栽培法 등 多收穫栽培技術 보급을 통한 生産性 增大에 힘입어 生産量이 增加되었다.

참깨의 경우 '86年 栽培面積은 '85年 對比 20.4%가 增加한 88.4千ha로 늘

어났으며 生産量도 開花期 및 收穫期の 태풍과 豪雨 등으로 일부 피해를 입었으나 지난해보다 18.1%가 늘어난 48.2千%을 생산하였다.

땅콩도 増産施策에 힘입어 栽培面積 및 單位面積當 收量の 増加등으로 '85年보다 23.9%가 늘어난 20.2千%을 생산하였다.

한편 '70年代 후반부터 生産量이 계속 減少趨勢를 보였던 油菜는 國內 油脂資源活用을 위한 農家出荷 全量收買, 新品種 供給 등의 増産施策에 힘입어 '86년에는 前年에 비하여 1.6千%이 많은 7.8千%을 생산하였다.

또한 麥酒用 호프는 栽培面積이 減少하여 生産量은 '85년의 697%에서 '86년에는 600%으로 감소되었으며 洋松茸는 生産原價의 上昇과 輸入國의 輸入規制 措置 強化 등으로 輸出與件이 계속 惡化됨에 따라 生産量은 '85년의 17.3千%에서 11.8千%으로 급격히 감소되었다.

<表 1-3-12> 特用作物生産量 (單位: 千ha, 千%)

	'75		'80		'85		'86	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
참깨	52.2	25.1	48.7	7.1	73.4	40.8	88.4	48.2
땅콩	9.1	7.6	12.0	9.2	11.6	16.3	13.3	20.2
油菜	26.8	34.7	14.7	26.5	4.1	6.2	4.6	7.8
호프	0.1	0.05	0.4	0.3	0.5	0.7	0.4	0.6
洋松茸	624	25.1	535	25.6	272	17.3	210	11.8

資料: 農林水産部 農産局

2. 蠶業

'86년의 蠶業施策은 生産基盤 擴充과 生産性 向上에 力點을 두고, 國庫 및 蠶業振興基金 38億원을 支援하여 養蠶適地에 뽕나무 5,200萬株를 심어 密植뽕밭 3,020정보를 集團造成하는 한편 養蠶 主産地마을 2千個所를 育成하고 애누에 共同蠶室 80棟을 건축하였으며 아울러 省力養蠶推進을 위한

各種 機資材의 지원을 強化하였다.

'86年의 누에고치 生産量은 前年의 8,996%보다 3%가 적은 8,728%을 생산하였으나, 가을 누에고치는 '76年 이후 10年만에 처음으로 前年對比 3%가 增加되었다.

生絲類 輸出에 있어서는 主輸出市場인 日本의 生絲在庫 累增으로인한 輸入履行遲延, 輸出價格 下落 등 輸出與件이 어려웠으나 絹撚絲를 中心으로 輸出이 크게 늘어남으로써 總輸出額은 前年보다 20%가 增加한 308百萬달러에 달하였다. 이는 그동안 輸出市場 多邊化努力과 附加價値가 높은 生絲加工製品의 輸出增大施策에 힘입은 결과로 볼 수 있다.

<表 1-3-13> 蠶 業 現 況

	單 位	'75	'80	'84	'85	'86
養 蠶 農 家	千 戶	481	272	116	91	75
뽕 밭 面 積	千 ha	90.9	36.6	22.0	20.4	20.0
누에고치 生産	千 %	36.1	20.0	10.3	9.0	8.7
生 絲 生 産	千 俵	91.0	54.6	30.5	27.1	24.0
生絲類 物 量	千 俵	89.4	53.0	57.7	57.6	66.9
輸 出 金 額	百萬 \$	240.0	244.4	262.0	256.0	308.0

資料：農林水産部 農産局

第4節 畜 産 物

1. 家 畜 飼 育

가. 소

'86年末의 소 飼育頭數는 2,807千頭로서 '85年末의 2,943千頭보다 136千頭가 감소하여 '81年 이후 처음으로 飼育頭數가 줄어드는 경향을 보였다.

이 中 韓(肉)牛의 飼育頭數는 2,370千頭로서 前年보다 7.2%가 減少하였

으며, 飼育戶數도 1,048千戶에서 991千戶로 減少하였다. 이처럼 飼育頭數가 감소하게 된것은 '84年 이후 계속 하락추세에 있는 소값을 安定시키기위하여 政府에서 中암소 위주로 소를 收買備蓄하고, 또한 農家の 암소 飼育意慾 減少와 함께 암소 屠畜比率이 '85年の 36%에서 '86년에는 52%로 높아져 송아지生産이 줄어들게 되었고, 아울러 쇠고기 消費가 擴大됨에 따라 屠畜頭數가 늘어 났기 때문이다.

한편 젓소飼育頭數는 '85年末의 390千頭에서 '86년에는 437千頭로 늘어났으나 '86年度의 增加率은 '84年の 22%, '85年の 17%에 비하여 크게 鈍化된 水準이다.

<表 1-3-14>

家畜飼育頭數와 戶數

(單位：千頭, 千戶)

			'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增減率 (B / A)
飼 育 頭 數	소	計	1,642	1,541	2,943	2,807	△ 4.6%
		韓 (肉) 牛	1,556	1,361	2,553	2,370	△ 7.2
	젓 소	86	180	390	437	12.1	
	돼지	1,247	1,653	2,853	3,347	17.3	
닭	(千首)	20,939	40,999	51,081	56,095	9.8	
飼 育 戶 數	소	計	1,288	967	1,092	1,034	△ 5.3
		韓 (肉) 牛	1,277	949	1,048	991	△ 5.4
	젓 소	9	18	44	43	△ 2.3	
	돼지	654	428	251	262	4.4	
닭	1,094	691	303	282	△ 6.9		

資料：農林水産部 畜産局

나. 돼지와 닭

돼지의 飼育頭數는 그동안 지속된 돼지 價格好調 및 配合飼料 價格下落

等 養畜經營費의 輕減으로 '85年の 2,853千頭에서 '86년에는 3,347千頭로 늘어났으며 飼育戶數도 262千戶로 增加 하였다. 또한 戶當 飼育規模도 '85年の 11頭에서 '86년에는 13頭로 늘어나 점점 規模化되는 추세를 나타내고 있다.

한편 닭은 '85年보다 9.8%가 증가한 56百萬首로 늘어났으나 飼育戶數는 오히려 6.9%가 減少한 282千戶로서 養鷄業의 專業化 傾向을 보이고 있다.

2. 畜產物 生産

가. 肉 類

'86年の 全體 肉類生産量은 602千噸으로 '85年보다 2.3%가 늘어났으며 그 중 쇠고기는 29.5%가 증가한 151千噸을 생산하였다.

쇠고기 生産量이 크게 증가한 것은 所得水準向上에 따른 쇠고기 消費需要增加와 더불어 '85年부터 推進해온 소값 安定對策의 影響으로屠畜頭數가 前年에비해 46%가 많은 1,086千頭로 증가하였기 때문이다.

한편, 돼지고기 生産量은 쇠고기 消費와의 代替에 따른 돼지고기 消費減少와 함께 '85年の 345千噸보다 7%가 적은 321千噸으로 감소하였으며 닭고기는 前年보다 3千噸정도가 증가한 129千噸이 생산되었다.

나. 牛乳와 雜卵

'86年度 牛乳生産量은 '85年の 1,006千噸에서 14.8%가 增加한 1,155千噸으로 이처럼 牛乳生産量이 늘어나고 있는 이유는 적소 飼育頭數의 增加와 함께 酪農技術이 크게 向上되어 頭當牛乳生産量이 늘어나고 있기 때문이다.

특히, 牛乳生産量은 다른 畜產物에 비해 成長速度가 빨라 지난 15年間 生産量은 24倍로 늘어났다.

한편 鷄卵은 332千噸을 생산하여 前年보다 11.8%가 증가하였다.

< 表 1-3-15 >

畜 產 物 生 產 量

(單位：千噸)

	'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增 減 率 (B / A)
肉 類	232.6	419.0	588.2	601.8	2.3%
쇠 고 기	70.3	93.3	116.8	151.2	29.5
돼 지 고 기	106.7	235.2	345.2	321.2	△7.0
닭 고 기	55.6	90.5	126.2	129.4	2.5
牛 乳	160.3	452.3	1,005.8	1,154.5	14.8
鷄 卵	159.0	250.0	296.5	331.6	11.8

資料：農林水産部 畜産局

3. 粗飼料 生産

家畜飼育増加와 함께 飼料需要도 늘어나고 있으나 國內에서 生産供給되는 原料는 한정되어 있어 飼料原料輸入이 増加되고 있는 실정에 있다.

따라서 國內飼料資源의 開發活用을 통한 外貨節約과 養畜農家の 飼料費 節減으로 건전한 畜産基盤을 構築하기 위하여 粗飼料 增産利用을 적극 유도해 나가고 있다. 특히 草食家畜의 풀飼料 給與率을 높이기 위하여 草地로 利用可能한 山地를 적극적으로 開發하고, 靑刈 및 畜裏作 飼料作物의 栽培面積을 크게 늘려 粗飼料 生産基盤을 擴充해 나가고 있으며 아울러 草地造成 許可節次 簡素化를 위해 草地法 등 關聯法規를 改正하고 粗飼料增産을 위한 各種 支援을 強化해 나가고 있다.

가. 草地造成

'86년에 新規造成된 草地는 3,871ha로 '86年末까지 草地의 總管理面積은 84,567ha로 늘어났으며 여기서 599千%의 牧草를 生産利用하였다.

'86년에 新規로 造成된 草地를 造成方法別로 區分하면 耕耘草地로 1,324ha, 不耕耘草地 2,459ha, 林間草地로 88ha를 開發하였으며 事業別로는 一般草地로 3,587ha, 團地草地 39ha, 畜協 示範草地 110ha, 農業系 高校 實習用 草地로 135ha를 造成하였다.

<表 1-3-16>

草地造成現況

(單位：ha)

	'80	'84	'85	'86
新規造成	3,125	10,028	5,111	3,871
管理面積	48,350	75,805	80,732	84,567
牧草生産量(千%)	363	475	519	599

資料：農林水産部 畜産局

나. 飼料作物 生産

겨울철 遊休農地를 利用한 畚裏作 飼料作物은 '86년에 100千ha를 栽培하여 642千%의 粗飼料를 生産이용하였으며 青刈飼料作物은 '85年보다 54%가 늘어난 1,333千%을 生産利用하였다.

특히 飼料作物의 増産을 위해서 畚裏作 飼料作物 種子代一部를 補助支援하였으며 밭을 利用한 飼料作物의 栽培擴大를 위해 옥수수를 비롯하여 수 단그라스, 油菜등을 飼料作物로 재배하도록 作付體系도 개선하였다.

<表 1-3-17>

飼料作物栽培實績

(單位：千ha, 千%)

		'80	'84	'85 (A)	'86 (B)	增減率 (B/A)
畚裏作	栽培面積	38	77	86	100	16.3%
飼料作物	生産利用量	203	394	587	642	9.4
青刈	栽培面積	14	41	69	104	50.7
飼料作物	生産利用量	215	504	868	1,333	53.6
計	栽培面積	52	118	155	204	31.6
	生産利用量	418	898	1,455	1,975	35.7

資料：農林水産部 畜産局

4. 畜産物衛生과 家畜防疫

不正畜産物の 流通을 防止하고 肉類의 衛生的인 처리와 供給을 위하여 '85 年에 이어 零細屠畜場의 統廢合整備事業을 계속하여 施設을 近代化하였다.

이에 따라 全體屠畜場은 2個所가 줄었지만 特級 屠畜場은 全國에 65個所로 前年보다 4個所가 늘어났다.

〈表 1-3-18〉

屠 畜 場 現 況

(單位：個所)

	'81	'82	'83	'84	'85	'86
計	351	233	208	195	185	183
特 級	47	58	54	57	61	65
1 級	147	161	147	133	105	100
2 級	157	14	7	5	19	18

資料：農林水産部 畜産局

또한 家畜防疫을 위하여 '86年에 소, 돼지 등 7,643千頭에 豫防注射를 접종하고, 431千頭에 檢診을 실시하는 한편, '88올림픽에 대비하여 國內馬匹에 대한 傳染病檢診을 강화하였다. 이와 함께 動物 및 畜産物의 輸出入 物量增加와 輸入地域이 多邊化됨에 따라 口蹄疫 등 海外 惡成傳染病의 國內流入을 防止하기 위하여 外來性 家畜傳染病防疫訓練을 UNDP와 공동으로 推進하였다.

第4章 農業生産基盤造成과 營農支援

第1節 農業生産基盤의 擴充

安全營農의 實現과 高能率의 농업생산구조를 確立하기 爲하여 推進되어 온 農業生産基盤 擴充 事業은 그동안 政府의 投資擴大등으로 많은 發展을 이룩하였으나 아직도 氣象災害로 인한 농작물 피해가 빈번히 發生되고 있으며 營農能率面에서도 효율적인 營農作業이 이루어지기에는 未洽한 狀態에 있어 農業生産基盤에 대한 지속적인 整備가 크게 要請되고 있다.

따라서 '86年에도 農業部門 豫算의 56%를 農業生産 基盤을 擴充하는데 投入하여 旱水害에 對備한 農業用水開發을 積極推進하는 한편 農地의 能率的 이용을 위한 耕地整理와 排水改善事業을 보다 擴大 推進하였다.

1. 農業用水 開發

恒久的인 水利施設의 擴充을 爲한 農業用水開發事業은 '81年에 水利施設 耐旱能力調査를 上臺로 하여 樹立된 「農業用水開發 10個年計劃」에 의거 年次的으로 이를 추진해 나가고 있다. '86年에 推進된 農業用水開發事業을 보면, 中規模用水開發事業은 事業效果를 早期에 實現하기 爲하여 竣工地區를 중심으로 集中投資하여 '86年 灌溉期부터는 部分的으로라도 給水가 可能な 面積을 최대한 擴大할 목적으로 對象地區 總 82個 地區 50,879ha중 10個地區 3,394ha를 우선 竣工하고, 72個의 繼續地區 47,485ha에 대하여는 16個地區 11,258ha를 竣工前에도 計劃蒙利面積의 일부에 給水가 가능하도록 하였다.

아울러 小規模 農業用水開發事業은 113個 地區 3,573ha에 대한 事業을 추

진하여 그중 37個 地區 990ha를 竣工하였으며, 既存 水利施設중 물이 부족한 178個地區 14,402ha에는 農地改良組合 또는 市長, 郡守 主管下에 施行하는 貯水池 嵩上工事 등의 補強開發事業을 실시하여 101個 地區 5,212ha를 完工하였으며, 또한 農地改良組合에서 管理하는 老朽 水利施設 251個所에 대하여도 改補修事業을 실시하였다.

〈表 1-4-1〉 農業用水開發 10個年計劃 推進實績 (單位：千ha, 億원)

	總計劃('82~'91)		'85 까 지		'86 實 績		累計進度 (B+C/A)
	面積(A)	金 額	面積(B)	金 額	面積(C)	金 額	
計	555	46,826	167.8	7,890	32.6	1,718	36%
新規開發	355	42,644	67.9	6,941	14.9	1,517	23
補強開發	60	2,860	11.1	352	7.1	117	30
旱魃對備	140	949	88.8	530	10.6	69	71
水脈圖調査	114	373	36.0	67	5.1	15	36

資料：農林水産部 農漁村開發局

한편 旱害가 極甚한 地域으로서 地表水開發이 不適合한 地域에 대해서는 恒久施設인 大型管井 349孔, 旱魃 對備用 小型管井 18,028孔 및 移動式 揚水施設 140個所를 開發하여 12,196ha에 農業用水 供給이 가능하도록 하였으며, 또한 6,107ha(田作地帶 1,053ha包含)의 水脈調査를 完了하여 水理地質圖를 增補하였다.

2. 耕地整理와 排水改善

農村近代化 促進法の 制定과 함께 本格的으로 着手된 耕地整理事業은 最近 農村勞動力 不足과 農業機械化가 急進展됨에 따라 그 需要가 크게 增大되고 있다.

'86 耕地整理는 봄마무리 16,490ha를 5月 이전에 完了하여 모내기에 支障이 없도록 하였으며, 가을着手 19,373ha에 대하여는 12月末 現在 40%의 工

程을 달성하였다. 이러한 耕地整理 事業의 擴大로 86年末 耕地整理率은 對象面積 706千ha中 66%가 進陞되었다.

排水改善은 集中豪雨로 인한 농경지 浸水, 流失등이 자주 發生되는 우리의 農業與件下에서는 安定營農과 農地汎用化를 위하여 무엇보다도 重要하다. '86년의 排水改善事業은 35個 地區 11,627ha를 대상으로 施行하여 이 중 18個 地區 5,404ha를 완공함으로써 排水改善對象面積 127千ha中 31%인 39千ha가 完了되었다.

〈表 1-4-2〉 農地(畝)의 整備現況 (單位: 千ha)

	'75	'80	'83	'84	'85	'86
畝 面 積	1,277	1,307	1,316	1,320	1,325	1,329
水 利 畝 (累 計)	790	893	929	935	949	965
水 利 畝 率 (%)	(62)	(68)	(71)	(71)	(72)	(73)
耕 地 整 理 (累 計)	277	369	415	431	447	467
耕 地 整 理 率 (%)	(39)	(52)	(59)	(61)	(63)	(66)
排 水 改 善 (累 計)	8	20	30	31	33	39
排 水 改 善 率 (%)	(6)	(16)	(23)	(25)	(26)	(31)

資料: 農林水産部 農漁村開發局

3. 大單位 農業綜合開發과 農地擴大

農業의 다목적개발을 위하여 水系別로 推進하고 있는 대단위 綜合개발사업은 그동안 洛東江, 南江地區 等 9個地區를 完工하고 榮山江(Ⅱ), 插橋川 等 7個地區에 繼續工事を 推進中에 있다.

'86년에는 888億원을 投資하여 이들 地區에 對한 防潮堤, 揚排水場, 耕地整理 等を 施行하여 '86年末까지 總工程의 51%를 推進하였다.

한편, 産業化 및 都市化로 인한 農地減少에 대처하고 食糧의 安定的供給

基盤을 擴充하기 위한 農地開發事業은 未完工 干拓地 1,772ha의 마무리事業과 西南海岸 3個 地區 2,658ha에 대한 干拓事業을 추진하고 있다.

<表 1-4-3>

'86年 農業生產基盤造成事業 實績

(單位：百萬圓)

	事業量				事業費			
	'86 施行		'86 竣工		計	國庫	地方費	自負擔
	地區	面積	地區	面積				
1. 農業用水開發	個所	ha			146,472	127,602	9,512	9,358
中規模	82	50,879	10	3,394	79,790	79,667		123
小規模(地表水)	113	3,573	37	990	18,623	13,049	3,718	1,856
補強開發(地表水)	178	14,402	101	5,212	15,544	10,775	3,119	1,650
地下水開發(大型管井)	349	1,602	349	1,602	9,811	7,496	1,790	525
旱魃對備用水開發					8,646	6,949	188	1,509
小型管井	18,028	9,024	18,028	9,024	6,457	5,144		1,313
移動式 揚水施設	140	1,570	140	1,570	1,889	1,505	188	196
送水竈 - 二	200		200		300	300		
水利施設改補修	251		251		9,480	5,999		3,481
園藝園地 用水施設	2,226	1,356	2,226	1,356	2,062	1,433	415	214
調査事業 等					2,516	2,234	282	
2. 耕地整理	156	16,490	156	16,490	118,192	72,758	21,923	23,511
3. 排水改善	35	11,627	18	5,404	21,712	18,412	59	3,241
4. 農地造成					34,597	34,266		331
野山開發	9	223	6	129	886	555		331
干拓事業	7	4,430	1	70	33,711	33,711		
5. 防潮堤修築	16		16		2,800	2,240		560
6. 大單位農業綜合開發	7	88,765		45,659	74,444	74,444		
7. 水害復舊事業					7,341	4,088	1,834	1,419
計					405,558	333,180	33,328	38,420

資料：農林水產部 農漁村開發局

第2節 營農資材의 供給

1. 農 機 械

가. 農機械 供給狀況

農村의 不足勞動力에 대처하고 營農의 能率化를 기하기 위한 農業機械化 事業은 勞動力需要가 큰 移秧, 收穫作業의 機械化에 보다 力點을 두고 추진 하고 있다.

'86年度에도 耕耘機 61千臺, 移秧機 18千臺, 收穫機 11千臺, 트랙터 4千臺 등 總 108千臺의 農業機械를 供給하였으며, 이를 위해 農業機械化資金 1,662 億원을 融資支援하였다.

〈表 1-4-4〉 主要 農機械 保有臺數 및 資金支援額 (單位: 千臺, 億원)

	'70	'75	'80	'85	'86
計	152.7	418.8	1,069.3	1,795.2	1,984.6
耕 耘 機	11.9	85.7	289.8	589.0	683.6
트 락 터	0.1	0.6	2.7	12.4	16.2
移 秧 機	—	0.02	11.1	42.1	59.6
收 穫 機	—	0.1	14.9	37.2	48.4
防 除 機	45	137.7	331.9	517.5	586.4
揚 水 機	54.1	66	193.9	286.3	287.3
脫 穀 機	41	127.1	219.9	301.7	294.3
乾 燥 機	—	0.7	1.6	5.4	6.2
播 種 機	0.6	0.9	3.5	3.6	2.6
融 資 支 援 額	14	150	869	1,318	1,662

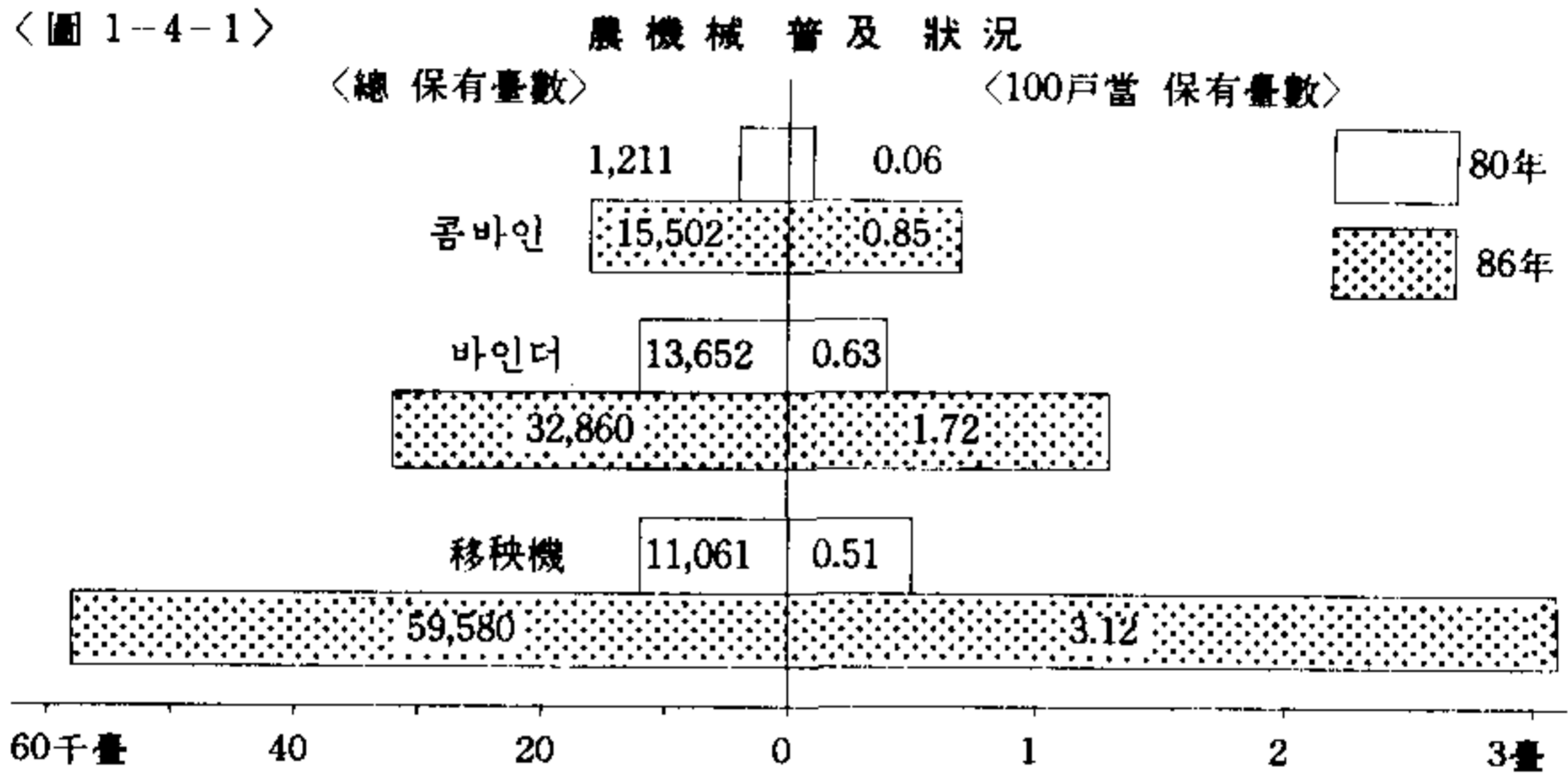
資料: 農林水産部 農業政策局

이에 따라 '86年末 現在 農家の 農機械 保有臺數는 1,985千臺로서 '85年末의 1,795千臺에 비하면 11%가 增加하였으며 移秧機의 경우 '80年の 100戶當

0.5臺 水準에서 이제는 100戶當 3.1臺 水準을 保有하고 있으며 콤바인, 바인더 등 收穫機는 100戶當 0.7臺에서 '86년에는 2.5臺로 늘어났다.

이러한 農機械의 普及과 함께 農家の 農機械購入에 따른 負擔을 輕減하기 위하여 移秧機와 바인더, 콤바인 및 乾燥機는 종전의 융자지원율을 80%에서 90%로, 트랙터는 70%에서 80%로 上向調整하였고 融資金의 償還期間도 移秧機와 收穫機, 乾燥機에 대해서는 1~2年 延장을 하였다.

<圖 1-4-1>



또한 農機械用 油類費 負擔輕減을 위하여 農業機械用 油類에 대한 特別 消費稅와 附價稅를 免除하여 供給함으로써 總 123億원의 負擔輕減效果를 가져왔다.

나. 農業機械化 營農團 育成

農業機械의 利用度 提高와 購入費 輕減을 위하여 '81년부터 育成하기 시작한 機械化營農團은 '86년에도 1,100個所를 新規로 育成하였으며 '86년까지 機械化營農團은 總 5,885個所가 造成되었다.

'86年の 機械化營農團을 위해 支援內容을 보면, 個所當 補助 40%, 融資 50%로 모두 240億원을 支援하여 트랙터 1,079臺, 移秧機 1,800臺, 콤바인 1,076

臺, 바인더 103臺, 乾燥機 262臺, 走行式 噴霧器 125臺, 其他 250臺 등 總 4,695臺의 農機械를 機械化營農團에 供給하였다.

〈表 1-4-5〉 機械化營農團 育成現況 (單位: 個所)

	'81	'82	'83	'84	'85	'86	累 計
機械化營農團	612	1,010	1,005	1,058	1,100	1,100	5,885

資料: 農林水産部 農業政策局

다. 農業機械 事後奉仕

農機械 修理 및 원활한 部品供給을 위해 推進하고 있는 農機械事後奉仕 施設은 '86년에 邑·面에 修理店 48個所를 追加로 設置함으로써 全國에 總 2,411個所가 運營되어 邑·面當 約 2個所로 늘어났으며 아울러 精密修理를 위한 道單位 綜合整備施設과 郡單位 代理店도 각각 7個所, 14個所를 새로이 設置하였다. 또한 農民의 部品購入이 용이하도록 部品確保資金 36億원을 修理店과 代理店에 融資支援하였으며 특히 購入部品中 '86년에 國産化된 部品 634種에 대해서는 部品價格을 44%를 引下함으로써 總部品價格이 4% 引下되는 結果를 가져와 農民의 修理費 負擔을 輕減토록 하였다.

한편 農機械 修理奉仕의 철저한 履行을 위하여 3月은 農機械 一齊點檢·整備의 달로 정하고, 4月, 6月, 8月을 全國巡廻修理奉仕의 달로 정하여 行政機關, 指導機關, 農協 및 生產業體가 合同으로 巡廻修理奉仕와 技術指導를 實施하였다.

〈表 1-4-6〉 農業機械 修理施設 設置現況 (單位: 個所)

	'80	'84	'85	'86
道 綜合 整備 施設	—	16	21	28
道 部 品 센터	16	32	34	34
市·郡 代理店	508	607	640	654
邑·面 修理店	966	2,313	2,363	2,411

資料: 農林水産部 農業政策局

라. 農業機械 技術訓練

農業機械에 대한 知識과 運轉操作 및 作業技術 등의 習得을 위하여 農村 振興廳과 生産業體를 中心으로 實施하는 農業機械技術訓練은 '86年에도 187千名을 教育시켜 '86年末까지 모두 1,568千名에 대하여 教育을 實施하였으며 아울러 보다 效率的인 訓練이 되도록 '86年에 8億원의 補助金을 支援하여 技術訓練用으로 트랙터 50臺, 콤바인 50臺를 全國 農機械訓練機關에 供給하였다.

〈表 1-4-7〉 農業機械 技術訓練 實績 (單位：千名)

	'80까지	'84	'85	'86	累 計
計	578.6	184.4	181.6	187.0	1,567.7
專 門 技 術 人 力	9.8	1.2	1.6	2.3	20.3
靑 少 年 · 技 能 士	16.4	2.4	2.4	2.0	30.9
婦 女 子	51.0	10.1	10.2	53.1	157.5
實 需 要 者	501.4	170.7	167.4	129.6	1,359.0

資料：農林水産部 農業政策局

2. 肥 料

가. 肥料 需要

肥料消費趨勢를 보면, 輸入肥料에 依存했던 '60년에는 總消費量 279千噸에 ha當 施用量이 138kg에 지나지 않았으나 '86년에는 總消費量이 830千噸으로 늘고 ha當 施肥量도 323kg으로 增加됨에 따라 점차 標準施肥量에 接近하고 있다. 또한 三要素別消費比率도 '60年代에는 78 : 20 : 2로 窒素偏重 施肥에 의하여 農作物이 病蟲害 등의 災害를 입는 경우가 많았으나 '70年代에 들어 作物別 複肥를 生産供給함으로써 '86년에는 三要素比率이 51 : 23 : 26으로 均衡施肥의 傾向이 크게 나타나고 있으나 아직도 標準施肥 比率(40 :

29 : 31)과 비교하면窒素質은 過用되고 있는 반면 磷酸과 加里質 肥料는 相對的으로 부족한 실정이다.

〈表 1-4-8〉 肥料消費量 및 消費比率 (單位：成分千%, %)

		'60		'70		'80		'85		'86	
		消費量	比率	消費量	比率	消費量	比率	消費量	比率	消費量	比率
3 要 素 別	窒 素	217	78	356	63	448	54	414	51	423	51
	磷 酸	55	70	124	22	196	24	186	23	192	23
	加 里	7	2	88	15	184	22	207	26	215	26
	計	279	100	568	100	828	100	807	100	830	100
ha當	施用量(kg)	138		161		285		311		323	

資料：農林水産部 農産局

나. 均衡施肥와 肥料供給

食糧作物의 安全多收穫을 위한 均衡施肥를 적극유도하기 위하여 地帶別, 毛作別 施肥基準量을 設定하여 專用複肥를 施用토록 지도하고, 全層施肥를 권장함으로써 肥效增進과 이끼發生을 억제하는 한편 干拓地, 特殊成分缺乏地 등 特殊地域의 施肥指導도 강화해 나가고 있다.

특히 東海岸의 冷潮風地帶 및 標高 300m 이상의 高冷地 등 冷害憂慮地帶는 冷害專用複肥를 擴大 供給하고 磷酸 및 加里質 肥料를 增施하여 冷害 극복능력을 높이는 한편 窒素偏重에 의한 이삭稻熟病 發生에 대처하여 벼 이삭거름用 複肥를 확대공급하고 밭作物에 대해서도 適期適量施肥가 이루어지도록 보리, 콩, 참깨用 專門複肥를 施用토록 對農民 弘報活動을 積極展 開하였다.

또한 農民의 肥料購入에 불편이 없도록 전국 5,638個所의 農協倉庫를 통 하여 分散販賣토록 하고, 肥料盛需期에는 無休販賣를 실시하여 肥料供給의 원활을 기하였으며 零細農中心으로 外上販賣제도 實施하고 있다.

<表 1-4-9>

單 · 複 肥 供 給 實 績

(單位：成分千%)

	'75	'80	'84	'85	'86
單 肥	590	308	248	260	274
複 肥	296	520	514	547	556
計	886	828	762	807	830

資料：農林水産部 農産局

다. 肥料價格

營農費의 10% 水準을 차지하고 있는 肥料費 負擔을 輕減하기 위하여 販賣原價의 88% 水準으로 肥料를 農民에게 供給해 오고 있다.

특히, '86년에는 油價下落으로 인하여 肥料引受價格이 引下됨에 따라 價格 引下效果가 큰 尿素肥料의 對農民 販賣價格을 86年 3月 6日과 4月 21日 두 차례에 걸쳐 10.8%引下하여 106億원의 營農費 節減 效果를 가져왔으며, 尿素肥料 이외의 複合肥料과 餘地 肥料는 '82年 價格으로 계속하여 供給하였다.

한편 肥料 三重價格制의 실시로 肥料計定 赤字는 每年 增加하여 '86年 現在 肥料計定赤字 累計額은 '85年보다 15.6%가 늘어난 8,921億원에 이르렀으며, 더우기 '86년에는 一般財政의 支援이 없었기 때문에 價格引下에도 불구하고 計定赤字는 1,203億원이나 增加되었다.

<表 1-4-10>

肥料計定赤字現況

(單位：億圓)

	'75	'80	'84	'85	'86
當 年	700	1,257	975	1,063	1,203
補 填	-	-	△600	△462	-
累 計	1,000	2,972	7,177	7,718	8,921

資料：農林水産部 農産局

3. 農 藥

가. 病蟲害 發生 및 防除

'86년의 벼病蟲害 發生動向을 보면, 淸稻熱病은 生育初期에 發病適溫(20~25 C)이 平年보다 1週日 정도 빨랐고, 7月の 低溫 및 긴 장마로 稻熱病發生에 유리한 狀況이었으며, 白葉枯病은 7~8月중의 低溫으로 初期發病은 적었으나 後期에 颱風 베라號의 來襲으로 發病이 확대되었다. 또한 벼멸구는 初期 飛來時期가 '85年보다 10~12日 빨랐을 뿐만 아니라 飛來量도 많으며 7月 下旬에는 全體 飛來量의 94%가 集中飛來하였으나 7~8月 低溫이 벼멸구增殖을 다소 鈍化시키는 결과를 가져왔다.

한편 木稻熱病은 出穗期の 低溫 및 잦은 降雨로 發病에 유리한 조건이었고, 이화명충도 콤바인 收穫 등으로 越冬棲息處가 많아지고, 早期密植으로 病害蟲 發生에 유리한 상태이었다.

이와 같이 病蟲害 發生條件이 유리했음에도 불구하고 病蟲害豫防과 事前防除의 철저한 履行으로 病蟲害發生面積은 1,716 f·ha로 지난해보다 4%가 줄어 들었으며 특히 稻熱病發生은 前年の 54%水準에 不過하였다.

'86년의 病蟲害防除를 위한 具體的事業內容을 보면 먼저 防除基盤 造成 事業으로 病蟲害發生 常習地를 중심으로 한 越冬期の 客土, 深耕, 珪酸質施用과 耐病性 品種의 擴大 普及으로 病蟲害防除의 根本對策을 마련하였고 病蟲害 傳染源의 初期撲滅을 위한 논·밭두렁 불태우기와 種子消毒을 철저히 실시하여 病蟲害 傳染源의 擴散을 事前에 방지하였다.

이와 아울러 農村振興廳을 비롯한 全國 151個 豫察所를 중심으로 早期精密豫察을 실시하여 豫察結果를 신속히 有關機關과 農家에 통보함으로써 豫防爲主 事前防除를 실시하였고, 中央 病蟲害防除 演示大會를 개최함으로써 病蟲害防除 분위기를 早期에 造成하였으며, 各道에 2個所씩 病蟲害防除 綜合示範圖를 設置運營하여 農民의 防除意慾 및 認識을 높이는 한편 病蟲害 發生 最盛期인 7月중에는 病蟲害 緊急防除令을 發動하여 木稻熱病, 紋枯病,

벼멸구 一齊共同防除를 강력히 추진함으로써 큰 效果를 거두었다.

이 밖에 大單位地域에 發生하는 病蟲害의 擴散을 事前에 防止하기 위하여 總 1,424百萬원을 支援하여 航空防除 94千ha, 共同防除 800千ha를 適期에 실시함으로써 防除效果를 높였다.

<表 1-4-11>

水稻病蟲害 發生 및 防除狀況

(單位：千ha)

		'75	'80	'84	'85	'86
植 付 面 積 (A)		1,198	1,220	1,214	1,219	1,233
發 生	延 發 生 面 積 (B)	5,389	2,321	1,533	1,791	1,716
	病 害	1,751	1,511	721	891	752
	蟲 害	3,638	810	812	900	964
	發 生 率 (B/A)	450%	190	126	147	139
防 除	延 防 除 面 積	7,978	10,037	9,475	11,635	11,345
	病 害	2,729	5,260	4,914	5,733	5,753
	蟲 害	5,249	4,777	4,561	5,902	5,592
	防 除 回 數	6.6回	8.2	7.8	9.5	9.2

資料：農林水産部 農産局

나. 農藥 供給

農藥供給을 원활히 하기 위하여 '86년에는 水稻用 農藥所要量 17.5千%中 55%에 해당하는 9.7千%을 農協에서 確保, 供給토록 하는 한편 突發 病蟲害發生에 대비하여 農藥原劑 3千%을 별도로 備蓄하였다.

'86년에 水稻用 農藥의 總確保量은 11,250%이었으며, 이중 73%에 해당하는 8,163%을 供給하여 農藥需給에 차질이 없도록 하였다.

또한 農民들의 便宜을 도모하고 適期防除를 위하여 里洞에 있는 農藥分散販賣所와 마을單位 營農會를 통해서도 農藥을 供給하였으며 農民의 負擔을 줄이기 위하여 共同防除用 農藥은 12月 15日까지 無利子로 外上供給케 하여 모두 1,453百萬원의 利子 負擔을 輕減토록 하였다.

다. 農藥管理

'86年末 현재 告示된 農藥의 品目數는 338個로 이중 水稻用이 殺菌劑 43個, 殺蟲劑 44個 等 總 87個이며 園藝用이 174個 除草劑가 59個, 其他가 18個이다.

'86년에 새로 開發된 農藥은 殺菌劑 15個 品目, 殺蟲劑 11個 品目, 除草劑 4個 品目, 其他 3個 品目으로서 모두 33個 品目이며, 既存 46個 品目에 대해서도 60個의 適用病蟲害名을 추가로 告示하였다. 이외에 既告示된 12個 品目에 대해서는 農藥名 變更, 使用量 變更, 藥効保證期間 變更등 必要한 조치를 취하였다.

또한 農藥의 品質管理를 위해 市中에 流通되는 1,400餘點의 農藥을 採取하여 理化學的檢査를 실시한 결과 成分未達로 不合格한 農藥 14個 品目에 대해 警告 및 登錄取消하였으며 市·道別 不良農藥團東도 年中 실시하였고 農藥流通秩序를 確立하기 위하여 流通農藥 全品目에 대해 價格表示制를 實施하였다.

한편 農藥의 安全使用을 위하여 安全使用 基準品目を 추가로 設定함으로써 '86년까지 모두 138個 品目에 安全使用基準을 設定하였다. 이와 함께 農藥販賣商, 防除團長, 營農會長 등 50千名을 대상으로 農藥使用指針書 등 11種의 弘報物을 製作配布하였으며 특히 有機磷系 農藥解毒劑 “팜” 800千錠을 無償으로 供給하고 防除服 58千着 등 安全使用 裝備도 供給하였다.

第3節 營農資金 支援

農家の 營農費支援을 위하여 每年 支援되고 있는 短期性資金인 營農資金은 86년에는 前年보다 884億원이 늘어난 總 9,286億원을 支援하였으며, 그中 84%에 해당하는 7,779億원을 現金으로 融資支援하였고 肥料, 農藥 등 農資材를 外上으로 1,507億원을 支援하였다. 이에 따라 總農業經營費中 營

農資金의 支援比重은 85年의 20.1%에서 86년에는 21.0%로 높아졌고, 戶當 平均 支援金額도 358千원에서 408千원으로 늘어났다.

또한 營農資金의 供給擴大를 위하여 政府財政資金에서 85年보다 500億원이 늘어난 1,000億원을 支援하였고 韓國銀行借入金도 85年보다 967億원이 增加된 2,629億원을 支援함으로써 財源調達의 金리가 높은 農協資金 및 相互金融資金의 使用은 85年의 4,729億원에서 86년에는 4,150億원으로 줄어 들었다.

특히 營農資金使用農家の 金리負擔을 덜어주기 위하여 利子率을 從前의 10%에서 86. 1. 1부터 8%로 引下하여 總 74億원의 利子負擔을 輕減토록 하였다.

<表 1-4-12>

營農資金 支援實績

(單位: 億원)

	'75	'80	'83	'84	'85	'86
現 金	186	3,348	4,783	5,468	6,891	7,779
外上資材	208	964	1,083	1,222	1,511	1,507
(肥料·農藥)	(-)	(886)	(1,060)	(1,176)	(1,185)	(1,114)
計	394	4,312	5,866	6,690	8,402	9,286

資料: 農林水産部 農業政策局

또한 營農資金의 年末 一時償還으로 인한 農産物價格下落을 防止하고 農家償還負擔을 緩和하기 위하여 86年末까지 償還하여야 할 融資金中 1,343億원을 87年 2月末까지 상환을 延期토록 하였으며 이와함께 集中豪雨 및 태풍베라호, 雨雹 등으로 인하여 農作物 50% 以上 被害를 입은 農家 86千戶에 支援된 524億원(外上資材包含)에 대해서는 償還期間을 1年間 延期하고 이에 따른 利子負擔額 42億원을 政府에서 支援토록 하였다.

第5章 農畜產物 需給 및 流通改善

第1節 農畜產物 需給動向

1. 穀物 需給

가. '86糧穀需給動向

지난 10년간 1人當 糧穀 消費量의 변화 추이를 보면 年平均 1.3%씩 減少되어 왔으며 이러한 消費量 減少의 決定的 要因은 보리쌀 消費가 크게 減少된데 있다.

'86年の 경우 국민1인당 糧穀消費量은 '85年보다 2.8kg이 減少한 178.9kg으로 推計되었으며 穀種別로는 쌀은 '85년의 128.1kg에서 '86년에는 127.7kg으로, 보리쌀은 4.6kg에서 3.6kg으로 크게 줄어 들었으며 일부 雜穀을 除外한 밀, 콩, 옥수수 等도 지난해 보다 1人當 消費量이 減少하였다.

이러한 1人當 消費量 減少로 總食用 需要量도 지난해보다 31千%이 줄어든 6,769千%으로 減少되었다.

<表 1-5-1>

1人當 年間 糧穀消費量

(單位: kg)

	全體	쌀	보리쌀	밀	옥수수	콩	기타	自給率 (%)	飼料用 除外
'75	207.3	123.6	36.3	29.5	2.4	6.4	9.1	73.0	79.1
'80	195.5	132.7	13.9	29.4	3.1	8.0	8.4	56.0	81.7
'85	181.7	128.1	4.6	32.1	3.1	9.3	4.8	48.4	69.6
'86	178.9	127.7	3.6	31.5	2.8	8.8	4.5	44.5	67.8

資料: 農林水産部 糧政局

'86年度の全體糧穀供給量은 前年度에서 移越된 2,280千%과 生産量 6,866千% 및 導入量 8,434千%等 總 17,580千%으로 前年보다 633千%이 늘어난水準이며 全體糧穀需要量은 15,421千%으로 이중 食用으로 6,769千%, 飼料用으로 5,297千%이 사용되었으며 나머지 3,355千%은 加工用 및 種子, 감모 등이었다.

이에 따라 次年度 移越是 쌀 1,251千%을 비롯하여 總 2,159千%으로 前年보다 121千%이 減少한水準이다.

<表 1-5-2> '86年 全體糧穀需給實績 (暫定) (單位:千%)

		쌀	보리쌀	밀	옥수수	콩	서류	기타	計
供	移越	1,428	262	268	198	96	-	28	2,280
	生産	5,626	453	5	132	234	358	58	6,866
	導入	-	-	3,443	3,697	944	-	350	8,434
給	計	7,054	715	3,716	4,027	1,274	358	436	17,580
需	食糧	5,308	150	972	56	96	137	50	6,769
	飼料	-	20	1,276	2,743	860	36	362	5,297
	其他	495	382	1,067	950	290	185	△14	3,355
要	計	5,803	552	3,315	3,749	1,246	358	398	15,421
次年移越		1,251	163	401	278	28	0	38	2,159

資料: 農林水産部 糧政局

한편 '86年の全體糧穀自給度는 飼料穀物の需要增加로 前年보다 多少 낮은 44.5%로 떨어졌으며 飼料用을 除外한 自給率은 前年の 71.9%에서 67.8%로 낮아졌으나 主곡인 쌀은 自給水準을 계속 維持하고 있다.

나. 政府管理糧穀의 需給

'86年度の 政府管理糧穀供給量은 移越在庫 1,618千%, 收買量 1,257千%, 導入 3千% 等 總 2,838千%으로서 前年度の 3,185千%보다 11% 減少되었다. 한편, 政府管理糧穀需要量은 前年度の 1,567千%보다 5% 減少된 1,487

千%으로서 穀種別로 보면 쌀은 前年の 1,029 千%에서 '86년에는 1,239 千%으로 크게 늘어 났으며 보리는 消費 減少와 함께 前年보다 크게 줄어든 242 千%을 供給하였으며 특히 '85년에 이어 酒精 및 飼料用으로 99 千%을 供給하였다.

이에 따라 年度末 政府管理糧穀의 在庫量은 쌀 1,251 千%, 보리쌀 100 千%등 總 1,351 千%으로 이는 前年보다 17%가 감소한 水準이다.

〈表 1-5 3〉 '86年 政府管理糧穀 需給實績 (暫定) (單位: 千%)

		쌀	보리쌀	콩	기타	合計
供 扱	移 越	1,428	187	2.0	0.7	1,617.7
	收 買	1,090	167			1,257.0
	導 入				3.0	3.0
	其 他	△ 28	△ 12			△ 40.0
計		2,490	342	2.0	3.7	2,837.7
需 要	軍 官 需	170	45			215.0
	調 節 用	489	94	2.0	3.7	588.7
	農 協 販 賣	281				281.0
	民 間 粗 穀 賣 出	142				142.0
	貸 與 · 其 他	157	103			260.0
計		1,239	242	2.0	3.7	1,486.7
次 年 移 越		1,251	100			1,351.0

資料: 農林水産部 糧政局

다. 政府糧穀 安全管理과 糧穀管理基金運用

'82년부터 5個年計劃으로 推進되고 있는 倉庫施設의 改補修事業은 '86년에도 1,156棟의 倉庫에 地붕斷熱裝置, 환풍, 벽체보수 등을 實施함으로써 全體 改補修對象 倉庫 7,223棟中 97%에 해당하는 7,013棟의 補修를 完了하였다.

또한 季節別 氣象條件에 따른 政府糧穀 安全管理對策의 一邊으로 循環定

期点檢制를 보다 強化하여 保管與件別로 적합한 安全管理가 되도록 하고 있다.

한편, 糧穀收買 및 保管管理를 爲해 運用되고 있는 政府 糧穀 管理基金은 '86년에 運用規模가 總 2兆 1,575億 원으로서 基金所要의 49%인 1兆 635億 원은 糧穀收買 등 直接事業費에 사용되었으며 나머지 1兆 940億 원은 糧穀 證券償還 등에 사용되었다.

基金運用額중 糧穀販賣 등에 의한 自體調達額은 全體의 53%에 해당하는 1兆 1,375億 원이었으며 나머지 47%에 해당하는 1兆 200億 원은 糧穀證券發行 6,700億 원 및 一般會計轉入金 3,500億 원으로 充當하였다.

〈表 1-5-4〉 '86年 糧穀管理基金 運用實績 (單位：億 원)

調		達		所		要	
項	目	金	額	項	目	金	額
基金收入		11,375		糧穀收買		10,635	
糧穀證券發行		6,700		糧穀證券償還		8,479	
財政補填		3,500		操作費·其他		2,461	
計		21,575		計		21,575	

資料：農林水產部 糧政局

'86 糧穀年度末 현재 糧穀管理基金 赤字 累增額은 2兆 7,074億 원으로 이를 發生原因別로 보면, 糧穀販賣價格差와 操作費 등 糧穀販賣로 인한 赤字가 全體赤字의 41%에 해당하는 1兆 1,106億 원이며 나머지는 不足資金의 外部借入에 따른 利子 등이다. 糧穀別로는 쌀이 1兆 8,746億 원으로 全體赤字의 69%를 차지하고 있으며, 보리쌀이 7,469億 원으로 28%에 해당된다.

그러나 備蓄費用 및 販賣價格差 등에 따른 糧穀管理基金의 構造的 赤字를 改善하기 爲하여 '84년부터 財政에서 이를 補填해 오고 있으며, 특히 '86년에는 一般會計에서 3,500億 원이 充當됨으로써 지금까지 모두 1兆 1,304億 원이 一般會計에서 補填됨에 따라 基金赤字는 '86年末 現在 1兆 5,770億 원

에 머물고 있다.

<表 1 5 5>

糧穀管理基金 赤字現況

(單位：億圓)

	쌀	보리쌀	其他雜穀	價格補助	小計	財政補填	計
'70~'80	△5,584	△3,015	160	△1,280	△9,719		△9,719
'81	△ 218	△1,268	45		△1,441		△1,441
'82	△ 179	△1,157	31		△1,305		△1,305
'83	△2,599	△ 851	80		△3,370		△3,370
'84	△3,576	△ 528	45		△4,059	3,304	△ 755
'85	△2,994	△ 490	34		△3,450	4,500	1,050
'86	△3,596	△ 160	26		△3,730	3,500	△ 230
計	△18,748	△7,489	421	△1,280	△27,074	11,304	△15,770

資料：農林水産部 糧政局

2. 畜産物 및 飼料需給

가. 畜産物 需給

'86年の肉類消費量은 '85年보다 0.8% 정도 增加한 598千噸으로 이중 쇠고기消費量은 소값安定을 위한 쇠고기消費擴大施策으로 지난해 보다 22.9%

<表 1-5-6>

畜産物 消費量

(單位：千噸)

	'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增加率 (B / A)
肉類	224.7	432.7	592.8	597.7	0.8%
쇠고기	70.3	100.0	120.3	147.9	22.9
돼지고기	98.8	241.8	346.3	320.4	△ 7.5
닭고기	55.6	90.9	126.2	129.4	2.5
牛乳	162.4	411.8	990.5	1,162.4	17.4
鷄卵	159.8	249.9	296.5	331.6	11.8
(百萬個)	2,905	4,543	5,390	6,029	11.9

資料：農林水産部 畜産局

가 증가한 148千%이었고 돼지고기 消費量은 '85年보다 7.5%가 減少한 320千%이었으며 닭고기 消費量은 129千%으로 前年보다 2.5%가 늘어났다.

한편 牛乳는 지난해보다 17.4%가 증가한 1,162千%이 消費되었으며 鷄卵 消費 역시 11.8%가 늘어났다.

'86年 1人當 肉類 總消費量은 지난해와 비슷한 14.4kg으로 肉種別로 보면 쇠고기는 生産過剩과 價格의 相對的 低位로 消費가 크게 늘어나 지난해의 1人當 2.9kg에서 '86년에는 3.6kg으로 늘어났으며 돼지고기 消費는 지난해보다 8.3%가 줄어든 7.7kg로 나타났으며 닭고기는 지난해와 거의 同一한 水準으로 消費되었다.

1人當 牛乳消費는 '85年の 23.3kg에서 '86년에는 27.8kg으로서 지난해의 증가율 13.4%보다 크게 늘어난 19.3%의 伸張勢를 보였다.

<表 1-5-7> 1人當 年間 畜產物 消費量 (單位: kg)

	'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增 減 率 (B/A)
肉 類	6.4	11.3	14.4	14.4	0.0 %
쇠 고 기	2.0	2.6	2.9	3.6	24.1
돼 지 고 기	2.8	6.3	8.4	7.7	△ 8.3
닭 고 기	1.6	2.4	3.1	3.1	0.0
牛 乳	4.6	10.8	23.3	27.8	19.3
鷄 卵	4.6 (84個)	6.5 (118)	7.2 (131)	8.0 (145)	11.1 (10.7)

資料: 農林水産部 畜産局

한편 '86年 畜產物 需給 狀況을 보면 總 供給量은 2,149千%으로 當年 消費 2,092千%을 超過함으로써 57千%이 次年으로 移越하게 되었으며 品目別로는 쇠고기가 收買備蓄肉의 擴大로 前年の 5.5千%보다 많은 8.8千%이 移

越되었으며 牛乳는 前年보다 다소 줄어든 48.6千%의 在庫가 發生한 것으로 나타났다.

<表 1-5-8>

'86年 畜產物需給實績

(單位：千%)

	供		給	消 費	次 年 移 越
	移 越	生 產	小 計		
計	62.0	2,087.9	2,149.9	2,091.7	57.4
肉 類	5.5	601.8	607.3	597.7	8.8
쇠 고 기	5.5	151.2	156.7	147.9	8.8
돼 지 고 기	-	321.2	321.2	320.4	-
닭 고 기	-	129.4	129.4	129.4	-
牛 乳	56.5	1,154.5	1,211.0	1,162.4	48.6
鷄 卵		331.6	331.6	331.6	-

註：'86 돼지고기 消費量中에는 輸出 808%이 包含되지 않았음.

資料：農林水産部 畜産局

나. 飼料需給

'86年 飼料의 總供給量은 14,319千%으로 '85年보다 8.2%가 增加한 水準이며 이중 配合飼料는 19%가 늘어난 7,675千%이 공급되었으며 改良牧草

<表 1-5-9>

飼 料 供 給 量

(單位：千%)

	'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B./A)
合 計	5,021	7,559	13,234	14,319	8.2%
濃 厚 飼 料	1,451	3,994	7,306	8,489	16.2
配 合 飼 料	901	3,462	6,451	7,675	19.0
農家自給飼料	550	532	855	814	△4.8
粗 飼 料	3,570	3,565	5,928	5,830	△1.7
改 良 牧 草	404	781	1,974	2,574	30.4
山野草, 芻 等	3,166	2,784	3,954	3,256	△17.7

資料：農林水産部 畜産局

는 30.4%가 늘어난 2,574千%이었다.

配合飼料의 用途別 生産增加率을 보면, 養鷄用과 養豚用이 각각 14.2%와

<表 1-5-10> 配合飼料 生産量 (單位：千%)

	'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B/A)
合 計	901	3,482	6,451	7,675	19.0%
養 鷄 用	569	1,872	2,310	2,639	14.2
養 豚 用	136	769	1,924	2,178	13.2
酪 農 用	151	514	994	1,209	21.6
肥 育 牛 用	33	306	1,209	1,624	34.3
其 他	12	1	14	25	78.6

資料：農林水産部 畜産局

<表 1-5-11> 飼料原料導入實績 (單位：千%, 百萬\$)

		'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增 減 率 (B/A)
計	數 量	406	1,888	4,128	4,643	12.5%
	金 額	61	303	509	464	△ 8.8
穀 類	數 量	406	1,881	3,984	4,416	10.8
	金 額	61	301	484	430	△11.2
糠 麩 類	數 量	-	-	-	100	-
	金 額	-	-	-	8	-
植 物 性	數 量	-	6	133	116	△12.8
	金 額	-	1	20	22	10.0
動 物 性	數 量	-	-	5	7	40.0
	金 額	-	-	1	2	100.0
其 他	數 量	-	1	6	4	△33.3
	金 額	-	1	4	2	△50.0

資料：農林水産部 畜産局

13.2%가 증가하였고, 酪農用은 21.6%가 늘어났으며, 肥育牛用은 가장 많은 34.3%가 增加하였다. 이와같이 配合飼料의 生産이 크게 늘어났것은 家畜飼育頭數의 增加와 飼育形態의 專企業化, 配合飼料 價格引下등으로 配合飼料의 需要가 늘어나고 특히 '85年 가을의 氣象不順으로 인한 粗飼料 確保不振, 畜産物의 早期出荷를 目的으로 한 增量給與 등으로 配合飼料 使用量이 늘어났기 때문이다.

配合飼料 生産이 늘어남에 따라 原料導入量도 '85年の 4,128千ㄱ에서 '86년에는 4,643千ㄱ으로 12.5%가 늘어났으나 導入 金額 基準으로 보면 國際飼料 穀物 價格의 下落으로 '85年보다 45百萬\$가 줄어든 464百萬\$이었다.

3. 園藝 및 特用作物 需給

가. 菜 蔬

'86년에는 무우, 배추, 고추, 마늘 등 대부분의 菜蔬類가 栽培面積이 늘어나고 生育期 氣象條件의 好調로 豐作을 이룸에 따라 需要量에 비해 生産量이 다소 많았으며 이에 따라 1人當 消費量도 지난해 보다 크게 늘어난 119.3kg 이었다.

특히 김장채소는 생산량이 '85年보다 무우는 9%, 배추는 22%가 增加됨에 따라 9月 下旬부터 產地滯貨 現象이 있었으나 消費促進運動 展開와 產地와 消費地間 直去來를 大幅 擴大함으로써 11月 中旬以後 正常價格으로 회복되었다.

貯藏性이 비교적 좋은 고추, 마늘, 양파 등 양념류는 政府 收買備蓄 또는 出荷調節事業을 실시하여 收穫期와 端境期에 需給 및 價格安定을 기하였으며, 貯藏性이 약한 무우, 배추 등에 대해서는 時期別, 地帶別 分散播種과 收穫期 出荷調整事業을 통해 分散出荷를 적극 유도하는 한편 마늘 등 一部 供給 過剩品目에 對하여는 輸出을 促進하여 需給安定을 圖謀하였다.

<表 1-5-12>

菜蔬類需給實績

(單位：千噸)

		'80	'84	'85	'86
需 要	計	7,487.1	7,663.1	7,554.8	8,497.9
	內 需	7,462.5	7,644.1	7,545.4	8,482.3
	輸 出	24.6	19.0	9.4	15.6
供 給	計	7,487.1	7,663.1	7,554.8	8,497.9
	生 產	7,481.0	7,636.0	7,542.7	8,496.4
	輸 入	6.1	27.1	12.1	1.5
1 人 當 消 費 量 (kg)		120.6	102.6	98.6	119.3

資料：農林水産部 農産物流通局

나. 果 實

'86年の果實生産은 1,475千噸으로 前年보다 다소 増加하였으며 果種別로 보면 사과는 지난해와 비슷한 538千噸을 生産하였으며 배와 포도生産은 '85年 보다 各各 5%, 10%가 늘어났으나 감귤은 지난해보다 8%가 줄어든 340千噸을 生産하였다.

<表 1-5-13>

果實類需給實績

(單位：千噸)

		'80	'84	'85	'86
供給	生 產	833.1	1,228.7	1,463.8	1,475.2
需 要	內 需	830.6	1,226.0	1,456.4	1,461.4
	輸 出	2.5	2.7	7.4	13.8
1 人 當 消 費 量 (kg)		21.8	30.2	35.2	35.2

註：1人當 消費量은 粗食基準임.
資料：農林水産部 農産物流通局

한편 每年 增加勢에 있는 果實需要는 '86年의 경우 輸出을 除外한 內需用은 지난해와 비슷한 消費를 보임으로써 1人當 消費量은 '85年과 同一한 水準인 35.2kg를 나타냈다. 그러나 果實의 輸出需要는 사과, 배를 中心으로한 輸出이 크게 伸張됨에 따라 지난해 보다 거의 2倍가 늘어난 13.8千%를 記錄했다.

다. 特 用 作 物

참깨는 開花期 및 收穫期の 氣象不良로 인하여 10a當 收量은 줄었으나 栽培面積이 늘어남으로써 '85年보다 18.1%가 많은 48.2千%를 생산하였다. 그러나 需要增加에 따라 國內生産量으로는 需要量 充當에 不足하여 5千%을 수입, 總 53.5千%을 공급하였다.

<表 1-5-14>

참깨, 땅콩 需給 實績

(單位: 千%)

		참		콩	
		'85	'86	'85	'86
需 要	計	46.4	53.5	21.0	22.5
	當 年 消 費	46.1	52.1	20.0	21.4
	次 年 移 越	0.3	1.4	1.0	1.1
供 給	計	46.4	53.5	21.0	22.5
	前 年 移 越	3.6	0.3	0.7	1.0
	生 産	40.8	48.2	16.3	20.2
	輸 入	2.0	5.0	4.0	1.3

資料: 農林水産部 農産局

땅콩은 栽培面積이 增加하고 段收도 늘어남에 따라 生産量은 85年보다 23.9%가 많은 20.2千%을 生産하였다. 이에 따라 '86년에는 '85年보다 2.7千%이 감소된 1.3千%만 輸入함으로써 國內 自給率이 94%로 提高되었다.

이밖에 油菜, 茶, 호프, 수세미, 인초는 農協 및 實需要業體와 栽培農家間에 契約栽培를 유도하여 需給安定을 圖謀하였다.

4. 營養供給

'85年 國民 1人當 1日 熱量 供給量은 2,687Kcal로서 前年에 비해 51Kcal가 增加됨으로써 계속하여 營養섭취가 增加하는 趨勢를 보이고 있으며, 熱量供給源의 67%가 穀類로부터 供給된 것으로 推計되었다. 한편 全體 供給에너지의 營養素別 構成比는 糖質이 70.4%, 脂肪質이 17.4%, 蛋白質이 12.2%로서 '84年과 같은 構成比를 보이고 있다.

<表 1-5-15> 熱 量 供 給 推 移 (單位: Kcal,%)

	'81	'82	'83	'84	'85
總 熱 量	2,531	2,588	2,622	2,636	2,687
糖 質	74.0	72.6	71.2	70.4	70.4
蛋 白 質	12.1	12.1	12.3	12.2	12.2
脂 肪 質	13.9	15.3	16.5	17.4	17.4

資料: 韓國農村經濟研究院

<表 1-5-16> 1 人 1 日 營 養 供 給 量

	蛋白質 (g)	脂肪質 (g)	無機質 (mg)		비 타 민 (mg)				
			Ca	Fe	A(I.U)	B ₁	B ₂	나이아신	C
'75	71.1	27.4	495	15.5	2,779	1.50	0.82	23.5	74
'80	73.6	36.6	511	12.6	3,037	1.92	1.03	23.4	125
'84	85.6	49.2	421	27.4	2,886	1.64	1.16	18.2	102
'85	86.6	58.2	413	30.5	3,046	1.70	1.21	18.0	96

資料: 韓國農村經濟研究院

또한, 蛋白質 供給量은 86.6 g 으로 前年보다 增加하였으며, 그 중 植物性 蛋白質은 1.6 g 이 늘어난 반면 動物性 蛋白質은 0.6 g 이 감소되어 植物性과 動物性 蛋白質의 供給比率은 67 : 33으로 나타났다.

脂肪質은 畜產物 消費增加와 함께 '84年보다 18.2%가 늘어난 58.2 g 이 供給되었으며 無機質 中 鐵은 '84年에 비하여 供給量이 늘어난 반면 칼슘은 감소하였고 또 비타민類중 비타민 A, B₁, B₂의 供給은 증가하였고, 나이아신과 비타민C는 감소된 것으로 나타났다.

第2節 農畜產物 價格安定

1. 農畜產物 價格動向

'86年の 全體物價는 年末基準으로 보면 都賣物價는 3.7%가 下落한 반면, 消費者物價는 1.3% 上昇하였다. 그 중 食料品은 都賣物價가 3.8%, 消費者物價가 1.8% 下落하였고, 食料品 以外는 都賣物價가 3.6% 下落하였으나 消費者物價는 3.3% 上昇하였다.

<表 1-5-17> 物 價 上 昇 率 (單位: %)

		'75	'80	'85	'86
都賣物價	全 體	19.6(26.5)	42.2(38.9)	1.0 (0.9)	△3.7(△2.2)
	食 料 品	25.7(35.9)	45.0(21.7)	3.3 (3.8)	△3.8(0.6)
	食料品以外	16.5(21.9)	41.2(44.3)	0.2 (0.0)	△3.6(△3.2)
消費者物價	全 體	26.4(25.3)	32.2(28.7)	3.2 (2.5)	1.3(2.3)
	食 料 品	31.6(31.8)	40.6(26.6)	3.8 (3.7)	△1.8(1.1)
	食料品以外	21.3(18.7)	26.4(30.5)	2.9 (1.6)	3.3(3.2)

註: 年末基準上昇率임. () 內는 年平均基準
資料: 經濟企劃院, 韓國銀行

食料品中 農産食品의 都賣物價는 '85年末에 비해 12.1%가 下落하였으며, 이를 類別로 보면 쌀이 2.0%, 麥類 7.4%, 豆類 9.7%, 果實類가 1.5% 上昇한 반면 薯類가 6.4%, 特用作物 42.9%, 菜蔬類 57.8%, 畜産物이 14.1% 下落하였다.

이와 같이 農産食品의 都賣物價가 下落한 이유는 쌀 價格이 비교적 安定勢를 보인 반면 고추, 마늘 등 양념류의 연이은 豊作과 김장 무우·배추가 過剩生産됨으로써 價格이 下落하였으며 畜産物중 쇠고기, 돼지고기 價格도 產地 小값의 下落과 돼지飼育頭數의 增加로 '85年보다 낮은 水準을 유지하였기 때문이다.

<表 1-5-18>

農産食品 都賣物價上昇率

(單位: %)

	'75	'80	'85	'86
農 産 食 品	26.8(41.7)	49.2(24.4)	1.1(5.9)	△12.1(△3.5)
쌀	21.5(49.2)	42.7(22.4)	7.3(4.5)	2.0(2.6)
麥 類	19.6(38.1)	69.0(15.7)	5.5(3.8)	7.4(6.4)
豆 類	35.4(32.3)	93.1(41.8)	7.0(△2.9)	9.7(11.8)
薯 類	17.6(29.2)	51.5(58.2)	△1.1(9.9)	△ 6.4(△6.6)
果 實 類	76.3(67.3)	3.8(22.7)	△3.3(53.3)	1.5(△22.0)
特 用 作 物	8.4(27.2)	77.4(△5.7)	△15.1(29.1)	△42.9(△24.1)
菜 蔬 類	-	32.7(122.7)	59.1(△19.3)	△57.8(22.6)
畜 産 物	37.0(22.3)	55.7(25.0)	△4.8(△2.4)	△14.1(△ 3.5)

註: 年末基準上昇率임. ()內는 年平均基準

資料: 韓國銀行

消費者物價에 있어서는 穀物, 菜蔬, 肉類 등의 農畜産物이 安定勢를 보여 食料品 全體는 前年末對比 1.8%가 下落하였다. 이를 品目別로 보면 사과, 밀감 등 果實類 價格이 上昇하였으나 豊作이었던 고추, 마늘 등 調味料類와 무우·배추 등 菜蔬類가 下落하였고, 쇠고기, 돼지고기 등 肉類가 供給量이 늘어남에 따라 價格이 떨어졌다.

<表 1 5 · 19>

食料品중 類別 消費者物價上昇率

(單位：%)

	'75	'80	'85	'86
食 料 品	31.6(31.8)	40.6(26.6)	3.8(3.7)	△1.8(1.1)
穀 物 類	29.9(41.2)	40.4(22.0)	4.7(4.0)	1.1(0.8)
肉 類	36.6(24.6)	56.5(27.6)	△7.8(△1.8)	△5.9(△4.9)
菜 蔬 類	29.6(1.1)	54.4(64.7)	16.1(△8.0)	△17.3(8.4)
果 實 類	20.6(34.7)	12.8(17.1)	△4.9(13.2)	5.1(△3.0)
乳 卵 類	24.7(27.0)	31.6(22.5)	△3.2(△0.6)	1.5(△1.6)
調 味 料 類	44.1(55.4)	61.4(8.6)	2.1(18.6)	△20.1(△9.9)

註：年末基準上昇率임. ()內는 年平均基準
 資料：經濟企劃院

2. 農畜產物 價格安定

가. 穀 類

'86年の 쌀收買量은 891千噸으로 生産量의 16%를 收買함으로써 栽培農家 價格支持와 함께 收穫期 價格安定을 圖謀하였다. 收買價格은 前年보다 6.0%가 높은 2等品 基準으로 80kg 가마當 64,160원으로 引上하였으며 또한 中전의 1噸當 500g의 첨가량제를 廢止하여 全體적으로 7.0%의 實質引上 效果를 가져옴으로써 '83年以來 가장 높은 幅으로 收買價가 引上되었다.

한편 쌀 收買價引上和 함께 '86年 쌀 都賣價格은 80kg들이 한 가마에 70,664원에 형성되어 지난해보다 6,994원이 상승되었으나 쌀값 安定을 위하여 政府米 489千噸을 彈力的으로 放出함으로써 穀價 調節을 유도하였다.

보리는 '86年の 生産量이 316千噸에 불과했으나 收買價格을 生産獎勵金을 包含하여 前年보다 7.5% 引上한 76.5kg噸當 39,070원으로 査定하여 農家出荷 全量을 收買하였으며 콩과 옥수수는 農協을 통하여 각각 6% 引上한 75kg當 64,200원, 21,510원으로 農家出荷 全量을 買入함으로써 收穫期 價格下 落 防止와 栽培農家の 所得增大를 期하였다.

<表 1-5-20>

糧穀收買量 및 收買價格

(單位：千噸, 圓)

		'75	'80	'85	'86
쌀	生産量	4,668	3,550	5,626	5,607
	收買量	789	545	1,090	891
	(收買率, %)	(16.9)	(15.4)	(19.4)	(15.9)
	收買價格(80kg噸)	19,500	45,750	60,530	64,160
	(引上率, %)	(23.7)	(25.0)	(5.0)	(6.0)
보리	生産量	1,694	724	387	316
	收買量	520	413	237	167
	(收買率, %)	(30.7)	(57.1)	(61.2)	(52.8)
	收買價格(76.5kg噸)	11,100	26,400	36,360	39,070
	(引上率, %)	(22.1)	(20.0)	(5.5)	(7.5)

資料：農林水産部 糧政局

나. 畜産物 및 飼料

'84年以來 繼續 下落勢를 보이고 있는 소값은 '86年에도 下落現狀이 繼續 되었으나 '86年 下半期 부터는 下落勢가 鈍化되어 400kg 큰숫소 基準으로 年平均 約 1,000千圓 水準에서 形成되었다.

'86年에도 소값의 安定을 도모하기 위하여 中암소 위주로 收買를 擴大하였으며 觀光호텔用 高級쇠고기의 輸入도 中斷하고 이를 國內産 韓牛肉을 供給하였다. 또한 收買備蓄肉을 部位別 差等價格으로 放出을 확대하고, 部落共同의 소 屠畜許容 等を 通하여 쇠고기消費를 促進함으로써 適正 飼育頭數유도를 통한 소값 安定에 注力하였다.

한편 돼지價格은 '86年에 90kg 成豚 基準으로 平均 141千圓에 比較적 높게 유지되었다. 그러나 最近 價格好調로 飼育規模가 增加추세에 있어 現 추세대로 維持될 경우 供給과잉이 우려되어 돼지需給 및 價格安定을 위하여 畜産觀測을 강화하고 出荷 및 價格展望을 事前에 豫告함으로써 養畜農家들이 自律적으로 生産調節에 임하도록 하는 동시에 養豚業 登錄·許可業體를

통한 飼育調節을 強化하였다. 이와 함께 돼지고기 輸出도 大規模養豚業體를 통한 輸出擴大施策과 恩貨強勢에 의한 輸出與件 好調등으로 인하여 '85년의 172%에서 '86년에는 808%으로 크게 增加하였다.

<表 1-5-21> 畜產物 價格動向

	單位	'85	'86			增減率 (B/A)	
		平均(A)	6月	12月	平均(B)		
產地	韓牛(♂)	千원/400kg	1,105	996	941	995	△10.0%
	成豚	千원/90kg	131	161	125	141	7.6
	肉鷄	원/kg	961	1,025	854	877	△8.7
	鷄卵	원/10개	475	418	452	428	△9.9
都賣	쇠고기	원/kg	4,384	3,901	3,352	3,875	△11.6
	돼지고기	"	2,341	2,850	2,228	2,436	4.1
	닭고기	"	1,563	1,597	1,485	1,476	△5.6
	鷄卵	원/10개	510	433	473	452	△11.4
消費者	쇠고기	원/500g	3,528	3,117	2,985	3,117	△11.6
	돼지고기	"	1,761	2,106	1,789	1,919	9.0
	닭고기	원/kg	1,711	1,703	1,573	1,613	△5.7
	鷄卵	원/10개	566	495	526	511	△9.7

資料：農林水產部 畜產局

닭의 경우에는 畜產觀測 弘報에 의한 自律調節을 유도하면서 生産者團體를 통한 收買備蓄制를 彈力的으로 運營한 결과 價格은 '85年보다 다소 낮게 形成되었다.

한편 畜產經營에 比重이 높은 配合飼料의 價格은 '86年末 現在 25kg當 1包에 4,198원으로 지난해보다 7.3%가 下落하였다. 이러한 價格引下의 主要因은 '84年 下半期부터 國際穀物價格의 下落과 함께 과거 옥수수에만 의존하던 輸入飼料穀物을 이보다 값싼 수수, 밀, 호밀 등으로 多樣化하였으며 특히 '80年 7月 配合飼料價格의 自律化 이후 製造業體間의 競爭으로 原價節

減을 계속하여 왔기 때문이다.

<表 1-5-22> 配合飼料價格動向 (單位：원/25kg/포)

	'84 末	'85 末(A)	'86 末(B)	增減率(B/A)
平 均	5,133	4,528	4,198	△7.3%
產 卵 初 期	5,410	4,558	4,171	△8.5
肉 鷄 前 期	6,744	6,163	5,731	△7.0
育 成 豚	5,591	4,949	4,581	△7.4
肥 育 豚 後 期	5,204	4,726	4,282	△9.4
搾 乳 Ⅱ 號	4,765	4,267	3,960	△7.2
搾 乳 Ⅲ 號	4,984	4,457	4,133	△7.3
큰 소 肥 育 Ⅰ	4,825	4,204	3,852	△8.4
큰 소 肥 育 Ⅱ	4,306	3,833	3,571	△6.8

資料：農林水産部 畜産局

다. 園藝 및 特用作物

'86년에 豐作을 이룬 菜蔬類의 價格安定을 위하여 고추와 마늘은 下限價格을 設定하고, 總 316億원 投入하여 政府收買備蓄事業을 실시하는 한편

<表 1-5-23> 菜蔬類 價格安定 事業實績 (單位：%)

	事 業 別	'80	'84	'85	'86
고 추	備 蓄	2,049	—	—	8,000
	計	9,357	12,318	21,288	36,483
마 늘	備 蓄	106	—	—	8,466
	民間收買	1,597	7,139	16,563	18,517
	出荷調整	7,654	5,179	4,725	9,500
	計	39,699	34,137	92,764	73,723
양 과	備 蓄	81	—	—	—
	民間收買	39,618	28,032	74,723	54,723
	出荷調整	—	6,105	18,041	19,000
무 우	出荷調整	60,337	68,490	77,197	94,860
배 추	"	118,012	109,372	114,148	177,301

資料：農林水産部 農産物流通局

民間收買事業과 出荷調整事業 等に 132億원을 支援하여 收穫期 價格安定을 圖謀하였다. 또한 무우와 배추 등은 收穫期 以前에 出荷調整資金을 集中 支援하여 收穫期の 洪水出荷로 인한 價格下落防止에 노력하였다. '86년에 政府收買事業을 실시한 고추는 600g 當 1,500~1,800원으로 8千%을 收買하였으며, 마늘은 kg當 800원으로 8,466%을 收買하였다.

또한 果實類 價格安定을 爲하여 栽培農家를 대상으로 15千坪의 果實貯藏 庫設置등에 4,334百萬원을 지원하는 한편 收買 및 出荷調節資金으로 129億 원을 지원하여 사과, 배, 복숭아 等に 對해 民間收買中心으로 76千%을 收買하고 사과, 배, 감귤에 대해서는 27千%의 出荷調節事業을 실시하였다.

특히 輸出에도 力點을 두어 市場開拓을 위한 海外調査團을 東南亞 및 구라과 地域에 파견함으로써 果實 輸出地域을 東南亞 爲主에서 '86年 들어 美 洲 및 유럽 등까지 輸出市場을 多邊化하고 輸出國도 23個 國家로 늘렸으며 이 결과 '86年の 果實은 '85年보다 6.4千%이 증가한 13.8千%을 輸出하여 國內價格安定에도 커다란 기여를 하였다.

<表 1 - 5 24>

果實類 價格安定事業 實績

(單位：%)

	事業別	'80	'84	'85	'86
	計	14,497	30,897	32,877	39,417
사과·배	民間收買	14,497	14,524	17,877	19,661
	出荷調整	-	16,373	15,000	19,756
복숭아	民間收買	10,100	3,853	3,751	8,613
포도	民間收買	5,437	4,535	8,099	5,919
	計	23,798	24,203	75,659	48,710
감귤	民間收買	23,798	18,506	65,659	41,458
	出荷調整	-	5,697	10,000	7,252

資料：農林水産部 農產物流通局

참깨, 땅콩은 農家受取 價格 保障을 통한 增産을 유도하기 위하여 播種期 이전에 收買價格을 豫示하고 農家에서 희망하는 全量을 收買토록 하였다. '86

年の 참깨 收買는 產地價格이 收買價格보다 높게 形成되어 1.4%에 그쳤으나 땅콩은 前年보다 크게 늘어난 123%을 收買하였다.

라. 農水產物價格安定基金의 運用

農水產物價格安定基金은 '86년까지 3,168億원을 造成하여 農水產物의 需給調節과 價格安定 및 流通近代化 事業에 前年보다 3%가 늘어난 3,016億원을 支援하였다.

'86年 基金의 運用內譯은 備蓄事業에 前年보다 80%가 늘어난 472億원을 支援하였으며 融資金과 事業助成費는 前年과 비슷한 2,465億원, 79億원을 各各 使用하였다.

<表 1-5-25>

農水產物價格安定基金 運用實績

(單位：億원)

	'75	'80	'85 (A)	'86 (B)	增減率(B/A)
計	214	1,215	2,933	3,016	2.8%
備蓄事業	20	383	262	472	80.2
(農產物)	(18)	(361)	(196)	(424)	(116.3)
(水產物)	(2)	(22)	(66)	(48)	(△27.3)
融資支援	193	751	2,596	2,465	△5.0
(生産獎勵)	(-)	(-)	(159)	(166)	(4.4)
(收買支援)	(95)	(532)	(641)	(712)	(11.1)
(出荷調節)	(98)	(219)	(684)	(805)	(17.7)
(價格調節)	(-)	(-)	(585)	(284)	(△51.5)
(流通改善)	(-)	(-)	(527)	(498)	(△ 5.5)
事業助成	1	81	75	79	(5.3)

資料：農林水產部 農產物流通局

品目別 支援狀況을 보면 備蓄事業 472億원은 農產物備蓄에 424億원, 水產物備蓄에 48億원을 使用하였으며, 融資金 2,465億원은 마늘, 양파, 사과, 배, 맥주보리, 고구마, 유채 등의 農產物과 活鮮魚 등 水產物의 收買에 712億원,

菜蔬類 및 果實類의 出荷調節에 805億원을 支援하였고 國內生産이 不足한 場合, 땅콩의 生産 獎勵資金으로 166億원, 畜産物과 活鮮魚의 價格調節에 284億원, 流通改善에 498億원을 각각 지원하였다.

마. 畜産振興基金의 運用

'86年の 畜産振興基金 運用規模는 1,586億원으로 이中 소값 安定對策의 積極的 推進을 위한 소 收買事業 및 缺損補填, 部落共同 소 屠畜支援, 畜産物 流通 및 消費弘報 等に 全體運用規模의 64%에 달하는 1,017億원을 支援하였다.

<表 1 5-26>

'86年 畜産振興基金 運用 實績

(單位: 百萬元)

事業區分	計劃(A)	實績(B)	對比(B/A)
需給調節資金	54,100	75,326	139 %
畜産物流通	48,168	26,415	55
牧野造成	6,592	3,687	56
飼料對策	1,637	1,344	82
家畜改良	6,042	4,542	75
'85 小入殖資金代替	20,000	19,165	96
家畜防疫	1,088	1,070	98
借入金利子	1,730	1,369	79
事業及財産管理費	3,101	4,100	132
特別支援	3,000	1,150	38
豫備費	1,234	406	33
次期移越, 其他	-	17,068	-
'85 事業移越分	4,387	2,908	66
合計	151,079	158,550	105

註: 需給調節資金에는 備蓄쇠고기 還買條件附로 活用한 調達基金 200億원 除外
資料: 畜協 中央會

특히 '86년의 畜産振興基金 運用에 있어서는 쇠고기 輸入中斷에 따른 納入金의 減少, 農漁村綜合對策과 農漁家 負債輕減對策의 推進에 따른 '83~'84 小入殖資金 元利金 償還延期 및 利子減免 等으로 調達規模가減少된 反面, 畜産物 需給調節 753億원, 小收買 缺損補填 145億원, '85年度에 農協資金으로 支援한 小入殖 資金代替 192億원 等 資金需要가 急增하여 基金運用에 어려움이 있었으나, 農安基金과 調達基金 借入 및 事業計劃의 伸縮性 있는 調整, 그리고 不要不急한 事業費 執行의 最大限 抑制 等으로 어려움을 克服하였다.

第3節 農水産物 流通改善

1. 産地 流通

生産 및 出荷의 規模化를 期하고 出荷生産의 市場 交渉力을 提高시키기 위하여 組織되어온 協同出荷班은 '86년부터는 數的 擴大보다는 組織의 內實化에 力點을 두고 流通資金支援의 擴大 등을 통해 組織運營 및 機能의 活性化를 圖謀함으로써 '86년에는 1,461個의 單位組合에서 모두 225千戶에 이르는 農家가 協同出荷班에 참여하였다.

協同出荷班 組織의 內實化와 더불어 協同出荷班을 통한 共同出荷와 直去來를 적극유도 하기위하여 年利 5%의 協同出荷班 育成資金 340億원을 支援하였으며 이 결과 '86년에는 2,182千%의 農産物을 共同出荷하였고, 520千%을 大都市 消費處와 直去來하였다.

또한 産地의 流通施設改善을 위하여 '86년에도 單位農協의 産地 集荷場, 간이저장고 및 輸送車輛의 擴充 등에 國庫 30億원을 지원하여 集荷場 40個所, 간이저장고 20個所 및 輸送車輛 244대를 追加確保토록 함으로써 '86年末 現在 集荷場 136個所, 간이저장고 81個所, 輸送車輛 1,575台를 保有하게되었다.

< 表 1 5-27 >

產地協同出荷班 組織 및 資金支援

(單位：個)

		'83	'84	'85	'86
協 同 出 荷 班		4,500	7,700	10,126	10,346
對 象 品 目	菜 蔬 類	4	7	7	7
	調 味 菜 蔬 類	3	4	4	4
	果 菜 類	-	6	6	6
	果 實 類	2	5	5	5
	特 作 類	2	2	2	2
計		11	24	24	24
流 通 資 金 支 援 (億 圓)		30	291	320	340

資料：農林水産部 農産物流通局

한편 收穫期의 一時出荷로 인한 價格下落을 방지하기 위하여 單位農協으로 하여금 盛出荷期에 收買하여 端境期에 판매할 수 있도록 買取事業資金 20 億圓을 지원하였다.

2. 都 賣 市 場

農水産物流通의 中樞的機能을 담당하고 있는 都賣市場을 擴充하기 위하여 全國 主要都市에 公營都賣市場을 건설함과 아울러 制度市場으로 定着할 수 있도록 都賣市場 運營改善을 持續적으로 推進하고 있다.

특히 지난 '85年 6월에 開場한 서울 可樂洞 農水産物都賣市場은 競賣場, 駐車場 등의 必須施設을 충분히 確保하여 서울 農水産物 流通量의 약50%를 占有하고 있어 신속하고 많은 物量의 農水産物을 流通시킴으로써 據點市場으로서의 役割을 遂行해 나가고 있으나, 龍山, 南大門 市場 등 既存商圈이 일시에 移動함에 따라 시설과 運營面에 다소 未洽한 點이 있어 關係機關과 專門家들에 의한 綜合診斷을 실시하여 改善方案을 마련하고 이를 推進中에 있다.

한편 地方都賣市場 擴充을 위하여 현재 大田, 大邱, 淸州에 公營都賣市場을 건설하고 있으며 大田은 '87년에, 大邱와 淸州는 '88년에 開場할 計劃으로 있다.

한편 公營都賣市場 건설과 함께 새로운 制度市場에 맞도록 運營管理制度를 補完하기 위하여 關係法令인 農水產物流通 및 價格安定에 관한 法律을 改正하여 靑果部類, 水產部類, 畜產部類를 함께 取扱하는 綜合都賣市場을 開設할 수 있도록 하고, 競賣士 任免承認 및 賣買參加人 登錄 등 開設者 權限의 一部를 都賣市場管理公社에 委託할 수 있도록 하였다.

3. 去來單位 統一 및 規格化

流通能率을 向上시키고 農家受取價格을 높이는 동시에 公正去來秩序를 실현하기 위하여 推進하고 있는 農水產物 去來單位의 統一 및 規格化 事業은 '84년에 農·水·畜協, 農漁民, 消費者, 流通從事者 등으로 構成된 去來單位標準化 協議會를 통하여 品目別 去來實態와 輸送에 따른 容易性 등을 고려하여 實用性이 높은 標準去來單位를 設定하고 있으며 지금까지 農產物 32個 品目, 水產物 10個 品目, 畜產物 4個 品目 등 모두 46個 品目に 대하여 標準去來單位를 設定하였다.

또한 農水產物의 規格出荷를 促進하기 위하여 '86년에 29億원을 支援하여 規格出荷 示範事業을 實施하였으며 앞으로 標準去來單位를 補完發展시켜 品位等級과 包裝規格을 포함한 標準出荷規格을 制定, 이를 普及시켜나갈 것이다.

4. 流通情報

生産農漁民은 계값을 받게 하고 消費者는 適正한 價格으로 購買하도록 하기 위해서는 신속 精確한 流通情報의 蒐集 및 分散이 필요하다. 이를 위하여 農林水產部는 그동안 機關別로 실시하여온 流通情報를 體系化하여 農·

水·畜協 및 農水產物流通公社와 함께 流通情報의 蒐集 및 分散體系를 構築하여 運營中에 있다.

農水產物 流通情報는 全國 主要產地 및 消費地에 배치된 調査要員들이 主要 農水產物 84個 品目에 대한 價格 및 流通量 등을 調査하여 市·郡 統計出張所의 電算터미널을 이용하여 그 情報를 農林水產部 中央電算室에서 취합하고 中央電算室은 入手된 자료를 整理分析한 후, 農林水產部 統計電算網 및 農·水·畜協 등 系統機關을 통하여 당일로 生産農漁民 등 實需要者에게 전달하고 있다. 또한 수시로 流通情報需要者의 便益을 도모코자 서울, 釜山, 大邱, 仁川 등 主要都市에 電話를 통한 自動應答裝置를 設置 運營하는 한편 TV·라디오 등 各種 매스콤을 통하여 가격 및 유통물량에 關한 情報를 提供하고 있다.

5. 農水畜產物 加工食品 標準化

農水畜產物 加工食品의 品質向上과 品質保證을 위한 食品標準規格化 (Korean Standards)事業은 '86年初까지 工業振興廳에서 國家 標準化事業의 일환으로 추진해 왔으나 加工食品이 多樣化되고 需要가 증가함에 따라 이를 擴大 發展시키고 體系있게 추진할 필요성이 대두되어 '86年 4月부터 工業標準化法 施行令을 改正하여 標準化業務를 農水畜產物의 需給을 總括하고 있는 農林水產部에서 管轄하게 되었다.

'86년에는 KS 制度의 效率的운영을 위하여 農水畜產物 加工食品標準化에 關한 運營要綱을 制定하고, 學界, 業界, 消費者團體 및 食品研究機關 등의 專門家로 構成된 審議會를 設置하여 規格制定 및 改確認과 KS 表示許可 對象品目の 指定 및 表示許可 審査基準 制定 등 加工食品標準化(KS) 事業의 基盤構築에 注力하였다.

'86年の 主要推進 實績을 보면 市乳, 加工乳 등 7個 品目に 新規規格을 制定하고 밀가루, 양조간장, 소시지 등 35個 品目の 既存規格을 改確認하는 한편 소시지, 프레스햄, 양조간장, 굴과실음료, 전지분유, 탈지분유, 밀가루,

콩치보일드 통조림 등 8個 品目에 대해 KS表示許可對象品目으로 指定하였다.

第4節 農林水產物 輸出入

1. 農林水產物 輸出

'86年の 農林水產物 輸出은 1,925百萬 달러로 '85년에 비해 38%가 증가하여 全體 輸出額에서 차지하는 比重도 85年の 4.6%에서 86년에는 5.5%로 높아졌다. 이렇게 輸出이 크게 증가된 要因은 好轉된 對外輸出與件을 잘 活用하여 輸出推薦制度의 폐지 등 輸出節次를 간소화하고, 輸出競爭力 向上과 함께 海外市場需要가 있는 輸出有望品目を 적극 발굴하여 市場開拓에 노력을 기울인 데 있다.

主要品目別 輸出動向을 살펴보면, 果實類는 輸出促進策의 하나였던 바나나對應 輸入制度가 '80年 下半期부터 폐지됨에 따라 輸出이 점차 減少하였으나 '85年 이후 사과, 배 등의 品質向上과 東南亞地域과의 連繫貿易 등 市場開拓으로 輸出이 크게 신장되었다.

調製食料品은 中東地域 勤勞者의 감소에 따른 海外需要 減少에도 불구하고 美國 등 現地 外國人의 需要增加와 면류, 醬類의 輸出競爭國인 日本의 엔貨價值 上昇으로 우리의 輸出競爭力이 높아져 前年보다 36%가 증가한 53百萬 달러를 輸出하였다.

生絲類 輸出은 '85년에 日本의 輸入쿼타 履行지연으로 20百萬 달러의 輸出에 그쳤으나 '86년에는 이의 履行이 비교적 순조로워 31百萬 달러를 輸出하였다.

그리고 畜產物 輸出額은 23百萬 달러로 '85年보다 8% 減少하였는데, 이는 양고기의 保稅加工輸出이 減少한 데 기인하였으나 돼지고기는 4百萬 달러로 '85年보다 7倍가 增加하였으며, 소는 처음으로 日本市場에 2百萬 달러

를 輸出 하였다.

菜蔬類는 그동안 海外교포 및 建設勤勞者의 副食用으로 제공되어 東南亞, 中東地域으로의 輸出이 활발했으나 中東地域 建設事業의 減少와 함께 輸出이 줄어드는 추세에 있어 '86年의 경우에는 '85年보다도 1百萬 달러가 줄어든 12百萬 달러에 그쳤다.

<表 1-5-28>

農 林 水 產 物 輸 出 實 績

(單位：百萬\$)

	'75	'80	'85(A)	'86(B)	增減率(B/A)
總 輸 出	5,081	17,505	30,283	34,714	14.6%
農 林 水 產 物	931	1,725	1,398	1,925	37.7
農 畜 產 物	209	225	164	208	26.8
畜 產 物	36	26	25	23	△8.0
(羊 肉)	(12)	(16)	(22)	(14)	(△36.4)
果 實 類	3	15	6	12	100.0
菜 蔬 類	5	24	13	12	△7.7
農 產 通 조 립	22	33	21	24	14.3
(양 송 이)	(21)	(28)	(11)	(7)	(△36.4)
調 製 食 料 品	11	18	39	53	35.9
其 他	11	44	40	53	32.5
生 絲 類	121	65	20	31	55.0
林 產 物	293	629	264	333	26.1
木 材 類	256	472	78	97	24.4
石 材 類	12	58	84	122	45.2
壁 紙	12	35	16	13	△18.8
버섯 · 밥 等	13	64	86	101	17.4
水 產 物	429	871	970	1,384	42.7
水 產 物	399	759	891	1,282	43.9
漁 網 類	30	112	79	102	29.1

資料：農林水產部 農業政策局, 商工部 輸出統計

양송이통조림 輸出은 70年代後半까지는 美國, 캐나다, 유럽인들의 主要 嗜好品으로 해마다 輸出이 伸張되는 추세에 있었으나 '80年 이후 美國이 中共을 關稅最惠國으로 대우함에 따라 自由中國과 더불어 中共이 강력한 競爭國으로 부상하였고, 또 최근 스페인이 歐美市場을 크게 蠶食함에 따라 輸出이 점점 감소하여 '86년에는 6.5百萬 달러 水準으로 떨어졌다.

또한 林產物은 지난해 보다 26%가 增加한 333百萬달러를 輸出하였다.

한편 '86年の 水產物 輸出은 '85年の 970百萬 달러보다 43%나 增加한 1,384百萬 달러에 달하였다. 水產物 輸出이 增加한 主要要因은 恩貨切上에 따른 美, 日地域에 대한 輸出競爭力이 提高되고, 輸出指導價格制 實施 등으로 輸出單價 提高를 위한 노력을 기울인 데 있다.

그러나 아직도 우리의 農林水產物 輸出構造는 주로 日本, 美國 등에 편중되어 있어, '86年の 경우 對日輸出이 69%이고, 對美輸出이 13%를 차지하고 있으므로 앞으로 輸出市場의 多邊化로 輸出構造를 改善하는 것이 중요한 과제이다.

2. 農林水產物 輸入

'86年の 農林水產物 輸入은 2,551百萬 달러로서 前年보다 1.1%가 늘어난 水準이다. 이중 農畜產物에 있어서는 主穀을 除外한 밀, 콩, 옥수수 등國內 自給이 어려운 糧穀類는 飼料用 5,507千%을 포함하여 總 8,555千%(수입추천기준)을 輸入하였으며 참깨, 땅콩, 타피오카칩 등도 必要한 最少量을 輸入하여 國內需給安定을 圖謀하였다.

水產物은 대부분 外貨獲得用 原料로서 輸入되었는데 魚種은 명태, 청어, 대구 등이 主宗을 이루었다.

林產物은 624百萬 달러를 輸入하여 '85년에 비해 0.8%가 減少하였는데, 木材와 合版의 輸出을 위한 原木 등 輸出用 原資材의 수입이 大宗을 이루고 있다.

<表 1-5-29>

農林水產物輸入實績

(單位：百萬\$)

		'75	'80	'85(A)	'86(B)	增減率(B/A)
總 輸 入		7,274	22,293	31,136	31,584	1.4%
農 林 水 產 物		1,302	3,180	2,522	2,551	1.1
農 水 產 物	糧 穀 類	689	1,073	912	823	△ 9.8
	肉 類	12	23	21	12	△42.9
	油脂作物類	17	208	249	259	4.0
	動植物性油脂	53	125	153	129	△15.7
	菜 蔬 類	12	6	36	35	△ 2.8
	산 動 物 類	1	10	9	7	△22.3
	茶·香辛料	8	37	60	89	48.3
	糖 類	207	534	161	187	16.1
	煙 草	9	78	10	14	40.0
	植物性粕類	2	3	20	44	120.0
水 產 物	9	34	79	108	36.7	
其 他	12	139	183	220	20.2	
林 產 物		271	910	629	624	△ 0.8

註：農水產物에는 CCCN 1~24類를 全部 包含시켰음.
 資料：農林水產部 農業政策局, 關稅廳 貿易統計

農林水產物 輸入은 農業生産基盤과 國民食糧의 安定的 供給등을 고려하여 國內生産이 可能的 品目은 增産支援을 강화하고 國內自給이 構造的으로 어려운 品目에 한하여 需給均衡과 價格安定을 위하여 適正物量을 導入하고 있다. 特히 農產物의 輸入增加는 農家所得源의 減少와 함께 國民食糧의 對外依存度를 높이므로 不要不急한 品目은 가능한 한 輸入을 制限하거나 혹은 國內生産品으로 代替토록함으로써 國內農水產資源 活用度를 높여나가고 있다.

第6章 農業技術開發과 專門人力養成

第1節 尖端技術 開發

生命工學을 중심으로 한 尖端農業技術開發로 既存의 農業生產技術의 限界를 극복하고 획기적 技術革新으로 농업의 국제경쟁력 강화를 위한 연구를 중점적으로 추진하기 위하여 生命工學을 中心으로 한 尖端農業技術開發을 強化하고 있다.

특히 遺傳工學의 實用化研究에 주력하여 그동안 꽃가루 培養技法에 의한 育種年限短縮研究를 추진하였으며, 突然變異體 選拔研究도 벼 뿐만 아니라 보리, 참깨, 油菜, 배추, 포도 등으로 확대 실시하였다. 이 결과 벼에 있어서 一般系로서는 최초로 벼멸구 및 稻熱病에 강한 花清벼를 育成하였고, 組織培養技術에 의한 耐災害性 變異細胞 選拔로 벼의 耐鹽性 變異個體를 選拔하였다. 또한 胚培養 및 胚株培養法에 의해서는 栽培벼와 野生벼를, 그리고 배추와 무우를 交雜한 新雜種 植物體를 획득하였고, 雄性不稔을 이용한 油菜 超多收 1代 雜種을 育成하여 食用油自給率 向上에 기여하였다.

아울러 栽培農民의 呼吸器 障害豫防을 위해 細胞融合技法을 활용하여 胞子が 적은 新種 느타리버섯을 개발함으로써 栽培農民의 호흡기 障害를 豫防토록 하였으며 遺傳子 操作技術을 이용한 家畜疾病 早期診斷液 9種을 개발함으로써 돼지 콜레라病的 診斷期間을 從前의 21日에서 15時間으로 短縮하였다.

한편 尖端技術研究 基盤을 擴充하기 위하여 無菌細胞融合室, 放射線同位元素 取扱室 등 特殊實驗室 12個를 신설하였고, 147名의 研究員에 대한 長短期 海外研修實施와 211種 1,471臺의 최신 연구기자재를 補強하였으며 8萬點의 遺傳資源을 國內外에서 수집하여 보관, 活用중에 있다.

第2節 農業技術 開發普及

1. 農事試驗研究

가. 主穀增產技術 開發

主穀의 生産性向上을 위하여 優良新品種 開發에 주력한 결과 一般系 벼로서는 최초로 벼멸구와 도열병에 강한 花清벼를 비롯하여 도열병과 縞葉枯病에 강한 八公벼, 極早生種이며 도열병에 강한 大關벼를 育成하였다. 多收系에 있어서는 良質이며 病蟲害에 강한 龍珠벼와 南榮벼를 育成하여 農家普及을 爲한 準備를 하고 있으며, 一代雜種벼 등 超多收性 品種開發의 基礎技術을 확립하였다.

<表 1-6-1>

벼 新品種 育成

	品 種 別	收 量 性 (kg/10a)	主 要 特 性	普 及 年 度
一 般 系	花 清 벼	513	稻熱病, 벼멸구強 最初 品種, 縞葉枯病, 白葉枯病強	1989
	八 公 벼	510	稻熱病, 縞葉枯病強, 晚植強	1988
	大 關 벼	528	極早生, 稻熱病, 多收	1988
多 收 系	龍 珠 벼	579	良質, 稻熱病, 白葉枯病 倒伏強	1988
	南 榮 벼	569	良質, 稻熱病, 黑條萎縮病強, 벼멸구強	1988

資料：農村振興廳

또한 벼機械移秧의 安全栽培地域 및 時期를 究明하여 農家に 보급함으로써 機械移秧을 약 370 F-ha로 확대하여 農村勞動力 節減에도 이바지 하였다.

보리品種 開發에 있어서는 과거 食用爲主에서 高級食用, 麥酒用, 飼料用 등 需要別品種開發에 目標을 두고 研究를 추진한 결과 早熟 耐倒伏 多收性인 無等쌀보리를 개발하였고, 밀은 硬質品種開發에 주력하여 早熟, 高製粉

性인 塔洞밀을 개발하였다. 靑刈飼料用 麥類는 倒伏에 강하면서 多收性인 두루호밀과 消化率이 높고, 봄·가을 播種型인 메귀리를 育成하였다.

〈表 1-6-2〉 麥類 新品種 育成

品 種 別	收 量 性 (kg/10a)	主 要 特 性	普及年度
無 等 쌀 보 리	382	쌀보리, 多收, 耐倒伏	1988
塔 洞 密	545	硬質, 早熟, 高製粉性	1988
두 루 호 밀	3,600	靑刈多收, 倒伏強	1988
메 귀 리	3,400	消化率이 높은 靑刈用 봄·가을 播種型	1988

資料：農村振興廳

나. 農家所得 作目 開發

地域特性에 맞는 農家所得作目 開發과 栽培技術 改善에 주력한 결과, 油脂作物에 있어서는 大粒이면서 바이러스에 강한 普廣콩 등 6種의 새로운 品種을 育成하여 早期普及을 위한 種子增殖에 임하고 있다.

콩에 있어서는 키가 짧고, 短葉이면서 耐倒伏性 品種開發에 힘써 生産能力을 10a當 400kg으로 증대시켰다. 참깨는 分枝型이며 3果性 品種育成에 노력하여 生産能力을 10a當 93kg으로 높였을 뿐만 아니라 비닐被覆 栽培技術을 開發 普及하였으며 땅콩은 匍匐草型을 直立草型으로 改良함으로써 10a當 288kg의 生産效果를 가져왔다.

菜蔬에 있어서도 季節別로 適地에만 재배해야 했던 것을 生産時期를 擴大 分散함으로써 年中供給이 가능하게 하였고, 果樹에 있어서는 端境期 品種開發에 힘써 高糖度 여름배 水振早生 등 4種을 개발하였다. 특히 果實類의 良質高級品 需要增大에 대비한 貯藏法 改善으로 저장성도 크게 향상시켰다.

한편 蠶業分野에 있어서는 耐病性이며 큰 누에고치 蠶育 226號를 育成하였고, 누에 人工飼料育을 개발하여 全國 33個所에 5,200箱子를 普及하였다.

또 버섯은 褐變이 적게 되고 겨울에 栽培할 수 있는 食用버섯 팽이 1號를

를 개발하여 普及을 추진중에 있다.

< 表 1-6-3 >

所得作目 新品種 育成

作目	品種別	主 要 特 性	普及年度
油脂作物	普 廣 콩	長葉, 大粒, 바이러스強, 229kg/10a	1988
	短 莖 콩	超多收, 짧은 키, 倒伏強, 2毛作用, 398kg/10a	1987
	銀 河 콩	小粒, 콩나물용, 바이러스病強, 224kg/10a	1988
	한 섬 깨	早熟, 短稈한, 꼬투리 가지 많음, 93kg/10a	1988
	三 多 깨	疫病, 倒伏強, 濟州道 適應, 77kg/10a	1987
	眞 豊 땅 콩	早熟, 꼬투리 많음, 小粒, 加工用, 288kg/10a	1988
菜 蔬	부豊토마토	萎縮病強, 商品率 높은 施設栽培용, 7,277kg/10a	1988
	端 香 메 론	겨울栽培용, 多收, 高糖度, 2,171개/10a	1988
	初 冬 딸 기	早生紅芯, 1,435kg/10a	1988
	世 豊 감 자	加工用, 多收, 4,502kg/10a	1988
	長 圓 감 자	加工用, 高冷地 여름栽培용, 2,724kg/10a	1987
果 樹	水 振 早 生 배	여름배 (8月下旬), 品質優秀, 高糖度, 2,800kg/10a	1989
	策 山 배	9月末 收穫, 品質優秀, 大果 (566g), 生食用	1989
	월 북 조 생 아 북 승	端境期生産 (7月中旬), 大果 (320g), 2,100kg/10a	1989
	龍 淵 晚 柑	晚柑 (出荷 12月上~4月上), 高糖度, 低酸	1988
蠶 業	蠶 育 226 號	암누에限性무늬, 強健, 35.7kg/10a	1988
	蠶 桑 101 號	多收, 가지 뽕치기 適合, 1,529kg/10a	1988
버 섯	팽이버섯1號	褐變적음, 冬期栽培용, 31.2kg/3.3㎡	1987

資料: 農村振興廳

이 밖에 畜産技術 開發研究에 있어서는 優良種牡牛 選拔에 의한 韓牛能
 력을 향상시키는데 주력하여 18個月의 韓牛體重을 448kg에서 502kg으로 높
 였으며 젖소 1萬kg生産用 冷凍受精卵 移植技術을 발전시켜 60頭 移植에 16
 頭를 生産하였다. 돼지는 早期成長 種豚 新系統을 育成함으로써 90kg 到達
 期間을 155日에서 144日로 단축시켰다. 또한 닭의 韓國型 飼養基準을 확립
 하여 여름철 옥수수사료를 11%節減시켰고, 모래를 8%給與함으로써 產卵率

의 향상과 配合飼料의 節約效果를 가져와 畜産農家의 所得增大에 크게 기여할 수 있도록 하였다.

그리고 飼料作物의 生産性 提高를 위한 品種開發과 栽培技術 改善에도 힘써 黑條萎縮病에도 강하고 靑刈穀實兼用 옥수수 新品種 南平玉과 再生力이 강하며 3회 刈取가 가능한 超多收性 眞珠조 水原 18號를 개발하였고, 벼 收穫前의 畚裏作 飼料作物 栽培와 10a當 15%을 生産할 수 있는 밭飼料作物栽培體系도 확립하였다.

한편 主要家畜 疾病에 대한 早期診斷技術開發과 混合豫防藥 開發에 힘썼으며 全國적으로 主要疾病 迅速豫察을 위한 豫察情報를 電算化하여 每月 발표함으로써 疾病發生率을 획기적으로 감소시켰다.

<表 1-6-4> 主要家畜 疾病發生率 (單位：%)

疾 病	'80	'86
소 乳 房 炎	5.8	2.1
돼 지 콜 레 라	1.5	0.1
닭 뉴 겟 슬 병	1.2	0.1

資料：農村振興廳

다. 優良 農業資材 開發

營農與件에 알맞는 값싼 附着作業機 開發과 農機械 新品規格化 研究에 노력한 결과 땅콩, 마늘, 감자의 收穫用 多目的 掘取機, 비닐栽培 施肥機 등 6種을 개발하였고, 바인더 4部品과 콤바인 2部品을 規格化함으로써 農機械 利用效率를 增大시켰다.

<表 1-6-5> 새로운 農機械開發 現況

	開 發 機 種
값싼 附着作業機(6種)	트럭타로타리 굴착기, 풋트用 菜蔬播種機, 回轉圓板耕耘整地機, 비닐被覆追肥機, 多目的 掘取機, 採薑機
新品規格化 (KS, 6部品)	바인더 (칼날누름판 등 4部品), 콤바인 (마찰판 및 보조마찰판)

資料：農村振興廳

農藥研究에 있어서는 病蟲同時防除用 混合劑 開發과 農藥 유리병 代替를 위한 合成樹脂容器 改善 그리고 優秀農藥을 強選拔하는데 중점을 두었다. 그 결과 毒性이 낮고, 藥效가 긴 浸透性 農藥使用을 定着시켰으며, 또한 施設園藝用 省力微粉劑를 개발 보급함으로써 藥效向上과 勞動力節減에 기여하였다.

<表 1-6-6> 微粉劑 農藥效果

	微粉劑 (A)	水和劑 (B)	對 比 (A/B)
藥效防除價 (%)	83	55	151 %
農藥價格 (원/10a)	8,000	7,000	114
撒布勞力費 (원/10a)	100	2,500	4
計	8,100	9,500	85

資料：農村振興廳

라. 國際農藥技術協力과 農藥產學協同

國際技術協力を 강화하고, 熱帶地域 開發途上國에 대한 技術供與를 더욱 확대하기 위하여 泰國, 요르단 등 39個 開發途上國에서 초청된 訓練生 131名에 대하여 米穀增產技術과 農村指導 등 6個 分野에 걸친 專門農藥技術教育을 실시하였다. 또 사우디아라비아, 가나 등 13個國에 22名의 農藥專門家를 파견하여, 專門 農藥技術을 적극 지원함으로써 國威宣揚과 國家間 友好增進에 크게 기여하였다. 美國, 日本, 캐나다 등 先進國과는 遺傳工學, 氣象災害, 草地, 飼料作物 등에 대한 共同研究를 적극 추진함으로써 尖端農藥技術開發을 促進시켰다.

한편 農藥部門 產學協同을 強化하기 위하여 基金을 10億 5千萬원으로 擴大 造成하였으며, 大學과의 農藥技術 共同研究를 강화하기 위하여 農科系 42個 大學 149名의 教授를 兼任 研究官으로 任命하고, 265件의 課題에 대하여 공동연구를 실시하였다. 그리고 農科系 大學 및 農高教育支援을 위하여 研

究官의 大學出講, 大學生의 試驗研究機關 實習, 農高教師의 試驗場, 研究所 現場教育을 지원하였고, 아울러 農高에 實習用 示範園 設置 등도 지원하였다.

또한 새로운 農業技術情報에 대한 신속한 情報交流를 위해 農業科學協會를 통한 심포지움 開催와 산하 22個 學會의 學術活動을 적극 지원함으로써 실질적인 產學協同體制를 견지토록 하였다.

2. 農業技術 普及

가. 主穀增產 技術指導

쌀 3,800萬石 生産目標達成을 위하여 모든 지역에서 安全多收穫이 되도록 全國을 112個 地帶로 區分, 地帶別로 알맞는 品種이 栽培되도록 마을別로 2~3個所씩 地域獎勵 品種을 推薦 揭示함과 동시에 品種別 特性解說教育을 실시하여 자기 논의 性質에 알맞는 品種을 選擇해서 栽培하도록 하였다. 아울러 '87年 優良品種을 適地에 普及하기 위하여 全國 邑面當 2~3個씩 모두 4,185個所의 品種比較指導園을 設置 運營하고 安全多收穫 示範園와 農土培養 示範園를 設置하여 科學營農指導를 強化하였다.

<表 1-6-7> 벼 示範園 現況과 段收比較

	個 所	收 量 (kg/10a)			現地評價教育	
		示 範(A)	隣 近(B)	對比(B/A)	回 數	人 員
벼 品種比較指導園	4,185個所	—	—	—%	13,326回	703千名
벼安全多收穫示範園	600	566	507	12	1,902	132
農土培養示範園	139	532	467	114	278	24

資料：農村振興廳

또한 機械化營農團 5,885個所와 科學營農團地 526個所에 運轉操作 技術教育과 管理教育을 중점적으로 실시하는 한편 農作物 病害蟲精密豫察과 適期

同時防除를 實施하기 위하여 全國 151個所의 基本豫察所와 38個의 簡易豫察所를 운영, 23회에 걸쳐 豫察情報를 발표함으로써 病蟲害로 인한 減收率을 줄이는데 힘썼다.

〈表 1-6-8〉 病蟲害에 의한 減收率 (單位: %)

	平 年 ('73~'83)	'85	'86	對 比	
				'85	平 年
計	6.5	3.7	3.5	△0.2	△3.0
病	4.0	1.7	1.4	△0.3	△2.6
蟲	2.5	2.0	2.1	0.1	△0.4

資料: 農村振興廳

나. 所得作目增産 技術指導

콩, 참깨, 땅콩 등 밭작물의 多收穫 및 品種比較指導圃 6,571個所, 施設菜蔬 등 園藝作物 示範圃 1,246個所, 버섯과 藥草 등 特用作物 示範圃 156個所, 密植 비닐덮기 병발 등 省力養蠶 示範圃 500個所 등을 作目別로 主産團地 中心地域에 集中設置하여 새 品種과 새 技術의 現場教育場으로 活用하였다.

〈表 1-6-9〉 所得作目 示範圃의 生産性 比較 (單位: kg/10a)

	콩	참깨	땅콩	고추	마늘	감자	병多收穫
示 範 圃 (A)	281	106	243	256	1,009	2,102	1,199
隣 近 (B)	204	74	188	181	783	1,655	937
對 比 (A/B)	138 %	144	129	141	129	127	128

資料: 農村振興廳

한편 畜産技術指導에 있어서는 家畜의 生産性 向上과 飼育經費 節減을 위하여 370個 마을에 韓牛繁殖, 肥育牛, 젓소 등의 安全飼育 示範技術指導와

家畜疾病의 신속한 豫察에 의한 事前指導를 강화하였다. 또한 밭 飼料作物 示範圃 1,452個所, 논뒷그루 飼料作物 示範圃 2,893個所, 山地草地利用 示範圃 40個所등을 集中設置하여 良質 粗飼料生産 利用技術 普及을 위한 現場教育場으로 활용하였다.

〈表 1-6-10〉 飼料作物 示範圃의 生産性比較 (單位: kg/10a)

	논뒷그루 飼料作物		뜻베기옥수수	山地草地
	胡 麥	이타리안라이그라스		
示 範 圃 (A)	3,808	7,004	8,181	4,490
隣 近 (B)	3,140	4,982	7,231	3,500
對 比 (A/B)	121%	140	113	128

資料: 農村振興廳

다. 農村靑少年 및 農民後繼者 精密指導

全國의 33千個會, 100萬 會員의 靑少年會活動을 강화하기 위하여 會員들에게는 能力에 알맞는 課題를 선택하여 履修토록하였으며, 특히 農村生活에 보람을 갖고 先進科學營農을 실천하겠다는 意志와 자부심을 심어주기 위한 競進大會, 野營教育 등을 내실있게 실시하였다.

아울러 새마을 靑少年基金을 87億원으로 擴大 造成하는 한편 農漁村大賞制를 擴大 實施하여 農村靑少年들의 士氣振作에 주력하였으며, 마을單位 會館에 靑少年 讀書室을 設置 運營함으로써 공부하는 분위기가 모든 마을에 擴散되도록 하였다.

또한 '86년에 새로 선발된 農民後繼者 9千名을 대상으로 正規 營農教育을 실시하여 營農定着意志를 심어주고, 支援作目別로 核心專門技術과 經營技法에 대한 教育을 강화하여 실제로 營農에 큰 보탬이 되도록 하였다. 既定着한 農民後繼者 28千名도 成長段階別로 區分, 個人別 카드에 의한 現場精密指導를 실시하여 이들이 早期에 自立經營農家로 成長할 수 있도록 지도하였다.

라. 農民 專門教育 指導強化

農民 營農技術教育은 겨울철 農閑期를 이용하여 2,633千名을 대상으로 새 해 營農計劃樹立 및 實踐, 農政施策, 經營, 流通 등에 대한 綜合的 教育을 全國의 마을單位에서 일제히 실시하였다. 中央에서는 農民後繼者, 營農指導者 및 農機械 專門技術要員들에게 分野別 正規 專門教育을, 그리고 地方에서는 당면한 營農技術을 중심으로 所得作目團地의 農民과 農機械 實需要者, 靑少年 및 農村婦女子들에게 營農課題教育을 실시하여 先進農業을 위한 科學營農을 실천하도록 지도하였다.

〈表 1·6·11〉 農 民 教 育 實 績 (單位：千名)

課 程 名	主 管	實 績
農民後繼者 育成教育	中 央	9.0
營農指導者 教育	"	2.5
農機械 教育	中央, 道, 市·郡	68.8
農民後繼者 家族教育	道, 市·郡	6.6
靑少年 課題教育	"	22.5
作目別 團地農民 教育	市·郡	38.7
生活改善 教育	中央, 市·郡	46.8
겨울 營農教育	市·郡	2,633.0
計		2,827.9

資料：農村振興廳

한편, 農村指導公務員의 精銳化를 위하여 指導公務員 全員에게 겨울철 特別教育을 실시하고, 新規指導士에게는 基礎理論과 試驗研究機關의 實習實技 教育을 실시함과 아울러 現職指導士에게는 補修專門教育을 農村振興廳 傘下 試驗場에서 실시한 바 있다. 특히 所得作目擔當 指導士에 대하여는 擔當 作目別로 現地 示範農場에 入住, 研鑽을 실시함으로써 營農體驗을 가지도록 하는 등 農村指導公務員의 資質向上과 對農民 指導能力의 涵양을 기하였다.

마. 農村女性の 役割擴大와 農家生活 向上

均衡된 食生活을 통한 農民의 건강증진을 위하여 簡易營養食品 生産, 調理加工貯藏法, 農村幼兒의 離乳補充食 등을 開發 普及하였고, 1,460個 生活改善示範마을을 對象으로 各種生活改善 課題를 시범실천토록 하였다. 아울러 각 마을마다 한명씩 지정된 生活改善 實踐要員 35千名을 대상으로 生活改善教育和 實踐課題를 부여하여 이들이 먼저 示範實踐토록 지도하였으며, 특히 營養脆弱地域인 山間奧地마을을 중심으로 營養改善教育和 지도를 실시하였다.

또한 婦女子들의 農作業 條件과 農家生活環境을 개선하기 위하여 農作業帽을 開發普及하였고, 生活改善 示範마을을 중심으로 12千戶의 副業改良 支援事業을 추진하였으며, 3,700名의 農家主婦를 選定, 家計簿을 기록하도록 지도하고, 알뜰살림事例集을 發刊 配付함으로써 勤儉節約氣風이 모든 마을에 擴散되도록 하였다.

바. 農業經營改善 指導

商業營農의 進전에 따라 農業經營의 효율성 문제가 크게 대두되고 있어 '86년에는 農業生産資源의 最大利用에 의한 營農規模 擴大 및 生産時期, 出荷調整에 의한 農產物 제값받기 實踐 등 農業經營改善 指導에 役점을 두고, 2,633千名을 대상으로 複合經營 示範農家 및 自立經營 示範農家에 대한 農業經營 改善教育을 본격적으로 추진하고 “새로운 농업경영”, “새로운 영농설계와 경영기술” 등 28千部의 農業經營教材를 開發 普及하였다.

또 現地 經營技術指導 등을 통하여 營農設計, 經營記錄, 農產物 販賣活動指導, 經營改善 優秀事例 擴散 등으로 農業與件 變化에 대응한 農民의 經營能力 向上과 經營改善 實踐指導에 주력하였다.

第3節 農漁民後繼者 育成

1. 育成 背景

우리 經濟의 產業化過程에서 農漁村 靑壯年層의 離農現象이 深化됨에 따라 農漁村의 勞動力 不足은 물론 農村勞動力의 老齡化로 質的으로도 低下되어 앞으로 農漁村을 지켜나갈 有能한 農漁村 後繼世代의 體系的 育성이 크게 要請되고 있다.

이에 따라 지난 '80년에 農漁民後繼者 育成基金法을 制定하고 396億원의 基金을 基盤으로 하여 '81년부터 農漁村에 定着 意慾이 強한 靑壯年層을 中心으로 農漁民後繼者 育成事業을 推進해 오고 있으며 農漁民後繼者들이 農漁村發展에 中樞的 役割을 담당해 나갈수 있도록 資金支援과 함께 事後管理도 強化해 나가고 있다.

2. 育成現況

農漁民後繼者 育成事業은 1次的으로 '87년까지 36千餘 마을當 1名씩 育성한다는 목표아래 育成基金을 每年 擴大造成하고, 育成人員도 계속 擴大하여 왔다. '86년까지 育成된 農漁民 後繼者는 31千名으로 늘어났으며 後繼者에게 支援된 資金도 總 2,107億원으로 增加되었다.

〈表 1-6-12〉

農漁民後繼者 育成人員 및 支援額

(單位：名, 億원)

	'81~'83	'84	'85	'86	計
基金造成	1,477	1,742	1,893	2,162	-
育成人員	5,944	5,000	10,000	10,000	30,944
資金支援	355	350	702	702	2,107

註：基金造成額은 累計임.

資料：農林水産部 農業政策局.

'86년에는 農漁村靑少年 및 農業系學校 卒業者를 中心으로 農漁民後繼者 1萬名을 새로이 選定하여 702億원을 지원하였으며, 특히, 後繼者의 事業成功을 뒷바침하기 위하여 精神教育和 技術教育을 각각 1萬名씩 실시하는 한편 1,800名을 對象으로 經營教育도 실시하였다. 또한 지난해에 이어 日本에 60名과 自由中國에 12名등 海外研修를 實施하여 先進農業을 直接 體驗할 수 있도록 하였으며 그 밖에 農漁民後繼者들의 원활한 事業推進을 위하여 營農漁期에 希望者 全員에게 短期 營農漁資金 3,390百萬원을 지원하였다.

한편 지금까지 育成된 農漁民後繼者들은 地域社會內에서 새마을營農技術者, 새마을指導者 또는 作目班長으로서 指導的 役割을 담당하고 있을 뿐 아니라 새로운 營農技術과 經營情報를 인근 농어민에게 普及하고 있는 것으로 나타나고 있다.

第7章 農漁村 所得源擴充과 地域開發

第1節 複合營農 示範事業

'83년부터 着手된 複合營農示範事業은 農業經營에 있어 部門別 補完機能 強化와 作付體系의 改善, 그리고 土地와 勞動力 등 農業生產要素의 效率的 活用등을 通하여 農業所得源을 擴充하고 農家販賣價格을 높임으로써 農家의 所得增大效果를 가져오기 위해 推進되고 있다.

示範事業의 마지막 해인 '86년에는 540個의 示範團地를 新規로 造成함으로써 지금까지 모두 1,466個의 團地가 造成되었고, 複合營農示範事業에 參考하고 있는 農家도 約 10萬戶에 達하였다.

<表 1-7-1>

複合營農 示範事業 推進實績

	單位	'83	'84	'85	'86	計
示 範 團 地	個 所	225	300	401	540	1,466
示 範 村 舍	村 舍	900	1,200	1,586	2,054	5,740
參 與 農 家	戶	16,276	20,500	27,870	33,678	98,324
經 濟 作 物	ha	7,118	15,956	28,507	42,690	94,271
家 畜 入 殖(頭)	頭	25,000	47,786	44,876		117,662
資 金 支 援	百萬元	26,367	53,258	58,741	54,049	192,415
中 長 期 資 金	"	16,592	32,594	34,606	20,428	104,220
短 期 農 事 資 金	"	5,275	11,664	22,825	31,621	71,385
流 通 資 金	"	4,500	9,000	1,310	2,000	16,810

資料：農林水產部 農業政策局

특히 '86년에는 複合營農示範團地에 398棟의 共同育苗場을 設置함으로써

參與農家の 協業經營을 통하여 經營費 절감을 유도하는 한편 優良苗를 생산토록 함으로써 生産性を 높여 나가고 있다. 한편 複合營農示範事業의 特化作目으로는 지난해에 이어 참깨, 땅콩, 옥수수, 콩, 호프, 유채, 맥주보리, 양잠 등 8個 品目を 中央例示品目으로 定하고 이와함께 地域特化作目으로 安定的 所得増大 品目으로서 道知事가 自律적으로 選定한 品目を 중심으로 지원하였으며 다만 '85年の 大豆波動으로 인하여 소는 補完作目에서 제외하여 돼지, 염소 등을 導入殖과 代替하였다.

'86년까지 複合營農示範事業을 추진한 결과, 참깨, 땅콩 등 所得作物 中心으로 參與農家の 栽培技術이 크게 向上되었으며, 生産農水産物의 共同出荷 및 等級化 등을 통하여 商業營農의 基盤이 점차 定着되어 가고 있다.

第2節 農工地區 造成

農漁家所得을 持續적으로 増大시키기 위해서는 農水産 所得源의 擴充과 함께 農外所得의 開發擴充이 필요하다. 특히 農家戶當 耕地面積이 1ha 内外에 지나지 않는 營農條件下에서는 農業所得으로는 劃期的인 농어가소득증대에는 한계가 있어 農水産 所得源의 持續的 開發과 併行하여 새로운 所得

<表 1-7-2>

農工地區 指定 現況

(單位：個所)

		計	江 原	忠 北	忠 南	全 北	全 南	慶 北	慶 南
'85	一般	7	1	1	1	1	1	1	1
	一般	16	2	3	3	2	3	2	1
'86	特別	8	—	2	3	—	—	1	2
	計	24	2	5	6	2	3	3	3
合計	一般	23	3	4	4	3	4	3	2
	特別	8	—	2	3	—	—	1	2
	計	31	3	6	7	3	4	4	4

資料：農林水産部 農業政策局

源으로서의 農外所得增大部門에 重點을 두고 農工地區事業을 本格的으로 擴大 推進하고 있다.

農工地區事業은 지난 '83년에 制定된 農漁村所得源 開發促進法을 근거로 하여 農漁村地域에 小規模 工業團地를 造成하고, 農村地域의 特殊性을 감안하여 公害問題가 없고, 雇傭效果가 큰 業種을 유치함으로써 農漁村住民의 就業機會를 확대하여 농어가의 安定된 所得增大를 期하려는데 있다.

지금까지 추진된 農工地區造成狀況을 보면 '84년에 京畿, 濟州를 제외한 各道에 1個所씩 7個所를 指定하여 '86年中에 團地 造成을 完了함으로써 75個 業體의 入住가 확정되었으며 그중 35個 業體가 가동중에 있다. 또한 '86年中에 24個 地區를 추가로 指定하여 '86年末까지 농공지구지정이 모두 31個所로 늘어났다.

한편 農工地區 造成事業의 效率的인 추진을 위하여 86년에는 農工地區造成對象地域을 從前의 人口 10万以下の 市·郡에서 20万以下の 中小都市까지 확대하는 한편 3個以上の 企業이 일정한 條件만 갖추면 企業이 원하는 地域을 農工地區로 指定하는 特別隨時指定制度를 導入하였다.

또한 農工地區入住業體에 對해서는 從前에는 登錄稅, 取得稅, 財産稅 등 地方稅에 限하여 減免토록 하였으나 法人稅, 所得稅에 對해서도 3年間은 全額 免除, 向後 2年間은 50%로 減免토록 하였다.

第3節 副業團地造成 및 觀光農業開發

1. 農漁村 副業團地 造成

農漁村의 遊休勞動力과 賦存資源을 活用하여 農外所得을 增大시키기 위한 副業團地 造成事業은 '86年에도 67億원의 資金支援을 통해 104個를 새로 指定함으로써 副業團地數는 모두 609個團地로 늘어났다.

특히, 86년에는 農漁村副業團地의 效率的育成을 위하여 副業團地에 대한

運營實態 調査를 하였는바, 調査 結果에 의하면 副業團地의 年間 總生産 額은 885億 원으로 團地當 平均 150百萬元을 生産하고 있는것으로 나타났으며, 대부분의 副業團地가 家內手工業形態에서 小規模의 企業型으로 착실히 開發되어 가고 있고 參與 農家の 戶當 月平均 所得이 10萬 원以上인 團地도 전부업단지의 90%인 것으로 나타났다.

앞으로 副業團地 實態調査結果를 토대로 效率的인 育成方案을 補完發展 시켜 나갈 계획이며 특히 '86년에는 副業團地에서 生産된 製品的 安定的 販路確保를 위해 서울地域에 설치된 農家工產品販賣센터를 통한 支援과 各種 展示會 및 弘報媒體를 통해 다각적인 販賣活動을 전개하였다.

<表 1-7-3> 農漁村副業團地 育成現況 (單位：個所)

	'68 ~ '81	'82	'83	'84	'85	'86
新規指定	1,001	40	128	156	131	104
運營團地	266	242	307	435	505	609
資金支援	141億 원	26	56	73	66	67

資料：農林水産部 農業政策局

2. 觀光農業開發

生活水準의 向上과 함께 늘어나고 있는 都市民의 餘暇欲求를 자연자원이 풍부한 농어촌으로 유치하여 이를 農家所得과 연계시키기 위하여 '84년부터 觀光農業開發示範事業을 推進하고 있다. 觀光農業開發示範事業은 '86년에 16

<表 1-7-4> 觀光農業開發示範事業現況

	單位	'84	'85	'86	計
地區造成	個所	12	13	16	41
資金支援	百萬元	314	465	432	1,211

資料：農林水産部 農業政策局

個地區를 新規로 造成하여 農園內에 民泊施設, 휴게소, 販賣場 등 附帶 및 便宜施設를 擴充하기 위하여 示範地區에 대해 施設資金으로 432百萬원을 融資支援하였다.

第4節 農漁村地域 綜合開發

農漁村地域綜合開發은 郡單位 定住生活圈을 대상으로 中心都市와 周邊 背後地인 農漁村을 하나의 統合된 生活圈으로 開發하는 것을 目標로 地域的 多樣性과 特殊性을 前題로 한 農漁村 住民들의 開發需要를 충분히 반영하는 上向的 開發을 原則으로 하여 農漁村의 構造 調整과 연계하여 農漁村도 都市에 못지 않는 便利한 住居空間이 될 수 있도록 生産基盤 整備, 福祉基盤 擴充等を 包含한 綜合開發方式으로 推進하고 있다.

'86년까지 推進된 農漁村地域綜合開發狀況을 보면 이미 選定된 公州, 강진, 淸송 등 3個郡을 대상으로 生産施設, 生産基盤, 流通施設, 所得源 道路開發 등에 228億원을 投資하여 지역개발을 촉진하는 한편 京畿 坡州郡, 江原 寧越郡, 忠北 沃川郡, 全北 鎭安郡, 慶南 咸陽郡 등 5個郡에 대해 開發計劃 樹立을 完了하였다.

<表 1-7 5>

農漁村地域 綜合開發事業費支援實績

(單位: 百萬元)

	公 州	康 津	青 松	合 計
生 產 施 設	1,170	186	61	1,417
生 產 基 盤 造 成	4,550	7,148	3,186	14,884
流 通 施 設	118	236	127	481
所 得 源 道 路	2,520	362	3,213	6,095
合 計	8,358	7,932	6,587	22,877

資料: 農林水産部 農漁村開發局

第8章 農漁村綜合對策 推進

國家經濟가 高度成長을 거듭해 오는 過程에서 農漁村과 農水産部門도 過去에 비하면 많은 發展을 이룩하였으나 所得이나 生活與件面에서 都市나 工業部門보다는 相對的으로 發展速度가 늦어 部門間 均衡開發問題가 크게 대두되고 있다.

農漁村綜合對策은 이러한 產業間, 都·農間 開發隔差를 早期에 解消하여 보다 均衡된 先進社會로 발돋움 하기 위하여 그동안 우리 經濟의 發展餘力을 바탕으로 農漁村에 集中投資함으로써 農漁村의 生産, 所得與件 改善은 물론 生活環境, 및 教育, 文化面에 이르기까지 農漁村을 綜合的으로 開發하는데 그 目的이 있다.

이를 위해 農漁村 經濟活性化를 包含한 多角的인 農漁村開發施策을 마련하여 農林水産部, 經濟企劃院, 內務部, 保社部등 農漁村 關聯 15個 部處가 參與한 農漁村 對策協議會의 審議를 거쳐 '86. 3. 5 農漁村綜合對策을 樹立이를 推進중에 있다.

農漁村綜合對策의 主要內容은 우선 당면한 農漁村의 어려움을 解消하기 위한 負擔輕減 措置와 農漁民의 所得增大를 위한 農漁村所得源의 創出, 그리고 農漁村福祉基盤擴充을 위한 開發施策으로 되어 있으며 이를 效率的으로 推進하기 위하여 '86~'88間 總 1兆 5,600億원을 投入할 計劃으로 되어있다.

第1節 農漁民 負擔輕減

農漁村近代化를 爲한 전환기적 과정에서 나타나고 있는 農漁村의 經濟的 어려움을 극복토록하여 農漁村經濟活性化의 契機를 마련하고 나아가 농어촌

경제체질을 強化하기 위하여 金利引下, 稅制支援 등 農漁民 負擔輕減을 위한 여러가지 施策을 推進하고 있다.

1. 農漁村關聯資金 金利引下

農漁家の 金融負擔을 緩和시켜 나가기 위해 營農漁資金, '83~'84年の 小入殖資金 및 農漁村 住宅改良資金의 金利를 종전의 10%水準에서 一律적으로 8%로 引下하였으며 이와함께 '86年 이전에 支援된 營農, 養畜資金의 金利도 8%로 引下하였고, 延滯金利도 從前보다 2%가 下向調整된 17~20%로 引下하였으며 이같은 金利引下로 總 572億원의 農漁民負擔輕減效果를 가져 온 것으로 展望된다.

이와함께 '83~'84年の 小入殖 融資金에 대한 '85~'86年の 利子 發生分 314億원에 대해서도 '89년부터 3年間 分割償還토록 措置하였다.

〈表 1-8-1〉 農漁村關聯資金 金利引下內容 (單位: 億원)

資 金 別	對 象 規 模	利 子 率(%)		負擔輕減額	適 用 時 點
		從 前	改 善		
營 農 · 營 漁 資 金	11,180	10	8	186	'86. 1. 1
'83 ~ '84 小 入 殖 資 金	2,502	9~14.5	8	199	"
農 漁 村 住 宅 改 良 資 金	4,280	10	8	85	'86. 4. 1
'86 以 前 營 農 資 金	1,126	10	8	19	'86. 3. 1
養 畜 資 金	365	10	8	7	"
延 滯 金 利	3,820	19~22	17~20	76	'86. 5. 1
計				572	

資料: 農林水産部 農業政策局

2. 水利施設 改補修 및 稅制支援

農家の 負擔이 되어왔던 水利施設의 改補修事業에 있어 종전에는 70%는

融資, 30%는 農民이 一時負擔하였으나 이를 改善하여 70%를 國庫로 보조하고 30%는 長期債로 전환하였으며 또한 農組 長期債 減免 範圍을 擴大하여 10a當 15kg을 초과하는 경우 이를 減免토록 하였다.

稅制支援에 있어서도 農地 등을 所有한 사람이 그 直系尊屬 또는 형제자매중 自耕農民에게 農地, 草地, 山林地를 讓渡 혹은 贈與할 때 納付하는 讓渡所得稅와 贈與稅를 일정한 범위내에서 免除토록 하여 農地 등이 실제로 營農에 종사하는 사람에게 還元되어 營農規模가 擴大되고 耕者有田의 原則이 실현될 수 있도록 하였으며 自耕農民이 營農을 목적으로 農地 등을 取得할 때 取得稅 50%를 減免措置하였다. 또한 農家經營費 節減을 위하여 農機械用 油類에 대한 特別消費稅 및 附加價値稅를 免除하였으며, 國內農산물 수요 개발을 위하여 乳製品과 天然果汁飲料에 대한 特別消費稅도 免除하였다.

아울러 農漁民의 金融費 負擔을 줄이기 위해 融資書類에 부과되는 印紙稅의 非課稅 범위를 500萬원에서 1,500萬원으로 대폭 上向調整하였다.

3. 農漁村 低所得層支援 및 實業系高校 授業料 免除

低所得 農漁家에 대한 自立支援을 強化해 나가기 위하여 農漁村 低所得의 基準을 都市와 같은 43千원으로 上向調整하여 受惠對象을 늘리고, 이들에게 轉職機能訓練, 生計費 補助, 子女 學費支援 등을 통하여 自立基盤을 마련토록 하였다. 또한 面이하 出身 實業系高校生 27千名對象으로 10萬원씩 獎學金을 支給하여 農漁家の 教育費 負擔을 輕減토록 하였다.

한편 農水畜協의 自立預託金 및 募돈마련貯蓄의 限度를 500萬에서 1,000萬원으로 인상하여 利子所得에 대한 免稅惠澤範圍를 擴大하였다.

4. 漁民의 負擔輕減

水產災害發生時 漁民의 被害復舊에 따른 負擔을 輕減하기 위하여 水產增

養殖 被害復舊의 경우 國庫補助率을 增養殖施設은 50%에서 70%로, 魚貝類 등 生物은 50%에서 60%로 引上했으며, 被害額 算定基準單價도 現實化해서 木船의 경우 噸當 195萬원에서 240萬원으로 上向調整하였다.

또한 魚類 蓄養을 위한 內水面 賃借料도 ha當 農組管理施設은 15萬원, 産業基地開發公社는 50萬원水準이던 것을 10萬원이내로 낮췄으며, 水協과 漁村契가 運營하는 製水·冷凍 등 漁業用 施設의 電氣料도 農事用으로 適用하여 40%정도의 電氣料 引下效果를 가져왔고, 또한 漁業用 免稅油類 供給時限을 '91년까지 延長함으로써 漁民負擔이 輕減되도록 하였다.

第2節 農漁家所得源 擴充

農漁村 經濟活性化를 위한 農漁家 負擔 輕減措置와 함께 農漁家の 所得을 持續적으로 늘려나가기 위하여 農水產所得源의 開發은 물론 農工地區等 農外所得增大基盤을 本格的으로 造成해 나가고 있다.

1. 農水產所得源의 擴充

가. 所得源의 安定的 確保와 多樣化

農家所得이 아직도 農業所得 中心으로 이루어져 있는 農漁村經濟構造下에서 農漁家所得의 安定的 確保를 위해서는 成長作目を 中心으로한 새로운 所得源의 開發이 무엇보다도 중요하다.

農家所得의 大宗을 이루고 있는 쌀은 最近에 消費가 줄어들고 있어 쌀의 需要開發을 통한 農業所得의 지속적 增大를 위하여 各級 學校, 料食業所 등에 대한 混粉食 獎勵施策을 完善하는 한편 軍官需 給食의 쌀比率를 점차높여 쌀消費를 擴大해 나가고 있다.

또한 增產餘力이 있는 農水產物의 海外需要開發을 위해 農水產物 輸出增大에도 力點을 두고 사과, 배, 畜產物 등 42個 品目에 대한 輸出推薦制度를

폐지하여 輸出先의 安定的 確保를 기해 나가고, 果實類 輸出과 熱帶果實 輸入과의 連繫貿易을 추진하여 農水産物의 輸出擴大를 통한 所得向上을 도모해가고 있다.

이와함께 보리 需要를 擴大하기 위하여 酒精用 輸入타피오카를 보리로 代替하고 보리소주를 開發하는 한편 國産茶 등 國內需要增大가 예상되는 品目에 대해서는 積極적인 生産擴大를 유도해 나가고 있으며 또한 國內에서 生産이 가능하고 需要가 있는 粗飼料, 땅콩 등에 대해서는 生産 支援을 強化하고 있다. 아울러 農産物需要變化에 부응한 農地의 效率的利用을 위하여 耕地整理畝 以外에는 多年生 作物栽培 허용기준을 緩和하였으며, 開發農地의 農業目的內 用途變更時 이의 承認權限을 道知事로부터 市長·郡守에게 再委任하여 節次를 간소화 하였다.

나. 農水産物 需給安定

農漁家の 所得安定과 直結되는 農水産物 需給 및 價格安定을 기하기 위해 農水産統計를 體系的으로 改善하여 流通豫告制 및 農業觀測制를 더욱 內實있게 운영하는 한편 農漁民의 自律的 出荷調節能力을 提高시키고 아울러 마늘, 양파, 고추 등 價格騰落이 심한 品目에 대해서는 價格安定帶制를 도입하여 價格振幅을 줄이는데 注力하였다.

다. 沿岸漁場의 牧場化

沿近海 水産資源을 效率的으로 利用하여 漁家所得 向上과 水産食糧의 安定的 供給基盤을 구축하기 위하여 高級 종묘의 生産방류와 인공어초 施設을 擴大하는 등 漁業生産基盤을 擴充하는 한편 公有水面理立法, 海洋汚染防止法, 環境保全法을 改正하여 海洋汚染, 埋立, 干拓에 따른 被害補償基準을 設定함으로써 沿岸漁場保全 및 水産資源保護制度를 改善하였다.

2. 農外所得源의 開發促進

農業所得은 農水産物의 豐凶 및 價格變化 그리고 生産性 提高의 限界 등 構造的인 不安要因을 안고있어 農家所得의 劃期的 增大는 어렵기 때문에 農工地區 등 農漁村 工業化를 통한 農外所得增大基盤을 적극적으로 造成해 나가고 있다.

農工地區 造成事業은 '85년에 指定한 忠北 鎮川 등 7個 地區는 團地造成을 완료하여 入住企業이 稼動中에 있으며, '86년에는 江原 春城郡 등 24個 所를 추가 農工地區로 지정하여 團地造成事業을 계속하고 있다. 또한 農工地區에 入住하는 業體에 대해서는 行政節次의 간소화 및 各種 稅制 惠澤과 함께 入住與件에 따라 追加支援制度를 마련하여 金融支援幅을 擴大함으로써 地域間 均衡發展이 이룩될 수 있도록 하였으며 아울러 서울에 農漁村 工業事務所를 設置, 各道別로 전담요원을 배치하여 地域 실정에 맞는 工場誘致, 副業斡旋, 觀光案内 등을 담당토록 하였다.

한편 農漁村에 入住하는 企業의 技能人力確保를 위하여 各道 農民教育院의 職業訓練機能을 韓國職業訓練管理公團으로 移管하여 職業訓練의 專門性 確保와 함께 農工地區所要職種 및 地域 必要職種에 대한 職業訓練機能을 補強함으로써 農漁村 住民의 실질적인 就業能力을 向上시켜 나가고 있다.

第3節 農漁村 生活環境改善

農漁家の 所得水準과 生活水準이 높아짐에 따라 農漁村生活環境의 質的 向上에 대한 欲求가 크게 증대되고 있다. 특히 都市化의 進進과 함께 사회 복지시설이 大都市 중심으로 편중되어 있기때문에 農漁民이 상대적으로 落後感을 느끼고 있을뿐만 아니라 농어민의 의료·교육비 등에 대한 負擔도 상대적으로 늘어나고 있다.

따라서 農漁村에서의 生活이 都市에 못지않는 生活이 될 수 있도록 農漁

村地域에 대한 社會間接施設을 本格的으로 擴充하고 教育, 醫療, 交通 등 農漁村의 生活便益施設을 광범위하게 開發해 나가고 있다.

1. 社會間接資本의 擴充

農漁村地域의 道路 擴張 및 鋪裝事業을 本格的으로 推進하기 위하여 '91년까지 總 3,900km에 대하여 8,970億원을 投資하여 道路鋪裝率을 地方道 60%, 郡道 30%까지 높이는 한편 僻地버스運行路線도 50戶 이상 마을까지 擴大하고, 落島航路中 赤字가 발생하는 21個 航路를 落島補助 航路로 指定하고 運航回數도 늘려 나가고 있다.

通信部門에 있어서도 '87년까지 全國을 147個 廣域自動通話圈化하도록 하였으며, 그 밖에도 多目的 集會場 施設을 겸한 面單位 綜合福祉館을 每年30個所씩 건립해 나가고 農漁村地域의 上水道 擴充을 위해 邑面 上水道를 現在 399個所에서 '91년까지 544個所로 擴大해 나갈 것이다.

2. 醫療서비스 向上

農漁村地域의 의료서비스를 劃期的으로 改善하기 위하여 '88년부터 農漁村醫療保險實施와 병행하여 보건소의 新築 및 醫療裝備의 補強으로 의료기반을 확충하고 公衆保健醫를 인턴修了者로 대체하는 등 의료진과 진료과목을 강화해 나가고 있다.

또한 農漁村地域의 醫療脆弱地域에 대해서는 民間病院을 유치하고, 落島住民의 의료혜택을 늘리기 위해 매년 落島地域 病院船을 增船하고 있다.

한편 農漁民의 의료비부담 경감을 위하여 農水協의 醫療共濟 加入者에 대해서는 진료시 의료보험수가를 적용하고 진료비의 代支給制度를 확대해 나가고 있다.

3. 教育環境의 改善

農漁村 教育與件 改善을 위해서 地方大學의 定員 增員과 함께 私學振興財團의 資金도 地方大學에 우선 지원토록 하고, 優秀教授의 誘致를 위해 地方大의 研究費 支援比率를 높이는 등 地方大學을 적극 육성하는 한편 大學 寄宿舍擴充과 社會團體 등에 의한 學舍建立을 유도하여 農漁民의 教育費負擔을 輕減될수 있도록 하였다. 아울러 實業系高校에 대한 農地, 家畜 등 實習用 收益資產의 購入을 확대지원하고 이의 販賣收益金은 獎學金으로 사용함으로써 農漁村 高校生の 獎學基盤을 擴充하였다.

第4節 農漁村支援制度의 改善

1. 農漁村關聯機關 機能의 再定立

農水產 與件變化에 效率的으로 對處하고 農漁村開發을 위한 지원기능을 強化하기 위하여 農林水產部 등 關聯機關의 組織과 機能을 改編하였다. 農林水產部는 農水產物 流通改善 및 農漁村 開發機能을 強化하기 위하여 종전의 特作局을 農產物流通局으로, 農地局을 農漁村開發局으로 調整하였으며, 특히 山地의 合理的 이용을 촉진하기 위하여 山林廳을 內務部에서 農林水產部로 移管하였으며 地方政府도 地域經濟活動性化와 地域發展을 주도해 갈 수 있도록 經濟 및 商工行政組織을 強化하였다.

또한 農水畜協의 機能強化를 위해 本部長制度를 도입하여 經濟事業機能을 強化하고 單位農協의 自律性 提高를 위해 中央會 機能의 單協移讓을 추진하고 있다.

2. 農地制度 改善

農地의 合理的인 利用을 도모하고 영농의 規模化를 유도하기 위하여 農

地貸貸借制의 確立을 포함, 農地購入資金 支援, 農地關聯稅制 改善등 農地 制度의 改善을 綜合的으로 추진하고 있다.

먼저 현실적으로 발생하고 있는 農地의 貸貸借關係를 法的으로 收容하여 農地所有權에 대한 不安을 解消하고 또한 貸貸農은 一定期間 안심하고 計劃營農을 보장함으로써 貸貸借 雙方의 權益을 保護하고, 나아가 漸進的 耕者有田 原則의 實現으로 自立安定農家를 확대육성하기 위하여 農地貸貸借 管理法(1986. 12. 31, 法律 第 3888號)을 制定하였다. 이 法은 農漁村綜合對策의 일환으로 農地制度 改善方案이 발표된 후 關係部處協議會, 黨政協議會를 걸치고, 또 서울 및 地方에서 學界, 言論界, 農民, 農民團體 등이 參與하여 9차례의 公聽會 및 座談會등을 통해서 各界의 意見을 收斂하여 制定된 것이다.

또 農地貸貸借管理法의 制定과 함께 自耕農民의 農地購入을 支援하기 위하여 長期低利의 農地購入資金을 支援하는 한편 農地購入에 따른 負擔 輕減을 위하여 農地에 대한 讓渡所得稅, 贈與稅 및 取得稅를 '87年 1月 1日부터 減免토록 하였다.

3. 農漁村地域開發基金 設置

農水產業의 構造改善과 農漁村開發을 財政的으로 뒷받침하기 위하여 '88年까지 5千億원 規模의 農漁村地域開發基金을 造成할 계획아래 '86년에 이를 위한 法的 根據를 마련키 위해 農漁村地域開發基金法을 制定하였다.

이 基金은 앞으로 農地購入, 農工地區 造成, 所得源 道路, 保健, 教育 등 農漁村福祉施設擴充 및 農林水產業 構造調整事業을 中心으로 事業特性을 고려하여 利子率 5~8%, 償還期間 5~20年の 中長期 低利資金으로 지원할 계획이다.

여백

第2編 1987年度 農業施策

여백

第1章 農業政策의 基本方向

第1節 基本目標

經濟開發計劃을 착수한 以來 지난 25年間 우리 經濟는 高度成長을 거듭하면서 與件變化에 따른 經濟內部的 構造調整을 通하여 自力成長의 確固한 基盤이 定着되어 가고 있다. 이러한 國民經濟의 發展過程에서 農林水產部門도 刮目할 만한 農業生産性 向上에 힘입어 一部 品目を 除外한 農畜產物이 自給을 維持할 수 있는 水準까지 生産量이 크게 늘어 났을 뿐 아니라 營農 構造에 있어서도 農業機械化의 急進展, 商業營農의 促進 등 근대화된 농업 구조로 변모 되어가고 있다.

그러나 한편으로는 우리 經濟의 産業化, 都市化가 進行되는 가운데 農林水產部門과 農漁村은 他部門 보다는 成長速度가 늦어 部門間의 開發 隔差가 늘어나고 特히, 최근에는 農產物 需要減少 및 價格不安定으로 因한 所得伸張의 鈍化 그리고 農林水產業의 資本集約化에 따른 農漁家 負債의 增加等 農漁村 經濟의 어려움이 대두되고 있다.

'87년에는 이러한 農漁村社會의 轉換期的 與件變化에 效率的으로 對處하고 農漁村 開發을 加速化하기 爲하여 農政의 모든 力量을 지난해에 樹立된 農漁村 綜合對策의 本格推進에 두고 今世紀안에 都市에 못지않는 先進 農漁村을 建設한다는 基本目標下에 農漁村 經濟 活性化를 爲한 多角的인 施策을 講究해 나갈 計劃이다.

이를 爲하여 '87年度 農政의 基本方向을

첫째, 多樣化 되어가는 食品消費構造變化에 對應하여 國民食糧을 安定的으로 供給하기 爲하여 主穀自給의 持續과 함께 需要變化에 副應하는 生産體系를 갖추어 나가고

둘째, 農林水産業을 能率的이고 生産性이 높은 技術集約的 産業으로 育成하기 위하여 尖端技術開發과 農林水産業構造改善을 強化하고

셋째, 商業農의 進展에 따라 農業經營의 合理化와 價格安定制度를 效率的으로 運營해 나감과 동시에 이와 併行하여 農外所得源을 集中 開發해 나감으로써 農家所得을 安定的으로 增大시킬 수 있는 基盤을 다져 나갈 것이며

넷째, 農漁村綜合對策의 推進을 契機로 農漁村 成長促進基盤을 擴充하고 農漁村 地域을 便利한 삶의 터전으로 가꾸어 나가기 위하여 農漁村 地域에 生活便益施設 等 福地基盤을 擴充해 나갈 것이다.

第2節 重點施策

1. 쌀 自給의 持續과 밭작物의 擴大生産

國民食生活 패턴이 多樣化 되고 高級化 되어가는 추세에 副應하여 쌀 生産은 良質米 生産을 擴大하는데 力點을 두는 한편 田作物等 需要가 繼續늘어나는 農產物에 對해서는 選別的 擴大生産을 期해 나갈 것이다.

쌀 生産은 지난 6年間 繼續 豐作을 이룸으로써 自給水準이 維持되고 있으나 쌀 消費量의 減少趨勢와 一般系米의 選好傾向을 감안하여 一般系 中心으로 優良品種의 普及을 擴大하는 한편 氣象災害에 對한 徹底한 對備 및 營農脆弱地域에 對한 集中管理를 通하여 今年 目標 3,800萬石을 生産토록 함으로써 7年 連續 豐年農事를 達成 할 計劃이다.

또한 보리는 지난해에 導入된 契約栽培에 對한 農家の 呼應度가 좋아 이를 擴大해 나갈 計劃이며 特히 보리의 食用消費가 계속 줄어들고 있음을 감안하여 農協을 通한 加工業體와의 契約生産을 확대하여 酒精原料 等の 安定的 供給을 圖謀하고 加工食品 開發促進으로 消費擴大를 期해 나갈 것이다.

이와 함께 팥, 콩, 녹두등 國內供給이 不足한 밭作物은 多收性 品種 普及 과 밭 灌水施設의 擴充 等으로 生産性を 높여 나가는 한편 收買豫示制, 多收穫 施賞制 등을 통하여 國內生産能力을 提高시켜 나갈 것이다.

2. 農業構造改善과 資源開發

安定 營農의 實現과 營農의 近代化를 위하여 農業生産基盤을 계속 정비 해 나가고 農業生産性 向上과 能率的인 營農을 뒷받침 하기 위하여 農業構造改善 事業을 적극 推進해 나갈 것이다.

특히 産業化에 따른 離農과 相續 等으로 賃借農의 數가 계속 늘어나고 있는 추세에 대응하여 農地의 賃貸借制度를 定着시켜 나가는 同時에 農地 關聯稅制의 改善, 農地購入資金의 支援등을 통하여 農業經營의 規模化와 漸進的인 耕者有田을 實現해 나갈 것이다.

또한 農業用水開發과 排水改善事業의 強化로 安全營農基盤을 지속적으로 擴充하는 한편 農業機械化의 促進을 위하여 機械化 營農團을 中心으로 勞動力 代替效果가 큰 移秧機, 收穫機 等を 重点供給해 나가고, 아울러 機械化營農의 基盤이 되는 耕地整理事業을 年次的으로 擴大해 나갈 것이다.

이와함께 國內 農林水産賦存資源의 利用을 極大化하기 위하여 山地의 與件에 따라 利用體系를 再定立하여 山地를 生産資源化하고 山地草地造成과 飼料 栽培를 擴大하여 國內飼料 資源을 積極 開發해 나갈 것이다.

3. 農水産物の 價格安定과 流通改善

商業營農의 進展과 함께 營農形態도 市場 販賣를 목적으로 作物을 栽培 하게 되고 유통물량도 크게 增大됨에 따라 農水産物の 需給均衡을 통한價格安定과 함께 유통능률을 提高시켜 나갈 것이다.

이를 위하여 農業觀測과 流通情報의 蒐集·分散體系를 더욱 內實化하여 需要에 알맞는 適正生産을 유도하고 生産者團體를 中心으로 한 自律的인

生産調節과 價格安定帶制度를 效率的으로 運營해 나갈 것이다.

또한 農水產物流通構造의 近代化를 위하여 서울 可樂洞都賣市場을 中心으로 한 圈域別 公營都賣市場網을 단계적으로 構築해 나가고 產地協同出荷機能의 強化와 包裝·規格化事業을 擴大하여 流通能率을 向上시켜 나갈 것이다. 이와 함께 農水產物 加工食品에 대해서도 標準規格化事業을 本格的으로 推進하여 加工食品의 品質改善과 需要擴大를 圖謀해 나갈 것이다.

4. 農漁村所得源과 福祉基盤의 擴充

農業生産의 가장 큰 比重을 차지하고 있는 主穀의 消費增加勢가 둔화되고 飼料穀物을 除外한 大部分의 農產物이 自給水準에 到達함에 따라 農產物의 增産에 의한 所得增大는 많은 制約이 뒤따르고 있으므로 成長農產物의 擴大生産을 통한 所得源의 多樣化와 農漁村工業을 中心으로 한 農外所得源을 大大的으로 擴充해 나갈 것이다.

農業所得源의 多樣化을 위하여 地域特性에 알맞는 所得作目の 開發普及과 營農與件에 맞는 作付體系를 普及해 나가고 지금까지 增産爲主의 技術指導體系에서 經營과 流通을 包含한 綜合支援體系를 確立해 나갈 것이다.

이와 함께 農外所得 增大 基盤을 擴充하기 위하여 '85년부터 本格的으로 推進해온 農工地區造成事業을 擴大하여 農漁村住民의 취업기회를 擴大하는 한편 農漁村 副業團地와 觀光農業開發을 內實化해 나갈 것이다.

아울러 農漁村 住居生活의 質的 向上을 爲하여 農漁村 道路 및 通信 등 社會間接施設을 擴充하고 教育 및 醫療, 文化 등 生活便益施設도 늘려 나갈 것이다.

5. 農漁業 專門人力の 精銳化와 尖端技術의 開發

高度産業 社會로의 進전과 함께 農漁村 人力の 老齡化와 婦女化 그리고 農業資源의 減少趨勢에 對應하여 農漁業專門人力を 確保하여 農漁村開發을

先導해 나갈 수 있는 基幹農으로 育成해 나가고 農業經營의 零細性を 克服할 수 있는 尖端科學技術을 적극 導入하여 農業生産性的의 増大와 競争力을 提高시켜 나갈 것이다.

이를 위하여 지난 '81년부터 추진해온 農漁民後繼者育成事業을 擴大하여 農漁民 後繼者를 精銳指導者로 育成해 나가고 後繼者에 대한 融資金 償還 期間調整등 資金支援條件을 改善하여 效率的인 支援이 되도록 할 計劃이다.

또한 遺傳工學을 비롯한 尖端科學技術을 적극적으로 導入하여 農業生産성을 높여 나가고 이에 따른 研究施設의 擴充과 研究人力의 養成에도 力點을 두어 나갈 것이다.

6. 農漁民의 負擔輕減과 支援強化

農漁村經濟를 活性化하고 나아가 農漁村 經濟體質 強化를 통한 農漁村의 成長促進 基盤을 擴充하기 爲하여 農漁民의 負擔輕減과 農漁村 支援施策을 強化해 나갈 것이다.

이를 위하여 今年에도 農漁村 綜合對策과 關聯한 各種 豫算事業을 本格的으로 추진함은 물론 農漁村 經濟發展에 障礙가 되어왔던 農漁家 負債를 輕減하는 方案을 多角的으로 講究해 나갈 것이다.

이와 함께 늘어나고 있는 農漁村 資金需要를 효율적으로 充足시켜 나가기 위하여 農漁村地域開發基金을 新設하여 농지구입자금, 所得源 擴充, 生活便益 增進을 위한 사업에 中長期 低利로 支援하는 한편 營農期에 資金支援을 強化하기 위하여 營農資金의 供給規模를 擴大하고 支援制度도 改善해 나갈 것이다.

第3節 投資規模

1. 農林水產 資金支援

'87年度에 農漁村과 農林水產部門에 直接投資 또는 融資支援 되는 總資金 支援規模는 지난해보다 33%가 늘어난 7兆 8,639億원으로 그 中 農業生産基 盤造成, 農業機械化, 所得源開發등에 總 9,948億원을 投資하는 한편 中長期 融資金과 營農·營漁資金, 出荷調節資金등 短期性資金으로 3兆 6,341億원을 融資支援하고 政府의 糧穀收買와 農·水·畜協등을 통한 收買資金으로 3兆 2,350億원을 支援할 計劃이다.

<表 2-1-1>

'87年 農林水產資金 支援計劃

(單位: 億원)

	計	投資	融 資			收 買 資 金		
			小 計	中長期	短 期	小 計	糧 穀	其 他
'86	58,992	9,519	23,127	8,154	14,973	26,346	10,957	15,389
'87	78,639	9,948	36,341	12,233	24,108	32,350	11,322	21,028

註: 農漁村의 環境改善 및 生活保護事業은 除外
資料: 農林水產部 企劃管理室

특히 今年에는 農漁村綜合對策의 效率的인 推進을 위하여 農漁村地域開 發基金 2,500億원을 新規로 造成하여 農地購入資金과 所得增大事業, 農漁 村生活環境改善事業 등의 中長期性資金의 供給을 擴大하고 農漁家負債輕減 을 위하여 中長期低利資金 5,000億원, 特別相互金融資金 5,000億원 등 1兆원 의 私債代替資金을 特別支援하여 農漁村經濟의 活性化와 農漁村地域의 均 衡開發에 集中支援할 計劃이다.

2. 農業部門 豫算

'87年度 農業部門豫算은 統合財政收支赤字 改善財源을 包含하여 '86年보 다 15.4%가 增加된 總 1兆 1,233億원으로서 이 中 事業費 豫算은 國家全體 豫算 增加率 10.4%를 훨씬 상회하는 38.4%가 增加된 8,024億원으로 늘어

났다.

'87年度 農業部門豫算은 農漁村 均衡開發을 爲한 綜合對策關聯部門과 農業生産性 向上을 爲한 農業構造改善, 그리고 農漁家 所得源 開發部門에 보다 重點的으로 編成되어 있다.

이를 項目別로 보면 耕地整理와 排水改善 등 營農 近代化를 위한 生産基盤 擴充이 지난해 보다 17%가 늘어난 1,156億원을 支援할 計劃이며 農工地區 造成事業의 擴大과 함께 農村所得源開發事業에 '86年の 2倍水準인 493億원을 투입하고 특히 農漁村地域開發基金의 新設과 함께 農漁村 開發促進을 위한 豫算事業에 1,324億원을 支援할 計劃이다.

<表 2-1-2> 農業部門 豫算規模 (單位: 億圓)

	'86			'87		
	一 般	資 特	計	一 般	資 特	計
1. 事業費	4,236	1,563	5,799	5,995	2,029	8,024
○食糧增産	111	-	111	81	-	81
○農業機械化	63	200	263	81	-	81
○農業用水開發	1,132	292	1,424	1,265	275	1,540
○農業生産基盤擴充	954	32	986	1,108	48	1,156
○大單位農業綜合開發	808	-	808	793	-	793
○防潮堤築造	240	-	240	273	9	282
○農水產物流通改善	293	-	293	269	50	319
○農特事業	25	-	25	25	-	25
○畜産事業	43	-	43	115	-	115
○農業開發	358	950	1,308	323	1,492	1,815
○農村所得源開發	136	77	213	338	155	493
○農漁村地域綜合開發	73	12	85	1,324	-	1,324
2. 經常事業費	126	-	126	125	-	125
3. 基本的經費	311	-	311	334	-	334
(小計)	(4,673)	(1,563)	(6,237)	(6,454)	(2,029)	(8,483)
4. 統合財政收支赤字 改善財源	3,500	-	3,500	2,750	-	2,750
合 計	8,174	1,563	9,737	9,204	2,029	11,233

資料: 農林水産部 企劃管理室

第2章 쌀自給의持續과 밭作物의擴大生産

第1節 쌀自給의持續

1. 쌀生産 計劃

쌀은 科學營農의 實踐과 지속적인 農業生産基盤의 擴充에 힘입어 '81年以後 6年 連續 豐年農事를 이룩함으로써 主穀의 自給基盤이 定着되어가고 있다.

'87年에도 쌀 自給에 必要한 3,800萬石 生産을 目標로 하여 安定營農을 위한 指導와 營農支援을 強化해 나가고 特히, 最近의 쌀 소비 嗜好가 良質米 中心으로 變化함에 따라 米質이 優秀한 一般벼와 良質의 統一벼 中心으로 生産을 擴大할 計劃이다.

또한, 一般벼 栽培擴大에 따른 새로운 病蟲害 發生에 對備하여 病蟲害 事前 豫察體系를 強化하는 한편 週期的인 氣象異變에 對處하여 營農 脆弱地에 對한 地帶別, 要因別 對策을 樹立하고 논물가두기, 못자리 설치 等 時限 營農을 보다 徹底히 履行해 나가고 있다.

<表 2-2-1>

'87年 쌀 生産 計劃

(單位: 千石, 千ha)

	'84	'85	'86	'87 計劃
生産量	39,457	39,071	38,936	38,000
植付面積	1,231	1,237	1,236	1,222

註: '87 植付面積은 모내기 실시 面積임
資料: 農林水産部 農産局

2. 優良品種의 供給擴大

消費選好가 높은 良質米의 栽培擴大에 따라 品種 普及에 있어서도 一般系優良品種의 普及을 '86年度의 32個 品種에서 '87년에는 35個品種으로 늘리는 한편, 一般系와 米質이 對等한 中原벼, 龍門벼 등 統一벼 品種으로 代替 普及해 나가고 있다.

또한 栽培農家の 自律的인 品種選擇에 도움을 주기 위하여 겨울 營農教育을 통해 벼 品種 特性에 대한 教育을 實施하고 全國 4,185個所의 品種比較 展示圃를 設置하여 生育狀態를 直接比較토록 하였으며 農村地域 67千個 全 마을에는 마을當 2~3個所의 揭示板에 地帶別, 毛作別, 土質別 適品種을 推薦揭示하여 農民이 自己논의 特性에 알맞는 品種을 選擇하여 栽培할 수 있도록 하였다.

'87年度 벼 種子 供給 實績을 보면, 一般系 品種의 需要增大로 一般系의 種子の 供給比率이 '86年の 68%에서 '87년에는 86%로 늘어났다.

<表 2-2-2> '87年 벼 種子確保 및 供給實績 (單位: %)

計	普及種	增殖圃産	糧特收買	自律交換및自家確保
60,750	7,324	431	469	52,526

資料: 農林水産部 農産局

3. 適期營農實踐과 低位生産地 集中管理

農業用水의 事前確保, 適期모내기 등 營農段階別로 地域實情에 알맞는 時限營農의 實踐이 段收 增大에 대단히 重要하여 今年에도 못 자리와 모내기 完了時期를 各各 5月 5日, 6月 20日로 設定하고 벼種子 8,244%, P.E 필름 15,638%, 粒劑農藥 23%, 種子消毒劑 27%을 確保, 適期에 供給하는 한편, 모내기 農村일손돕기를 汎國民運動으로 展開하여 모내기를 適期에 完了하였다.

또한 風水害, 旱害, 病虫害, 不實營農 等으로 인한 生産性 低位地域 129千ha에 대해서는 農閑期에 一線行政指導機關, 農協, 農組等 有關機關 合同으로 對策班을 編成하여 脆弱農家에 對한 特別營農教育을 實施하고 地域別, 要因別로 脆弱點을 分析하여 特殊營農計劃을 樹立, 이를 各級機關에 備置活用토록 하는 한편, 指導責任者를 配置하여 營農改善을 誘導해 나가도록 하였다.

<表 2-2-3>

低位生産地現況

(單位: fha)

計	氣象災害				病虫害			不實營農等
	小計	風水害	旱害	冷害	小計	病	虫	
128.6	53.9	49.7	0.6	3.6	26.4	25.6	0.8	48.3

資料: 農林水産部 農産局

4. 氣象災害 事前 豫防 強化

今年에도 氣象異變에 對備하여 氣象災害를 最少化하고 安全營農을 實現하기 위하여 災害類型別로 行動要領을 마련하여 關聯機關別로 例規化하는 한편 災害對策 狀況室의 機能을 補強하여 災害에 따른 對應策을 早期에 講究하여 이를 推進해 나가고 있다.

특히 今年 봄의 가뭄에 對備하여 모내기用水確保對策으로 논물가두기 運動을 擴大 展開함으로써 모내기 推進에 蹉跌이 없도록 하였으며 管井 171千孔, 揚水機 28千台 및 送水호수 4千處등 旱害對策 水利施設物의 事前 点檢을 通하여 旱害豫防에 對備토록 하였다.

또한, 風水害에 對備하여 장마기 以前에 貯水池, 排水閘門等 各種 水利施設物을 事前 点檢하는 한편, 風水害 常習地를 重点 管理토록 하여 農作物 浸水時 즉시 排水作業을 할 수 있도록 人力과 裝備 動員計劃을 마련하고 氣象特報 發令時에는 風水害 對策狀況室을 運營토록 하여 風水害 發生에 迅速 대처하도록 하였다.

冷害의 豫防을 위해서 冷害가 예상되는 地域에는 早熟 耐冷性 品種의 擴大 普及과함께 客土, 珪酸質肥料 施用等 農土培養事業을 優先 推進토록 하고 모내기도 앞당겨 실시하여 後期冷害에 對處토록 하였으며 특히 冷害 憂慮地에 對해서는 機械移秧의 경우 初期 生育이 늦음을 勸案하여 손모내기를 권장하는 한편 水溫上昇을 위한 溫水池, 迂回水路, 비닐튜브 設置等을 推進하였다.

5. 肥料 및 農藥供給과 使用 指導

가. 肥料供給과 均衡施肥

肥料需給의 圓滑을 期하기 위하여 今年度에는 總 836千%을 供給할 計劃이며, 肥料販賣量의 35% 範圍內에서 外上으로 供給하여 農民이 肥料購入을 하는데 隘路가 없도록 할 것이다.

<表 2-2-4>

肥料 供給 計劃

(單位: 成分 千%)

	'75	'80	'85	'86	'87 計劃
單 肥	590	308	260	269	275
複 肥	296	520	547	556	561
計	886	828	807	825	836

資料: 農林水産部 農産局

또한 아직도 肥料의 使用이 窒素 肥料에 偏重되어 있어 病虫害, 倒伏等 災害를 입는 경우가 많으므로 窒素, 磷酸, 加里가 고루 含有된 複合肥料 施用을 권장하여 毛作別, 作物別로 適合한 均衡 施肥가 되도록 誘導해 나갈 것이다.

아울러 全層施肥가 表層施肥 때 보다 增收 效果가 있음을 감안하여 今年에도 모래畝, 塩害畝, 濕畝를 除外한 對象은 710千ha에 對하여는 全層施肥를 履行하도록 營農指導를 強化해 나가고 있다.

<表 2-2 5>

專用 複合肥料

肥 種	벼				보 리			콩		
	못자리用	1毛作用	2毛作用	冷害用						
	18-18-18	17-21-17	21 17 17	15 20 15	10 22 14	8 14 12				

資料：農林水産部 農産局

한편, 南海化學과 締結된 肥料引受 契約 期間이 今年末로 만료됨을契機로 肥料産業을 자유경쟁체제로 轉換시켜 나가기 위하여 年次的으로 肥料輸入을 自由化하고 肥料의 生産 制限을 解除하는 한편 民間의 自由販賣 許容 등을 추진해 나갈 計劃이다.

나. 農藥供給 및 病蟲害 防除

今年度 水稻用 農藥供給은 總所要量의 52%에 該當하는 9.4千噸을 農協에 通하여 適期에 確保 供給할 것이며 또한 突發 病蟲害 發生에 對備하여 農藥原劑 3千噸을 別途로 備蓄함으로써 農藥의 安定的 供給을 期해 나갈 것이다.

病蟲害 防除은 全植付面積에 對하여 9회 程度를 防除할 計劃으로 豫防爲 主의 病蟲害 綜合防除體制를 持續的으로 實施해 나갈 것이다.

이를 爲하여 農村振興廳을 비롯한 全國 151個 豫察所에서 精密豫察과 巡廻觀察을 實施하고 同 豫察結果를 有關機關과 該當農家에 迅速히 通報함으로써 병충해 발생에 早期 대응토록 하고 地域別 共同防除의 徹底한 履行을 爲한 地域單位 責任 防除制를 強化해 나갈 것이다.

특히 病蟲害 發生의 根源的 抑制을 爲하여 客土, 深耕, 有機物 및 珪酸質 肥料 施用 등을 通하여 地力을 높이고 耕種法을 改善하는 한편 病蟲害 傳染源을 撲滅하기 위하여 논, 밭두렁 불태우기運動을 積極 展開하고 越冬 病蟲害 生存量 調查結果를 土臺로 病蟲害 事前防除을 위한 對農民 指導에 積極 活用할 計劃이다.

또한, 病蟲害 發生 常習地에 對해서는 病虫別로 코드화하여 特別管理토록 함과 同時에 全國 16個所에 設置된 綜合防除 示範圃를 對農民 教育場으로 活用하고 既構成된 全國 33千個의 共同 및 用役 防除團을 內實있게 運營하여 防除效果를 높혀 나갈 것이다.

다. 農藥安全使用

農作物의 農藥殘留 防止와 農民들의 農藥撒布時 中毒 事故를 事前에 防止하기 위하여 '86年の 138個 品目에 設定한 農藥安全使用 基準을 '87년에는 191個 品目으로 擴大 告示하였고, 農藥의 包裝紙 說明書에도 이를 表記하도록 하였다.

또한 農民들의 農藥中毒被害 防止를 위하여 무게가 가볍고 防水力이 높은 새로운 防除服 75千着을 國費 및 地方費 70%를 지원하여 供給하고 解毒劑 800千錠을 農協을 통하여 無償供給토록 하였으며 農藥 安全使用을 위한 各種 弘報物의 製作配布와 教育을 擴大 實施해 나가고 있다.

第2節 需要增加에 副應한 밭作物의 擴大生産

1. 推進方向

밭作物은 多收穫品種 開發과 栽培技術 發達로 增産 餘力이 充分히 있으나 他作目에 比하여 相對的으로 收益性에 낮고 또한 農村勞動力 不足 및 作期 競合等 生産與件의 좋지 않아 그동안 栽培面積과 生産量이 每年 減少되고 있는 實情이다.

그러나, 최근 밭작물의 加工需要가 크게 늘어나고 또한 겨울철 遊休資源으로서의 開發 餘地가 크기 때문에 需要가 增大되는 밭作物을 中心으로 選別的 增産施策을 積極 推進함으로서 輸入代替와 農家所得增入을 圖謀해 나갈 계획이다.

보리는 契約栽培로 轉換하여 價格豫示制를 導入함으로써 栽培面積을 安定的으로 擴大해 나가고 콩, 옥수수, 고구마, 참깨, 땅콩등을 農家 希望 全量을 收買하여 販路를 保障하고 多收穫施賞制로 生産性 增大를 誘導하는 한편 地域別 特性에 따라 主産團地 中心의 契約栽培를 擴大해 나갈 것이다.

2. 作目別 生産計劃

가. 보 리

보리는 '70年代 後半까지만 해도 쌀과 더불어 主로 食用으로 利用되어 왔으나 '80年代 以後 食生活의 高級化로 食用 消費가 줄어들고 있을 뿐 아니라 벼와의 作期 競合等으로 栽培面積과 生産量이 계속 감소 추세에 있다.

이에 따라 겨울철 遊休農地의 증가와 함께 南部地域 보리栽培 農家의 所得源을 減少시키는 結果를 招來하였을 뿐 아니라 마늘, 양파등의 過剩生産을 誘發하는 要因이 되기도 하였다.

따라서 보리 生産을 '87년부터 收買物量과 收買價格을 播種前에 豫示하는 契約栽培로 轉換하여 보리의 安定的 增産을 期해 나가고 있다.

'87年産 大稈麥 栽培는 '86. 9월에 前年보다 5%가 引上된 가마당 43,350원의 收買價格을 豫示한 結果 農家 呼應度가 좋아 508千戶가 契約栽培에 參與함으로써 栽培面積이 '86年 보다 11.4%가 增加한 160.4千ha로 늘어났다.

이러한 보리 栽培面積의 增大와 全生育期間을 통한 氣象與件의 好調에 힘입어 금년 6月の 豪雨로 因한 一部 倒伏에도 불구하고 大稈麥 生産은 前年보다 22.8%가 늘어난 2,810千石의 生産되었다.

앞으로도 消費需要가 確保되어 있는 食用 및 酒精用 보리의 安定的 供給을 爲하여 收買量과 收買價格을 播種前에 豫示함으로써 契約栽培를 漸進적으로 擴大해 나갈 計劃이다.

<表 2-2-6>

麥類生産量

(單位：千石)

	大 稈 麥			麥 酒 麥	計
	大 麥	稈 麥	小 計		
'86 (A)	815	1,473	2,288	993	3,281
'87 (B)	980	1,830	2,810	933	3,743
B/A (%)	120.2	124.2	122.8	94.0	114.1

資料：農林水産部 農産局

한편 麥酒麥은 前年보다 栽培面積이 줄어들고 南部地域을 中心으로 作況이 좋지 않아 生産량이 前年보다 6%가 減少되었다.

나. 豆 類

콩, 팥 綠豆等 豆類의 生産량은 '70年代 中盤까지는 增加되는 趨勢였으나 그以後 부터는 生産량이 減少하고 있으며 反面에 豆類需要는 加工用으로의 用途가 늘어남에 따라 每年 늘어나고 있다.

이처럼 國內生産량이 줄어 自給率이 낮아지고 있는 豆類는 生産性 増大를 통한 自給度 提高에 力點을 두고, 多收性 新品種 開發 普及을 擴大하고 生産意慾 高취를 위한 支援를 強化해 나갈 計劃이다.

콩은 '86年보다 47千%이 늘어난 246千%을 生産할 目標아래 増産團地를 51.5千ha로 擴大 造成하고 이들 團地에 優良種子와 複合肥料를 支援하고 있다. 또한 示範團 및 展示團을 邑面에 各1個所씩 全國 2,912個所에 設置하여 營農指導를 強化하는 한편 栽培農家 生産意慾 鼓吹를 위해 多收穫 施賞制를 擴大하고 農家出荷 全量을 收買함은 물론 出荷獎勵金도 60kg 以當 5,000원씩 支給할 計劃이다.

팥, 綠豆에 對해서도 増産을 강화하기 위하여 今年度 生産目標를 팥은 前年보다 4.6%가 增加한 31.9千%, 綠豆는 5.7%가 늘어난 7.4千%으로 定하고 示範團地를 팥은 500ha, 綠豆는 300ha로 擴大造成하고 이들 團地에도 優良

種子和 複合肥料을 콩 增産團地와 同一한 水準으로 支援하는 한편, 適正價格으로 農家出荷全量을 收買할 計劃이다.

<表 2-2-7> 豆 類 生 産 計 劃 (單位：千噸)

	'85	'86 (A)	'87 計劃 (B)	B/A (%)
計	263.7	236.0	285.5	121.0
콩	233.9	198.5	246.2	124.0
팥	24.2	30.5	31.9	104.6
녹두	5.6	7.0	7.4	105.7

資料：農林水産部 農産局

다. 薯 類

감자는 加工食品開發 및 알카리性 食品의 選好趨勢에 따라 그 需要가 漸次 늘어나고 있어, 今年度는 '86年 보다 81千噸이 늘어난 647千噸 (精穀：129千噸)을 生産할 計劃이다.

특히 감자의 加工 消費가 아직도 外國 (日本：36%, 美國：49%)에 比하여 극히 낮은 3~4% 水準이므로 食品 消費性向에 副應한 多樣한 加工 技術을 積極 開發할 것이며, 이와 함께 用途別로 適合한 加工用 감자 品種을 開發普及하고 需要會社와 農家間에 契約栽培를 擴大함과 아울러 周年 生産體系를 確立하여 加工用 감자의 安定生産 基盤을 構築하는데 注力할 것이다.

고구마는 최근 酒精 및 澱粉原料 等 需要가 增加되고 있는데 反하여 相對的 低收益性으로 栽培面積과 生産量이 減少되고 있다. 今年에는 麥後作 栽培地域인 南部海岸 島嶼地方을 中心으로 栽培面積을 擴大하여 地域特化를 誘導함으로써 지난해보다 60千噸이 늘어난 744千噸 (精穀：231千噸)을 生産할 計劃이며, 農家가 希望하는 全量을 收買함으로써 增産을 誘導해 나갈 것이다.

<表 2-2-8>

薯類生産計劃

(單位：生畧千%)

	'85	'86 (A)	'87 計劃 (B)	B/A (%)
計	1,362	1,250	1,391	111.3
감 자	575	566	647	114.3
고 구 마	787	684	744	108.8

資料：農林水産部 農産局

라. 雜 穀

雜穀中 大部分이 飼料로 利用되는 옥수수는 江原道를 비롯한 京畿, 忠北, 慶北地方의 準山間地를 中心으로 栽培面積을 最大한 確保하고 優良 新品種의 擴大 普及 및 多收穫 栽培技術 指導로 生産性を 높여 나가는 한편 農家 出荷全量을 收買함으로써 販路保障과 所得増大를 圖謀해 나갈 것이다.

<表 2-2-9>

雜穀生産計劃

(單位：千%)

	'85	'86 (A)	'87計劃 (B)	B/A (%)
計	146.6	131.4	147.6	112.3
옥 수 수	131.8	113.3	130.5	115.2
조	4.6	3.3	4.1	124.2
수 수	1.6	1.8	2.1	116.7
메 밀	7.3	11.2	9.2	82.1
기 타	1.3	1.8	1.7	94.4

資料：農林水産部 農産局

또한 需要量이 많지 않은 수수, 조, 메밀 등 其他 雜穀에 對해서는 農家 自律 營農에 의거 需要에 맞는 適正生産을 誘導할 計劃이다.

第3節 特用作物 增産

1. 油脂作物

需要가 增加추세에 있는 참깨, 땅콩에 대하여는 增産施策을 積極 推進해 自給度を 높여 나갈 方針이며 今年度 生産目標을 참깨는 49.8千%, 땅콩은 21.1千%으로 定하여 自給率을 95%以上으로 提高시키는 한편, 最少限의 不足物量만을 物價調節用으로 輸入할 計劃이다.

이를 위하여 收買價格을 播種期 前인 4월에 前年보다 5%引上하여 참깨는 223.9千원(1등급, 50kg), 땅콩은 42.1千원(1등급, 피콩 30kg)으로 豫示하였으며 새로운 科學營農 技術을 普及하기 위하여 참깨 2,700個所, 땅콩 810個所의 示範圖를 設置하고 生産團地內 多收穫團地를 造成할 것이다.

또한 增産 誘導를 위하여 生産資金으로 참깨 128億원, 땅콩 40億원 等 總 168億원을 年利 5%로 融資支援하여 栽培農家の 營農費 負擔을 輕減시켜 주고 多收農家 施賞制를 實施하여 栽培農家の 生産意慾을 鼓吹시켜 나갈 것이다.

이와함께 收穫期에는 農家出荷希望全量을 收買하여 安定的 販路確保와 產地價格을 支持해 나갈 計劃이다.

한편 油菜는 契約栽培로 轉換하고 한라 油菜等 優良 新品種의 普及으로 良質의 油菜를 擴大 生産하고 새로운 栽培技術 開發普及으로 生産性 向上을 圖謀해 나갈 것이다.

<表 2-2-10>

油脂作物 生産計劃

(單位:千%)

	'85	'86 (A)	'87 計劃 (B)	B/A
참 개	40.8	48.2	49.8	103.3%
땅 콩	16.3	20.2	21.1	104.5
유 채	6.2	7.8	9.0	115.4

資料: 農林水産部 農産局

2. 버섯, 호프 및 茶

버섯은 건강 食品으로 需要가 점점 늘어나므로 消費者 嗜好에 알맞는 새로운 品種을 開發하여 普及을 擴大해 나갈 計劃이다. 洋松茸에 대해서는 수출을 持續적으로 擴大시켜 나가기 위해 生産性 增大와 品質을 向上시킬 수 있는 栽培技術을 開發 普及해 나가는 동시에 生産獎勵金, 栽培舍 改補修 資金, 種菌生産資金等 27億원을 支援할 것이며, 느타리 버섯도 嗜好 食品으로 需要가 늘어남에 따라 複合營農團地의 栽培農家에게 栽培舍 改補修資金을 支援하는 등 버섯栽培에 對한 支援事業을 擴大하여 버섯類를 새로운 農家所得作目으로 開發해 나갈 計劃이다.

호프는 '86년부터 自給 水準을 維持하고 있으므로 앞으로는 國際競爭力의 제고와 맥주의 消費嗜好에 알맞는 良質의 호프 生産을 위하여 優良 新品種 開發事業을 積極 추진해 나갈 것이다.

茶는 韓國고유의 전통茶로서 最近 消費가 擴大되고 있음을 감안하여 茶園造成, 加工施設 增設, 收買資金 支援 등으로 國產茶 生産基盤을 擴充하는 한편 製品의 品質을 向上시켜 國產茶 消費人口를 底邊擴大함으로써 需要 開發을 통한 農家所得 增大 作目으로 育成해 나갈 것이다.

3. 蠶 業

蠶業은 生産性 向上, 蠶業經營 改善 및 生絲需給 安定에 重点을 두고 養蠶 適地에 50百萬株의 뽕나무를 심어 3,000ha의 密植 뽕밭을 造成하고, 戶當 뽕밭 面積을 30a以上으로 擴大하여 養蠶經營規模를 늘리는 한편, 뽕밭規模가 3ha以上되는 마을單位로 養蠶主產地 2,000個所를 指定하여 애누에 共同 飼育 및 가지뽕치기 등 새로운 養蠶技術을 普及해 나갈 것이다.

또한 生絲類 輸出 增大를 위하여 加工製品의 輸出을 擴大해 나가고 製絲 業體의 經營合理化로 生絲 生産原價 節減과 品質向上으로 輸出競爭力을 높이는 한편 市場多邊化를 積極 推進해 나감으로서 輸出을 安定的으로 增大

시켜 나갈 것이다.

<表 2-2-11>

蠶業振興事業計劃

事業名	單位	'86	'87 計劃
生產基盤			
뽕밭造成	千株	52,000	50,000
蠶主產地마을育成(累計)	個所	1,949	2,000
密植뽕밭비닐被覆	ha	2,961	2,900
生產			
누에고치	%	8,700	9,000
生絲	俵	24,000	31,000

資料：農林水產部 農產局

4. 花 卉

國民生活 向上과 함께 꽃 需要가 繼續 增加하고 있어 지난 '83년부터 年次的으로 꽃產業 育成事業을 擴大 推進해 오고 있다.

<表 2-2-12>

'87年 꽃產業 育成計劃

	事業量	支援額
꽃示範圍地造成	20ha	630 百万원
施設現代化(一般 하우스)	40 "	968
農機械供給(溫風暖房機)	14台	30
優良種苗 生產施設	185坪	77
產地直販場	1,000 "	44
計		1,749

資料：農林水產部 農產物流通局

今年에도 630百万원을 支援하여 5個所에 꽃 示範園地를 20ha 造成할 計劃이며, 아울러 꽃 栽培施設을 現代化하고 溫風暖房機와 優良種苗의 普及을 強化하여 꽃生産基盤을 擴充하는 한편 產地直販場 設置等 꽃流通 近代化를 期해나갈 計劃이다.

第3章 農林水産業 構造改善과 資源開發

第1節 農地制度의 改善

1. 農地賃貸借管理法의 施行

지난해에 制定한 農地賃貸借管理法을 '87. 10. 1부터 施行하기 爲하여 同法 施行令, 施行規則 및 市·郡條例 等 下位法令의 制定과 함께 法의 早期 定着을 爲하여 農地賃貸借 管理制度에 대한 弘報 및 指導啓蒙은 強化해 나

<表 2 3-1> 農地賃貸借管理法 施行令 主要 立法 豫告 內容

區 分	主 要 內 容
賃借料 上限	<ul style="list-style-type: none"> · 當該地域의 慣行 賃借料를 감안하여 市郡 條例로 規定 · 벼의 경우 生産量에 대한 비율로, 기타 농작물은 단위 면적당 금액으로 표시
賃借 期間	<ul style="list-style-type: none"> · 原則的으로 3年 以上 · 人蔘, 果樹 等 多年生 農作物과 담배, 고추 등 連作이 어려운 農作物 例外 認定
賃借料 減免	<ul style="list-style-type: none"> · 平均 收穫量의 20% 以上 減收時 減收 比率에 따라 減免 請求
委託 經營의 制度的 許容	<ul style="list-style-type: none"> · 農地 所有地로 부터 8km 이내 居住 · 과수, 인삼, 약초 및 觀常樹 栽培
農地管理 委員會 委員 委囑	<ul style="list-style-type: none"> · 3年 以上 營農에 從事한 者中 里洞에서 추천하여 市長, 郡守 가 委囑 · 賃貸人과 賃借人 교류 委囑

資料：農林水産部 農漁村開發局

갈 計劃이다.

특히, 法 施行과 關聯한 下位法令에는 地域別로 多様な 貸貸借 慣行을 最大限 反映하여 貸貸人과 貸借人의 權益을 調和있게 保護할 수 있도록해 나갈 것이며, 이를 爲하여 全國 1,517個 市, 邑, 面의 農地貸貸借實態를 調査하는 한편 경기도 안성군 미양면, 전북 옥구군 서수면 및 慶北 성주군 선남면의 3個 地域을 標本地區로 선정하여 農地貸貸借 實態調査와 함께 農地管理委員會를 示範적으로 運營하고 있다.

또한 施行令에 規定할 貸借料 上限, 貸借期間 例外認定 等 主要內容을 '87. 3. 7. 立法豫告를 실시하였으며 豫告期間中에 提示된 農民을 비롯한 各界各層의 意見은 施行令에 最大限 수렴 반영할 計劃이다.

2. 農地購入資金의 支援

農地購入資金은 營農意慾은 강하나 經濟力이 없어 農地를 購入하지 못하는 農民에게 農地資金支援을 通하여 자기 農地를 늘려 營農의 規模化를 유도함으로써 이들을 精銳화된 自立安定農家로 育成하려는데 그 目的이 있다.

이를 위하여 今年中에는 農漁村地域開發基金 등에서 2,000億원을 確保하여 年利 5%, 2年 据置 18年 償還 條件으로 支援할 것이며 支援對象者는 現在 1ha 未滿의 農地를 가지고 있는 農民中 營農意慾과 農漁村 定着意志가 강한 農民을 우선 선발토록 하고, 특히 非農民이 가지고 있는 農地를 빌려 농사를 짓는 貸借農이나 自營農高 卒業者, 農漁民 後繼者를 엄선하여 農地購入 資金을 重點支援할 것이며 支援 時期는 실제로 農地去來가 活潑하게 이루어지는 秋穀 收穫期 以後에 지원할 計劃이다.

3. 農地關聯 稅制 改善

農地制度 改善과 併行하여 漸進적인 耕者有田을 實現하고 農民의 農地購入에 따른 租稅負擔을 輕減시키기 위하여 租稅減免規制法 等 關聯稅法을

改正하여 실제로 農事를 짓기 위하여 農地를 取得할 경우 讓渡人의 讓渡所得稅를 一定範圍內에서 免除하고 自耕農民이 農地 등을 贈與받을 때에는 贈與稅를 免除하는 한편 2年以上 營農을 한者가 農地取得時 取得稅를 減免토록 하였다.

<表 2-3-2>

農地關聯 稅制 改善內容

	現 行	改 善
讓渡所得稅 (租稅減免 規制法)	8年以上 自耕農地 讓渡時 非課稅	'86. 12. 31 現在 農地 所有者가 自耕하는 直系 尊卑屬 또는 兄弟, 姊妹에게 農地등을 '91.12.31 까지 讓渡時 免除 (免除範圍: 農地 6, 草地 30, 山地 60千坪以內)
贈 與 稅 (租稅減免 規制法)	· 配偶者 또는 直系 尊 卑屬으로부터 贈與時 150萬원까지 控除 · 其他親族 으로부터 贈與時 100萬원까지 控除	· 自耕農民이 直系 尊卑屬 또는 兄弟· 姊妹가 '86.12.31 現在 所有하는 農地등을 '91.12.31 까지 贈與받는 경우 免除 · 營農 1子女가 自耕하는 直系尊卑屬으로부터 農地등을 贈與받는 경우 免除 (免除範圍: 讓渡所得稅 免除 時와 同一)
取 得 稅 (地方稅法)	價格의 20/1,000	2年以上 營農한 者가 直接 營農하기 위해서 農地등을 取得하는 경우 50% 減免 (減免範圍: 讓渡所得稅 免除時와 同一)

資料: 農林水產部 農業政策局

第2節 營農의 機械化 促進

1. 農機械 供給 擴大

不足 勞動力에 對處하고 農業生產性 提高를 爲하여 推進하고 있는 農業 機械化 事業은 그동안 水稻作用 農機械를 中心으로 重點 供給한 결과 水稻 作의 境遇 移秧과 收穫作業을 제외하고는 耕耘, 整地作業 等の 機械化率이 70% 以上으로 提高되었다.

<表 2-3-3>

農業機械 供給計劃

(單位：千台)

	'86 末保有	'87 供給計劃	融 資 條 件		
			融 資 率	償 還 條 件	金 利
耕耘機	684	60	70%	1年据置 6年償還	年利 8%
트랙터	16	4	80	1 " 7年 "	"
移秧機	60	14	90	1 " 6年 "	"
바인더	33	8	90	1 " 6年 "	"
콤바인	16	4	90	1 " 7年 "	"
乾燥機	6	2	90	1 " 7年 "	"
其 他	1,170	48	70~90	1 " 4~6年 "	"
計	1,985	140			

資料：農林水産部 農業政策局

그러나 아직도 移秧과 收穫作業은 많은 勞動力을 필요로 하는 農作業인데 反하여 機械化率이 低調하여 今年에는 勞動力 代替效果가 큰 移秧機와 收穫機를 重点 供給해 나갈 것이다.

이와함께 그동안 機械化가 不振했던 田作, 園藝分野에 對해서도 機械化를 推進하기 위하여 管理機와 스피드 스프레이어 등의 新開發機種을 적극적으로 供給해 나갈 것이다.

'87年度 農機械供給計劃을 보면 移秧機는 前年보다 2千台가 늘어난 14千台, 바인더, 콤바인等 收穫機는 各各 8千台, 4千台, 乾燥機는 2千台를 供給하는 한편, 그동안 普及이 一般化된 耕耘機, 防除機, 揚水機, 脫穀機 등은 代替需要를 充當하는 水準에서 供給할 것이다.

農機械 普及擴大와 併行하여 農民의 農機械 購入에 따른 負擔輕減을 위하여 移秧機와 收穫機, 그리고 今年에 新規로 供給하는 田作, 園藝用 管理機와 스피드 스프레이어에 대해서는 購入金額의 90%를 融資 支援하는 한편, 기타 機種에 대해서도 購入金額의 70~90% 水準을 融資支援하고 있으며, 融資金利도 '86年の 金利 10%에서 8%로 引下하였다.

이러한 融資支援에 따른 財源으로 農業機械化 促進基金 320億원, 國民投資基金 300億원, 農協資金等 總 1,250億원을 確保하여 前年보다 約 200億원이 많은 總 1,870億원의 農業機械化資金을 支援할 計劃이다.

2. 機械化營農團 擴大育成

農機械 利用度 提高와 農家の 農機械 購入에 따른 負擔輕減을 위해 繼續 擴大 育成하고 있는 機械化營農團은 '86년까지 5,885個所가 設置되어 營農 機械化的 核心 組織體로서 先導的 役割을 擔當해 오고 있다.

今年에는 機械化 營農團을 前年の 1,100個所 보다 大幅 擴大한 3,176個所를 새로이 늘리는 한편 育成體系도 地域與件을 勘案하여 大規模 營農團과 小規模 營農團으로 二元化하여 體系的인 育성이 되도록 할 計劃이다.

大規模 機械化 營農團은 平野地 및 耕地整理된 地域을 中心으로 10戶 以上 農家로 構成하고 이들 大規模 營農團에는 個所當 事業비 13,360千원 中 補助 40%, 融資 50%를 支援하여 移秧機, 콤바인, 乾燥機를 中心으로 供給할 것이며, 또한 今年에 新規로 育成하는 小規模 營農團은 中山間地를 中心으로 5戶 以上 農家로 構成하고 個所當 事業費 4,414千원 中 補助 40%, 融資 50%를 支援하여 移秧機와 바인더를 供給함으로써 耕地整理가 되지 않은 地域에도 機械化가 가능하도록 할 計劃이다.

<表 2·3·4>

機械化 營農團 育成 計劃

(單位: 個所)

	'84 까지	'85	'86	'87 計劃	計
計	3,685	1,100	1,100	3,176	9,061
大 規 模	3,685	1,100	1,100	2,022	7,907
小 規 模	—	—	—	1,154	1,154

資料: 農林水産部 農業政策局

3. 農機械事後奉仕와 技術訓練의 內實化

農機械 普及이 擴大됨에 따라 農機械의 效率적이고 迅速한 修理奉仕 體系의 確立이 크게 要請되고 있다. 따라서 既存에 설치된 邑·面 修理店 2,411 個所, 市 郡 代理店 654 個所, 道單位 綜合整備施設 28 個所의 事後奉仕 機能을 內實化하고 今年에도 修理店 50 個所, 綜合整備施設 8 個所를 新規로 擴充할 것이며, 農機械 部品の 圓滑한 供給을 爲하여 代理店은 30 百萬元, 修理店은 10 百萬元까지 總 40 億원을 融資支援하여 充分한 部품을 確保토록 할 計劃이다.

한편, 每年 3 月을 農機械 一齊點檢整備의 달로, 4 月, 5 月, 8 月을 定期 全國 巡廻事後奉仕의 달로 定하여 業體, 代理店, 行政 및 指導機關이 合同으로 無料 修理奉仕를 實施하는 한편 行政機關에 修理奉仕申告센터를 設置 運營하고 部品の 價格表示制를 實施하는 등 對農民 서비스를 強化해 나가고 있다.

또한 農機械의 安全使用과 農民의 自家修理 能力을 向上시키기 위하여 農機械生産 業體의 訓練施設을 擴充하고 農村指導所 및 道農民教育院에 트랙터, 콤바인, 관리기등의 訓練裝備를 補強해 나갈 것이며 農機械 實需要者, 婦女子, 靑少年 등 150 千名을 對象으로 技術訓練을 實施하고, 訓練內容도 종전의 運轉操作技術 위주에서 脫피하여 使用者가 간단한 故障은 修理할 수 있도록 簡易整備訓練을 併行해 나갈 것이다.

第3節 農業生産基盤의 擴大造成

安定營農와 農地利用의 效率性を 提高하기 위하여 推進하고 있는 農業生産基盤 造成事業은 그동안 每年 3 千億원에 達하는 政府 投資와 支援으로 많은 成果를 이룸으로써 營農 近代化와 豐年農事 實現에 크게 寄與해 왔다.

그러나 아직도 營農期의 물 不足現狀과 集中豪雨등 氣象災害가 자주 發生되고 있을 뿐 아니라 機械化의 進展과 함께 農耕地 整備의 必要性이 크게 대두되고 있어 耕地整理, 排水改善, 農業用水開發等 農業生産基盤을 持續적으로 擴充해 나갈 計劃이다.

특히 今年에는 農業機械化와 農地 汎用化을 위하여 耕地整理와 排水改善 事業을 擴大 推進하고 農業用水開發은 完工爲主로 推進하여 安全營農을 爲한 事業 效果를 최대한 거양하는 한편 밭作物 生産性 增大를 爲한 밭 生産 基盤 擴充事業도 보다 強化해 나갈 것이다.

1. 耕地整理事業의 擴大

機械化 營農의 基盤이 되는 耕地整理 事業은 總 對象面積 706 千ha中 86 年까지 467 千ha를 開發함으로써 耕地整理率은 66%로 提高되었으나 農業 機械化의 促進과 農民의 開發 需要가 많은 점을 고려하여 현재 平野部 中心으로된 對象面積을 90年代初까지 完了토록 하고 아울러 中山間地帶까지 耕地整理事業을 擴大하는 방안을 講究해 나갈 計劃이다.

今年度 耕地整理 事業은 '86年 가을에 着手한 20 千ha를 '87年 5月末까지 마무리 하였고 今年 가을에는 事業量을 擴大하여 25 千ha를 新規로 着手할 計劃이다.

또한 營農條件이 不利한 山間畝地帶에 대해서는 논두렁 바로잡기, 합배미와 客土事業의 一括施行으로 機械化와 地力增進 效果를 동시에 거양토록 할 計劃이며 小型農機械에 의한 營農이 可能하도록 農路開設事業도 併行해 나갈 것이다.

이와함께 '86年度에 示範적으로 추진하고 있는 밭 耕地整理事業도 100ha를 追加로 施行하여 밭作物의 生産性 向上을 圖謀해 나갈 것이다.

2. 大單位 農業綜合開發 事業

農地開發, 用水路 開設, 耕地整理 等を 綜合開發하는 大單位 農業綜合開發 事業은 '86년까지 錦江, 平澤, 慶州, 界火島, 榮山江(I), 昌寧, 臨津, 洛東江 및 南江地區 等 9個地區를 完工하고 現在 7個地區에 對하여 綜合開發事業을 推進하고 있다.

'87年度에는 계속지구 7個所 89千ha에 對하여 事業費 741億원을 投入하여 工事 進도를 61%로 제고시킬 計劃이다.

地區別로 보면 論山·插橋川·美湖川地區는 各 1個所의 貯水池 또는 揚水場과 2,578ha의 耕地整理 等 마무리 工事を 施行中에 있으며, 榮山江(II) 段階와 大湖地區는 水源工(揚水場 3個所)과 耕地整理 424ha를 推進하고 防潮堤築造後 造成된 內部 干拓豫定地中 新規로 着工한 2,492ha와 既 推進中인 2,875ha를 포함한 5,367ha에 對하여 繼續 開畝 工事を 實施하여 '87年末까지 709ha를 完工할 計劃이다.

<表 2-3-5>

大單位 農業綜合開發事業 (繼續地區)

(單位: 百万원)

	開發面積 (ha)	事業期間	總事業費	總事業費			累計進度 (%)	
				'86까지	'87計劃	'88以後	'86까지	'87
榮山江(II)	20,700	'78~'91	234,450	152,183	11,800	70,467	65	70
論 山	10,800	'78~'89	82,890	66,820	8,100	7,970	81	90
插 橋 川	24,700	'75~'90	182,000	154,659	14,500	12,841	85	93
美 湖 川	12,665	'77~'88	103,800	86,465	8,500	8,835	83	91
錦 江	-	'83~'89	92,700	50,990	21,500	20,210	55	60
大 湖	7,700	'80~'93	147,000	75,743	8,322	62,935	52	57
榮山江(III)	12,200	'85~'94	243,000	2,500	1,427	239,073	1	2
計	88,765		1,085,840	589,360	74,149	422,331	54	61

資料: 農林水産部 農漁村開發局

또한 防潮堤 築造 工事中인 錦江地區는 排水閘門 設置 工事を 完了한 後
임시 물막이를 除去함과 同時에 防潮堤 盛土作業을 施行하고 榮山江(Ⅲ-1)
地區도 防潮堤 着工을 爲한 準備工事を 推進할 計劃이다.

3. 安定營農基盤의 持續的 擴充

가. 農業用水開發 事業

灌溉面積이 50ha 以上인 地域을 開發對象으로 推進하고 있는 中規模 農
業用水 開發事業은 '87年에 貯水池 55地區, 揚水場 17個地區를 對象으로 貯
水池, 揚水場 等 水利施設과 導水路 및 用水路 等 事業을 推進하여 올해 13
個地區 15,040ha를 竣工할 計劃이며 灌溉面積 50ha 未滿인 地區에 對해 推
進하고 있는 小規模 農業開發事業은 '87年度에 104地區 3,200ha를 施行하여 38
地區 1,012ha를 竣工하도록 할 計劃이다.

또한 旱魃尤甚地域에 對해서는 簡易用水施設을 設置할 計劃으로 '87年에
는 小型管井 16,400孔을 開發하고, 河川의 汎流水나 淺水를 利用하여 旱魃
時 揚水機를 附着하여 給水하는 移動式 揚水施設도 82個所를 設置하고 아
울러 下流部에 退水를 再利用하여 貯水能力을 높이는 補強開發은 大型
機械管井 및 放射狀 集水井을 設置하여 年內에 289ha를 開發할 計劃이다.
한편 水利施設 改補修 事業은 農地改良組合이 管理하고 있는 施設中 老
朽한 230個所를 改補修할 計劃이며 水利施設 改補修에 따른 農民負擔을
輕減하기 爲하여 支援條件을 從前의 融資 70%, 自負擔 30%를 國庫
補助 70%, 融資 30%로 調整하였다.

또한 恒久的 用水施設 開發이 적합하지 않는 地域에 對해서는 小型管井,
移動式 揚水施設등 簡易用水 施設을 開發하는 한편 管井, 揚水裝備들에 대
해서도 營農期 以前인 4月末까지 点檢·整備를 完了함으로써 營農初期의
물不足에 對備토록 하였다.

나. 排水改善 事業

排水場 排水開門의 設置와 排水路를 完備하여 集中豪雨로 因한 農耕地 浸水 및 流失을 防止하기 爲한 排水改善 事業은 앞으로 10年內 完了한다는 目標아래 그 對象面積 127千ha中 '86年度까지 31%에 該當하는 39千ha를 開發하였고, '87년에는 總事業費 324億원을 投入하여 18地區 6千ha를 竣工 하고 66地區 16千ha는 新規 着工함으로써 排水 改善率을 36%로 提高시킬 計劃이며 特히 排水改善 事業은 準用河川의 改修와 연계하여 浸水 常習地 域을 우선적으로 開發하여 事業效果를 極大化해 나갈 것이다.

다. 營農條件 落後地域 開發

營農條件이 落後된 地域을 開發하기 爲하여 今年에는 事業地區를 크게擴 大하여 全國 157個所 2,928ha에 대한 在來 들쭉 改良事業을 推進하여 이를 年內에 完工할 計劃이다.

아울러 耕地整理對象에서 除外되었던 中山間部의 傾斜地畝地帶에 대해서 도 簡易耕地整理事業을 推進하여 落後地域의 均衡開發을 圖謀하는 한편 既 施行 完了한 地域에 對하여도 再開發事業을 推進할 計劃이다.

4. 農地保全 및 擴大

食糧의 安定的 供給基盤을 擴充하기 爲하여 優良하고 集團화된 絶對農 地의 他目的 轉用을 抑制하고 또한 工場, 住居用地를 可及的 林野 等 非農 地를 活用토록 誘導하는 한편, 農地轉用時에는 代替農地 造成費를 負擔토 록 함으로써 農地轉用の 抑制와 農地造成 財源을 確保해 나가고 있다.

한편, 農地擴大 事業은 埋立與件이 좋은 西南海岸 干瀉地 400千ha를 中心으로 開發할 計劃으로 '87년에는 西南海岸 및 榮山江(Ⅲ-1) 地區 等 33千ha의 干拓事業을 施行中에 있다.

<表 2 3-6>

'87年 農業基盤 造成事業 計劃

(單位：百万원)

事業名	事業量		事業費				
			計	國庫	資特	地方費	其他
1. 農業用水開發			143,487	102,714	27,451	8,495	4,827
中規模	72地區	46,981ha	84,767	60,103	24,664		
小規模	地表水	104 "	3,200ha	15,203	10,642	3,041	1,520
	地下水	大型管井	288孔	5,958	4,171	1,469	318
補強開發	地表水		7,346ha	12,999	9,099	2,600	1,300
	地下水	大型管井	62孔	1,753	1,227	431	95
		防射狀集水井	5個所				
地下댐	3個所	160ha	1,435	1,220	215		
	小型管井	16,400孔	6,266	5,013			1,253
旱魃對備	移動式揚水施設	82個所	4,291	3,433		154	429
	送水호스	200km	300	300			
水利施設 改補修		230個所	8,572	6,000	2,572		
團藝主産團地 用水開發		2,272ha	2,360	1,652		521	187
濟州道 地下水	착정利用	10孔	558	279		279	
調査事業 等	水脈調査等	5,000ha	1,775	1,775			
2. 耕地整理		20,000ha	136,245	83,165	17,649	26,540	8,891
3. 排水改善	85地區	22,570ha	32,421	27,604	4,817		
4. 農地造成	7地區	16,931ha	26,653				26,653 (農地基金)
5. 防潮堤 補修	25地區		4,600	3,680	920		
6. 大單位農業綜合開發	7地區	88,765ha	74,147	74,147			
計			417,553	291,310	50,837	35,035	40,371

第4節 國內 賦存 飼料資源의 擴大開發

國內 家畜 飼育規模가 增加하고 있는데 비하여 國內 飼料 生産은 이에 미치지 못함으로써 配合飼料 依存度가 계속 증가 趨勢에 있으며, 앞으로도

쇠고기 및 牛乳 等 畜産物의 消費는 지속적으로 擴大될 展望이므로 國內 飼料 資源의 積極的인 開發利用이 크게 要請된다. 따라서 家畜飼育 增加에 따라 늘어나는 飼料 需要를 充足시키고 飼料穀物의 海外 依存度를 줄여나가기 爲하여 草地로 利用可能한 山地를 積極 開發하고 풀飼料增産으로 풀 飼料 급여율을 提高하는 한편 國內 賦存飼料 資源인 벼짚, 보리짚 等の 飼料 利用度를 높여 나갈 計劃이다.

1. 草地造成事業의 內實化

草地 造成은 地域與件과 經濟性을 감안하여 利用 可能한 面積을 최대한 開發해 나간다는 目標아래 今年에는 實需要 위주의 示範 開發로 6千ha를 造成할 計劃이며 草地 造成 對象者와 對象草地는 現地 居住 소 飼育農家 等 實需要者를 中心으로 關係部署와 合同으로 適地 調査를 實施하여 嚴選하고 草地造成 農家에 대한 事前 技術教育과 指導를 強化하는 한편 草地 造成과 연계한 畜舍施設費도 支援할 것이다.

또한 既成草地의 事後管理에도 徹底를 期하여 모든 草地를 優良 草地化하는 補完事業을 推進하며, 既造成된 團地草地 9個所와 農高草地 48個所는 示範教育場으로 活用해 나갈 計劃이다.

아울러 草地 造成 節次를 簡素化하기 爲하여 山林保全 地域中 40ha規模 미만에 대하여는 用途地域 變更 承認制度를 排除하여 草地造成 許可를 받으면 山林法에 依한 保全林地의 轉用許可를 받은 것으로 看做토록 하였다.

2. 飼料作物 栽培擴大

겨울철 遊休農地를 利用하여 호밀, 이탈리아안라이그라스 等を 栽培하는 畝裏作 飼料 作物栽培는 耕地 利用率 및 粗飼料 自給度提高와 遊休勞動力의 生産化面에서 效果가 크므로 이를 積極的으로 擴大 推進할 計劃이다.

이를 위하여今年에는 전년에 비하여 15千ha가 增加된 115千ha를 栽培하여 良質의 粗飼料를 生産 利用할 計劃이다.

<表 2-3-7>

畜 飼料 栽培面積

(單位：千 ha)

	'85	'86	'87 計劃
草 地 (累計)	81	85	91
畝裏作飼料作物	86	100	115
青刈作物	69	104	120
計	236	289	326

資料：農林水産部 畜産局

한편 青刈飼料作物도 前年보다 16千ha가 늘어난 120千ha를 栽培할 計劃으로 옥수수, 수수, 수단그라스, 유채 等 季節과 地域與件에 適合한 作物을 栽培하여 越冬用 粗飼料로 活用 할 것이다. 또한 良質 山野草의 利用 擴大를 위하여 '87. 7月부터 4個月을 乾草增産期間으로 設定하고, 部落單位 共同作業을 통한 增産運動을 展開하여 2,400千%의 乾草를 生産 利用할 것이며 이와 함께 糞飼料의 圓滑한 流通을 위하여 糞飼料 去來市場을 16個所로 擴充할 計劃이다.

3. 國內 賦存飼料資源의 開發 利用

國內 賦存 飼料資源인 볏짚, 보리짚 等に 암모니아가스 處理로 볏짚의 飼料로서의 効用을 增進시켜 農家에서 손쉽게 利用할 수 있도록 볏짚아모니아 處理事業을 擴大하여 今年에는 지난해 보다 45千%이 늘어난 135千%의 암모니아處理 볏짚飼料를 生産 利用할 計劃이다.

아울러 볏짚, 보리짚 이외에도 飼料原料로서 活用이 가능한 國內 賦存資源을 最大限 活用하기 爲하여 國內産 옥수수 59千%, 大豆 20千%을 飼料原料로 供給하고, 糠麩類, 魚粉等의 飼料 利用을 擴大해 나갈 計劃이다.

第4章 農水産物の 價格安定과 流通改善

第1節 果菜類의 需給 및 價格安定

1. 菜蔬類

菜蔬類는 價格動向에 따라 栽培面積의 變動幅이 심하고 個別農家의 自律的인 生産 및 出荷調節에도 限界가 있어 需給不均衡으로 인한 價格不安定 現象이 자주 發生하고 있다.

따라서 生産段階에서부터 菜蔬類의 適正生産을 誘導하기 위하여 播種期 以前에 植付意向을 調査 分析하여 流通予告를 實施하고 地域單位에 組織된 流通改善協議會를 通하여 生産者團體中心으로 生産과 出荷를 自律적으로 調節토록 유도해 나가고 있다.

最近 栽培面積이 계속 增加되고 있는 고추, 마늘, 양파등 양념류에 대하여는 主産團地 栽培農家로 부터 事前에 栽培豫定 面積을 調査하여 이를 토대로 全體 需給과 連繫한 適正面積으로 調節하기 위하여 栽培農家와 產地 農協이 生産 出荷約定을 締結케 하여 生産調節을 誘導하는 한편 約定 農家에 대하여는 系統出荷와 收買事業을 優先적으로 實施함으로써 양념류 需給 調整體系를 強化해 나갈 것이다.

또한 양념類에 對하여는 價格動向에 따라 收買備蓄 또는 放出함을 통하여 價格을 一定水準에서 安定시키는 價格安定帶制度를 補完發展시켜 나가는 한편 특히 今年度 收穫이 끝난 마늘과 양파의 경우는 生産량이 適正生産量 以上이 되었기때문에 出荷調節資金支援擴大, 풋마늘 出荷와 消費促進, 政府收買 및 民間收買支援, 輸出推進등 多角的인 價格安定對策을 推進해 가고 있다.

<表 2-4-1>

菜蔬類 生産計劃

(單位：千ha, 千%)

	'86		'87 計 劃	
	面 積	生 産 量	面 積	生 産 量
計	389	8,496	357	7,570
무 우	38	1,705	36	1,514
배 추	48	3,409	40	2,775
고 추	129	198	110	165
마 늘	48	370	40	280
양 과	10	379	11	400
기 타	116	2,435	120	2,436

資料：農林水産部 農産物流通局

한편 貯藏性이 弱하고 一時에 流通物量이 많은 무우, 배추에 대하여는 收穫期 洪水出荷로 因한 價格下落防止와 農家の 販賣處 確保를 위하여 出荷 調節事業의 擴大와 함께 産地 農協을 中心으로 大量 需要處와의 契約栽培 및 直去來를 積極的으로 推進하여 價格安定을 圖謀할 計劃이다.

<表 2-4-2>

菜蔬類 價格安定事業 計劃

(單位：千%, 百萬元)

	'85		'86		'87 計 劃	
	物 量	支 援 額	物 量	支 援 額	物 量	支 援 額
收買備蓄	103.2	15,092	16.5	30,214	3.4	61,965
고 추	1.5	7,480	8.0	23,444	18.0	54,000
마 늘	20.5	5,866	8.5	6,770	11.0	7,500
양 과	81.2	1,746	--	-	5.0	465
出荷調節	214.1	10,214	300.6	15,476	331.0	18,336
봄 채 소	16.8	909	34.8	1,891	36.6	2,100
고 냉 지 채 소	61.1	2,674	69.7	3,080	72.0	3,136
김 장 채 소	113.5	2,794	167.6	3,877	179.4	4,400
마 늘	4.7	2,574	9.5	5,297	18.0	7,200
양 과	18.0	1,263	19.0	1,331	25.0	1,500

資料：農林水産部 農産物流通局

2. 果 實 類

果實 需要에 安定的으로 對處해 나가기 위하여 今年度の 果實類 生産은 '86對比 6%가 增加된 1,569千%을 生産할 計劃이며 果實生産基盤을 擴充하기 爲하여 野山 開發 및 低位生産 農地를 活用한 新規 果園造成을 段階的으로 擴大해 나가고, 既存 在來品種에 對한 新品種更新事業도 持續的으로 推進해 나갈 것이다.

또한 果實類의 安定生産을 위하여 熟期別로 優良品種을 安排하여 植栽토록 誘導하고 果種別로 安全栽培地帶를 設定하는 한편 凍害, 旱害 등 氣象災害防止에 力點을 들 계획이다.

〈表 2-4-3〉 果 實 類 生 產 計 劃 (單位：千ha, 千%)

	'86		'87 計 劃	
	面 積	生 產 量	面 積	生 產 量
計	112.2	1,475.2	114.8	1,568.5
사 과	36.4	537.7	37.0	571.6
배	9.0	135.1	9.2	139.1
복 승 아	14.5	138.7	14.5	117.4
포 도	17.0	165.5	17.0	165.4
단 감	8.5	64.6	9.0	72.8
감 굴	16.8	339.5	17.3	402.5
기 타	10.0	94.1	10.8	99.6

資料：農林水産部 農產物流通局

한편 果實類 需要開發을 위하여 優良品種更新과 함께 商品性 提高를 위한 봉지栽培獎勵 및 選果機 普及을 적극적으로 推進하고 新規 輸出市場의 積極的인 開拓으로 輸出需要를 擴大시켜 나갈 計劃이다. 特히 今年에는 一部 果樹栽培農家에서 輸入使用하고 있는 果樹用 特殊封紙를 國內에서 製造 供給하기 위하여 農水産物流通公社에 果樹栽培用 特殊封紙工場을 建設토록

하여 農家에게 低廉하게 供給함으로써 果實의 品質向上을 통한 國際競爭力 提高와 外貨節約을 圖謀해 나갈것이다.

또한 收穫期 洪水出荷로 인한 價格下落을 防止하기 위하여 사과·배·감 귤 등에 대한 收買備蓄과 出荷調節事業을 擴大해 나가며 이를 위하여 農水 產物價格安定基金에서 지난해보다 77%가 늘어난 229億원을 支援할 計劃이다.

〈表 2-4-4〉 果實類價格安定事業計劃 (單位：千噸, 百萬元)

	'85		'86		'87 計 劃	
	物 量	支 援 額	物 量	支 援 額	物 量	支 援 額
收買備蓄	95.4	7,086	75.7	6,727	115.5	13,178
사과·배	17.9	2,721	19.7	3,333	30.6	7,940
복숭아	3.8	256	8.6	593	7.7	850
포도	8.1	933	5.9	612	6.6	1,388
감 귤	65.6	3,176	41.5	2,189	70.6	3,000
出荷調節	25.0	5,145	27.0	6,212	39.5	9,707
사 과	15.0	3,255	19.8	4,840	25.0	6,737
감 귤	10.0	1,890	7.2	1,372	11.5	2,290
배					3.0	680

資料：農林水産部 農產物流通局

第2節 畜產物 需給 및 價格安定

1. 소

畜產物中 쇠고기는 그동안 國民所得 增加와 함께 消費가 급격히 늘어나 國內生産이 不足하여 一部 輸入을 통해 需給安定을 圖謀하여왔으나 '85年以後 소 飼育頭數가 크게 增加하면서 쇠고기 소비확대와 함께 쇠고기輸入을 中斷하여 國內生産으로 需要를 充當해 오고 있다.

'87年度에도 產地 소값 및 쇠고기 需給安定을 위하여 適定飼育頭數를 유지하는데 역점을 두고 全國의 地域畜協 및 家畜市場에 出荷相談室을 設置 運營하는 한편 畜協을 통한 委託販賣制를 實施하는등 農家の 自律的인 出荷 및 入殖調節을 誘導해 나갈 것이다. 또한 家畜市場의 開設 및 管理體系에 있어 現在 開設은 市長·郡守가 하고 運營과 管理는 地域畜協이 하는 二元化된 體系를 畜協組合으로 一元化하는 方案을 講究하는 한편 쇠고기의 連動價格制를 部位別 差等價格制로 段階的으로 轉換해 나갈 계획이다.

<表 2-4-5> 家畜飼育頭數와 價格動向

		'84. 末	'85. 末	'86. 末	'87	
					3月	6月
飼育頭數	소	2,652千頭	2,943	2,807	2,614	2,604
	돼지	2,958	2,853	3,347	3,516	4,021
	닭	46,483千首	51,081	56,094	54,501	64,599
產地價格	큰숫소(頭)	1,341千원	950	941	934	1,067
	成豚(頭)	128	159	125	109	125
	肉鷄(kg)	908	953	854	836	873

資料：農林水産部 畜産局

2. 돼지와 닭

가. 돼지

돼지는 '84年 下半期부터 現在까지 3年以上 長期間 好況이 持續되어 養畜 農家の 新規 參與 및 副業農家の 飼育頭數增加등으로 '86年 下半期부터 돼지 飼育頭數가 急激히 增加하는 추세에 있으며 특히 母豚 飼育頭數의 增加로 '88년에는 生産過剩이 憂慮되고 있다.

따라서 適正飼育頭數 維持를 통한 養畜農家保護를 위하여 畜産觀測 및 弘報의 內實化와 함께 生産者 團體를 中心으로한 自律生産調節을 誘導하는 한편, 豚舍 新·増築을 抑制하고 畜協, 企業養畜農家 및 副業養畜農家を 連

繫한 系列化生産體制를 定着시켜 나가고 또한 國際競爭力을 提高해 나갈수 있도록 家畜改良事業을 強化하여 品質向上을 期함으로써 輸出擴大를 圖謀하는등 養豚業의 長期發展基盤을 造成해 나갈 것이다.

나. 닭

養鷄產業도 需要에 알맞는 適正生産을 위하여 畜産觀測 및 弘報活動을 強化하고 生産者團體를 통한 自律的인 生産調節과 消費擴大를 誘導해 나갈 것이다.

또한 닭고기의 計劃生産體制를 確立하기 위해 '85년부터 推進하고 있는 系列化生産事業을 擴大하고 鷄卵 集産地에 鷄卵等級·包裝센터의 設置等 流通構造를 改善하는 한편 長期的인 改良目標의 設定과 養鷄關聯産業의 整備로 養鷄業의 安定的인 성장을 도모해 나갈 것이다.

<表 2-4-6>

肉類需給展望

(單位：千噸)

		'85	'86	'87 展 望
쇠 고 기	需 要	120	148	153
	供 給	120	148	153
	(國 內 産)	115	144	153
	(前 年 移 越)	5	4	
돼 자 고 기	346	320	365	
닭 고 기	126	129	134	

資料：農林水産部 畜産局

3. 牛 乳

牛乳는 젖소 飼育頭數의 增加와 生産性 向上으로 牛乳 供給量이 계속 늘어남에 따라 '85년부터 牛乳의 滯化現象과 함께 粉乳在庫量이 늘어나고 있다.

따라서 牛乳의 需給 및 價格安定을 期하기 위하여 '87年度에도 學校牛乳

給食을 지난해보다 크게 늘리고 牛乳加工製品을 積極開發하여 消費를 促進시키는 한편 低能力牛의 과감한 淘汰와 젓소송아지 母乳먹이기 등을 통해 生産調節을 誘導해 나갈 것이다.

〈表 2-4-7〉 牛乳需給動向 (單位：千%)

		'85	'86	'87 推 定
牛乳	供 給	1,047	1,211	1,404
	消 費	990	1,162	1,344
	年 末 在 庫	57	49	60
젓 소 飼 育 頭 數(千頭)		390	437	491

資料：農林水産部 畜産局

第3節 政府糧穀의 需給管理制度 改善

1. '87 糧穀需給計劃

'87糧穀年度에는 지난해보다 5.4%가 늘어난 18.5百萬%을 供給할 計劃이며 이중 쌀과 보리, 그리고 薯類는 國內 生産으로 供給해 나가고 國內生産 微微한 밀과 飼料利用이 많은 옥수수과 콩은 不足分을 外國으로 부터 導入 充當할 計劃이다.

따라서 '87糧穀年度の 糧穀自給度는 加工用糧穀 및 飼料穀物의 需要增加로 지난해보다 0.5% 낮은 44%로 展望되며 飼料穀物을 除外한 純食糧自給度는 지난해와 같은 67.8%로 展望된다.

한편 쌀需要는 1人當 消費量이 86年の 127.7kg에서 127.0kg 水準으로 減少될것으로 展望되나 인구 增加로 全體需要量은 5,603千%(39,000千石)水準에 이를 것으로 展望되며 지난해의 生産量이 需要量에 미치지 못함으로써 次年移越量은 前年보다 다소 줄어든 1,255千%이 될것으로 豫想된다.

〈表 2-4-8〉

'87 糧穀年度 全體糧穀需給計劃

(單位：千噸)

		計	쌀	보리쌀	밀	옥수수	콩	서류	其他
供給	前年移越	2,159	1,251	163	280	278	28		159
	生産	7,043	5,607	711	5	113	199	336	72
	導入	9,331			2,050	4,221	1,069		1,991
	計	18,533	6,858	874	2,335	4,612	1,296	336	2,222
需要	食糧	6,814	5,344	137	984	55	97	139	58
	加工	3,128	46	349	1,059	1,213	300	139	22
	飼料	5,619	-	9		2,870	777	9	1,954
	種子	101	45	30	-	1	7	15	3
	減耗其他	336	168	57	12	31	16	34	18
計	15,998	5,603	582	2,055	4,170	1,197	336	2,055	
次年移越		2,535	1,255	292	280	442	99		167
1人當消費量 (kg)		178.6	127.0	3.2	31.5	2.9	9.3	3.3	1.4
自給度 (%)		44.0	100.1	122.2	0.2	2.7	16.7	100.0	3.5

資料：農林水産部 糧政局

보리는 食用消費減少와 함께 生産量이 크게 줄어들고 있어 加工需要의 開發이 必要한 實情이므로 酒精原料 等 加工用으로 供給을 擴大할 計劃이며, '87年度부터는 農協을 통한 契約栽培와 併行하며 政府에서는 農協 보리 收買量中 食用만 引受하여 需給安定을 圖謀해 나갈 計劃이다.

또한 밀, 옥수수 等 國內供給이 절대적으로 不足한 品目은 不足分을 適期에 導入하여 國內需要를 안정적으로 供給해 나가고 飼料用에 對해서는 國內賦存資源의 開發에 力點을 두어 飼料穀物의 海外依存度를 減縮시켜 나갈 計劃이다.

2. 政府糧穀 放出體系의 改善

'86糧穀年度末 政府糧穀의 移越在庫는 1,351千噸(보리쌀 100千噸包含)로서 '87糧穀年度에는 政府糧穀의 需給管理改善과 함께 在庫量을 1,236千噸(보리쌀 98千噸包含)으로 줄여 나갈 計劃이며 아울러 쌀값安定을 위해 穀價調

節用 政府糧穀의 放出을 最大限 늘려나갈 것이다.

이에 따라 既存의 政府米 放出 以外에 '86年產 新品種 쌀 1,000千石을 農協을 통해 販賣하고, 지난해에 처음으로 실시한바 있는 粗穀賣出制를 擴大하여 粗穀賣出量을 지난해의 1,000千石에서 今年에는 2,000千石으로 늘릴 計劃이다.

이와함께 政府米의 商品性 提高를 통하여 政府米의 端境期 米價調節能力을 提高하고 아울러 民間業體들을 民間糧穀 流通의 據點으로 育成하여 糧穀流通의 活性化를 期해나갈 計劃이다.

第4節 農水産物の 流通改善

1. 産地 流通機能 強化

農産物の 産地流通은 生産者團體 中心으로 市場 交渉力을 向上시키는데 力點을 두고 品目別 協同出荷組織을 內實있게 育成해 나갈 것이다.

協同出荷班은 '86년까지 10,346個를 組織하였으며 今年에도 500個所를 新規로 育成하는 한편 協同出荷班의 組織 및 機能을 活性化하기 위하여 440億 圓의 育成資金을 支援할 計劃이다. 또한 農産物 産地出荷에 必要한 集荷場, 輸送車輛, 簡易貯藏施設, 選果施設등 流通施設도 協同出荷組織에 우선적으로 擴充함으로써 産地에서의 流通能率과 農産物 商品性提高를 도모해 나갈 것이다.

2. 圏域別 公營都賣市場의 擴充

農水産物の 公正去來價格形成과 迅速한 大量 流通을 圓滑히 遂行할 수 있도록 圏域別로 公營都賣市場網을 構築해나가고 都賣市場의 機能強化에 注力해 나갈 것이다.

먼저 '85年 6월에 開場한바 있는 서울 可樂洞都賣市場의 運營 活性化를 위하여 小賣市場 新築, 菜蔬專門賣場設置, 保溫 및 暖房·換氣改善 等 施設 補完工事を 今年內에 마무리하고, 市場內 都·小賣機能의 分離, 搬入物量의 全量 上場實施, 商人의 適正化 等 運營改善을 通하여 市場機能이 早期에 定着되도록 해 나갈 것이다.

한편 流通圈域別 流通網形成을 위해 建設中에 있는 地方都賣市場中 大田 都賣市場은 今年末에 開場할 計劃이며, 大邱와 淸州 都賣市場도 '88年初에 開場을 目標로 工事中에 있다. 이들 都賣市場에 대해서는 可樂洞都賣市場의 運營經驗을 土臺로 開場과 同時에 正常的인 機能을 發揮할 수 있도록 合理的인 市場 移轉對策을 樹立하여 推進해 나갈 計劃이다.

또한, 都賣市場의 機能活性化와 公正去來의 早期 定着을 위하여 競賣士 資格制度를 導入해 나갈 計劃이며 都賣市場과 共販場에 對해서는 125億圓의 出荷促進資金을 支援하여 運營의 內實化를 期해 나가도록 할 計劃이다.

아울러 糧穀流通機能을 強化하고 糧穀去來秩序를 確立하기 위하여 서울 江南區 良才洞에 敷地 9千坪, 建物 5千坪 規模의 糧穀都賣市場을 今年 3月에 着工하여, '88年 4月 開場 目標로 建設中에 있다.

3. 流通情報強化 및 流通教育 擴大

農漁民이 신속하고 正確한 市場情報를 접함으로써 그들이 生産한 農水産物을 재값을 받고 팔 수 있게 하기 위하여 主要農水産物 84個 品目에 對하여 產地 및 消費地 都賣市場 價格 등을 調査하여 이를 農林水産部 傘下 統計出張所, 農水畜協 등 關聯機關, 그리고 매스콤 및 自動應答裝置를 通해 全國의 單位組合, 農漁民 및 消費者에게 提供하고 있다. 特히 迅速한 情報 提供을 위해 1,500余 單位農協 電算網 온라인化를 '86년부터 年次的으로 推進하고 있으며 今年末까지는 324個所の 單協을 온라인化할 計劃이다.

한편 流通 專門人力の 業務能力向上과 商道義昂揚 等 流通人으로서의 使

命感を 鼓吹하기 위하여 '85年 8月 農水産物流通公社에 農水産物流通教育院을 開設하여 流通従事者에 對한 組織的이고 體系的인 流通專門教育을 實施하고 있다.

今年에는 關聯公務員, 都賣市場従事者, 貯藏加工業者 및 自營農科生 등 1,520名을 對象으로 流通教育을 實施할 計劃이다.

第5節 農林水産物 輸出擴大와 對外協力 強化

1. 輸出 有望品目開發과 輸出支援制度 改善

農林水産物은 一部品目を 除外하고는 대부분 國內需要에만 依存해 왔으나 앞으로 農林水産物에 對한 技術向上, 品質改善 및 經營合理化를 期해나간다면 農林水産物도 品目에 따라서는 對外的으로 競爭力이 있거나 海外市場을 開發할 餘地가 크므로 今年에도 海外需要開發을 통한 農漁家所得源의 擴充과 過剩農林水産物의 需給調節機能을 強化할 수 있도록 農林水産物 輸出有望品目開發과 輸出支援을 強化해나갈 것이다.

이를 위해 輸出節次와 制度를 簡素化하여 輸出附帶費用을 節減하고 品質向上과 包裝材改善을 通하여 輸出競爭力을 높여나가는 한편, 原料의 蒐集, 備蓄을 위한 輸出促進資金支援을 '86년의 188億원에서 今年에는 219億원으로 늘려나갈 計劃이다.

한편 品目別로 보면 사과, 배 등 果實類에 대해서는 東南亞國家와 連繫貿易을 擴大하고 中東과 美國 등으로 輸出市場을 多邊化해나가며, 日本, 네덜란드에 輸出展望이 밝은 仙人掌, 장미 등 花卉類와 김치, 冷蔵豚肉 등에 대해서도 輸出擴大를 위한 支援을 強化해 나갈 것이다.

이와함께 日本과 美國에 偏重된 林産物과 水産物은 既存市場을 擴大하는 同時에 對外通商交渉을 強化하여 東南亞, 유럽 등 새로운 市場을 開拓해 나갈 것이다.

2. 輸入管理과 對外協力の 強化

農産物 輸入需要의 增加와 輸入開放에 對處하여 國內農業基盤을 安定的으로 유지해 나가기 위하여 農林水産物 輸入과 國內生産을 效率적으로 連繫시켜 나갈 計劃이다.

이를 爲하여 國內賦存資源으로 輸入代替가 可能한 品目에 對하여는 積極적으로 國內 生産基盤을 整備하여 自給度を 提高시켜 나갈 것이며, 自給이 構造的으로 어려운 品目에 對해서는 必要한 最少量만 適期에 導入할 수 있도록 輸入管理制度를 改善하고 輸入價格과 國內價格 差異에 對한 制度的 調節裝置를 確立해 나갈 計劃이다.

또한, 80年代에 들어와 擴大되고 있는 國際化 추세에 副應하여 農林水産部門 對外協力を 強化해나가고, 이를 擔當할 專門人力の 養成과 함께 農漁業 移民事業을 積極支援하는 한편, FAO等 國際機構를 通하여 開發途上國과의 農林水産技術協力を 보다 擴大해 나갈 計劃이다.

특히 國際 農業技術 協力에 있어서 熱帶地域 資源保有國과의 農業技術 協力增進을 위하여 40個 開發途上國에서 150名의 農業技術者를 招請하여 農機械, 蠶業, 農村指導 等の 教育을 實施할 計劃이며 아프리카를 비롯한 13個國에 28名의 農業專門家를 派遣하여 技術指導도 併行實施할 計劃이다.

第5章 食品加工開發과 育成

第1節 食品加工業 動向

所得水準의 向上과 함께 食品消費構造도 多樣化, 高級化, 便宜化 傾向을 보이고 있으며 이에따라 加工食品에 對한 需要가 빠른 속도로 增加함으로써 食品加工業이 國民總生産 차지하는 比重이 크게 늘어나고 있을 뿐 아니라 附加價值面에서도 全體製造業中 機械, 化學, 纖維 다음으로 上位에 位置하고 있다.

그러나 食品加工業은 品質 및 技術面에서 아직도 初期段階에 있으며 一部 品目を 除外하고는 規模가 零細하고 品目도 多樣하지 못한 狀態에 있다.

앞으로 食生活 소비패턴의 변화 추세는 더욱 加速化될 展望이며 이에따라 加工食品의 持續的인 消費擴大와 함께 國民食生活에 미치는 영향도 점차 커질것이 豫想될 뿐만아니라 加工食品이 國內農産물의 판로확대와 農産物 附加價值 提高에 效果가 큰 點을 감안할 때 體系的인 食品加工技術開發과 育成施策이 크게 要請된다.

1. 果菜類 加工

果菜類加工은 '60년대에는 洋松茸 통조림등을 除外하고는 生産이 微微한 程度이었으나 '70年代末 부터는 果實類 통조림, 절임, 果汁飲料등의 品目이 多樣化되어가고 製品의 質도 高級化되어가고 있다.

이와 함께 果實 消費도 從前의 生果中心에서 加工製品으로의 消費가 늘어나고 있으며 이중에서도 감귤, 복숭아, 포도등의 加工製品生産이 최근 크게 增大되어가고 있다.

<表 2-5-1>

果實類加工實績

(單位：千%)

	사과	복숭아	포도	감
'75	2.3	5.1	5.8	6.8
'80	3.8	10.9	18.3	23.8
'85	8.3	12.4	13.4	71.2

資料：農林水産部 農産物流通局

한편 果菜類加工業體의 지역별 分布를 보면 통조림類는 原料의 부패 및 減耗防止와 品質 維持를 위하여 產地 또는 原料의 集產地 中心에 있으나 其他 加工業은 大量 消費處인 서울, 京畿地域에 大部分 位置하고 있는 것으로 나타났다.

앞으로 果菜類 加工業의 持續的 成長을 위해서는 加工製品의 商品性 提高와 製品開發을 통한 需要開發이 이루어져야 할 것이며 이를 爲해서는 生産段階에서 부터 加工에 適合한 原料農産物의 生産과 함께 生産단지와 加工業체간의 原料農産物의 安定的 供給體系가 確立되어야 할 것이다.

2. 畜産物 加工

畜産物加工中 肉加工業은 '80年代에 들어와 크게 伸張되어 햄, 소시지, 카트미트 等 肉加工品의 國內生産이 刮目할 만한 發展을 가져와 이중 소시지는 지난 10年間 總 1.4倍 水準으로 늘어났으며 특히, '80年代에 들어와서 消費가 크게 늘어나고 있는 햄, 베이컨은 같은 期間中 各各 15倍, 6倍의 生産 增大를 나타내고 있으나 육류 통조림은 '80년대초에 비하면 尙장세가 둔화되고 있다.

<表 2-5-2>

主要 肉加工品 生産動向

(單位：%)

	소시지	햄	베이컨	통조림
'75	3,598	293	47	18
'80	1,895	728	80	3,076
'85	5,385	4,369	280	3,673

資料：農林水産部 畜産局

한편, 乳加工製品도 食生活의 質的改善과 함께 消費가 急激히 늘어나 納乳量中 분유, 연유, 치즈, 아이스크림등 乳加工用으로 使用되는 量이 '75年의 43.5千%에서 '85년에는 291.4千%으로 7倍가 늘어났다. 그러나 같은 期間中 市乳用 消費도 거의 비슷한 水準으로 늘어남에 따라 總納乳量中 加工用의 比率은 75年の 27%에서 '85년에는 29%로 거의 비슷한 水準에 머물고 있는 것으로 나타났다.

〈表 2-5-3〉 牛 乳 處 理 動 向 (單位：千%)

	納 乳 量 (A)	市 乳 用	加 工 用 (B)	B / A (%)
'75	160.3	116.8	43.5	27.2
'80	452.3	258.6	193.7	42.8
'85	1,005.8	714.4	291.4	29.0

資料：農林水産部 畜産局

3. 油脂와 穀類加工

食用油脂의 소비추세를 보면 지난 10년간 年平均 15%로 伸張되고 있으며 특히 건강식품에 대한 認識提高와 함께 식물성유지에 대한 소비는 동물성유지에 비해 約 4배 水準으로 急速한 伸張勢를 나타내고 있다.

油脂加工은 종전에는 미강유, 유채유, 참기름등을 中心으로 小規模로 생산되어 왔으나 '70年代末 以後 大規模 加工業體의 등장과 함께 油脂加工製品의 質이 크게 개선되고 製品도 多樣化되어 가고 있다.

앞으로 國內油脂加工은 國內 油脂資源과의 연계를 強化하면서 商品性 提高를 통한 需要開發을 추진해 나가야 할것이다.

한편, 穀類加工은 從前의 製粉, 精糖, 軟食品, 澱粉 等 1次加工的 性格의 加工製品에서 製菓, 제빵등의 2次 加工 性格의 加工製品이 크게 늘어나고 있다.

그러나 아직도 澱粉, 軟食品, 醬類 等に 있어 大部分의 生産業體가 규모가 영세하고 시설도 낙후하여 이 分野에 대한 原料 農産物의 安定的 供給과 함께 體系的 支援이 이루어져야 할 것이다.

第2節 加工食品 標準化 本格 推進

加工食品의 品質改善을 유도하고 品質保證을 통한 食品加工의 건전한 育成을 위하여 지난해에 '86년에 農林水産部로 移管되어온 加工食品 標準化(KS)事業을 今年에는 이를 本格的으로 推進해 나갈 計劃이다.

今年에는 지난해 下半期에 指定한 KS表示許可 對象品目中 소시지, 프레스햄, 굴과실음료, 양조간장 等 4個品目を 製造하는 業體로부터 KS表示許可 申請이 있어 이들 업체에 대한 工場審査와 製品試驗 結果에 따라 8個業體에 대해 KS表示許可를 하였다. 앞으로도 KS表示許可業體의 申請이 있을시 綿密한 審査와 成分分析을 거쳐 表示許可를 繼續 擴大해 나갈으로써 加工食品에 대한 消費者 信賴度 提高 및 品質向上을 유도해 나갈 計劃이다.

한편 品質改善이 必要하거나 品質 識別이 어려운 버터, 치즈, 발효유, 녹차 等 15個品目에 대해 規格을 制定하고 規格의 改定 또는 確認後 5년이 經過하거나 再 檢討가 必要한 17個 規格에 대해서 改·確認할 計劃이다. 아울러 流通量이 많고 消費者의 關心이 높은 10個品目を KS表示許可對象品目으로 追加指定하고 이에 대한 具體적인 審査事項을 規定한 審査基準을 制定 告示할 計劃이다.

또한 KS表示許可製品 및 許可工場에 對한 事後管理를 爲하여 每分期 1회 市販品을 收去分析함과 아울러 必要時 工場檢查를 實施하여 KS表示許可製品의 品質維持 및 不良品 流通防止에 徹底를 期해 나갈 것이다. 이와함께 食品 KS制度에 對한 業界 및 消費者 理解增進을 爲하여 關係機關과의 協議會와 매스콤을 통한 弘報를 強化하고 食品製造業體를 對象으로 標準化 및

品質管理에 관한 教育도 實施할 計劃이다.

< 表 2-5-4 >

加工食品 KS規格 運用現況

	移 管	'86	'87 計 劃	果 計
規 格 制 定	63	7	15	85
規 格 改·確 認	-	35	17	-
KS表示指定品目	1	8	10	19
KS表示許可工場	4	-	8 ('87. 6月現在)	12

資料：農林水産部 農産物流通局

第3節 綜合食品研究院의 設置

加工食品 및 便宜食品의 需要增大와 함께 食品加工技術開發을 通하여 原料 農水産物의 附加價値를 提高하고 食品의 品質改善을 도모하는 한편 傳統固有食品에 대한 産業化를 促進시켜 나가기 위하여는 이와 關聯된 分野를 體系的으로 研究發展시킬수 있는 綜合研究機關의 必要性이 크게 대두되고 있다.

따라서 食品에 관한 加工, 貯藏, 包裝, 輸送등의 效率化를 통하여 農漁民 所得增大에 기여하고 나아가서는 國民營養의 均衡供給을 圖謀하기 위하여 農林水産部 傘下에 綜合研究機能을 가진 綜合食品研究院을 設立할 計劃이다.

綜合食品研究院은 農水産物流通公社의 綜合食品研究院과 韓國科學技術院(KAIST) 遺傳工學센터의 食品關聯研究部門을 統合하여 '87年中에 이를 發足시키고 이에 따른 育成法을 制定하는 한편 優秀 研究人力도 年次的으로 充員해 나갈 計劃이다.

앞으로 綜合食品研究院의 設立과 함께 國家的 次元에서 食品關聯部門의

綜合的인 研究를 遂行해 나갈 計劃이며, 食品研究 및 加工技術開發을 위한 學問的인 研究와 함께 企業研究機能과의 連繫機能을 強化는한편 食品加工에 關한 先進技術과 情報의 蒐集·傳播를 확대해 나갈 計劃이다.

第6章 農漁村 所得源과 福祉基盤의 擴充

第1節 農林水產 所得源의 多樣化

農家所得은 그동안 所得의 主宗을 이루고 있는 쌀과 보리의 需要減退와 고추, 마늘, 양파, 소등 主要成長作物의 價格 不安定으로 農家所得의 持續的 增大에 많은 어려움을 가져오고 있다. 따라서 一部作物의 偏重栽培로 인한 經營惡化를 解消하고 農漁家所得을 安定的으로 增大시켜 나가기 위하여 所得作物의 開發을 擴大하여 農林水產所得源을 多樣化해 나갈 計劃이다.

이를 위하여 참깨, 땅콩등 國內需要 增大가 豫想되는 品目과 사과, 배, 花卉등 輸出有望品目으로 海外需要增加가 豫想되는 品目은 生産基盤을 擴充하고 品質改善과 生産性 向上을 誘導해 나가며 밤, 송이, 산채 등 山林副產物과 대추, 양봉, 버섯등의 地域特化品目 그리고 養殖, 蓄養水產物에 대해서는 地域別 專門生産團地를 育成함으로써 農漁家の 새로운 所得作物으로 定着시켜 나갈 計劃이다.

한편, 營農漁 與件과 地域特性에 따라 所得作物別로 普及 유형을 開發하여 나가되, 作物選擇은 農漁民이 自律적으로 決定토록 하며 이들 作物에 對하여 生産에서 부터 販賣에 이르기까지 技術, 經營, 資金, 販路開發등 綜合적으로 支援하여 줌으로써 效果的인 所得增大가 이루어지도록 할 計劃이다.

第2節 農外所得源의 擴充

1. 農工地區 造成 擴大와 支援 強化

農外所得源의 開發과 農漁村經濟의 活性化를 위하여 지난'84년부터 本格

的으로 推進하기 시작한 農工地區 造成事業은 '86년까지 31個所를 農工團地로 指定 하였고, 그 中 '84年度에 指定된 江原 橫城 등 7個所는 造成工事を 完了 하여 75個 業體가 入住하였으며 지난해에 指定한 24個 地區에 對해서는 '87年 敷地造成工事を 完了하고 工場建設을 推進할 計劃이다.

또한 '87年度에는 50個團地 以上을 새로이 農工地區로 指定할 계획이며 앞으로 이를 年次的으로 擴大하여 '91년까지는 180個所以上의 農工地區를 造成함으로써 總 40萬名의 雇傭擴大效果를 가져올것으로 展望된다.

이러한 農工地區 造成事業의 效率的인 推進을 위해서 農工地區에 入住하는 企業에 對하여는 工場設立에 따른 行政節次를 簡素化하고 各種 稅制支援과 함께 敷地造成에 대한 政府 支援등을 強化해 나갈 것이다.

아울러 企業入住 與件이 不利한 19個市 90個郡에 對해서는 金融支援 限度額을 4億원에서 7億원으로 擴大하고 政府財政融資도 25%에서 50%로 擴大하는 한편, 市郡當 延 10萬坪으로 制限되어 있는 開發面積을 新축적으로 運營하고 通信, 電力등 基盤 施設費의 支援을 強化하여 地域間 均衡發展을 圖謀할 計劃이다.

또한 서울에 農漁村 工業誘致 事務所를 設置하여 各道別로 專擔要員 2名씩을 配置함으로써 地域特性에 맞는 農工地區 入住案内, 個別工場誘致, 副業斡旋, 觀光案内등을 擔當토록 하는 한편 農工地區 開發節次를 簡素化하기 위해 國土利用計劃 變更節次를 農工地區 指定時 併合審理토록 하고, 入住 企業의 便利를 圖謀하기 위하여 金融取扱機關을 從前에 3個 機關에서 10個 機關으로 擴大할 것이다.

한편, 農漁村에 入住하는 企業의 技術人力確保를 위하여 各道 農民教育院의 職業訓練機能 및 施設을 韓國職業訓練管理公團으로 移管하여 職業訓練體系를 一元化하고 入住企業共同的 社內 職業訓練을 積極 支援함과 同時에 市郡 및 邑面에 農工地區 就業案内 窓口를 開設하여 農漁村 婦女등의 就業을 積極 誘導해 나갈 것이다.

2. 農漁村副業園地 育成的 內實化

農漁村 勞動力과 賦存資源을 活用하여 農外所得源을 開發하기 위하여 推進되어 온 農漁村副業園地 育成事業은 그동안 生産量이 꾸준히 伸張되고 品質도 高급화되어가고 있을 뿐 아니라 經營형태도 家内수공업형에서 소규모기업형으로 著실히 發展됨으로써 農漁家의 所得增大에 크게 寄與하고 있는 것으로 나타났다.

'87年에도 105個 副業園地를 신규로 育成하고 農協의 連鎖店 및 슈퍼마켓을 통하여 副業製品의 販路를 擴大하는 한편 農家工產品販賣센터를 통한 副業製品競進大會 및 道別 副業製品 展示會의 開催로 販促을 強化하고 아울러 副業製品의 輸出市場 開拓에도 注力해 나갈 計劃이다.

<表 2-6-1>

農漁村 副業園地 現況

(單位：個所)

	計	一 工 產 品	民 俗 工 藝 品	織 維 織 物	食 料 品	農 水 產 資 材	農 畜 產
'86	609	52	263	34	181	75	4
'87	664	56	274	35	216	83	-

資料：農林水產部 農業政策局

3. 觀光農業開發 示範事業

農漁村地域의 觀光資源을 所得源化하기 위하여 自然景觀이나 觀光, 文化資源이 豊富하고 交通이 便利한 既存 觀光地 周邊에 農園을 造成하여 來訪客에게 地域 特產物 販賣 및 民泊誘致를 통하여 農家所得增大을 圖謀할 目的으로 '84年부터 示範事業으로 推進하고 있다.

觀光農業開發事業은 '86년까지 總41個 地區를 造成하였으며, '87년에는 11個所를 新規로 造成하여 6億원의 資金을 融資支援할 것이며 觀光農業의 類型도 從前의 農畜產物 單純直賣爲主에서 休息과 農事일도 體驗할수있는 綜合觀光農園으로 育成해 나갈 것이다.

<表 2-6-2>

觀光農業開發 示範地區 造成

	單位	'84	'85	'86	'87	計
地區造成	個所	12	13	16	11	52
資金支援	百萬圓	314	465	432	635	1,846

資料：農林水產部 農業政策局

또한 參與農家 및 一線 關係者에 대한 觀光農業教育和 國內外先進地 見學 등을 통하여 觀光農業에 대한 이해를 높이고 主要大企業 社報 掲載 및 觀光農業案内冊子 등 來訪客 誘致를 위한 弘報活動을 強化하여 나갈 計劃이다.

第3節 農漁村地域 綜合開發

農漁村地域綜合開發事業은 지난 85년부터 5個年計劃으로 忠南 公州 등 3個地域에 對하여 開發模型과 推進方式의 確立을 위해 示範事業을 推進하고 있다.

앞으로 農漁村地域綜合開發은 該當地域의 特性和 地域住民들의 開發需要를 充分히 反映하여 對象事業을 選定하고 이를 段階的으로 推進해 나갈 計劃이며 아울러 對象地域의 特性에 맞는 效果的인 開發計劃 樹立이 될 수 있도록 計劃樹立參與者에 대한 教育을 強化해 나갈 것이다.

<表 2-6-3>

農漁村地域綜合開發事業計劃

(單位：百萬圓)

	公州郡	康津郡	青松郡	計
生產施設	483			483
生產基盤施設	870	1,979	726	3,575
流通施設	408	9	140	557
所得源道路	2,448	1,083	1,878	5,409
計	4,209	3,071	2,744	10,024

資料：農林水產部 農漁村開發局

'87년에는 그동안 示範적으로 推進中인 3個郡에 對한 事業마무리를 위해 100億원을 投入하여 生産施設, 生産基盤, 流通施設, 所得源道路開發事業을 推進하고 道別 1個所씩 8個所에 對한 開發計劃 樹立을 着手할 豫定이다.

第4節 農漁村福祉基盤의 擴充

農漁村의 落後된 生活環境을 改善하고 農漁村住居生活의 質的向上을 위 하여 農漁村 關聯部處와 함께 農漁村의 社會間接施設과 生活便益施設을 積極 擴充해 나가고 教育·醫療支援을 強化해 나갈 것이다.

農漁民子女의 教育費支援을 위하여 農協의 獎學金支援을 大幅 擴大하여 '87년에는 大學生까지 擴大하여 總 16千名에게 27億원을 支援할 計劃이며 '86年末現在 9個道 12個所에 設置되어 있는 自營農科를 年次的으로 擴大 設置하여 自營農科生에게는 入學金 및 授業料 免除와 함께 寄宿舍 給食費를 補助支援하는 한편 自營水產科도 '87년에 1個所를 처음으로 設置할 計劃이

또한 農漁民의 醫療惠澤을 확대하기 위하여 農協에서만 取扱해 오던 診療費 代지급제도를 水協에서도 새로이 取扱토록 하여 支援金額을 '86年の 6億원에서 '87년에는 總 13億원으로 늘리는 한편 '88년부터 實施할 計劃으로 있는 農漁村 醫療保險制度 實施에 對備하여 農漁村地域 所在 保健所의 裝備現代化 및 醫療人力補強과 함께 民間病院도 誘致하여 1次 診療機關으로서의 機能을 充分히 遂行토록 함으로써 農漁民이 便利하게 醫療機關을 利用할 수 있도록 支援을 強化해 나갈 計劃이다.

이와 함께 農漁村地域의 道路網擴充을 위하여 '86년에 275km의 地方道를 鋪裝한데 이어 '87년에도 780km의 地方道를 鋪裝토록 할 計劃이며 上水道 普及地域도 '86年の 422個邑面에서 '87년에는 449個邑面으로 擴大할 計劃이다. 이밖에도 郡單位地域의 市內通話圈化, 面單位 綜合福祉館의 建立 등 各種 生活便益施設을 積極 擴充해 나감으로써 農漁村地域의 均衡發展을 圖謀해 나갈 것이다.

第7章 農漁村 專門人力과 尖端技術開發

第1節 農漁民後繼者 育성과 精銳化

1. 育成方向

農漁村에 定着하여 農漁村開發을 先導해 나갈 유능한 農漁村人力을 確保하기 爲하여 '81년부터 着手한 農漁民後繼者育成 事業은 그동안 31千名이 育成되었고 今年에 8,500名을 새로이 選定함으로써 農漁民後繼者가 約 40千名으로 늘어나 農漁村 마을 當 1名 以上을 確保하게 되었다.

앞으로 農漁民後繼者育成事業은 '91년까지 60千名으로 擴大 育成할 目標下에 그동안의 推進經驗을 바탕으로 支援體系를 補完 發展시킴으로써 後繼者를 보다 精銳化해 나갈 計劃이다.

이를 위하여 農漁民後繼者 選定에 있어 農林水産系 高等學校, 自營農科 또는 自營水産科 卒業者 爲主로 選定하고, 農業系 專門大學 卒業者 및 特殊 專門營農技術訓練 履修者에 대한 選定을 擴大하여 基幹農으로 育成해 나갈 것이다.

또한 農漁民後繼者에 對한 精神 및 技術教育訓練을 通하여 定着意慾을 鼓吹시키는 한편 事後指導 및 管理를 強化하여 後繼者 事業의 效率性を 높여 나갈 것이며 特히 農漁村地域에서의 女性の 役割이 增大됨을 勘案하여 農林水産系 女子卒業者의 後繼者 選定을 擴大해 나갈 計劃이다.

2. '87育成計劃

'87年度 農漁民後繼者 育成事業은 지난해 年末에 選定된 8,500名을 對象으로 1人當 6~10百萬원씩 總 703億원을 支援할 計劃이다.

특히,今年에는 農漁民後繼者에 對한 支援體系를 改善하여 事業着手時 資金이 많이 所要되거나 所得이 一定期間 經過後 發生하는 農地購入, 果樹, 蓄養事業, 漁船購入 등의 分野에 대하여는 支援資金을 8百萬원에서 10百萬원으로 上向調整하고 償還期間도 7年에서 10年으로 延長하였으며 產地소값 下落으로 어려움을 겪고 있는 '83~'84 소入殖 農漁民後繼者에 대하여는 一般農家와 함께 融資金에 대한 利子를 畜産振興基金에서 代支給하여 주고 既存 農漁民後繼者中에서 運營資金이 不足한 7,924名에게는 事業의 圓滑한 推進이 되도록 管農資金에서 1人當 1百萬원씩 支援하도록 하였다.

또한 農業系 高等學校의 自營農科 卒業者와 女子卒業者中 希望者는 全員 農漁民後繼者로 選定하여 學校에서 習得한 技術이 農村으로 直接 活用되도록 하였으며, 農漁民後繼者 死亡時 婦人 또는 兄弟姉妹中에서 事業을 承繼를 願하는 者와 女性 後繼者 結婚時 事業場을 配偶者 居住地로 移轉하거나 移轉이 不可能할 경우에는 兄弟 姉妹에게 이를 承繼할 수 있도록 하였다. 또한 農漁民後繼者들의 資質向上과 見聞을 넓혀주기 위한 海外研修도 지난해에 이어 日本 60名, 臺灣 40名으로 擴大 實施할 計劃이다.

第2節 尖端技術開發의 促進

限定된 農耕地內에서 늘어나는 農產物 需要를 充足시키고 農業經營의 零細性を 克服할 수 있도록 遺傳工學 및 生命工學 등을 利用한 尖端科學技術을 積極적으로 導入하여 實用化해 나갈 것이다.

이를 위하여 벼에 있어서는 組織培養을 통한 耐災害性 變異細胞 選拔로 收穫量이 많고 病蟲害에 강한 新品種을 育成하고, 高所得作目に 대한 人工種子 生産技術을 開發해 나갈 것이다.

또한 콩은 種屬間 交雜으로 短期多收性 品種을 開發할 것이며, 油菜는 組織培養技術 및 雄性不稔을 利用한 耐寒多收 交雜品種育成에 力點을 두고

마늘은 單細胞 分離 培養技術과 種屬間 雜種 植物 育成法으로 春播品種을 개발하는 한편 감자는 染色體 操作技術을 利用한 優良種薯등을 生産하는데 力點을 두어 나갈 것이다.

이와함께 核置換技術로 소 凍結受精卵 移植技術을 改善하고 細胞融合, 遺傳子 操作技術을 活用한 家畜疾病 早期診斷 및 豫防藥 開發에 注力해 나갈 것이다.

이러한 農水産 尖端技術開發 研究를 위하여 遺傳資源을 南美, 印度등을 現地探查로 蒐集하는 한편 200千種을 保存할 수 있는 精密保存施設을 갖추어나갈 計劃이며 國際 最新技術情報 蒐集을 위하여 미국의 유전자원情報銀行의 最大한 活用과 함께 研究員의 海外研修, 學術會議參席, 專門家 招請등의 事業을 繼續擴大 推進해 나갈 것이다.

第3節 農業技術開發 및 指導

1. 主穀生産技術 指導

今年에도 主穀의 自給持續을 뒷받침하기 위하여 旱生種普及을 擴大하여 災害豫防와 2毛作擴大에 힘쓰고 勞動力과 營農費를 節減하면서 適期 安全 栽培가 되도록 農機械利用度提高와 機械化 營農團의 技術指導를 強化해 나갈 것이다.

冷害豫防을 爲하여 機械모내기와 多收穫品種은 標高 200 m以下에서만 栽培토록하고 山間地와 東海岸에는 旱生種栽培指導를 철저히 해 나가고 病蟲害의 事前豫防을 위하여 病蟲害 精密豫察 및 適期防除指導와 함께 常習地에는 稻熱病과 벼멸구에 강한 品種普及과 脆弱地の 確認指導를 해나갈 것이다. 또한 迅速한 營農情報의 提供과 함께 겨울營農教育 등을 通해 核心 課題의 教育과 現地圃場指導를 徹底히 하여 올해에도 米穀 7年連續 豐年農事達成을 위한 指導를 強化해 나갈 것이다.

2. 새所得作目的 擴大開發普及促進

良質菜蔬의 年中安定生産을 爲하여 施設菜蔬는 높은 糖度와 早熟 耐病品種을 開發하고 作型分散에 의한 收穫期の 調節과 함께 端境期の 菜蔬生産을 擴大해나가며 고추는 連作障害와 病蟲害防除로 安全多收穫 指導를 強化하고 食用콩은 增收possible한 八達콩과 短莖콩의 示範栽培와 普及을 擴大해 나갈 것이다.

또한 果實類는 사과의 赤色品種育成과 着色봉지의 研究를 強化하고 배는 糖度높은 品種普及과 새作目的 擴大를 期하고 輸出品目인 花卉에 對해서도 集中的인 技術支援을 해 나갈 것이다. 이와함께 토마토는 多收穫無支柱栽培法을 보급하고 복숭아는 加工生食用品種을 育成해 나갈 計劃이다.

한편 畜産部門에 있어서는 濃厚飼料節約型 家畜改良과 飼養指導를 爲해 젓소는 冷凍受精卵 移植技術向上과 受精卵移植 農家實證試驗을 實施하고 韓牛의 優良種牡牛選拔과 돼지의 早期成長種豚 新系統을 育成해나가며 닭은 穀類를 節約하는 韓國型飼養基準을 普及하여 飼料를 節約토록 指導해 나갈 것이다.

3. 科學營農과 生活改善 實踐教育強化

마을單位 겨울營農教育은 教育의 重點을 健全한 國家觀 貯蓄의 生活化와 그리고 새品種·새技術·經營改善에 두고 教育方法을 改善하여 모든 教材를 새로이 製作하고 슬라이드教本, 實物 成功事例의 立體教育을 實施함으로써 教育效果를 最大限 거양해 나갈 것이다.

특히 商業營農의 進전에 따라 經營改善教育을 強化하여 土地, 勞動, 새技術을 最大로 活用하여 經營의 規模化를 期하도록 하고 販路擴大를 위하여 生産時期調整과 品質向上을 유도해 나갈 것이다.

또한 農民에 대한 專門教育指導能力을 向上시키기 위하여 모든 指導士의 專門特技化를 完了하고 農民專門教育을 위해 中央教育施設의 擴充과 함께 技術資格制를 擴大해 나갈 것이다.

第8章 農漁村 經濟活性化를 爲한 支援強化

第1節 農漁村綜合對策의 着實한 推進

지난 해 3月5日 農漁村綜合對策 發表以後 各 分野別로 細部實踐計劃을 樹立 이를 着實히 推進하고 있다.

지난해에는 行政措置가 必要한 事項은 모두 完了하였으며 今年부터는 農地貸借管理法 等の 法令과 制度改善事項등을 施行해 나갈 뿐 아니라 이와 關聯된 豫算이 지난해 보다 約 6倍가 늘어난 4,428億원을 確保하게 됨에 따라 綜合對策을 보다 本格的으로 推進해 나갈 것이다.

農漁民後繼者 育成事業 등 豫算支援이 必要한 總 17個 事業에 對해서는 部處別로 細部實踐計劃을 樹立하여 이를 實效性 있게 着實히 推進해 나가고 農漁村地域開發基金 등 새로이 마련된 制度에 대해서도 施行에 차질이 없도록 하여 早期 定着을 誘導해 나갈 것이다.

또한 農漁民 負擔輕減을 위해서는 今年부터 새로이 面以下 出身 實業系 高校生中 上位 20%以內 成績優秀者와 零細民 子女에게 授業料를 免除하고, 農漁民의 租稅負擔을 줄이기 위하여 自耕農民에게 農地등을 讓渡하거나 贈與할 때 讓渡所得稅와 贈與稅를 免除토록하고 農漁民 融資書類에 對한 印紙稅 免除範圍를 擴大하여 適用해 나가고 있다. 또한 農機械購入 支援을 위해 小規模 機械化 營農團 1,154個所를 새로이 造成하고, 지금까지 70% 融資로 支援하던 水利施設改補修 事業費를 國庫補助로 轉換 支援하고 있으며 農漁村地域開發基金은 今年에 우선적으로 2,500億원을 造成하여 農地購入, 所得源開發, 生活與件 改善을 重點支援할 計劃이다.

이와 함께 農漁村地域의 生活與件改善을 위해 地方道 擴·鋪裝에 1,794億원을 支援하고 保健機關 活性化와 保健管理 機關 設立을 위해 708億원을

投入하여 '88農漁村地域 醫療保險 實施에 對備해 나갈 것이다. 또한 全國 모든 郡單位地域을 自動通話圈으로 擴充하고 農漁村地域 公衆電話의 供給擴大, 落島, 僻地 交通與件의 改善 등 農漁村 福祉基盤 擴充事業도 強化해 나갈 것이다.

<表 2-8-1> '87年 農漁村 綜合對策 關聯 豫算內譯 (單位: 億圓)

事業名	'87豫算	'86豫算	增減	備考
農漁村地域開發基金	1,250	-	1,250	· 運用規模: 2,500億圓
農漁民後繼者育成基金	(400) 600	(-) 200	(400) 400	· 8,500名育成 · 1人當 6~10百萬圓支援
農工地區造成	(155) 400	(37) 88	(118) 312	· 15(300)→25個所 (950千坪)
農工地區入住企業支援	(300) 300	(200) 200	(100) 100	· 地區造成擴大로 增額
營農·漁資金利差補填	96	-	96	· 營農漁資金金利: 10→8%
水利 施設改補修等	(35) 131	(60) 82	(△25) 49	· 수리시설 및 防潮堤 改補修 · 財源代替
小規模機械化 營農團	9	-	9	· 1,000個所 (國庫 20%)
沿岸漁場資源造成	(29) 154	(28) 137	(1) 17	· 人工魚礁 6,100→7,000ha 등
地方道 擴·鋪裝	897	-	897	· 780km 建設 (國庫 50%)
綜合福祉館 建立	30	-	30	· 30個所 (國庫 50%)
農漁村實業系 高校支援	57	34	23	· 授業料 및 實習施設
零細民選定基準上向調整	(33) 434	(-) -	(33) 434	· 支援基準: 月34→42千圓 · 支援對象: 1,337→1,510千名
農民教育院就業訓練強化	30	-	30	· 施設 및 裝備擴充
其他	40	26	14	· 落島交通擴大 등
計	(952) 4,428	(325) 767	(627) 3,661	

註: ()는 資特內書임.

資料: 農林水產部 農業政策局

第2節 農林水産 金融支援 強化

1. 營農資金 支援 擴大

農家の 農業經營規模가 擴大되고 經營形態도 多樣化 됨에 따라 農村의 資金需要는 繼續 增大되고 있다.

增大되는 農漁家の 資金需要를 充足시켜 주고 아울러 農漁家の 金融借入을 制度金融으로 吸收시켜 나가기 위하여 '87年度 營農資金을 지난해보다 2,000億원이 늘어난 1兆원을 供給할 計劃이다. 特히 營農資金의 支援時期에 있어서는 營農準備期인 上半期中에 年間 支援額의 대부분인 8,600億원을 集中 支援하여 資金支援의 效率化를 期하고 '86년에 이어財政에서 1,000億원을 追加 支援함으로써 營農資金의 運營에 效率化를 期해 나갈 것이다.

또한 營農資金은 現金支援 以外에도 肥料 및 農藥購入에 2,000億원 範圍內에서 外上供給토록 함으로써 '87年度 營農資金의 실질 支援規模는 總 1兆2千億원에 達하게 되었다. 農村의 늘어나는 資金需要를 政策資金 供給만으로는 充足시킬 수 없어 單位農協의 相互金融支援額도 擴大해 나가고 있다.

<表 2-8-2>

主要農業資金 支援狀況

(單位：億원)

	'80	'85	'86	'87(P)
營 農 資 金	3,348	6,891	7,779	10,000
農 業 開 發 資 金	342	1,034	941	-
農 業 機 械 化 資 金	917	1,378	1,627	1,870
農 村 住 宅 資 金	835	459	352	352
長 期 水 利 資 金	107	263	292	275
財 政 資 金	114	281	531	448
後 繼 者 育 成 基 金	-	632	636	634

資料：農林水産部 農業政策局

한편 이러한 短期性 營農資金 以外에도 農漁村의 固定資產 投資增大와 함께 中長期 資金需要가 增大됨에 따라 農業機械化資金, 農漁民後繼者育成資金, 畜產振興基金, 水利資金 등 各種 中長期資金을 擴大供給해 나갈 計劃이다.

2. 農漁村地域 開發基金 新設

中長期農業資金의 円滑한 供給과 農漁村地域의 均衡있는 開發을 위해 지난해에 制定된 農漁村地域開發基金法을 根據로 하여 '87年度에 2,500億원 規模의 基金을 造成하여 農地購入資金 支援, 所得作目 開發 및 複合營農事業에 重点 支援하는 한편 耕地整理事業 등 生産基盤造成事業과 零細農 自立支援, 農漁村副業團地造成·農工地區造成 등 農外所得增大事業, 醫療基盤擴充 및 上·下水道 開發事業등에 支援할 計劃이다.

〈表 2-8-3〉 '87年農漁村地域 開發基金 運用計劃 (單位：百萬원)

事業名	支援額	備考
農地購入資金	115,000	農地購入資金融資
農漁村副業團地育成	9,000	新設 105個所, 既存 609個所
農林水產開發	55,128	果樹, 特作 등 所得源開發과 老朽漁船 代替
農工地區造成	8,600	地方自治團體融資支援比率 擴大 25→50%
醫療脆弱地民間病院	19,327	病院新設 26個所, 運營不實病院施設費 貸換20個所
邑·面上下水道	19,000	上水道 112邑·面, 下水道 36邑·面
農漁村觀光地開發	7,450	民泊 및 宿泊施設, 觀光資源開發
住居環境改善	2,000	住居環境, 便益, 福祉施設 등
耕地整理事業 등	14,495	
計	250,000	

資料：農林水產部 農業政策局

第3節 農業災害 復舊支援 強化

1. 氣象災害 發生現況

'87年度 營農初期에는 적절한 降雨과 함께 平均氣溫도 例年보다 全般的으로

높게 經過하여 모내기를 適期에 마치고 大部分의 農作物 生育狀況도 良好하였으나 7月以後에 颱風 셀마 號의 來襲과 連續된 集中豪雨로 因하여 水利施設, 防潮堤 등 施設이 파괴되고 農耕地가 流失·埋沒되거나 浸水되었다.

특히 今年 7月 中旬에 發生된 颱風 셀마 號는 例年の 8~9월에 發生하던 것과는 달리 7월에 發生하여 많은 비와 颱風을 同伴하고 特히 深夜에 海溢과 滿潮가 겹쳐 많은 被害를 가져왔다.

또한 7月 下旬의 中部地域을 中心으로 한 集中 降雨는 忠南 舒川과 扶餘의 경우 2日동안 各各 673mm, 605mm의 비가 내렸으며 1日 降雨量으로는 氣象臺設置以後 最高水準을 記錄하기도 하였다.

이로 因하여 全國적으로 6,975億원의 財産被害를 가져왔으며 農林水産部門에서도 農耕地 18 f·ha가 流失·埋沒되고 水利施設·防潮堤 5,800餘個所가 破損되는 約2,543億원의 많은 損失을 가져왔다.

2. 被害復舊 支援 強化

今年的 颱風과 豪雨로 인한 被害는 例年에 보기 드문 水準으로 全國에 걸쳐 連續적으로 發生함에 따라 被害 農漁家の 어려움이 많은 點을 감안하여 營農에 不便을 주는 施設을 우선적으로 復舊함과 同時に 被害復舊支援 基準의 改善과 特別生計費補助 等 生活安定支援을 強化함으로써 被害農漁家の 어려움을 最少化하도록 하였다.

가. 農業生産 復舊支援

流失·埋沒된 農耕地 復舊支援을 위하여 從前의 國庫 70%, 自擔 30%中 自擔分 30%는 3~5年 分割償還토록 融資지원 하고 農作物被害에 對해서는 病虫害防除에 필요한 農藥代金を 全額 國庫로 補助함과 同時に 農作物을 代播할 경우에는 所要費用中 國庫支援分을 從前의 60%에서 70%로 上向調整하였다.

또한 小規模 水利施設의 復舊支援率 (國庫 50, 地方費 30, 自擔 20%) 中 自擔分을 融資支援토록 하였고 그밖에 草地와 비닐하우스 復舊와 家畜入殖 時에도 國庫 20%, 融資 60%, 自擔 20%의 從前과 같은 수준으로 支援토록 하였으며, 特히 30%以上 被害農漁家에는 特別生産資金 900億원을 年利 8%, 2년거치 3년 상환으로 지원키로 하였다.

나. 生活安定 支援

被害農漁家の 生活安定을 위하여 全破된 住宅의 新築에는 15坪을 基準으로 660萬원에서 800萬원으로 上向調整하여 國庫 20%, 長期融資 60%를 支援토록 하였으며 半破된 住宅의 경우에도 改築을 希望할 때에는 全破된 住宅復舊基準으로 支援토록 하였다.

또한 被害로 因하여 生計가 어려운 農漁家에 對해서는 長期救護 (醫療救護 包含) 期間을 從前의 1~3個月에서 1~6個月로 延長하고 長期救護期間 終了後에도 生計가 어려운 農漁家에 對해서는 生活保護對象者에 包含하여 繼續 支援토록 하였다. 이와함께 罹災民에 對한 就勞事業도 當初 50億원에서 100億원으로 事業規模를 擴大하여 50%以上 被害農漁家에 對한 就勞事業을 擴大하였으며 被害地域住民에 對한 糧穀貸與交換도 從前의 6個月分 1年 償還에서 1年分 2年償還으로 擴大하였다. 特히 今番 被害農漁家中 1.5ha未滿 農漁家が 50%以上 被害를 입었을 경우에는 戶當 20~40萬원의 特別 生計費를 補助支援토록 하였으며 水害常習地域 住民이 集團移住團地를 造成 할 경우에는 國庫에서 50%를 支援토록 하였다.

다. 農漁民 負擔 輕減 支援

被害農漁家 經營 및 家計負擔을 덜어 주기 위하여 50%以上 被害를 입은 農漁民에게 融資된 營農, 營漁資金과 養畜資金의 償還期間을 從前에는 1年을 延期하였으나 償還期間과 利子免除期間을 2年으로 延長調整하였으며 農地稅, 取得稅, 財産稅, 登錄稅등 關聯稅金도 減免토록 하였다.

또한 50%以上 被害農漁家の 中高生 子女에 대해서는 2期分 授業料를 免除하고 農地改良組合費도 50~80% 被害農家は 50%, 80%以上 被害農家は 全額을 減免토록 하였다.

第4節 農業災害保險制度 開發

1. 保險制度의 必要性

不可抗力의인 氣象災害로 每年 많은 農耕地가 流失·埋沒되고 農作物이 浸水되는 등 農作物 被害가 發生하고 있으나 現行 風水害對策法 및 農業災害對策法에 의한 支援은 流失·埋沒된 農耕地의 復舊, 農藥代 및 代播代 支援 등 被害復舊支援에 局限되어 있고 또한 營農資金의 償還延期, 農地稅 및 中高生 授業料의 免除 등 被害農家の 負擔을 緩和하는데 그치고 있어 被害農家の 農業再生産에 많은 支障과 함께 農家經濟의 어려움을 加重시키는 結果를 초래하고 있다.

따라서 農業生産過程에서 自然災害로 인한 農家の 經濟的 損失을 어느정도 補償해 주고 安定的인 營農活動을 保障해 줄 수 있는 農業災害保險制度의 導入이 크게 요청되고 있다.

2. 推進現況 및 向後計劃

農業災害保險制度의 開發을 위하여 '75년부터 本格的인 研究活動을 推進해오고 있으며 그동안 美國, 日本 等 先進國의 農業災害保險制度에 對한 分析과 導入의 妥當性을 檢討하여 왔고 특히 '80년에는 이러한 基本資料를 토대로 우리國에 맞는 農業災害保險制度의 基本構想과 長期發展計劃을 樹立하여 이를 根據로 年次的으로 準備作業을 推進하고 있다. 지난 '82년부터 '84년까지는 全國의 8個郡 24個面을 對象으로 水稻作에 對하여 試驗事業設計와 調査事業을 實施하였고 '85년부터 '86년까지는 試驗事業을 위해 基本

統計의 整備, 補完과 함께 專擔人力配置와 損害評價員教育 等 專門人力을 養成하는 데 注力해 왔으며 특히, '87년에는 咸安郡 法守面을 對象으로 圖上演習을 실시중에 있다.

앞으로 '90년대초까지 農業災害保險事業을 우선 水稻作에 對하여 本事業을 實施해 나갈다는 方針아래 '87년에는 事業施行에 따른 問題點을 파악, 補完하기 위하여 圖上演習을 實施하고 基本設計案의 修正·補完作業을 實施할 計劃이다.

또한 이에 必要한 關聯法律의 制定, 保險業務擔當機構의 擴充등 諸般準備와 함께 '88년부터 試驗事業을 年次的으로 實施해 나갈것이며 이러한 試驗事業의 結果를 土臺로 本事業의 實施基準을 마련한후 우리의 經濟力과 農業與件에 알맞는 農業災害保險制度를 導入할 計劃이다.

第9章 農漁家負債 輕減對策

第1節 推進 背景

5次에 걸친 經濟社會開發過程에서 農漁村經濟는 농어민의 자조적인 努力과 政府의 持續적인 投資擴大로 刮目할 만한 發展을 이룩하였다.

그러나 經濟成長과 함께 필연적으로 隨伴되는 산업화와 都市化로 농어촌은 相對적으로 所得이나 生活與件面에서 落後되어 있을 뿐 아니라 特히 70年代末 以後 商業營農의 急進展으로 因한 農機械, 農業施設 等に 對한 投資增加와 生活水準 向上에 따른 의료, 教育비 等の 負擔 增加로 農漁家 負債가 크게 늘어남으로서 負債問題가 農漁村 經濟發展에 커다란 障礙要因으로 擡頭하게 되었다.

이러한 어려운 農漁村 現實을 勘案하여 農漁家の 實質적인 負擔輕減을 通하여 農漁村 經濟를 보다 活性化해 나가기 爲하여 지난 '87年 3月 16日 「農漁家 負債輕減對策」을 樹立 推進하게 되었다.

1. 相對적으로 어려운 農漁村 經濟 活性化

農漁家負債 輕減對策의 根本趣旨는 지난 '86.3月 劃期的인 農漁村 綜合對策의 樹立推進으로 農漁村 經濟發展의 轉機를 마련한 바 있으나 이러한 綜合對策의 施策效果가 本格的으로 나타나기까지는 相當한 期間이 所要될 것이 豫想되어 그동안 農漁家の 負擔이 되고 있는 負債負擔을 크게 輕減시킴으로써 農漁村 經濟의 活性化를 促進시키는 與件을 造成하자는 데에 있다.

2. 農漁家 負債負擔을 實質的으로 輕減

農漁家 負債는 그동안 政府의 各種 支援措置로 그 增加率이 漸次 鈍化되고 있으나 規模面에서는 繼續 增加추세에 있고 또한 農漁家 負債中 高利의 私債가 農漁村經濟에 큰 負擔이 되고 있어 全體經濟 運用基調를 沮害하지 않는 範圍內에서 이러한 負債負擔을 緩和해 주기 爲하여 農家負債의 29%를 차지하고 있는 私債를 代替하는 한편 生産的인 中長期 資金의 金融負擔을 輕減하고 特히, 經營與件이 어려운 零細農漁家에 支援을 擴大함으로써 負債負擔輕減效果가 最大限 擧揚될 수 있도록 하였다.

3. 農漁村 經濟體質 強化로 成長促進基盤 擴充

今番 農漁家負債輕減對策은 單純한 負擔輕減 次元을 떠나 農漁村經濟의 취약점을 補完하여 보다 根本的인 對策을 마련함으로써 앞으로 農漁村經濟 成長을 보다 促進하는데 그 目的을 두고 農水產關聯資金의 金利引下, 農地 購入 資金 等 中長期 資金 擴大 等 農漁村 經濟體質을 強化하기 爲한 措置도 併行하여 推進토록 하였다.

第2節 負債輕減對策 內容

1. 私債 代替資金 支援

農漁村 經濟에 큰 負擔이 되고 있는 高利의 私債負擔을 덜어주기 爲하여 1兆원의 公金融을 特別支援키로 하고 이 中 年利 8%의 低利資金 5,000億원은 1ha以下에 準하는 農漁家에 對하여 戶當 100萬원 限度內에서 支援키로 하였으며, 年利 14.5%의 特別相互金融 5,000億원은 其他 農漁家에 對하여 戶當200萬원 限度 內(低利資金 包含)에서 支援키로 하였다. 다만 家口員中 月平均 20萬원 以上の 봉급생활자가 있거나 이러한 소득수준을 上廻하는

兼業을 하는 農漁家は 支援 對象에서 除外토록 하였다.

<表 2-9-1> 1 ha 以下에 準하는 農漁家の 範圍

農 家	養 畜 農 家	漁 家
· 農地 1 ha 保有	· 소 15頭 以下 · 돼지 75頭 以下 · 닭소 10頭 以下 所有	· 漁船 無保有 · 無動力船 또는 5톤 以下 動力船 使用 · 小規模 增養殖 (垂下·延繩式 3ha, 撒布·投石式 12ha 未滿)

資料：農林水産部 農業政策局

특히 私債代替資金 融資時 擔保力이 微弱한 零細農漁民을 위하여 현재 運營하고 있는 農林水産業者 信用保證規程을 改正하여 信用保證要件을 緩和하였으며 또한 私債代替用으로 保證基金을 새로이 500億원을 造成함으로써 總規模 7,500億원의 信用保證이 可能토록 하였다. 한편 私債資金 支援 效果를 最大한 擧揚하기 爲하여 過度한 消費生活과 投機 등으로 負債를 지게된 農漁家와 自力으로 負債償還能力이었다고 客觀적으로 認定되는 農漁家は 私債代替資金 支援對象에서 除外하였으며 알뜰한 營農漁에도 不拘하고 災害나 疾病 등 不意의 事故로 부득이 私債를 지게된 農漁家를 優先적으로 支援토록 하였다.

<表 2-9-2> 私債代替 資金 支援

	低 利 資 金	特 別 相 互 金 融
支 援 規 模	5,000億원	5,000億원
支 援 條 件	年利 8%	年利 14.5%
戶 當 支 援 限 度	100萬원	200萬원(低利資金包含)

資料：農林水産部 農業政策局

2. 零細農漁家 中長期資金의 低利資金 代替

零細 農漁家の 經營與件이 어려운 點을 勘案하여 이들 農漁家에 對한 支援을 擴大하기 爲하여 0.5ha 以下에 準하는 農漁家를 對象으로 既支援된 農機械資金, 農漁民後繼者育成資金, 農水産開發資金, 漁船建造資金, 農村住宅資金 等 中長期資金에 對해서는 現行 5~11%의 貸出金利를 年利 3%로 引下하고 當初의 償還期日에 不拘하고 3年据置 7年償還으로 代替支援키로 하였으며 다만 家口員中 月所得 12萬圓 以上の 봉급생활자가 있거나 同所得水準을 上廻하는 시설원예, 축산등 기타 兼業 農漁家是 支援對象에서 除外토록 하였다.

〈表 2-9-3〉 0.5 ha 以下에 準하는 農漁家の 範圍

農 家	養 畜 農 家	漁 家
· 農地 0.5ha 以下 保有	· 소 8頭 以下 · 돼지 38頭 以下 · 鷄 5頭 以下 所有	· 漁船 無保有 · 無動力船 또는 2톤 以下 動力船 使用 · 小規模 增養殖 (垂下·延繩式 1.5ha, 撒布·投石式 6ha 未滿)

資料：農林水産部 農業政策局

3. 農水産關聯資金 金利引下 및 '83~'84年 소入殖資金 利子代支給

農漁民의 金融負擔 緩和로 農漁村 經濟體質을 強化하기 爲하여 모든 農水産 政策資金 金利를 現行 10~11.5%에서 8%로 引下하였으며 營農漁資金, 農村住宅資金등의 延滯金利를 現行 17~20%에서 2%포인트 引下된 15~18%로 調整하여 延滯로 因한 金利負擔을 緩和하고 특히 '83~'84에 支援한 소入殖資金中 既 延期 및 金利引下措置된 全 資金에 對하여 '85.1.1以後 發生利子 全額(805億圓)을 畜産振興基金에서 代支給키로 하였다.

4. 農地購入 資金支援과 大學 寄宿舍 擴充

農村에 定着意志가 있는 農民에 對하여 總 2,000億원 規模의 農地購入資金을 年利 5%, 2年 据置 18年 償還으로 支援하는 한편 大學生 子女를 둔 農漁村 學父母의 學費負擔을 덜어주기 위한 措置로서 每年 400億원 規模의 資金을 支援하여 年次的으로 寄宿舍 施設을 擴充할 計劃이다.

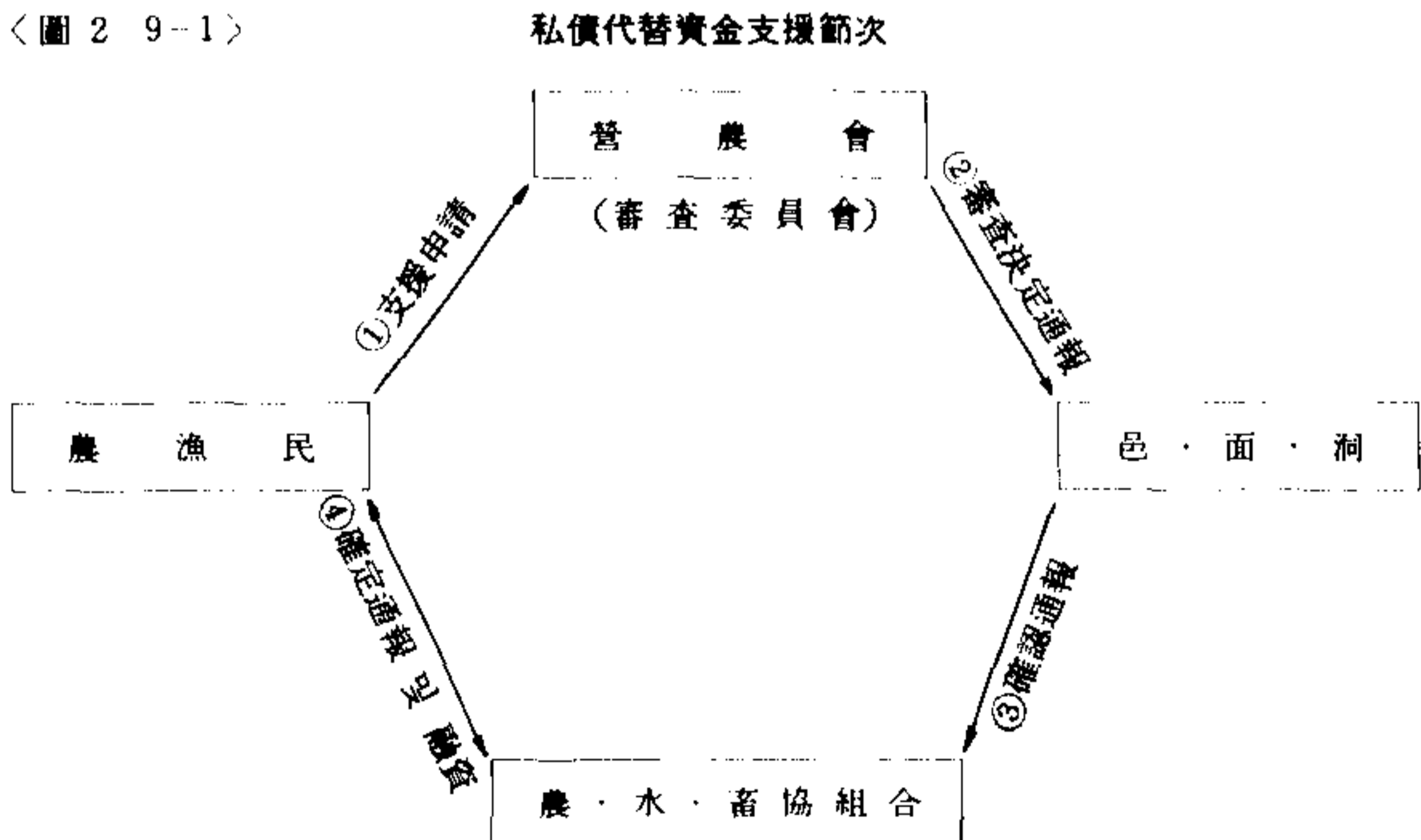
第3節 負債輕減對策 推進狀況과 期待效果

1. 推進狀況

가. 私債代替資金 支援

私債代替資金의 支援은 마을單位 營農會에 設置한 審査委員會의 審査와 邑·面·洞長의 確認을 거쳐 農·水·畜協에서 農漁民에게 確定通報後 農漁民의 申請을 받아 融資를 實施토록 하였다.

〈圖 2 9-1〉



私債代替 資金의 配定은 農水畜協이 行政機關과 協調하여 營農會까지 配定 하되 營農資金 配定基準과 零細農漁家 戶數 等を 고려하여 配定토록 하였다.

<表 2-9-4> 私債代替資金 申請 및 配定現況

	申請農漁家數	申請額	配定額	審査確定額
低利資金	596 ^{千戶}	5,908 ^{億원}	5,000	5,000
特別相互金融資金	446	4,505	5,000	4,527
計	1,042 (695)	10,413	10,000	9,527

註：()는 重複農漁家 除外戶數
資料：農林水產部 農業政策局

한편 私債代替資金의 支援狀況을 보면 '87. 8月末 現在 支援實績은 7,640 億원으로서 配定額의 76%가 融資支援되었으며 그 中 低利資金은 配定額 5,000億원 中 98%가 融資支援됨으로써 마무리 단계에 있다.

특히 今番 私債代替資金 支援過程에서 農漁民 相互間의 互讓精神을 바탕으로 한 和合寡團氣를 積極 造成함으로써 迅速하고 円滑한 事業推進이 되도록 하였다.

나. 零細農漁家 中長期資金 低利代替

零細農漁家에 대한 中長期 資金의 低利代替는 그동안 새마을 營農會의 審査와 邑·面·洞의 確認을 거쳐 確定된 低利代替 支援對象規模가 328千件에 4,047億원으로 集計되어 當初 推定額 3,740億원보다 307億원이 增加하였으며 이는 현재 代替支援中에 있다.

다. 農水產關聯資金 金利引下 및 農地購入資金 등 支援

中長期 農水產關聯資金 金利引下와 營農漁資金, 農村住宅資金 등 延滯金利를 '87. 3. 16日을 基準으로 종전의 17~20%에서 15~18%로 引下 措置하였으며 '83~'84 소入殖資金 利子는 利子が 發生되는 每翌年度 3月까지 代

支給할 計劃이며 '87年度分 141億원을 이미 代支給 措置를 하였다.

農地購入資金은 今年度에 總 2,000億원을 支援할 計劃으로 이에 필요한 財源을 農漁村地域開發基金 등에서 確保하여 農地去來時期인 今年 秋收期 부터 支給할 計劃이다.

또한 寄宿舍施設 擴充은 年次別 計劃에 의거 推進되고 있으며 今年에는 國立大學에 109億원, 私立大學에 286億원, 總 395億원을 支援하여 農漁村出身子女의 寄宿舍收容率을 점차 提高해 나갈 計劃이다.

2. 農漁村經濟에 미치는 效果

農漁村 負債輕減對策을 通하여 農漁民金融負擔輕減은 私債代替 등으로 '87 ~ '89년에 年平均 約 2,471億원이 될것으로 推定되며 年間 約 2兆원 規模의 低利 農水產關聯資金이 供給됨으로써 農漁民의 當面한 어려움을 덜어주고 農漁村經濟를 活性化하는데 크게 寄與할 것으로 期待된다.

<表 2 9-5>

負擔輕減效果推定

(單位：億원)

	'87	'88	'89
私債代替資金	1,295	1,295	1,295
零細農漁家 中長期 低利資金代替 支援	147	184	184
農水產關聯資金 金利引下	243	310	310
'83~'84 入殖資金 利子代支給	141	156	210
延滞金利引下 및 寄宿舍 擴充	101	165	236
農地購入資金	190	380	570
計	2,117	2,490	2,805

資料：農林水產部 農業政策局

<表 2-9-6>

低利의 資金供給規模

(單位：億圓)

	支 援 規 模
私債代替資金	10,000
零細農漁家 中長期資金의 低利代替支援	4,047
農地購入 資金 支援	2,000
金利引下로 因한 資金支援 등	4,437
計	20,484

資料：農林水産部 農業政策局

여배우

第2部 林業部門

第1編 1986年度 林業動向

여백

第1章 概 況

第1節 山林現況

1. 山林面積과 林木蓄積

우리나라의 山林面積은 '86年末 現在 6,524千ha로 全國土의 66%를 차지하고 있으며, 이중 國有林이 1,318千ha(20%), 公有林 489千ha(8%)이며 私有林은 4,698千ha로 全體山林의 72%를 차지하고 있다.

山林面積은 그동안 高度産業社會化 되어가는 과정속에 都市의 급속한 팽창과 産業施設의 擴充, 草地造成과 農作物栽培등 他目的으로 轉用되어 '60年以來 每年 平均 約 9千ha의 山地가 줄어들었다.

또한 '86年末 現在 總林木蓄積은 192,931千 m^3 이며, 이중 國有林이 72,289千 m^3 (38%), 公有林 13,657千 m^3 (7%), 私有林이 106,985千 m^3 (55%)이다. ha當 平均林木蓄積은 30 m^3 로 先進林業國인 西獨 150 m^3 , 日本 113 m^3 , 美國 78 m^3 에 비해 크게 낮은 수준이며 世界平均 林木蓄積인 81 m^3 에 비해서도 2/5에 불과한 實情이다.

<表 1-1-1>

所有別 山林面積 및 蓄積

	面 積	%	蓄 積	%	ha當 蓄 積
計	6,524 千ha	100	192,931 千 m^3	100	30 m^3
國 有 林	1,318	20	72,289	38	55
公 有 林	489	8	13,657	7	28
私 有 林	4,698	72	106,985	55	23

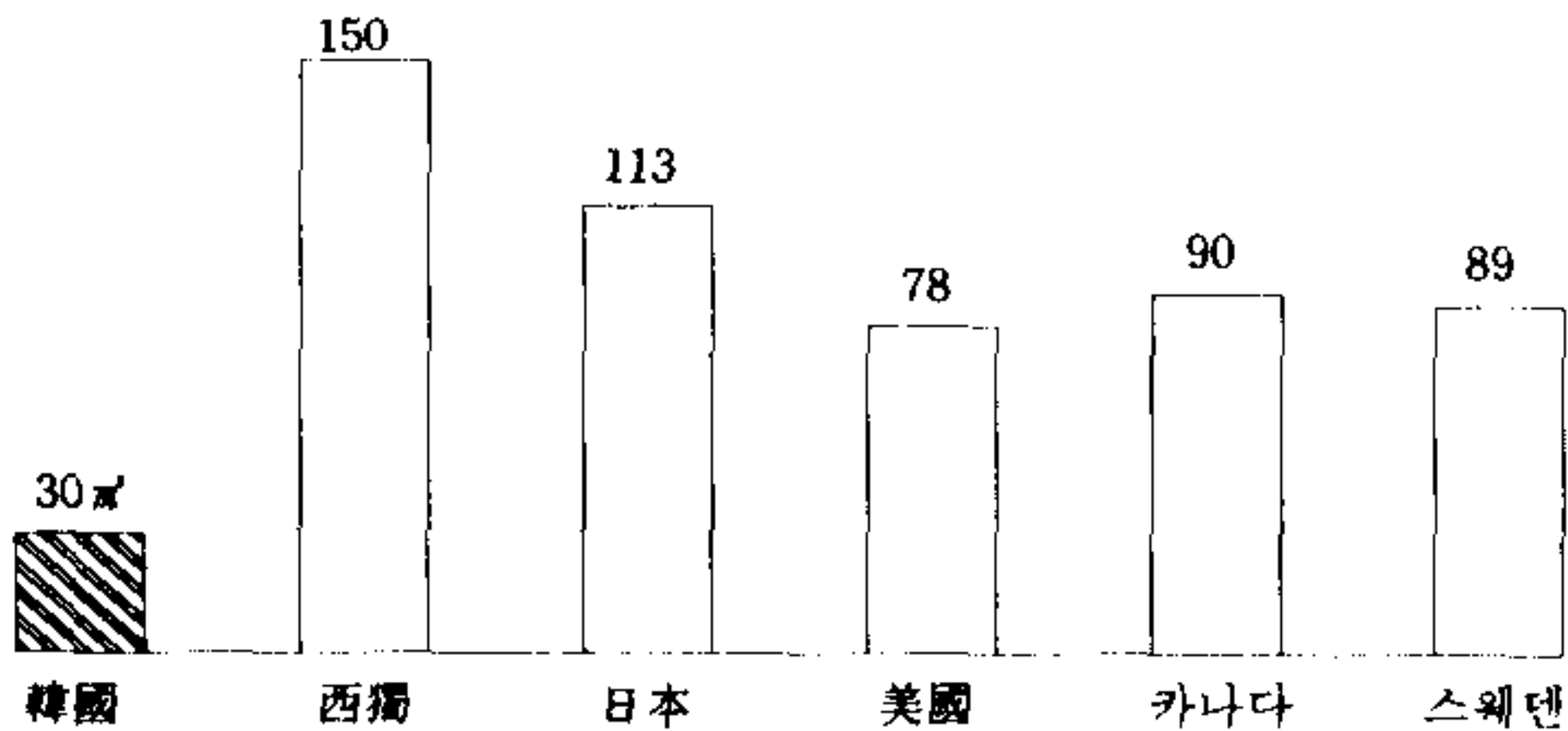
註：面積 計란에는 末調査地面積 19千ha 포함

資料：山林廳 林政局

그러나 지난 '73년부터 本格的으로 추진하기 始作한 1, 2次 治山綠化事業의 積極 推進으로 ha當 林木蓄積은 '72年 11.0㎥에서 '86년에는 30㎥로 2.7 倍나 증가되었으며, 앞으로 2030년까지는 ha當 84㎥로 늘릴 목표아래山林資源造成을 강화해 나갈 것이다.

<圖 1-1 1>

先進林業國의 ha當 林木蓄積



資料 : FAO, 日本 林野廳

한편 林相別 山林面積을 보면 針葉樹林이 절반이 넘는 3,270千ha로 全體의 52%를 차지하고 있으며, 闊葉樹林 19%(1,182千ha), 混淆林이 29%(1,831千ha)를 차지하고 있다.

<表 1-1 2>

林相別 齡級別 山林面積

(單位 : 千ha)

	計		針葉樹		闊葉樹		混淆林	
	計	%	計	%	計	%	計	%
計	6,283	100	3,270	100	1,182	100	1,831	100
I 齡級	3,087	49	1,939	59	373	32	775	42
II "	2,149	34	1,028	31	338	29	783	43
III "	573	9	159	5	250	21	164	9
IV "	343	6	116	4	148	12	79	4
V " 以上	131	2	28	1	73	6	30	2

資料 : 山林廳 林政局

그리고 齡級別 山林面積은 10年生 未滿의 I 齡級이 3,087千ha(49%), II 齡級 2,149千ha(34%)로 全林木地の 83%를 점유하고 있어 아직까지 우리나라의 山林은 幼齡林이 대부분이다.

2. 山林所有 構造

우리나라의 山林面積率은 66%에 이르고 있으나 國民1人當 山林面積은 0.16ha로 世界平均 0.85ha의 1/5에 지나지 않고, 아직까지 林木蓄積도 빈약하여 每年 木材需要量の 80%以上을 外材에 依存하고 있는 실정이다.

'85年 現在 全體山主數는 1,911千名이며, 山主1人當 平均 私有林野所有面積은 2.5ha이다.

山林所有構造를 보면 10ha미만의 山林을 所有하고 있는 山主가 1,831千名으로 全體山主의 96%에 이르고 있는 반면 이들이 차지하고 있는 面積은 2,465千ha로 全體私有林의 52%에 不過하여 經營規模가 매우 零細한 實情이다.

이와같이 林業經營規模가 零細함에 따라 山主들의 投資意慾도 微弱하고 山林을 所有하는 意識에 있어서도 山林經營을 위한 것보다 대부분 墓地 또는 備蓄財産의 手段으로 認識함으로써 山林經營의 活性化에 커다란 沮害要因이 되고 있다.

<表 1-1-3>

私有林野 所有規模 現況

	山 主		面 積	
	千名	%	千ha	%
計	1,911	100	4,708	100
1 ha 未 滿	1,144	59.9	317	6.7
1~5 ha	568	29.7	1,323	28.1
5~10 ha	119	6.2	825	17.5
10~20 ha	52	2.7	705	15.0
20~50 ha	21	1.1	631	13.4
50 ha 以 上	7	0.4	907	19.3

資料：內務部 地籍 電算化 資料 ('85)

第2節 林業生產

1. 林業 附加價值

'86年度の 附加價值는 3,974億 원('80不變價格)으로 國民總生產의 0.7%를 차지하고 있으며, 國民總生產에 대한 林業部門의 構成比率은 '75年の 1.3%, '80年の 0.9%에 비해 점차 감소하고 있는 추세에 있다.

이와 같이 國民總生產에 대한 林業部門의 比重이 점차 낮아지고 있는 것은 相對的으로 2, 3次產業이 높은 成長을 가져온데 기인하지만 林業生產의 主宗을 이루고 있는 農用資材, 燃料材 등의 生産이 점차 감소하고 있을뿐 아니라 대부분의 山林이 幼齡林으로 構成되어 있는 점을 감안 國內材節伐政策을 堅持하고 있어 木材生産이 크게 늘어나지 못하고 있기 때문이다.

그러나 山林이 지나고 있는 國土保全, 水資源涵養, 空氣淨化 등의 公益的 價値가 木材生産과 같은 山林의 經濟的 價値보다 훨씬 큰 것으로 評價되고 있어 林業이 國民生活에 미치고 있는 영향은 지대하다고 할 수 있다.

<表 1-1 4>

國民總生產과 林業生產

(單位：10億 원)

	總 生 產			構 成 比 (%)		成 長 率 (%)		
	國民總生產	農林漁業	林 業	農林漁業	林 業	國 民 總生產	農 漁	林 業
1975	25,815.7	6,289.1	326.4	24.3	1.3	6.8	4.2	△ 3.4
1980	36,672.3	5,524.7	347.1	15.1	0.9	△4.8	△19.9	17.0
1985	52,705.4	7,809.2	435.5	14.8	0.8	5.4	4.8	△ 4.7
1986(P)	59,289.8	8,156.5	397.4	13.8	0.7	12.5	4.4	△ 8.7

註：1) 80年 不變價格基準임

2) '83年 以後 林業生產에는 土石類生産이 除外됨

資料：韓國銀行

2. 林產物生產額

'86年度 林產物 生產額은 總 18,393億 원으로서 土石類가 11,565億 원으로 全體生產額의 63%를 차지하고 있으며, 農用資材 3,723億 원(20%), 燃料 933億 원(5%), 種實類 676億 원(4%), 버섯 401億 원(2%), 其他 611億 원(3%)이며, 主產物인 用材 및 竹材生產은 484億 원으로 3%에 불과하다.

<表 1-1-5>

林產物 生產推移

(單位：億 원)

	單位	'82		'83		'84		'85		'86	
		物量	金額	物量	金額	物量	金額	物量	金額	物量	金額
計			5,853		10,848		18,793		18,441		18,393
用材	千㎍	976	474	878	501	854	532	781	460	801	476
竹材	千束	66	7	166	21	136	12	139	13	80	8
燃料	千%	4,343	839	4,404	1,201	3,990	1,138	3,181	974	2,816	933
農用資材	"	19,057	2,657	26,692	3,887	29,414	4,283	26,345	4,028	22,124	3,723
種實類	千kg	70,861	740	77,841	489	74,089	639	80,393	645	66,078	676
버섯	"	1,725	154	3,497	344	2,745	292	3,067	382	2,090	401
섬유원료	"	933	9	961	13	725	8	653	6	540	5
산나물	"	2,064	21	2,468	25	2,547	27	3,659	52	4,384	60
藥用	"	1,451	28	1,052	37	1,085	35	1,206	34	1,362	45
土石類	千㎍	11,685	903	11,155	3,739	21,513	11,276	23,956	11,379	27,883	11,565
造林	千ha	-	-	94	418	86	418	72	348	72	362
養苗	千本	-	-	244	137	167	102	147	99	157	112
其他	-	-	21	-	36	-	31	-	21	-	27

資料：山林廳 林政局

第3節 林業投資

1. 林業部門 豫算

'86年度 林業部門豫算規模는 '85年보다 5%가 增加된 600億 원으로서 會計別로는 一般會計 471億 원(78.5%), 國有林野管理特別會計 104億 원(17.3%), 資金管理特別會計 25億 원(4.2%)이다.

<表 1-1-6>

林業部門 豫算

(單位：百萬 원)

	'85				'86			
	計	一般	國特	資特	計	一般	國特	資特
合計	57,201	45,748	9,775	1,500	59,984	47,102	10,382	2,500
機關運營	1,584	1,584	-	-	1,775	1,775	-	-
林政管理	3,523	3,523	-	-	3,871	3,871	-	-
營林計劃	402	402	-	-	392	392	-	-
山林保護	4,707	4,132	575	-	3,137	2,558	579	-
造林及育林	16,796	12,514	2,782	1,500	18,819	13,521	2,798	2,500
砂防	13,052	13,052	-	-	12,031	12,031	-	-
技術指導	1,725	1,725	-	-	2,045	2,045	-	-
林道施設	1,547	992	555	-	2,266	1,374	892	-
國有林經營管理	5,816	-	5,816	-	6,048	-	6,048	-
林業試驗	2,824	2,824	-	-	3,186	3,186	-	-
山林調查	188	188	-	-	165	165	-	-
育種研究	2,170	2,170	-	-	2,271	2,271	-	-
林業研修	287	287	-	-	414	414	-	-
試驗林管理	2,353	2,353	-	-	3,605	3,605	-	-
豫備費	47	-	47	-	65	-	65	-

資料：山林廳 企劃管理官室

'86年度 林業部門豫算의 具體的 內容을 보면 造林 및 育林事業 188億원, 砂防事業 120億원으로 山林資源造成과 公益機能增進分野가 51.5%를 占有하고 있으며, 이외 林道施設이 23億원(4%), 林業技術指導 및 林業試驗研究가 111億원(18.5%), 國有林經營管理 60億원(10%), 山林保護 31億원(5%), 其他 67億원(11%)으로 構成되어 있다.

2. 林業資金 支援

山林經營은 資本의 懷妊期間이 길어 造林에서 育林, 伐採에 이르기까지 長期間동안 지속적인 資本投下가 이루어져야 하나 林業의 低收益性과 零細 山主들의 투자능력이 빈약한 우리 實情에서는 長期低利性 融資金支援이 필수적으로 요청되고 있다.

<表 1-1-7>

林業融資現況

(單位：百萬원)

	'85			'86		
	計	資 特	山 林 開發基金	計	資 特	山 林 開發基金
計	2,330	1,500	830	3,375	2,304	1,071
養 苗 施 業	920	605	315	1,267	742	525
林 產 物 利 用 加 工	90	—	90	241	—	241
林 產 事 業	315	—	315	100	—	100
豆 高 生 產	274	224	50	376	296	80
山 林 副 產 物 收 集	60	—	60	548	368	180
林 道 施 設	—	—	—	160	160	—
造 林	155	155	—	127	127	—
育 林	516	516	—	611	611	—

資料：山林廳 林政局

各種 山林事業에 대한 融資는 대부분 山林開發基金과 資特資金에 依해 支援되고 있으며, 이외에 副產物 收買調節 및 輸出支援을 위해 農安基金과 農業開發資金, 農協資金 등에서 支援하고 있다.

'86年度 山林廳 管轄 林業融資金支援規模는 前年度보다 45%增加한 34億 원이며, 內譯別로는 山林開發基金 11億 원 資特資金 23億 원으로 養苗施業, 造林과 育林, 山林副產物 蒐集 등에 重點的으로 支援되었다.

또한 山林廳管轄 資金外에도 農安基金에서 밤, 표고, 떡갈잎, 명개잎 출하 조절을 위해 40億 원, 밤 輸出促進을 위한 밤 蒐集資金 16億 원을 支援하였으며, 養苗事業을 위해 農協資金 49億 원, 표고생산을 위해 農業開發資金 5億 원을 支援하였다.

第2章 山林資源造成

第1節 造林

荒廢山地的 早期綠化를 위해 第1次 治山綠化10年計劃期間 ('73~'78)동안 에는 速成樹 爲主의 量的造林을 실시하였으며, '79년부터 시작된 第2次治山綠化10年計劃부터는 山地利를 資源化하여 山地에 새로운 國民經濟圈을 造成하기 위해 長期樹爲主의 大單位經濟林團地를 集中 造成하여 오고 있다.

'86年度에는 形質不良林地와 病害蟲등 各種 被害林地에 대한 樹種 更新造林에 力點을 두어 추진한 결과 造林目標 48,854ha보다 8% 增加된 52,792ha에 139百萬本을 植栽하였으며, 그 중 國有林은 1,961ha, 私有林은 50,831ha에 植栽하였다.

<表 1-2-1>

造林實績

單位 [面積: ha
本數: 千本]

		'84		'85		'86	
		面積	本數	面積	本數	面積	本數
計		71,605	174,928	52,327	137,257	52,792	138,679
一般造林	小計	48,620	140,914	39,800	114,534	42,579	121,640
	長期樹	46,120	140,039	37,991	113,815	39,581	120,467
	有實樹	2,200	875	1,809	719	2,998	1,173
올림픽 對備造林	小計	22,985	34,014	12,527	22,723	10,213	17,039
	速成樹	21,207	12,962	10,906	5,514	8,518	4,171
	大苗 造景	1,778 —	3,644 17,408	1,621 —	3,224 13,985	1,695 —	3,376 9,492

資料: 山林廳 造林局

1. 植木日行事

植木日(4月5日)을 前後한 3月 21일부터 4月 20일까지 1個月間을 國民植樹期間으로 設定하고 全國 各市道 및 營林署에 國民植樹推進狀況室을 設置 運營하는 한편 汎國民的 植樹參與를 유도하기 위해 林業技術相談室을 設置하여 植樹技術을 指導해 주고 市·郡 單位 以上 大都市에는 山林組合을 통한 나무市場을 開設하여 苗木購入을 알선해 주었다.

第41回 植木日 行事에는 總 30,840個 機關 團體에서 2,219千名이 參與하여 12,429ha에 23,244千本을 植栽함으로써 '86年度 造林實績의 24%를 植木日에 植栽하였다.

2. 經濟林團地 造林

山地資源化의 計劃的 推進을 위하여 全國 80個 大單位 經濟林團地에 地域別 完結原則으로 不良林地 및 病害蟲 被害林地에 대해 낙엽송, 잣나무, 삼나무, 편백 등 經濟樹 爲主로 41,192ha에 樹種更新造林을 실시하였으며 全體 造林面積의 78%를 經濟林團地에 造林하였다. '86年末 現在 經濟林團地 造成面積은 334千ha로 第2次 治山綠化 10年計劃期間동안의 造成目標 400千ha의 84%를 造成完了하였다.

3. 올림픽對備 造林

'88올림픽 關聯地域인 競技場周邊, 史蹟地 및 觀光地周邊, 高速道路周邊, 聖火奉送路邊 등 主要地域에 速成綠化에 의한 景觀造成을 위하여 大苗造林, 速成樹造林 및 造景造林 10,213ha(17,039千本)을 실시하여 쾌적하고 아름다운 山林 美觀造成에 기여하였다.

4. 農村經濟樹 植栽事業

全國 3,357個 마을 遊休空閑地에 有實樹등 經濟樹種 4,558千本을 植栽하여 農家所得增大基盤을 造成하였을 뿐만 아니라 아름다운 農村景觀造成과 나무 심고 가꾸기의 生活化를 도모하였다.

樹種別 植栽內譯은 長期樹 1,025ha(3,113千本), 速成樹 1,704ha(826千本), 有實樹 1,529ha(619千本)이다.

<表 1-2-2>

農村經濟樹심기 實績

	計	경 기	강 원	충 북	충 남	전 북	전 남	경 북	경 남	제 주
마을 수 (個)	3,357	190	487	280	1,306	179	372	307	226	8
면 적 (ha)	4,258	201	571	281	1,473	270	682	415	356	9
本 數 (千本)	4,558	159	725	241	1,772	239	592	465	338	27

資料：山林廳 造林局

第2節 天然林 保育과 育林

1. 天然林 保育

天然林의 資源化를 促進시키기 위하여 '82년부터 萌芽更新이 잘되는 優良 闊葉樹林과 天然下種更新이 잘되는 剛松林의 密生幼齡林에 대하여는 人工 造林을 止揚하고 保育作業을 實施함으로써 用材林으로 育成하는 것은 물론 造林經費를 節減하고 收穫時期를 단축시키는 효과를 거두고 있다.

'82년부터 '85년까지 65千ha의 天然林保育作業을 實施하였으며 '86년에도 19千ha를 실시하여 점차 擴大해 나가고 있다.

2. 育 林

가. 育林行事

'77년부터 매년 11월 첫주 토요일을 「育林的 날」로 지정하고 이날부터 일주일간을 育林週間으로 設定함으로써 심어놓은 나무를 더욱 쓸모 있게 가꾸기 위한 汎國民的 育林運動을 展開하게 되었다.

'86년에도 育林的날부터 1週日間(11月1日~6日)을 育林週間으로 設定하고 全國民이 育林에 參與하도록 重點啓導하는 한편 11月 1日 育林的 날 行事에는 總 50千機關 및 團體에서 4,119千名이 參與하여 비료주기, 가지치기 등 總 83千ha의 育林作業을 실시하였다.

나. 體系的 育林管理

심어놓은 나무를 더욱 쓸모있게 가꾸기 위해 各種 育林事業을 適期에 體系的으로 실시함으로써 計劃보다 5千ha가 늘어난 412千ha의 育林作業을 차질없이 完了하였다.

事業別 作業內容을 보면 追肥는 造林後 1~2年 經過한 林地中 生育不良 林地와 速成綠化를 要하는 林地에 重點 施肥하였으며, 事業時期는 農村 人力不足을 감안하여 計劃量의 80%는 春期 (3月~5月), 20%는 秋期 (10月~11月)에 實施하였고 零細山主가 실행하는 경우 肥料現物과 運搬費를 各各國庫와 地方費에서 補助해 주었으며 '86年度 追肥實績은 119千ha이다.

풀베기 作業은 造林後 3年間の 林地(잣나무, 5年)에 대하여 7月上旬과 8月下旬사이에 總 174千ha를 實施하였으며, 造林後 5~10年內外의 林地에 대해 가지치기 및 雜木 숙아내기 등 稚樹가꾸기 作業 78千ha를 實施하고 零細山主의 積極的인 參與를 유도하기 위하여 所要作業費의 60%를 財政補助해 주었다.

한편 造林木生長에 크게 지장을 주고 있는 덩굴除去를 위하여 이에 所要되는 藥劑를 國庫에서 現物支援해 주는 등 19千ha의 事業을 實施하였으며,

適正生育空間을 確保하여 林木生長과 形質生長을 促進시키기 위한 間伐作業 22千ha를 實施하였다.

〈表 1-2-3〉 育 林 事 業 實 績 (單位：千ha)

	'81	'82	'83	'84	'85	'86
計	1,001	1,003	943	694	679	412
肥 料 주 기	180	259	250	137	13	119
풀 배 기	412	359	335	275	204	174
稚 樹 가 꾸 기	395	371	345	253	298	78
덩 굴 除 去	—	—	1	4	16	19
間 伐	14	14	12	25	26	22

資料：山林廳 造林局, 營林局

第3節 優良種苗安定供給

採種園과 秀型木에서 採取한 優良種子를 잘 發芽시켜 健全苗木을 供給하기 위하여 '86年末 現在 秀型木 1,768本, 採種園 750ha를 管理하고 있다.

'86年度에는 '87年 造林用 苗木의 安定供給을 위해 總 127百萬本을 計劃 生産하기로 하고 種子 採取에서부터 苗木供給에 이르기까지 體系的인 관리를 실시한 결과 計劃보다 19%늘어난 151百萬本の 苗木을 供給하였고 樹種도 21個樹種에서 25個樹種으로 擴大하였다.

그리고 養苗施業의 效率化를 위해 圃地의 集團化와 水利安全化, 機械化를 圖謀하였다.

<表 1-2-4>

採種園造成現況

單位 [面積: ha
本數: 千本]

樹種別	面積	本數
合計	750	300
소나무	109	43.6
일본잎갈나무	270	108
리기다소나무	50	20
잣나무	91	36.4
편백	40	16
삼나무	30	12
해송	22	8.8
젓나무	40	4
리기테다	120	48
特用樹種	8	8.2

資料: 山林廳 造林局

<表 1-2-5>

'88年養苗實績

(單位: 千本)

樹種別	計劃	實績	比率(%)
合計	126,867	150,626	119
長期樹	113,591	136,561	120
速成樹	3,455	3,511	102
有實樹	521	580	111
砂防樹	9,300	9,974	107

資料: 山林廳 造林局

第3章 林業經營基盤의 擴充

第1節 林道施設의 開發

우리나라의 山林은 地形地勢가 險峻하여 作業對象地까지 接近하기가 容易하지 않고 또한 機械裝備의 投入이 困難하므로 生産費用이 높아 外材와 의 價格競爭에서 항상 不利한 位置에 놓이게 되어 山主들의 經營意慾이 低下되고 있는 實情으로서 林道網의 未備는 우리나라 林業이 活性化되지 못하고 있는 主要 要因中的의 하나이다.

林道는 山林施業의 機械化와 省力化를 促進시켜 주고, 특히 손이 닿기 어려운 山林에 대한 造林 및 育林作業을 원활하게 할 수 있어 山地資源化를 促進시킬 수 있으며, 山火 및 山林病害虫 防止 등 山林災害에 신속히 대처할 수 있을 뿐만 아니라 地域社會開發에도 寄與하는 등 多目的인 效用을 지닌 필수적인 林業經營基盤 施設이다.

우리나라의 林道施設은 '68年 國有林에 처음 開設하기 시작하였고 民有林에는 '83年度에 비로소 開設되기 시작하였다. '86年末 現在 總林道延長은 701km

<表 1-3-1>

林道施設實績

(單位: km)

	'82年 以前	'83	'84	'85	'86
計	224	9	77	161	230
國 有 林	224	4	11	27	41
民 有 林	-	5	66	134	189
總 延 長 (ha 當 密度)	224 (0.03)	233 (0.03)	310 (0.05)	471 (0.07)	701 (0.11)

資料: 山林廳 營林局

로 ha當 林道密度는 0.1m에 不過해 독일의 40m, 미국 10m, 일본 4m에 비해 매우 빈약한 실정이다.

'86年度에는 230km의 林道를 施設하였으며 山主의 부담을 덜어주기 위해 施設費의 80%를 財政補助(國庫 40%, 地方費 40%)해주는 한편 林道施工 技術을 向上시키기 위해 關聯公務員 및 山林組合 職員에 대한 實演教育을 強化하였다.

第2節 私有林 協業經營의 活性化

1. 推進背景

우리나라 全體 山林面積中 私有林이 72%를 차지하고 있으나 林業이 가지고 있는 特殊性和 함께 山林 所有規模의 零細性, 山林經營技術不足 등으로 山主들이 山林經營에 무관심하여 計劃的인 山林開發이 어려우므로 協業을 통한 經營合理化를 기하기 위하여 1974년부터 韓·獨 技術協力에 의한 小規模 私有林 協業經營示範事業을 慶南 蔚州地域에서 10年間 추진한 결과 그 成果가 좋아 '84年 各道에 1個所씩 同 모델을 擴散 普及하였다.

2. 推進內容

協業經營事業은 里洞單位(1,000~1,500ha) 山主들로 組織된 山林經營協業體에 의해 自律的으로 運營되고 있으며 協業體會員의 加入 및 脫退는 山主 自由意思에 의해 行하여지고 있다.

協業體의 主要事業內容은 協業營林計劃을 作成하여 計劃的 施業을 도모하는 한편 自體協業體作業團을 조직하여 山林作業에 活用함으로써 機械作業에 의한 工程向上 및 技術的 施業을 實施하고 있으며 短期共同所得事業을 통한 協業體 基金造成에도 힘쓰고 있다.

이들 事業을 效果的으로 추진하기 위하여 山林組合中央會에서 道別로 協業經營指導所를 設置, 35名의 協業經營 專擔指導員을 配置하여 山主와 밀착된 經營指導 및 技術指導를 實施하고 있다.

3. 推進實績

私有林 協業經營 對象面積과 山主數는 각각 37,577ha, 7,145名으로서 '86年末 現在 山主들의 協業體 加入現況을 보면 山林面積은 23千ha로 60%, 山主는 2,538名으로 36%의 實績을 보이고 있으며, 全國에 34個 協業體가 組織되어 自律的으로 運營되고 있다.

'84년부터 '86년까지 協業經營林地內的 山林施業은 造林 1,769ha, 天然林 保育 1,051ha, 育林 11,054ha를 실시하였으며 山林資源의 效率的 利用開發을 위해 林道 52km를 開設하였고 11個作業團 (112名)을 自體的으로 運營하고 있다.

〈表 1-3-2〉 私有林 協業體 造成實績

	協業經營指導所	協業體數	加入實績	
			面積	山主
計	8 個所	34個	22,721ha	2,538名
京 畿	楊平郡 西宗面	6	4,031	286
江 原	平昌郡 蓬坪面	4	3,334	374
忠 北	清原郡 味院面	5	2,033	317
忠 南	公州郡 維鳩面	4	2,982	364
全 北	鎭安郡 馬靈面	3	2,915	313
全 南	長城郡 北一面	5	2,620	314
慶 北	尙州郡 內西面	3	2,130	325
慶 南	蔚州郡 斗西面	4	2,676	245

資料：山林廳 造林局

한편 이들 協業體에 對해서는 그동안 기계톱외 33種 1,886點의 裝備와 함께 909百萬원의 財政支援을 해 줌으로써 協業經營事業의 早期定着을 도모하였다.

<表 1 3-3> 協業經營地 山林施業實績 (單位: ha)

	조림	시비	풀베기	치수 가꾸기	천연림 보육	가지치기	덩굴제거	간벌	임도(km)
計	1,769	3,233	4,844	1,149	1,051	654	318	856	52
'84	611	1,147	1,895		207			21	22
'85	760	685	1,329	185	332			181	22
'86	398	1,401	1,620	964	512	654	318	654	8

資料: 山林廳 造林局

第3節 林業技能人 養成과 營林計劃作成

1. 專門林業技能人 養成

山林作業의 機械化와 專門化를 위하여 '81年 韓·獨間 第二次 山林經營事業('81.1.1~'84.4.30)延長契約時 今後 事業方向을 林業機械化促進 및 林業技能人 養成으로 定하고 '82年 10月 江陵에 林業機械訓練院을 設置하면서 부터 山林作業專門技能人을 養成하여 왔다.

林業機械訓練院에는 교관요원 등 29名 (西獨技術專門家 3名 포함)이 技能人 養成과 山林公務員技術教育을 擔當하고 있으며, '86年末까지 養成된 專門技能人은 營林署管理所 9個作業團, 私有林協業經營指導所 2個作業團에 總 116名이다.

<表 1-3-4>

專門技能人 養成實績

(單位：名)

	計	'83	'84	'85	'86
計	116 (11)	8 (1)	24 (3)	36 (3)	48 (4)
國有林	92 (9)	8 (1)	24 (3)	24 (2)	36 (3)
民有林	24 (2)	--	--	12 (1)	2 (1)

註：()內 數値는 作業團數임

資料：山林廳 造林局

2. 營林計劃 編成

合理的인 林業經營을 위한 營林計劃編成制度는 '61年 制定 公布된 山林法에 따라 '64년부터 國有林에 대한 經營案을 編成하기 시작하였고 民有林에 대해서는 '65년부터 作成하였다.

그리고 '80년에는 山林法을 改正하여 營林計劃은 上位計劃인 山林基本計劃과 地域山林計劃에 依해 作成하도록 함으로써 營林計劃編成體系를 定立하였고, '83년에는 零細私有林 營林計劃 作成時 作成經費의 50%를 國庫에서 보조해 주도록 하였다.

<表 1-3-5>

'86年 營林計劃 編成實績

(單位：千ha)

		計 劃	實 績	比 率
計		868	857	99%
國有林	小計	163	166	102
	要存	147	147	100
	不要存	16	19	119
民有林	小計	705	691	98
	公有林	89	81	91
	私有林	616	610	99

資料：山林廳 營林局

'86년에는 私有林 協業經營林地의 營林計劃期間을 10年으로 延長하고 山林組合이 代行作成하는 私有林 營林區는 協業經營을 도모하기 위해 地域別 單位 (里·洞, 30ha以上)로 營林計劃을 作成하도록 하였다.

'86年度 營林計劃 編成實績은 857千ha이며 所有別로는 國有林 166千ha, 公有林 81千ha, 私有林 610千ha이다.

私有林 營林計劃 編成實績 中 72%인 442千ha는 10ha미만의 零細私有林에 대한 協業 營林計劃으로서 이들 編成은 山林組合으로 하여금 代行作成케 하였고, 이에 所要되는 經費 771百萬元 中 97%를 國庫(380百萬元)와 地方費 (368百萬元)에서 支援하였다.

第4節 國有林 經營管理

1. 國有林 現況

'86年末 現在 國有林面積은 1,318千ha로서 全體 山林面積의 20%를 占有하고 있으나 林木蓄積은 72百萬㎥로 全體林木蓄積의 38%를 占有하고 있어 林業經營上 매우 큰 比重을 차지하고 있으며, 特히 우리나라의 國有林은 대부분 한강, 낙동강, 영산강, 섬진강 등 主要河川의 上流水源地域과 奧地에 分布되어 있어 公益的인 面에서도 크게 寄與하고 있다.

<表 1-3-6>

國有林 山林資源 現況

單位 [面積: 千ha
蓄積: 千㎥

		面	積	蓄	積	ha當 蓄積
計		1,318	100 [%]	72,289	100 [%]	55 [㎥]
山林廳 所管	小 計	1,214	92	68,908	95	56.8
	要 存	919	70	60,572	84	65.9
	不 要 存	295	22	8,336	11	28.3
他 部 處 所 管		104	8	3,381	5	32.5

資料: 山林廳 林政局

國有林은 山林廳所管 國有林과 他部處所管 國有林으로 구분되어 있으며, 山林廳 所管 國有林은 다시 國土保全, 學術研究, 史蹟地나 城地 등 公益上 絶對적으로 保護되어야 할 山林과 山林經營 및 林業技術開發을 위해 存置 해야 할 山林은 要存國有林으로 指定하여 이를 保存해 나가고 그 外 山林은 不要存 國有林으로 指定管理하고 있다.

國有林經營管理의 中樞的 役割을 하고 있는 山林廳所管 要存 國有林은 전체 國有林의 70%인 919千ha이며 ha當 林木蓄積은 66㎥로 公·私有林 蓄積에 비해 3배나 높다.

2. 國有林野管理 特別會計 運營

營林署所管 國有林經營을 보다 積極的이고 合理的으로 추진해 나가기 위하여 '66年 國有林野特別會計法을 制定公布하고 營林署所管 國有林經營의 獨立 採算制를 실시하고 있다.

〈表 1-3-7〉 '86年 國有林野管理 特別會計 現況 (單位：百萬圓)

歲 入		歲 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
計	10,382	計	10,382
土 地 賃 與 料	548	一 般 行 政 費	4,369
土 地 賣 却	900	事 業 費	5,948
林 木 賣 却	2,331	造 林 및 種 苗	1,526
火 田 農 地 償 還 金	500	育 林	1,255
移 越 金	5,541	山 林 保 護	564
其 他 雜 收 入	562	國 有 林 經 營	1,710
		林 道 施 設	893
		豫 備 費	65

資料：山林廳 營林局

'67年 5億 8千萬원에 不過하던 國特豫算은 그동안 林道施設, 間伐, 育林 등 各種事業의 활발한 추진에 힘입어 '86년에는 103億 8千萬원으로 크게 伸張되었다.

3. 私有林 買收 및 國有林 賣却

國有林의 大規模 經營에 의한 效率性提高와 함께 奧地 山林開發을 促進하고자 開發이 不振한 私有林과 要存國有林의 隣接私有林을 買收하여 國有林을 集團化시켜 나가고 있다.

國有林 賣却은 대부분 大都市 周邊의 小規模分散 國有林에 限하여 이루어지고 있으며 要存國有林內 또는 隣接私有林과 交換도 하고 있다.

'86年度에는 國有林 196ha를 賣却하고 民有林 147ha를 買入하였으며 私有林과의 交換을 通하여 1,031ha를 確保하였다.

4. 林間放牧

'80年 江原道에서 私有林 12ha에 林間放牧 試驗事業을 실시한 결과 그 成果가 좋아 '82년부터 國有林連帶保護命令을 받은 山林契林地內에서의 林間放牧을 許容하는 한편 '84년에는 山林法施行令을 改正 法制化하였다.

'86年末 現在 林間放牧現況 보면 國有林 41個所 2,920ha, 私有林 718個所 15,604ha에 소 39 千마리를 放牧하고 있다.

이러한 林間放牧은 草地에 비해 施設費用이 적게 들고 養畜農家の 飼料費와 人力을 節減하는 利點이 있어 政策的으로 이를 擴大하고 있다.

第4章 山林資源의 保護와 公益機能增進

第1節 山林被害의 防止

1. 山火防止

우리나라는 季節的으로 봄·가을에 異狀乾燥期가 계속되고 바람이 강하게 불어 산불이 자주 발생하기 쉬운데다 최근에는 國民所得이 增大됨에 따라 餘暇善用的 일환으로 산을 찾는 사람들이 많아져 不注意로 인한 산불 發生危險은 더욱 높아지고 있다.

더구나 그동안의 治山綠化事業의 成功的 推進으로 산이 푸르러지게 되자 山林內 落葉등 可燃物質이 많이 쌓여 일단 발생된 산불은 점차 大型化되어 가는 추세이며 人力鎮火가 어려워지고 있다.

'86년에 發生했던 山불은 總 275件 (3,417ha)이며 要因別로는 入山者나 省墓客의 不注意가 57%, 논두렁 밭두렁 태우기가 19%, 어린이 불장난 등이 24%로서 대부분 不注意에 의해 발생한 人爲的인 피해이며, 發生面積도 '80年の 件當 平均 發生面積 3ha보다 4배나 많은 12ha로 늘어날 만큼 大型化되었다.

<表 1-4-1>

山 火 發 生 現 況

	'70	'75	'80	'85	'86
件 數 (件)	781	690	403	165	275
面 積 (ha)	13,754	6,282	1,218	363	3,417
平均面積 (ha/件)	17.6	9.1	3.0	2.2	12.4

資料：山林廳 林政局

특히 '86년에는 4월 5일과 6일이 清明·寒食일이고 連休이어서 많은 省墓客과 登山客들이 산을 찾았는데다 계속된 異狀乾燥氣候와 強風으로 말미암아 이틀동안 '86년 산불발생件數의 32%에 이르는 88件이 發生하였고 人命被害도 23名에 達하였다.

<表 1-4-2>

原因別 山불 發生現況

(單位：件)

	'82	'83	'84	'85	'86	5年平均
計	136	135	359	165	275	214
入山者失火	68	66	159	86	157	107
논·밭두렁태우기	42	29	93	28	52	49
어린이불장난	10	13	50	28	22	25
其他	16	27	57	23	44	33

資料：山林廳 林政局

政府는 산불豫防을 위하여 산불豫防期間 (봄철：3.1~5.31, 가을철：11.15~12.15)동안 市·郡 單位 以上 機關에 산불豫防 對策本部를 설치 운영하고 氣象變化에 따라 산불危險警報制를 실시하는 한편 98個 邑·面 산불 脆弱地에 대한 特別豫防對策을 강구하는 등 산불防止綜合對策을 樹立 推進하였다.

'86年末 現在 산불 鎮火裝備現況을 보면 헬기 7臺, 地上鎮火道具 35千組, 防火服 699着, 등짐펌프 11千臺가 있으며 산불 監視施設로는 監視塔 140棟, 監視哨所 694棟이 설치되어 있고 휴대용 無電機 2,806臺가 運營되고 있다.

2. 山林事故 防止

過去 山林事故의 大宗을 이루었던 盜濫伐, 無許可伐採 및 開墾등의 人爲的인 山林被害는 그동안 政府의 強力한 山林保護政策의 展開와 國民들의 山林愛護意識의 定着으로 '70年度에 16,760件 16,849㎡에 達하였던 山林事故는 '86年度에는 1,852件 1,467㎡로 현저하게 줄어들었다.

그러나 아직도 農村林産燃料 確保를 위한 不法採取行爲와 許可를 빙자한 濫伐行爲, 朱木등 主要稀貴樹木의 不法掘取등이 根絶되지 않고 있어 이를 防止하기 위해 地域責任制에 의한 脆弱地 巡察을 의무화하고 伐採許可地에 대하여는 實行監督을 철저히 하는 한편 稀貴樹木에 대하여는 一連번호를 붙여 臺帳化하여 관리하는 등 山林事故根絶에 만전을 기하고 있다.

〈表 1-4-3〉 年度別 山林事故發生 現況

	'70	'75	'80	'85	'86
件 數 (件)	16,760	7,567	4,770	1,713	1,852
面 積 (ha)	6,570	834	470	112	83
材 積 (㎥)	16,849	3,375	1,854	1,771	1,467

資料：山林廳·林政局

3. 山林病害蟲 防除

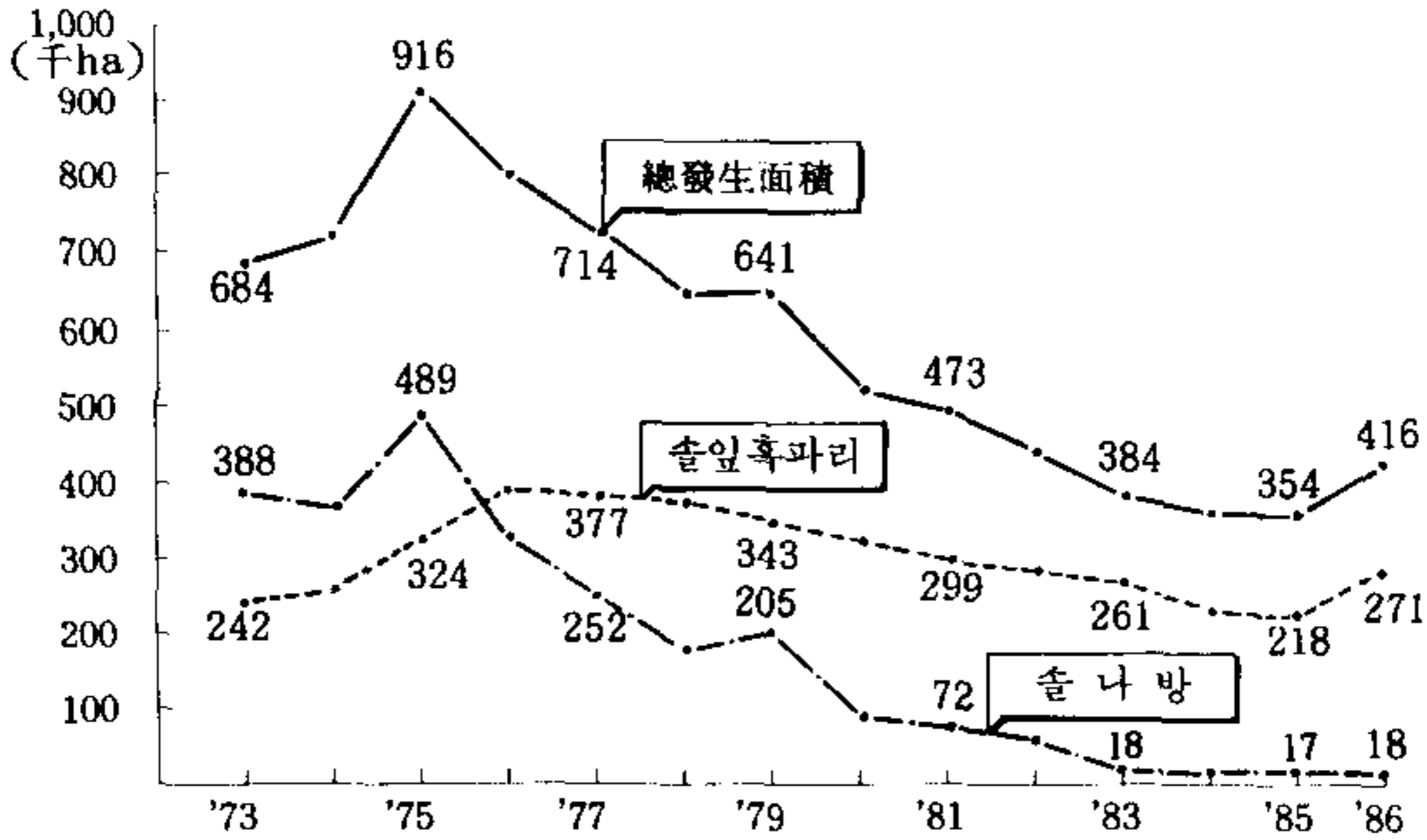
山林病害蟲은 그동안 꾸준한 防除活動과 울창한 山林造成으로 山林生態系의 均衡이 이루어지게 되어 '70年代 中盤以後부터 계속 減少趨勢에 있으나 '86年度에는 솔잎혹파리, 솔껍질깍지벌레와 같은 痼疾的인 害蟲被害가 많이 發生되어 '85年보다 62千ha가 증가된 416千ha의 病害蟲이 發生되어 아직도 많은 面積의 山林이 病害蟲으로 被害를 입고 있다.

특히 赤松林에 甚한 被害를 주고 있는 솔잎혹파리 被害를 防止하기 爲하여 천적인 먹좀벌飼育放飼, 根部處理用藥劑 테믹사용, 被害地 樹種更新, 先端地 豫察調査 등 各種 防除活動을 強化해 오고 있지만 '86년에는 솔잎 혹파리 被害가 지난해보다 늘어난 것으로 나타났다.

'86年度에는 山林病害蟲 豫察調査를 強化하여 病害蟲 發生의 早期發見과 適期驅除에 힘쓰는 한편 흰불나방, 솔나방防除를 위해 有毒性化學藥劑 대신 B.T 및 珪矽水和劑 등 無公害藥劑 사용을 擴大하였다.

<圖 1-4-1>

山林病害蟲 發生 推移



資料：山林廳 林政局

<表 1-4-4>

年度別 山林病害蟲 防除 實績

(單位：千ha)

	'81	'82	'83	'84	'85	'86
計	230	216	172	152	160	166
솔 잎 혹 파 리	10	22	18	18	16	18
솔 나 방	110	88	55	20	19	22
흰 불 나 방	54	51	40	42	46	43
오리나무잎벌레	36	34	28	28	27	29
잣나무털녹병	9	6	3	3	3	3
솔껍질각지벌레	—	—	15	10	10	10
기 타	11	15	13	31	39	41

資料：山林廳 林政局

또한 農山村의 山林所得源을 보호하기 위해 잣나무, 밤나무 團地에 대한 航空防除를 實施하고 生態系 均衡과 汚染防止를 위해 樹種更新, 衛生間伐 등의 林業的 防除를 적극 전개하였다.

'86年度 防除實績은 166千ha로 主要病害蟲인 솔잎혹파리(18千ha), 흰불나방(43千ha), 오리나무잎벌레(29千ha), 솔나방(22千ha)을 중점적으로 防除하였으며, 이외 솔껍질깍지벌레 被害林地에 대한 衛生間伐 10千ha, 잣나무 털녹병防除 3千ha를 실시하였다.

第2節 野生動植物 保護

1. 野生鳥獸保護

우리나라에 棲息하고 있는 野生鳥獸現況을 보면 鳥類가 371種, 獸類가 95種이며, 이 中 天然記念物로 指定되어 있는 것은 鳥類가 크낙새 外 36種, 獸類가 사향노루外 5種이다.

野生鳥獸는 山林內에 棲息하면서 自然의 均衡維持에 중요한 役割을 하는 資源으로서 '72년부터 실시한 禁獵措置와 持續的인 保護로 因해 棲息密度가 현저히 증가되었다.

<表 1-4-5>

野生鳥獸棲息密度 推移

(單位: 마리/100ha)

鳥 獸 別	ha 當 棲 息 密 度			適 正 密 度 (推 定)
	禁獵以前('71)	禁獵以後('86)	對 比 (倍)	
참 새	22.2	446.7	20.1	250
꿩	4.7	12.8	2.7	20
멧 비 들 기	9.9	21.0	2.1	30
멧 토 끼	2.7	6.2	2.3	20
노 루	0.4	2.2	5.5	5

資料: 山林廳 林政局

그러나 최근 都市化, 産業化의 영향으로 野生鳥獸棲息環境이 파괴되고 있어 지금까지의 保護, 團束爲主의 소극적 보호에서 탈피하여 積極的으로 保護繁殖시키기 위하여 '86年 野生鳥獸保護基本計劃 ('87~'91)을 樹立 發表하였다.

그리고 32個 鳥獸保護區 18,461ha에 대한 관리를 철저히 하고 全國 98個 調查區에서 野生鳥獸棲息密度를 調查하여 密度 管理를 調節하는 한편 農作物에 피해를 주는 有害 鳥獸驅除를 위해 總439件의 포획허가를 해주어 참새, 고라니, 꿩 등 24千마리를 驅除하였다.

'86年末 現在 野生鳥獸人工飼育現況은 원앙, 꿩, 멧돼지 등 家禽類는 286個所 13千마리, 곰, 호랑이, 사자 등 猛獸類는 89個所 800여마리이다.

2. 狩獵場 運營

'71年 全面的인 禁獵措置와 持續的인 保護로 野生鳥獸 棲息密度가 증가되자 '81년부터 禁獵措置를 一部 완화하여 狩獵地域과 時期, 種類, 捕獲數量 등을 감안 狩獵을 許容하고 있다.

<表 1-4-6>

狩獵場 運營 實績

獵期	狩獵場別	狩獵人(名)			收入(百萬元)	捕獲數量(千마리)
		計	內國人	外國人		
'85	計	3,414	2,523	891	805	21.5
	濟州道	1,003	163	840	84	6.7
	巨濟郡	238	206	32	43	1.6
	全羅南道	2,173	2,154	19	678	13.2
'86	計	4,829	3,932	897	1,327	16.5
	濟州道	996	172	824	105	7.5
	巨濟郡	109	78	31	20	1.2
	慶尙北道	3,724	3,682	42	1,202	7.8

資料：山林廳 林政局

이에 따라 '82年 江原道를 시작으로 每年 1個道씩 循環狩獵場을 設定 運營하여 왔으며 '86年度엔 慶尙北道에 設定하여 '86年 11月 1日부터 '87年 2月 28日까지 開場하는 한편 濟州道와 巨濟郡의 常設狩獵場도 계속 運營하였다.

'86年の 狩獵場 利用 人員은 内外國人 5千餘名 水準에 이르고 멧돼지, 꿩, 오리 등 16.5千마리를 捕獲하였으며 13億원의 收益金額은 狩獵場 運營과 鳥獸保護事業에 再投資하도록 하였다.

3. 天然保護林 및 保護樹管理

自然環境의 變化와 不法採取로 말미암아 野生樹木의 種數가 점차 줄어 天然的 資源이 消滅되어감에 따라 林木遺傳子를 保存하고 原始林이나 稀貴植物自生地, 珍貴한 林相等을 保護하기 爲해 이러한 林地를 天然保護林으로 指定하여 一切의 山林施業을 엄격히 統制하고 있으며, 老巨樹나 稀貴木은 保護樹로 指定하여 管理하고 있다. 이는 學術研究와 試驗研究를 위해서는 물론 國民保健休養과 觀光資源保護側面에서도 매우 중요한 役割을 하고 있다.

'86年 현재 天然保護林은 124個所 8,826ha에 指定되어 있으며, 保護樹는 전국에 걸쳐 9,379本이 指定保存되고 있다. 特히 病害蟲이나 洞空등으로 枯死위기에 놓여 있는 保護樹에 대하여는 國庫 30%를 支援하여 外科手術을 해주고 있다.

<表 1-4-7> 天然保護林 指定現況

指 定 區 分	個 所	面 積
合 計	124	8,826 ha
有 用 植 物 原 生 地	22	483
原 始 林	37	6,173
珍 貴 한 林 相	26	729
稀 貴 植 物 自 生 地	39	1,441

資料：山林廳 林政局

第3節 山林公益機能增進

1. 砂防事業

그동안 集團荒廢山地의 復舊를 위해 地域完結原則의 系統的 砂防으로 山地砂防 및 野溪砂防을 꾸준히 展開해온 결과 '73年 121千ha에 達하던 砂防 對象面積이 '86年末에는 3,158ha로 크게 줄어들었다.

〈表 1-4-8〉 砂 防 事 業 實 績

	'81	'82	'83	'84	'85	'86
山 地 砂 防 (ha)	3,850	5,850	5,239	3,040	3,203	2,230
海 岸 砂 防 (ha)	50	65	21	68	43	60
野 溪 砂 防 (km)	-	4	-	30	50	70
砂 防 댐 (個所)	-	-	-	-	-	30

資料：山林廳 造林局

〈表 1-4-9〉 砂 防 事 業 效 果

	山 地 砂 防	海 岸 砂 防	野 溪 砂 防
水 源 涵 養	· 土砂流出防止 및 理水機能 向上		· 洪水被害減少
- 地表流下水率減少	· 76% → 30%		
- 土砂流出防止	· ha當 97㎡		
- 滲透率提高	· 100% → 295%		
林 產 燃 料 生 產	· 施工 5年後 ha當 每年 10%		
用 材 生 產	· 施工 40年後 ha當 4㎡	施工40年後 ha當 60㎡	
公 害 解 消	· CO ₂ : 每年 ha當 16% 吸收 · O ₂ : 每年 ha當 12% 發散 (年間 44명 호흡량)		

資料：山林廳 造林局

'86年度 砂防事業은 山地砂防 2,230ha, 海岸砂防 60ha를 실시하였으며, 特히 山林의 理水機能을 增進시키고 下流農耕地를 保護하기 위해 砂防댐 30個所를 처음으로 開設하는 한편 野溪砂防도 前年度보다 20km늘어난 70km를 施設하였다.

한편 荒廢山地가 줄어들게 되자 用材生産能力은 물론 土砂流出防止(ha當 97㎡), 地表流下水減少(76%→30%)등 山林의 理水機能이 크게 增進되어 下流農耕地 및 産業用地的 保護, 水源涵養 등 直·間接的인 效果가 크게 增大되고 있다.

2. 保安林管理

土砂流出 및 崩壞가 예상되는 山林이나 水源涵養을 위해서 必須的으로 保護되어야 하는 山林등 公益上 꼭 필요한 山林은 保安林으로 指定하여 施業을 制限하고 있다.

'73년부터 시작된 治山綠化事業의 成功的 推進으로 荒廢山地가 푸르러지자 '73年 741千ha에 達하던 保安林面積은 '86年度에는 354千ha로 크게 減少되었으며 '79년부터 每 5年마다 保安林實態調査를 實施하여 整備해오고 있다.

<表 1-4-10>

保安林指定現況

(單位: 千ha)

	'73	'75	'80	'85	'86
計	741	757	622	390	354
水源涵養	282	283	276	235	231
土砂防備	354	352	218	84	52
風致	92	109	117	62	62
魚付	9	9	8	6	6
飛砂防備	3	3	2	1	1
其他	1	1	1	2	2

資料: 山林廳 造林局

'86年 現在 保安林面積은 354千ha(13種 中 9種 指定)이며 種類別로는水源涵養保安林이 231千ha로 全體의 65%를 차지하고 있으며 이외 土砂防備保安林이 15%, 風致保全保安林 등이 20%를 차지하고 있다.

保安林 指定에 따른 山主의 經濟的 損失을 덜어 주기 위해 保安林 施業 目的上 장애가 되지 않는 범위내에서 保安林施業基準에 알맞게 施業을 할 수 있도록 許可해 주고 있다.

3. 街路樹 造成管理

街路樹는 快適한 街路景觀造成으로 都市美觀을 向上시키고 國民情緒生活에 도움을 주는 것은 물론 大氣淨化, 防風, 防音등 各種 公益的 便益生産에 큰 役割을 하고 있다.

街路樹 造成管理業務는 '73年初까지 建設部에서 擔當하였으나 '73年 5月 부터 內務部에서 管理하다가 9월에 다시 山林廳으로 移管되어 현재까지 관장해 오고 있다.

'86年末 現在 全國 50千km의 道路邊에 2,415千本の 街路樹가 造成管理되고있으며 이태리 포플러, 현사시, 은행나무, 플라타너스 등이 주로 植栽되어 있다.

<表 1-4-11>

街路樹植栽實績

(單位：千本)

	樹種別植栽實績							
	합계	플라타너스	이태리포플러	현사시	은행나무	수양버들	벗나무	기타
합계	2,415.2	359.8	464.2	349.8	405.9	233.3	106.7	495.5
'81 以前	1,523.0	219.4	299.8	293.7	151.1	223.6	73.0	262.4
'82	181.3	44.9	30.7	22.5	33.6	3.1	9.8	36.7
'83	173.2	30.4	26.3	23.0	32.9	3.5	9.0	48.1
'84	167.9	22.3	36.2	3.7	48.6	1.0	5.7	50.4
'85	189.1	24.1	33.2	4.1	74.8	0.4	4.8	47.7
'86	180.7	18.7	38.0	2.8	64.9	1.7	4.4	50.2

資料：山林廳 造林局

'86年度에는 總 181千本の 街路樹를 植栽하였으며 樹種別로는 은행나무가 65千本으로 가장 많이 식재되었고 이외 이태리포플러 38千本, 플라타너스 19千本등 總 48個余種의 街路樹를 식재하였다.

한편 街路樹 植栽는 地域特性和 區間特性에 알맞도록 全國을 市街區間, 田園·山間區間, 江邊·海岸區間으로 나누고 地域別로는 추풍령 以北·以南, 濟州, 南海島嶼地方으로 區分하여 이에 부합되는 樹種을 식재하도록 하고 있다.

4. 山林樹木園 및 博物館 造成

韓國의 林業史料를 永久保存하고 傳統樹種을 展示하여 國民의 自然學習 教育場으로 活用하는 것은 물론 '88서울 올림픽때 韓國의 林業을 世界에 紹介하고 觀光資源으로 活用하기 위해 '83年度부터 경기도 光陵 林業試驗場內에 山林樹木園과 博物館을 造成하기 시작하였다.

樹木園 規模는 總 500ha로서 既存 試驗林의 自然景觀을 최대한 活用하고 우리나라 自生植物을 우선적으로 조성하였으며, 博物館은 '87年 上半期 開館할 計劃으로 內部工事を 적극 추진하였다.

〈表 1-4-12〉 山林樹木園·博物館 造成實績 (單位:百萬元)

	計		'83		'84		'85		'86	
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費
合 計		6,789		307		1,187		2,027		3,288
山林樹木園造成	ha 100	844	19	79	40	222	40	343	1	200
山林博物館建立	㎡ 4,616	2,900	展示品 蒐集	56	展示品 蒐集	43	基礎 工事	391	建物 工事	2,410
溫室新築	㎡ 1,610	1,121	-	-	1,610	609	內部 工事	472	內部 工事	40
其他附帶施設 (林道駐車場等)	14종	1,924	1	172	3	313	7	821	3	618

資料: 山林廳 林業試驗場

第5章 林產物 需給動向

第1節 木材의 安定的 供給

1. 木材需給安定

'60年代 以後 經濟社會發展 計劃의 본격적인 추진과 더불어 建設業, 鑛業, 製造業등이 급성장하자 이들 産業과 관련된 펄프, 坑木, 合板, 建築用材 等 原資材需要가 크게 增大되었으며, 特히 合板産業이 輸出特化産業으로 指定 되어 合板이 '70年代 우리나라 輸出主力商品으로 부상되자 輸出用 合板用材 需要가 급격히 증가되어 '65年 1,259千 m^3 에 不過하던 木材需要量이 合板輸出이 크게 늘어났던 '78년에는 11,611千 m^3 로 무려 9배가 늘어났다.

<表 1-5-1>

木 材 需 要 推 移

(單位：千 m^3)

	需 要 量								
	計	內 需 用					輸 出 用		
		小 計	坑 木	펄 프	合 板	一 般	小 計	合 板	製材及加工品
'65	1,259	748	304	41	-	403	511	511	-
'70	4,000	1,713	450	206	-	1,057	2,287	2,270	17
'75	6,485	2,889	542	188	-	2,159	3,576	3,226	350
'80	7,750	5,785	515	546	1,603	3,121	1,965	1,753	212
'85	7,321	6,792	719	583	1,836	3,654	529	368	161
'86	7,582	6,996	772	613	1,990	3,621	586	396	190

資料：山林廳 營林局

'80年代에 들어오면서 合板産業의 萎縮과 함께 木材需要量은 점차 減少되고 있으나 최근 國民生活水準 向上에 따른 종이 消費量의 增加와 木製品

및 家具輸出의 好調, 內需擴大 등으로 '86年度 木材需要量은 7,582千 m^3 로 前年度에 比해 261千 m^3 가 증가되었다.

이와 같이 木材需要量이 크게 증가하였지만 國內木材 供給物量은 '70年 845千 m^3 에서 '86年 1,242千 m^3 로 需要增加 趨勢에 미치지 못함으로서 自給率은 오히려 '70年 21%에서 '86년에는 16%로 낮아졌다.

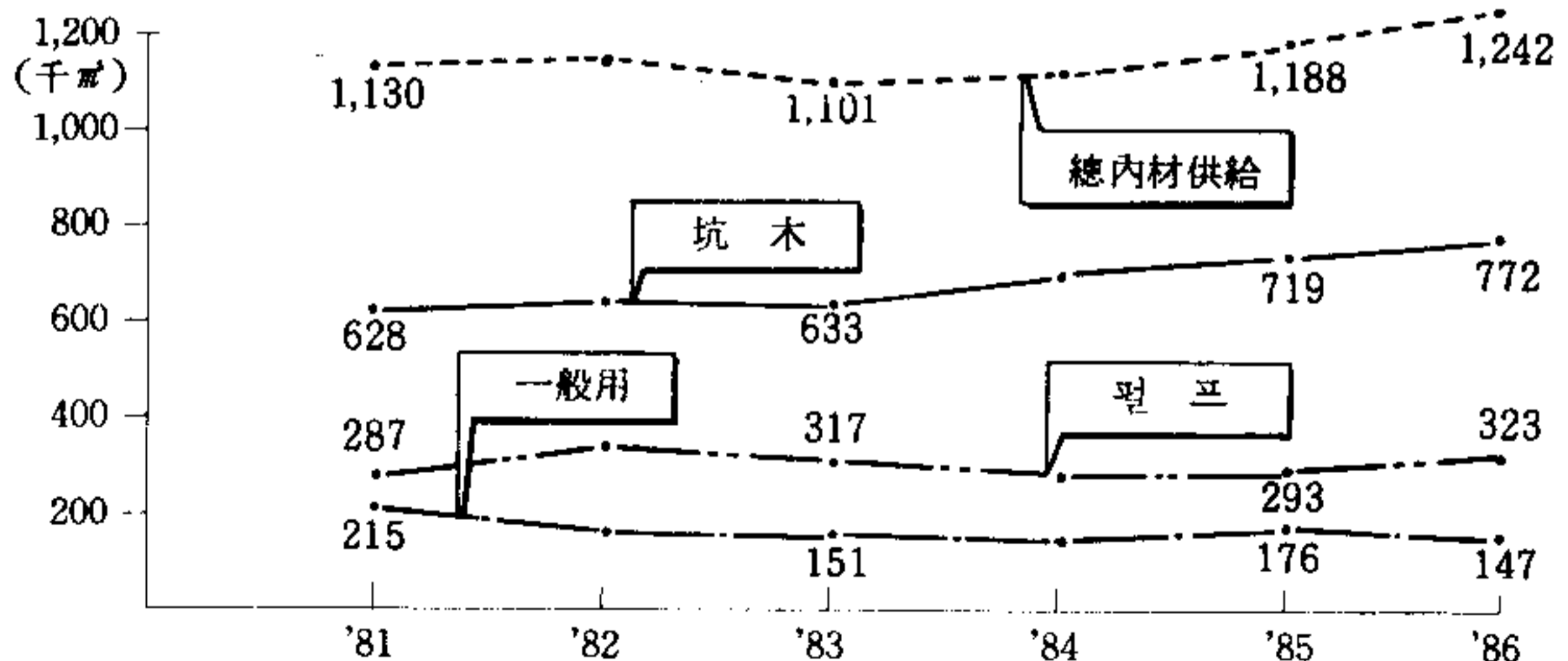
이는 '70年代 以後 國內 山林資源을 保全하기 위해 坑木, 펄프 등과 같은 必須産業用材供給을 除外하고는 國內 山林의 伐採를 規制하여 왔기 때문이다.

<表 1-5-2> 木 材 供 給 實 績 (單位: 千 m^3)

	計	原 木 供 給 量			廢 殘 材	自 給 率
		小 計	內 材	外 材		
'65	1,259	1,259	503	756	-	49%
'70	4,000	4,000	845	3,155	-	21
'75	6,465	6,015	896	5,119	450	14
'80	7,750	7,149	1,008	6,141	601	13
'85	7,321	6,766	1,188	5,578	555	16
'86	7,582	7,014	1,242	5,772	568	16

資料: 山林廳 營林局

<圖 1-5-1> 國產材 利用 推移



資料: 山林廳 營林局

2. 海外山林開發

우리나라의 海外山林開發은 '62年 新興洋行이 原木開發을 위해 馬聯 사라와크 地域에 進出した 것이 효시이나 本格的인 海外林地開發의 着手은 '68年 韓國 南方 開發(株)이 인도네시아 南部 kalimantan 州 Batulicin江 流域 270千ha에 대한 山林開發을 시작하면서 부터이다. '86年末 現在 總 9個業體가 인도네시아, 말레 지아, 미국, 솔로몬 군도, 파푸아뉴기니아등 5個國에 진출하고 있으며, 進出業種 도 從前 林地開發爲主에서 合板, 鋸 생산등 木材加工 分野로 多樣化되고 있다.

<表 1-5-3> 海外山林開發 進出現況

業 體 名	進出 年度	投資規模	進 出 地 域	投資 比率 (%)	業 種 別 規 模				
					林地 開發	林木 伐採	合板	單板	鋸
計		千弗 77,777	5 個 國		千ha 1,466	千㎡/年 120	万枚/年 1,725	千㎡/年 61	千本/年 210
韓 國 南 方		14,590			440		750		
· KODECO	'68	7,340	인니(카리만탄)	單獨	270				
· KINTAP	'73	1,450	"	70	125				
· EMIL	'73	800	"	70	45				
· KODECO PLYWOOD	'81	5,000	"	49			750		
東 和 企 業	'70	8,831	"	70	120		675		
(株) 鮮 京	'80	235	인니(수마트라)	49			300		
亞 洲 林 業	'76	5,257	" (카리만탄)	49	115				
有 元 建 設	'83	22,000	" (이리안자야)	49	395				
漢 擊 資 源	'81	19,500	PNG(카폴루크)	單獨	181				210
東 映 物 產	'83	214	馬聯 (타와우)	30				61	
現代綜合木材		7,050			215	70			
· HYUNDAI TIMBER	'83	6,000	솔로몬(구아달카날)	單獨	215				
· AMERICAN RESOURCES	'82	1,050	美國(시애틀)	70		70			
利 建 產 業	'80	100	"	單獨		50			

資料：山林廳 林政局

그러나 總外材導入物量중 海外進出 業體에 依해 開發導入되고 있는 物量은 5%內外이며 '86年度에는 總外材導入量 5,772千㎥중 65千㎥만이 開發導入되어 開發導入率은 1.1%에 불과하였다.

이는 인도네시아, 말레시아등 山林資源保有國이 自國의 木材關聯 産業育成을 위해 原木輸出을 規制하고 있기 때문이며, 특히 인도네시아는 '85년부터 原木輸出을 全面 禁止시키는 등 規制를 強化하고 있어 木材의 安定導入을 爲한 海外開發先의 多邊化가 크게 要求되고 있다.

<表 1-5-4>

木材購買導入 및 開發導入 實績

(單位：千㎥)

年 度	總外材導入量	購 買 導 入	開 發 導 入	開發導入率
'69	2,650	2,617	33	1.2 %
'70	3,155	3,089	66	2.1
'71	3,756	3,560	196	5.2
'73	5,002	4,699	303	6.0
'75	5,119	4,807	312	6.1
'77	7,807	7,335	472	6.0
'79	9,086	8,566	520	5.7
'80	6,141	5,897	244	4.0
'81	5,558	5,246	312	5.6
'83	6,524	6,137	387	5.9
'85	5,578	5,315	263	4.7
'86	5,772	5,707	65	1.1

資料：山林廳 林政局

第2節 林產物 輸出入

1. 林產物 輸出

林產物輸出은 '70年 110百萬弗에 불과하던 것이 合板 輸出이 最高潮에 達

하였던 '79년에는 738百万弗로 10年 사이에 무려 6.7배나 신장되었다.

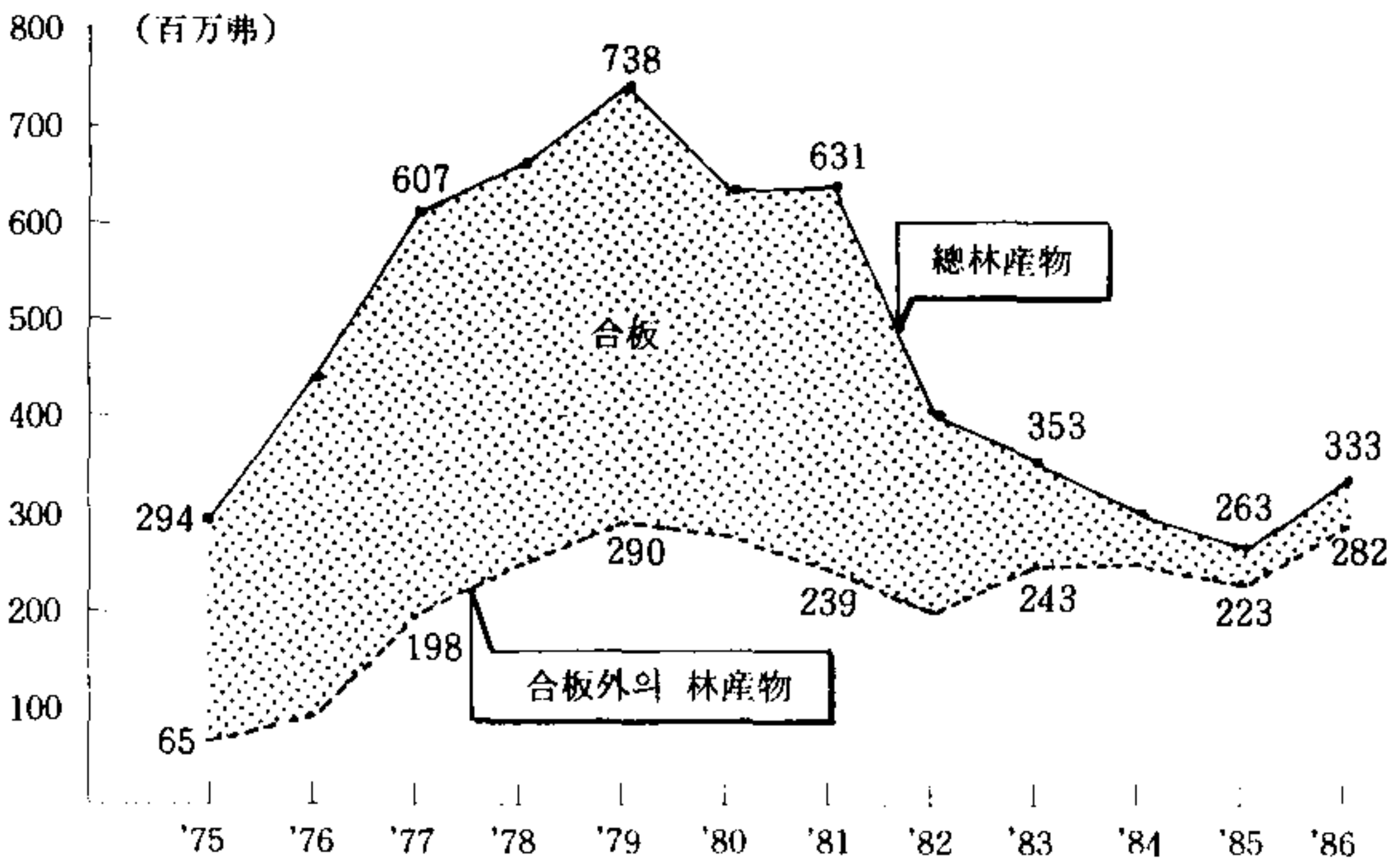
그러나 '80年代에 들어 오면서 林産物 輸出을 主導하던 合板輸出의 退潮로 林産物 輸出은 급격히 減少하여 '85年度 輸出實績은 263百万弗로 줄어들었다.

'86年度 林産物 輸出額은 333百万弗로 前年보다 70百万弗이 늘어났으며, 이는 合板輸出이 다시 回復勢를 보이고 있고 포고버섯, 밤등의 山林副産物 輸出의 增加, 石材輸出의 증가등에 기인한 것이다.

우리나라 總輸出 中 林産物 輸出이 차지하는 比率은 '75년에는 5.8%에 達하였으나 '80년에는 3.2%, '86년에는 1.0%로 점점 낮아지고 있다.

<圖 1-5-2>

林産物 輸出 推移



資料：山林廳 林政局

'86年度 林産物 輸出 擴大를 위해 合板業界의 自律的인 經營合理化를 推進하여 對外 競爭力을 強化하는 한편 韓·中·日 合板業體 간담회를 개최하여 民間部門의 海外協力을 強化하였다.

그리고 石材輸出 支援을 위해 輸出用 石材의 철도 運賃割引 (20%)期間

을 延長하고, 石材類 輸出의 自律規制를 통한 制限받기 정책을 유도하였으며 山林 開發基金 208百萬元을 支援하였다.

<表 1-5-5>

林產物 輸出實績

(單位：百萬弗)

		'75	'80	'84	'85	'86
總	輸 出 (A)	5,081	19,505	29,245	30,283	34,714
農 林 水 產 物 (B)		931	1,725	1,472	1,397	1,925
林 產 物 (C)		294	629	300	263	333
· 合	板	229	352	66	40	51
· 木	材	18	82	26	21	27
· 木	製 品	9	37	31	18	20
· 壁	紙	12	35	17	16	12
· 石	材	12	58	76	84	122
· 비	섯	10	24	33	43	43
· 밤			37	47	37	53
· 其	他	4	4	4	4	5
比 重	C/A (%)	5.8	3.2	1.0	0.9	1.0
	C/B (%)	31.5	36.5	20.4	19.8	17.3

資料：山林廳 林政局, 關稅廳 貿易統計

또한 밤, 송이, 떡갈잎 등 副產物 輸出을 증대시키기 위해 主要輸入國인 日本 및 臺灣의 輸入關稅를 引下토록 交渉을 강화하는 한편 農安基金에서 밤 收買 資金으로 25億원, 山林開發基金에서 표고 건조기 설치자금 296百萬元을 支援하여 原料蒐集 및 商品性提高 等を 圖謀하였다.

2. 林產物 輸入

우리나라 林產物輸入의 大宗을 이루고 있는 것은 대부분 合板用材와 一般用材인 木材類이며 이외에 竹材類, 너트類(알몬드, 호도등), 鳥獸類, 잉크 原料인 로진등을 輸入하고 있다.

'86年度 總 林產物 輸入額은 624百萬弗로 이중 木材類 輸入은 597百萬弗로서 全體林產物 輸入의 96%를 占하고 있다.

林產物 輸入 推移를 보면 合板 輸出이 絶頂에 달하던 '79年度엔 1,017百萬弗에 達하였으나 以後 合板產業의 退潮와 建築景氣의 不振으로 最近에 는 林產物 輸入이 6億弗 程度에 머물고 있다.

<表 1-5-6>

用途別 國別 外材導入 實績

(單位: 千㎡)

		'70	'75	'79	'80	'85	'86
計		3,155	5,119	9,086	6,141	5,578	5,772
合板用材	小 計	2,270	3,576	4,662	3,356	2,028	2,386
	필 리 핀	813	94	5	23		
	말 레 지 아	1,195	1,502	1,524	1,715	1,676	1,940
	인도네시아	262	1,980	3,133	1,590		
	P N G	-			28	352	414
	솔 로 몬	-					32
一 般 用 材	小 計	885	1,443	4,424	2,785	3,550	3,476
	필 리 핀	75	72	46	59	67	24
	말 레 지 아	292	127	1,209	759	632	253
	인도네시아	215	786	753	227	12	
	P N G	-			85	489	510
	미 국	236	448	1,252	1,043	1,494	1,771
	뉴 질 랜 드	56		224	185	99	101
기 타	11	10	940	427	757	817	

資料: 山林廳 林政局

'86年 國別 原木導入實績을 보면 말레이아가 2,193千㎍로 38%, 美國이 1,771千㎍ 31%로 두나라가 全體의 69%나 차지하고 있으며, 以外에 PNG가 924千㎍ (16%), 뉴질랜드 101千㎍ (1.7%)등이다.

<表 1-5-7> 林 產 物 輸 入 實 績 (單位：百萬弗)

	'75	'80	'84	'85	'86	
總 輸 入 (A)	7,274	22,293	30,631	31,136	31,584	
農 林 水 產 物 (B)	1,301	3,182	2,868	2,509	1,925	
林 產 物 (C)	271	912	705	616	624	
· 木 材 類	269	899	667	580	597	
- 原 木	269	858	567	479	484	
- 其 他	-	41	100	101	113	
· 竹 材 類	1	6	2	2	7	
· 石 材 類	-	1	15	18	-	
· 등	-	1	4	4	5	
· 로 진	1	3	5	5	6	
· 其 他	-	2	12	7	9	
占 有 率 (%)	C/A	3.7	4.1	2.3	2.0	1.9
	C/B	20.8	28.7	24.6	24.6	32.4

資料：山林廳 林政局, 關稅廳 貿易統計

第3節 木材 利用加工

1. 木材流通實態

우리나라 私有林은 所有規模가 零細하여 山主가 직접 伐採, 賣却할 수 있는 事業能力이 不足할 뿐만 아니라 市場情報에 어두워 대부분 伐出商들에게 立木狀態로 賣却하고 있으며, 國有 林產物의 경우에도 官直營伐採보다 主로 立木處分에 依해 生産하고 있는 실정이다.

<表 1-5-8>

國有林產物 生産

(單位: m³)

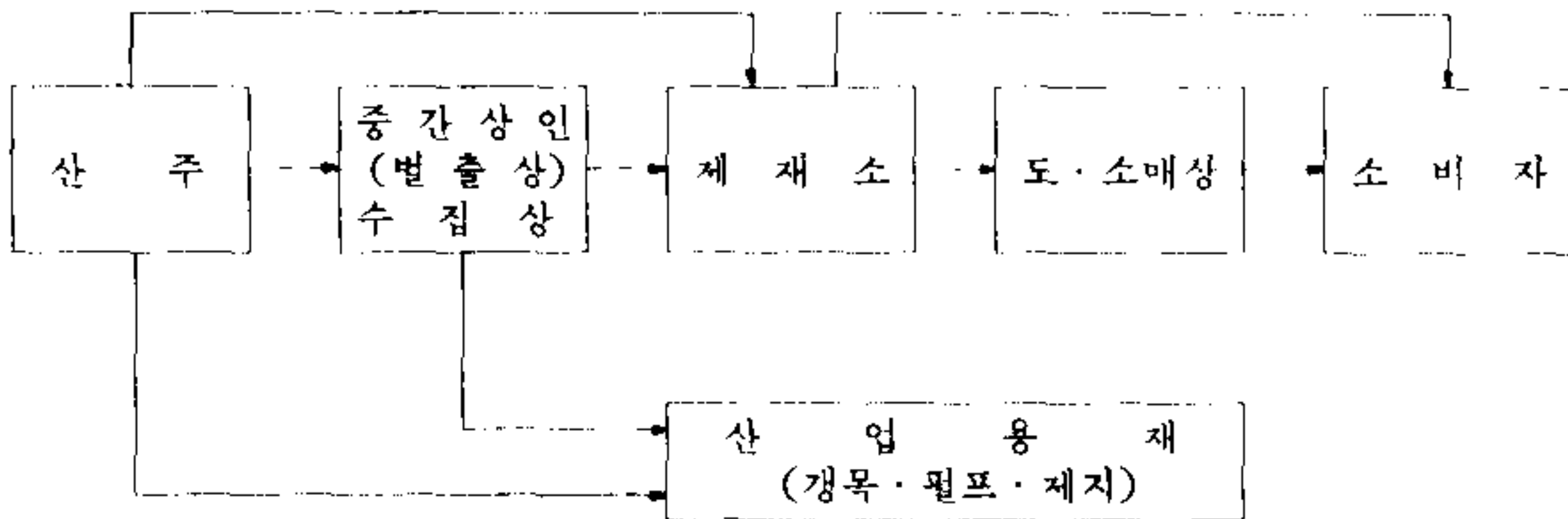
	計	劃	實	績
合 計	68,000	100%	63,394	100%
立 木 處 分	58,000	85	53,299	84
官 直 營 伐 採	2,000	3	2,502	4
間 伐	7,000	10	7,130	11
不 用 物 件	1,000	2	463	1

資料: 山林廳 林政局

따라서 內材는 대부분 木商에 依해 伐出되어 製材所를 거쳐 都·小賣商과 消費者에게 이르는 流通經路를 지니고 있으며, 外材의 경우에 있어서도 輸入商에 依해 導入된 後는 國內材와 거의 同一한 流通經路를 거쳐 消費者에게 供給되고 있다.

<圖 1-5-3>

國內材流通經路



資料: 山林廳 林政局

2. 木材價格 動向

우리나라의 경우 國內 木材市場價格은 外材導入 價格에 의해 決定되고 있는 실정이다. 이는 國內材 供給率이 16%에 불과하여 價格形成을 기대하기가 어려운데다 아직까지 林道등의 經營基盤施設의 미비로 生産費가 높아

內材는 항상 不利한 競爭條件에 놓여 있기 때문이다.

年度別 原木導入 價格을 보면 '80年 ㎡當 140弗에서 '85년에는 86弗로 크게 減少되었으나 最近에는 產地原木價가 점차 상승趨勢에 있다.

<表 1-5-9> 主要原木價格推移 (單位：원/㎡)

수종	규격	'83	'84	'85	'86
육송	중경목, 중품	74,500	74,000	74,000	74,000
참나무	"	66,000	66,000	66,000	66,000
라왕	말레이시아산	117,011	128,025	131,330	131,330
미송	헝 록 T	77,070	77,083	79,000	79,000

資料：山林廳 林政局

<表 1-5-10> 原木導入價格推移 (單位：弗/㎡)

	'75	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86
平均	53	140	114	108	90	98	86	84
南洋材	51	147	115	113	94	106	87	88
인도네시아	51	157	132	130	116	126	109	-
말레이시아	50	142	112	113	93	108	88	91
필리핀	48	135	122	121	110	118	99	90
P N G	-	118	106	103	81	95	82	83
松柏類	68	118	110	97	83	85	84	78
미국	68	129	115	102	87	93	95	86
뉴질랜드	51	106	129	68	61	59	62	57
칠레	-	88	90	73	58	58	56	52
其他	217	136	144	97	84	96	90	89

註：CIF 價格임

資料：山林廳 林政局

3. 木材利用加工産業

1986年末 現在 製材工場數는 1,907個이며 製材能力은 8,921千㎥에 이르고 있으나 實際 製材量은 3,497千㎥로 稼動率은 56%에 不過한 실정이다.

이에 따라 製材所數도 '82年 2,021個所에서 '86년에는 1,907個로 점차 減少趨勢에 있다.

<表 1-5-11> 製材工場現況

	工場數	生産能力	製材量	原木所要量	稼動率
	個所	千㎥	千㎥	千㎥	%
1982	2,021	8,228	2,944	4,342	53
1983	2,042	8,177	3,452	5,046	62
1984	2,013	7,942	2,908	4,484	56
1985	1,956	7,704	2,952	4,152	54
1986	1,907	8,921	3,497	4,986	56

資料：山林廳 林政局

한편 '86年末 現在 合板工場數는 88個로 前年度보다 12個所가 줄어들었으며, 合板生産能力도 '85年 6,482百萬 S/F에서 '86년에 4,315百萬 S/F로 2,167百萬 S/F나 減少되었다.

<表 1-5-12> 合板工場現況

	'75	'80	'84	'85	'86
工場數(個)	14	85	95	100	88
生産能力(百萬S/F)	6,528	6,773	6,961	6,482	4,315
生産量(〃)	4,867	4,238	3,564	3,302	2,987
· 內需	1,347	1,797	2,840	2,756	2,465
· 輸出	3,508	2,564	567	343	460
稼動率(%)	75	63	51	62	69
從業員數(名)	21,585	16,139	11,995	9,929	13,797

資料：山林廳 林政局

第6章 林業技術開發 및 普及

第1節 林業技術開發

1. 試驗研究方向

現在 우리나라의 山林은 綠化段階에서 벗어나 점차 育林 및 生産利用段階로 돌입하고 있어 이에 알맞는 林業技術開發이 요청되고 있으므로 林業試驗研究方向으로 山地에 대한 새로운 行政需要에 부응하면서 2000年代의 先進林業國을 指向한 實用的 技術開發에 중점을 두고 試驗研究에 努力하고 있다.

'86年度에는 總 77課題의 林業試驗研究事業을 實施하였으며 이중 林業試驗은 54課題를 推進하여 29課題를 完結 實用化시켰으며, 育種研究는 23課題를 研究遂行하였다.

<表 1-6-1>

林業試驗研究實績

(單位：課題)

	計	林業試驗				育種研究				
		小計	育林	利用	病虫	小計	樹種改良	原種導入	遺傳生理	有實樹改良量
'84	59	38	20	9	9	21	7	4	6	4
'85	62	41	15	11	15	21	7	5	5	4
'86	77	54	29	12	13	23	5	7	6	5

資料：山林廳 造林局

2. 林業試驗成果

가. 山林經營의 效率的 推進

山林經營의 基準이 되는 林分密度管理圖 및 收穫表를 만드는 한편 立木地 地位判定法, 非生産林地의 判定基準등을 밝혀 냄으로써 山林經營에 있어 收益性 分析 및 樹種選擇에 크게 寄與하였고, 아울러 밤, 대추등 山林副産物 生産農家の 經營實態를 파악하여 山林副産物이 所得增大에 미치는 效果性分析을 實施하였다.

나. 山林作業의 標準化

소나무 天然下種 更新法과 天然林撫育作業의 作業別 工程表를 작성하고 主要樹種의 效果的인 間伐作業實行法, 林分發育段階別 撫育方法의 體系化 및 作業技術의 標準化를 실행함으로써 造林에서 間伐에 이르기까지의 作業을 科學的이고 能率的으로 실행할 수 있도록 하였다.

한편 林業機械化에 의한 集材方法을 研究하여 우리나라 실정에 알맞는 集材方法을 採擇, 普及하도록 하였다.

다. 林産資源의 新用途開發

우리나라의 代表的인 造林樹種인 낙엽송과 리기다소나무의 利用度를 增進시키기 위하여 間伐材利用의 實演試驗과 合板製造試驗을 實施하였다. 特히 合板製造試驗은 合板用 導入外材를 節減시켜 外貨浪費를 줄일 수 있는 가능성을 보여 주었다.

또한 有用闊葉樹인 고로쇠, 복자기, 귀룽나무등에 대한 木材理化學的성질을 구명함으로써 앞으로 이들 木材를 부가가치가 높은 새로운 用途로 사용할 수 있도록 하였다.

그리고 木質資源을 代替粗飼料로 利用하고자 木質의 飼料化 研究를 實施하여 상당히 좋은 成果를 거두었으며, 林産 Biomass를 利用한 代替에너지

開發에 拍車를 가하여 經濟性 提高에 힘쓰고 있다.

라. 山林被害 防止

산불豫防과 鎮火技術開發을 위하여 燃燒因子의 모델化 研究를 遂行하였으며, 樹幹注射에 의한 솔겹질 각지벌레 防除法을 시험한 결과 침투성 살충제인 다이메크론 액제를 12月~1月중에 흉고직경 1cm 당 1cc를 주입함으로써 85%의 살충효과를 얻을수 있음을 확인하였다.

또한 大氣汚染에 의한 酸性雨 被害를 究明하기 위해 地域別 降雨酸度を 측정하였다.

3. 育種研究

遺傳工學을 林木育種研究에 導入하여 종래 하나의 새로운 品種을 만들어 내기 위해 長期間 所要되던 것을 短期間內에 優良苗木을 大量 生産할 수 있도록 研究하고 있다.

'86년에는 組織培養技術을 利用하여 優良個體의 大量増殖 및 品種改良을 위한 試驗을 重點적으로 實施한 결과 胚培養에 의한 剛松大量増殖(種子1個 → 110個苗木)과 芽培養으로 박달나무, 물박달나무등 유용활엽수 大量増殖法을 究明하였고, 特히 지금까지 교배가 불가능한 것으로 알려진 사시나무와 미류나무의 交配方法을 開發하여 交雜種을 育成하였다.

그리고 郷土樹種開發의 일환으로 春陽木(剛松) 適應試驗을 계속하고 春陽木 優良集團의 暫定 採種林을 指定하는 등 春陽木育成을 강화하였다.

아울러 최근 만연되고 있는 솔잎혹파리 및 솔겹질각지벌레에 강한 耐虫性소나무育種에 注力하고 있다.

第2節 林業技術 指導

우리나라의 山主는 대부분 零細하고 山林經營意慾이 微弱하여 이들의 自律的인 經營參與를 유도하기 위해서는 營林計劃作成에서부터 造林·伐採에 이르기까지의 各種事業要領을 定立하여 이를 普及해 나가고 표고, 밤 등 副産物生産技術과 기타 短期所得事業에 대한 林業技術指導를 강화해 나가고 있다.

林業技術指導事業이 體系的으로 시작된 것은 '78年 技術指導員 312名을 山林組合에 配置하면서 부터이며, 그後 年次的으로 增員하여 '86年末 現在 377名의 技術指導員이 市·郡 山林組合에 配置되어 技術指導를 해 나가고 있다.

〈表 1-6-2〉 林業技術指導員配置現況

	定 員	配 置 部 署		
		中 央 會	道 支 部	市, 郡 組 合
計	377 名	5	43	329
中 央	5	5	—	—
釜 山	3	—	—	3
大 邱	2	—	—	2
京 畿	48	—	5	43
江 原	42	—	5	37
忠 北	28	—	5	23
忠 南	38	—	5	33
全 北	34	—	5	29
全 南	56	—	5	51
慶 北	65	—	5	60
慶 南	49	—	5	44
濟 州	7	—	3	4

資料：山林廳 造林局

'86年度에는 總230千件에 걸쳐 1,059千名에 대해 指導事業을 實施하였으며, 主要指導事業으로는 造林 2,000ha, 天然林保育 15,000ha, 林道 200km, 營林計劃作成 570千ha, 伐採 100千 m^3 등이며, 이밖에 山林副產物生産 및 共販事業으로 밤 5,000톤, 송이 311톤, 표고 350톤, 떡갈잎 및 멩개잎 85千톤의 共販實績을 올렸다.

한편 林業技術普及資料로 每月 23千部の 山林誌를 發刊하여 篤林家, 里洞山林契, 山林組合등에 配付하고 있으며 山林廳에서 권장하고 있는 21個 經濟樹種의 特性 및 用途를 화보로 만들어 총 53千部를 發刊하여 國民학교등 각종 教育기관에 配付하였다.

第3節 林業研修

林業研修는 지난 '77년에 林業試驗場 訓練部를 林業研修院으로 獨立機關化함으로써 體系的이고 專門性を 살린 教育을 실시할 수 있게 되었다.

'78年 6個教育課程에서 '86年 16個課程으로 擴大하여 늘어나는 山林行政需要에 능동적으로 대처해 나갈 수 있는 山林行政의 主役을 育成하고 實驗實習爲主의 參與式 教育을 強化하고 있다.

林業教育對象人員은 山林廳 및 傘下機關公務員, 市道山林關係公務員등 林業分野公職者 5千餘名과 山林組合員, 山林契長, 篤林家등 林業分野 從事民間人 22千餘名등 總 27千名에 達하고 있으나 아직까지 專門教官團이 조직되어 있지 않고 固定實習場등 教育施設이 未備되어 있어 效果的인 研修教育에 어려움이 있어 이에 대한 改善方案을 강구중에 있다.

'86年度에는 5個課程 24個班 1,522名에 대해 教育을 實施하였으며, 特히 篤林家 48名, 里洞山林契長 400名에 對한 特別教育을 實施 하였다.

여백

第2編 1987年度 林業施策

여배우

第1章 林業政策의 基本方向

第1節 基本目標와 重點施策

'73년부터 시작된 第 1,2次 治山綠化 10年 計劃의 成功的 推進으로 우리나라의 山林은 完全 綠化되었으며 ha當 林木蓄積도 '72年 11㎥에 不過하던 것이 '86年末에는 30㎥로 3배나 增加되었다. 그리고 '80年代에 들어서면서 부터 林地生産力을 增大시키고 山主의 經營意慾을 鼓吹시키기 위해 林道等 經營基盤 施設을 擴充하는 한편 零細私有林 協業經營 事業을 示範적으로 實施하고 各種 林業資金의 支援擴大와 林業 技術指導를 強化해 나가고 있다.

그러나 아직까지 우리林業은 利用可能 林木資源의 貧弱, 私有林所有構造의 脆弱, 林道施設의 未備, 專門林業勞動力의 不足, 流通構造의 前近代性, 林業投融資의 未洽 등 많은 問題點을 안고 있다.

더구나 經濟社會 發展에 따라 山地를 利用한 所得源開發의 必要性이 增大되고 國民休養需要의 充足, 國土保全, 環境改善 等 山林의 公益的 機能에 대한 需要도 지속적으로 늘어나고 있다.

이에 따라 政府는 山地의 效率的 利用開發을 위해 今年 1月 1日字로 山林行政을 農林水産部로 所屬을 移管시켜 農政과 林政의 有機的 關係를 더욱 強化하였으며, 山林廳에서는 이제까지의 保全과 規制爲主의 綠化政策에서 經營과 助長爲主의 資源化政策으로 山林政策基調를 轉換하는 한편 國民經濟와 公益機能增進에 寄與할 수 있도록 2000年代를 向한 새로운 山林政策方向을 再定立하여 周邊與件의 變化와 國民的 興望에 副應할 수 있도록 山林政策方向을 再調整할 計劃이다.

이를 위해 今年度 山林施策目標를 「先進林業基盤을 다지는 해」로 定하고 모든 山林行政基盤을 새로운 政策基調아래 整備·補完해 나가면서 다음의 여덟가지 重點施策을 적극 推進하고 있다.

- 첫째, 山地資源化 10年計劃樹立 推進
- 둘째, 山林資源增殖의 促進
- 셋째, 林業基盤의 擴充
- 넷째, 山林保護의 強化
- 다섯째, 流通構造改善 및 木材安定供給
- 여섯째, 山林所得源開發 및 輸出擴大
- 일곱째, 山林의 公益機能 增進
- 여덟째, 試驗研究促進과 技術普及

특히 今年은 第2次 治山綠化 10年計劃이 마무리되는 해이자 '88년부터 시작될 山地資源化 10年計劃이 樹立되는 해로서 2000年代의 先進林業國을 향한 기반을 다져 나갈 계획이다.

第2節 林業投融资規模

1. 林業部門豫算

'87年度 林業部門 豫算規模는 一般會計와 國特會計, 資特會計를 合하여 總 623億으로서 國家全體 豫算規模의 0.3%에 不過하며 前年對比豫算 增加率은 3.9%로 政府豫算 增加率인 10.4%보다 낮은 水準이다.

〈表 2-1-1〉

山林部門豫算比率

(單位: 億圓)

	'86	%	'87	%	增 減	%
國家全體豫算	210,106	100	231,898	100	21,792	10.4
山林廳管理豫算	600	0.3	623	0.3	23	3.9

資料: 山林廳 企劃管理官室

<表 2-1-2>

事業別 林業豫算

(單位：百萬圓)

	'86	'87	增 △ 減	%
計	59,984	62,328	2,344	3.9
I. 事業費	45,431	46,924	1,493	3.3
1. 機關運營	232	263	31	13
2. 林政管理	1,023	1,185	162	15.8
3. 營林計劃	392	391	△ 1	△ 0.3
4. 山林保護	2,934	3,456	522	17.8
5. 造林 및 育林	16,284	17,359	1,075	6.6
6. 砂防	12,031	10,539	△ 1,492	△ 12.4
7. 技術指導	2,045	2,808	763	37.3
8. 林道施設	2,267	2,922	655	28.9
9. 林業研修	108	156	48	44.4
10. 林業試驗	1,129	1,570	441	39.1
11. 山林調查	165	166	1	0.6
12. 育種研究	1,442	1,541	99	6.9
13. 試驗林管理	3,605	1,374	△ 2,231	△ 61.9
14. 國有林經營	1,710	3,085	1,375	80.4
15. 豫備費	64	109	45	70.3
II. 基本的經費	12,053	12,904	851	7.1
III. 融資(資特)	2,500	2,500	—	—

資料：山林廳 企劃管理官室

今年度豫算中 基本的經費를 除外한 山林事業豫算은 全體豫算의 75%인 469億圓으로 이中 造林 및 育林(174億圓)과 砂防(105億圓) 事業이 全體의 59%를 차지하고 있으며, 그 外에 山林保護(35億圓), 國有林經營(31億圓), 試驗研究(31億圓) 事業 등이 41%를 占有하고 있다.

특히 今年度에는 新規로 造林豫定地와 整理作業費 40%와 풀베기作業費 30%를 國庫에서 支援하여 零細山主의 經費負擔을 덜어주는 한편, 前年에 비해 林道擴充, 私有林協業經營地 擴大, 技術指導員 增員 등 林業構造改善事業에 重點적으로 豫算을 投入해 나갈 것이다.

2. 林業資金支援

'87年度 林業資金支援計劃은 '86年度보다 5億원이 增額된 148億원으로서 이 중 山林開發基金과 資特資金은 各各 1,076百萬원과 2,500百萬원으로 造林 및 育林, 養苗, 山林副產物 生産事業 등에 支援할 計劃이다.

<表 2-1-3>

林業資金支援規模

(單位:百萬원)

	'86	'87計劃	主 要 用 途	
計	14,333	14,847		
山林開發基金	1,071	1,076	· 養苗施業	420
			· 杻고生産	400
			· 林産事業 등	256
資特資金	2,304	2,500	· 造林 및 育林	1,200
			· 養 苗	300
			· 杻고生産施設	340
			· 林産物利用加工	660
農安基金	5,600	7,500	· 副産物生産	3,000
			· 輸出促進	4,500
			· 밤收買資金	3,000
			· 건杻고 蒐集 등	1,500
農協資金	4,858	3,721	· 養苗事業	
農業開發資金	500	-	· 林産事業	

資料: 山林廳 林政局

한편 今年에도 밤, 杻고, 떡갈잎 등의 副産物 輸出促進을 위한 收買資金과 山林副産物生産支援을 위해 農安基金에서 76億원을 融資해 줄 計劃이며, 또한 養苗事業資金融資를 위해 農協資金 37億원을 確保 支援할 計劃이다.

第2章 山地資源化 10年計劃 樹立推進

第1節 推進背景

'73년에는 長期 山林開發基本計劃인 第1次 治山綠化 10年計劃('73~'82)을 樹立하고 '82년까지 全國土를 綠化한다는 目標아래 汎國民的 植樹運動과 強力한 山林保護 政策을 展開한 結果 當初 計劃期間보다 4年 앞당겨 '78年末에 目標를 達成하였으며, 그후 '79年 다시 第2次 治山綠化 10年 計劃('79~'88)을 樹立, 推進함으로써 國土綠化를 完成하고 이를 바탕으로 山地 資源化의 기틀을 마련하게 되었다.

그러나 國民經濟發展에 따른 周邊與件의 變化는 山地를 보다 合理的으로 利用開發하여 農山村所得增大와 公益機能을 提高시켜 國民經濟와 福祉向上에 寄與하도록 要請되는 등 山에 對한 인식이 크게 달라지고 있으므로 山林廳은 이와같은 與件變化에 副應하고 2000年代 先進林業國을 向한 새로운 次元의 林業政策을 樹立하기 爲해 第2次 治山綠化10年計劃을 한 해 앞당겨 今年에 마무리짓고, '88년부터는 山地資源化10年計劃을 推進하기 爲해 이에 따른 基本 計劃과 地域計劃을 年內 樹立할 計劃으로 推進中에 있다.

第2節 計劃의 主要內容

山地資源化10年計劃의 基本目標는 山林의 經濟的 機能과 公益的 機能을 調和한 山地의 效率的利用開發로 農山村所得增大와 快適한 國民生活環境을 造成함으로써 國民經濟와 福祉向上에 寄與하는데 두고 있다.

이를 爲하여 종전 綠化爲主의 林業政策을 所得開發爲主의 資源化政策으로

轉換하는 한편 이를 뒷받침할 山林關係法令 및 制度도 종전의 規制·保全에서 經營·助長爲主로 整備해 나가는 것을 計劃樹立의 基調로 삼고 있다.

本 計劃의 主要內容을 보면,

첫째, 全國의 山地를 保全林地와 準保全林地로 區分해 놓은 것을 보다 더 與件에 알맞도록 再整備 補完하여 山地의 合理的 利用體系를 定立하고,

둘째, 長期木材需要에 맞추어 林木生産基盤을 擴充하기 爲해 經濟林造成을 擴大해 나가는 한편 優良用材育成을 위해 풀베기, 間伐등 育林管理를 強化하도록 할 것이며,

셋째, 林業經營을 活性化하기 爲해 林道網의 大幅擴充, 林業機械化 및 專門技能人養成으로 林業生産性を 높이는 한편 零細私有林協業經營 擴大, 國有林經營面積 擴大 등 林業構造改善事業을 積極 推進해 나갈 것이다.

넷째, 國土保全과 休養空間의 擴充으로 快適한 國民生活環境을 造成하기 위해 野溪砂防, 砂防댐施設을 擴大하고 保安林管理를 徹底히 하는 한편, 國民休養空間으로 自然休養林 造成을 擴大하는 등 山林의 公益的 機能을 提高시킬 것이다.

다섯째, 이들 計劃 推進을 뒷받침하고 山林에 보다 더 積極적으로 民間投資를 誘致하기 爲하여 山林關係制度, 法令, 稅制 그리고 金融支援을 改善해 나가는 한편 尖端林業技術을 積極 開發해 나갈 계획이다.

第3章 山林資源의 增殖과 保護

第1節 造林과 育林

1. 經濟樹 重點 造林

'70年代까지만 하더라도 速成樹 中心의 物量爲主 造林을 실시해 오다가 '80年代에 들어오면서 점차 經濟樹 中心의 質的造林으로 轉換해 나가고 있으며, 특히 '85년부터는 종전 10個 造林獎勵樹種을 21個 經濟樹種으로 擴大 普及하여 適地適樹原則에 依한 造林에 힘쓰고 있다.

그리고 經濟林 造成을 擴大하기 위하여 '79년부터 시작된 第2次 治山綠化 10年 計劃期間동안 全國에 걸쳐 80個 經濟林團地 400千ha를 集中 造成 할 目標을 세우고 이를 年次的으로 착실히 推進해 오고 있다.

今年度 造林計劃量은 48千ha로서 이中 長期樹 造林이 37千ha, 速成樹 7千ha, 有實樹 및 大苗 造林이 4千ha이다. 특히今年度は 솔잎혹파리 被害地 및 不良林地에 대한 經濟樹 更新 造林 30千ha를 重點的으로 實施함으로써 山林資源의 質的水準을 높여 나갈 計劃이다.

今年度 春期造林事業은 國民植樹期間(3.21~4.20) 1個月동안 全國 市·道, 市·郡, 營林署, 山林組合 등 266個 機關에 國民植樹狀況室을 設置運營하여 植樹事業遂行의 問題點을 파악, 이에 對處하고 技術相談도 74千件을 실시하는 등 汎國民的인 植樹事業을 強力히 推進한 결과 當初 計劃보다 2,952ha增加된 50,792ha에 造林을 실시하였다.

그리고 第41回 植木日行事는 4月 5일이 日曜日과 겹쳐 全國民이 植樹事業에 적극參與토록 誘導하기 위해 하루앞당겨 토요일인 4月 4일에 실시하

였으며, 全國 30,182個 機關 團體에서 2,064千名이 참여 하여 今年 春期造林面積의 22%에 해당하는 11,117ha의 山林에 22,095千本을 植栽하였다.

<表 2-3 1>

'87年 春期 造林 實績

單位 [面積 : ha
本數 : 千本

	計 劃		實 績		比 率 (面積)
	面 積	本 數	面 積	本 數	
計	47,840	112,926	50,792	134,643	106 %
長 期 樹	37,015	112,598	38,911	118,284	105
有 實 樹	2,000	800	2,527	980	126
速 成 樹	7,461	3,300	7,822	3,569	105
大 苗 造 林	1,364	2,728	1,532	3,077	112
造 景 造 林	-	3,500	-	8,733	250

資料 : 山林廳 造林局

2. 優良 天然林保育擴大

農山村 人力不足에 따른 經營費 負擔을 줄이고 기존의 우량한 天然林을 用材林으로 가꾸기 위하여 '82년부터 天然林保育作業을 점차 확대 實施해오고 있으며 今年度에는 '86年보다 26%가 늘어난 24,520ha를 實行할 목표로 事業을 추진중에 있다.

특히 올해에는 道別로 地域特性에 알맞는 天然林保育作業技術을 開發 보급함은 물론 關係職員에 대한 現場위주의 實演教育을 強化함으로써 事業效果를 더욱 높일 計劃이다.

3. 育林管理의 徹底

우리나라는 全體山林中 II 齡級 以下の 幼齡林이 5,237千ha로 80%나 차지하고 있어 經濟樹 植栽못지 않게 심어놓은 나무를 더욱 쓸모있게 가꾸는

育林事業이 매우 중요하며, 또한 適正生育空間을 確保해 줌으로써 林木生長과 形質生長을 좋게 하기 위한 間伐作業의 擴大는 더욱 切實히 요청되고 있다.

今年에도 各地域의 林地實態에 알맞는 育林作業計劃을 세워 追肥 136千ha, 풀베기 147千ha, 덩굴제거 17千ha, 稚樹가꾸기 73千ha 등 總 373千ha의 育林作業을 體系的으로 適期에 實行하는 한편 育林作業技術의 普及定着을 위해 示範林을 造成 教育場化해 나갈 計劃이다.

〈表 2-3-2〉 育林事業現況 (單位：千ha)

	計 劃	實 績 (6月末)	進 度 (%)
計	413	170	41
비료주기	136	119	88
풀베기	147	19	13
稚樹가꾸기	73	7	10
덩굴除去	17	15	88
間伐	40	10	25

資料：山林廳 造林局, 營林局

〈表 2-3-3〉 間伐促進團地指定現況

	位 置	面 積	'87 間伐計劃
計	8個 團地	16,249 ha	4,554 ha
京 畿	楊平郡 西宗面	1,838	592
江 原	平昌郡 蓬坪面, 珍富面	1,997	270
忠 北	清原郡 加德面, 琅城面	1,000	300
忠 南	公州郡 正安外 1	1,478	333
全 北	茂州郡 赤裳外 3	2,399	644
全 南	昇州郡 松廣外 2	1,500	500
慶 北	英陽郡 英陽邑	3,000	1,000
慶 南	固城郡 會華面	3,037	915

資料：山林廳 營林局

또한 間伐은 '86年보다 2倍나 증가된 40千ha를 實施하되, 特히 各道別로 間伐促進團地 1個所씩 設定하고 이곳에 林道施設 및 機械裝備를 集中 投入하여 作業能率을 提高시킬 計劃이며, 아울러 淘汰 및 列式間伐方式과 같은 새로운 間伐法을 적극 普及함으로써 作業費의 節減과 間伐效果를 提高시킬 計劃이다.

4. 優良種苗의 安定供給

今年에는 '88年度 造林用 苗木 120百萬本을 원활하게 供給할 수 있도록 優良種子의 採取로 부터 山林組合 및 民營苗圃와 國有養苗場에서의 生産에 이르기까지 管理를 철저히 하고, 特히 山主希望度와 適地適樹計劃을 감안하여 養苗樹種과 物量을 定하되 새로운 經濟樹種과 有用 潤葉樹養苗를 擴大하는 등 養苗樹種을 다양화할 計劃이다.

'87年 現在 採種園 面積은 750ha이며 採種原產 種子로 全量 供給 自給할 때까지 소요종자의 일부를 공급 지원하고 있는 暫定 採種林 面積은 2,141ha이다. 또한 優良 插穗 및 接穗生産을 위한 採穗圃面積은 57ha이다.

<表 2-3-4>

養苗生産計劃

(單位：百萬本)

	實 績			'87 計 劃
	'84	'85	'86	
計	147.2	157.4	150.6	119.5
長 期 樹	120.3	135.2	132.8	108.0
速 成 樹	5.5	4.0	3.5	2.2
有 實 樹	0.5	0.4	0.6	0.6
砂 防 樹	18.0	14.7	10.0	7.7
大 苗	2.9	3.1	3.7	1.0

資料：山林廳 造林局

第2節 山林保護의 強化

1. 山火 및 山林被害防止

最近 山林이 濫用되고 山을 찾는 사람들이 급증함에 따라 산火發生危險率은 점점 높아지고 있으며 일단 發生된 산火는 大型산火로 번져 버리는 경향이다.

今年에는 이러한 산火發生 추세를 감안하고 昨年 清明, 寒食에 겪었던 경험을 거울삼아 예방위주의 산火警防體制를 더욱 강화하고 TV, 라디오 등 各種 放送 媒體와 班常會 등을 통한 弘報 및 啓導活動을 적극 전개함으로써 국민 모두가 自律的으로 산火예방에 힘쓰도록 모든 山林行政力을 集中하고 있다.

특히 산火警防기간인 3月 1일부터 5月 31일까지 市·郡 以上 269個 機關에 산火防止 對策本部를 설치 운영하는 한편, TV 라디오를 통한 弘報活動 853回, 신문·잡지등에 392回 게재, 산火방지 포스터게재 솔담배 2千萬갑 全國發賣등 各級 行政機關의 확고한 산火防止 意志의 定着과 산火豫防 對國民 弘報의 지속적인 전개로 '87年 6月末 現在 산火發生件數는 76件으로 昨年全體發生件數 275件에 비해 무려 72%나 減少되었다.

앞으로 가을철 산火警防期間동안에도 봄철警防期間때와같이 氣象變化에 따른 산火危險警報制實施, 산火脆弱地域의 山火監視強化, 지속적인 산火豫防 弘報 및 啓導強化등 綜合的인 산火豫防對策을 적극 推進하여 나갈 計劃이다.

<表 2-3-5>

산 火 發 生 現 況

單位 [件數: 件
面積: ha]

	'84	'85	'86	'87(6月末)
發 生 件 數 (A)	359	165	275	76
被 害 面 積 (B)	1,164	363	3,417	170
平均 面積 (B/A)	3.2	2.2	12.4	2.2

資料: 山林廳 林政局

盜濫伐등 山林被害를 根絶하기 爲하여 關係職員으로 하여금 月3回 以上 責任區域을 巡山하도록 義務化하고 分期別로 1回 以上씩 警察과 合同團 束을 實施하며 伐採許可를 빙자한 不法伐採를 일소하기 爲해 擇·間伐 許可地의 實行 監督을 철저히 시행하고 있다.

그리고 朱木등 稀貴樹木에 對해서는 일련번호를 부여하고 臺帳化하여 책임보호함은 물론 관계기관과 合同으로 搬出路에 對한 團束과 盆栽木이나 壽石의 不法掘取를 防止하기 爲한 虞犯地域豫防團束을 더욱 強化하고 있는 中이다.

2. 山林病害蟲 防除

減少 추세에 있던 山林病害蟲 發生面積은 '86년에는 오히려 증가하였는데 이는 솔잎혹파리 발생면적이 증가하고 솔껍질각지벌레 등 突發害蟲의 발생이 점차 늘어가고 있기 때문이다.

따라서 今年度에는 病害蟲防除를 더욱 強化하여 病害蟲發生추세를 줄여 나가기 爲하여 豫察을 強化하고 適期防除를 期하는 등 體系的인 防除를 實施해 나가고 있다.

<表 2-3-6>

山林病害蟲 防除現況

(單位：千ha)

	計 劃	實 績(6月末)	進 度
計	168	95	57%
솔 잎 혹 파 리	34	22	65
솔 나 방	19	16	84
흰 불 나 방	45	19	42
오 리 나 무 잎 벌 레	28	23	82
잣 나 무 털 녹 병	3	2	67
솔 껍 질 각 지 벌 레	10	-	-
기 타	29	13	45

資料：山林廳 林政局

올해에는 특히 송이 生産地 소나무林的 솔잎혹파리 防除와 밤나무 圃地의 害蟲驅除를 중점적으로 실시함으로써 農山村所得源을 보호하고 솔껍질 각지벌레 防除를 위해 처음으로 樹幹注射을 통한 藥劑防除를 實施할 計劃이다.

그리고 가장 問題가 되고 있는 솔잎혹파리 피해 擴散을 막기 위하여 솔잎혹파리 防除對策會議를 개최하는 한편 當初 '87防除計劃 物量인 22千ha보다 많은 33.6千ha를 방제할 計劃이다.

특히 설악산 국립공원, 春陽木 自生地로의 침입을 적극 예방하는 한편 '88 서울올림픽 관련구역인 聖火奉送路 및 경기장주변등에 대한 솔잎 혹파리 防除를 적극 實施하고 있다.

3. 野生鳥獸 保護管理

今年에는 市·道·郡別 향토새를 指定하여 鳥獸愛護精神을 鼓吹시켜 나가고 있으며 鳥獸保護5個年計劃의 1次年度 事業을 적극추진하면서 283個區 74千ha에 鳥獸保護區를 새로 設定하여 稀貴鳥獸保護를 強化하는 한편 隣接 國家間的 철새保護를 위한 철새保護條約締結 準備作業을 적극 推進하고 있다.

또한 우리나라의 傳統위조中の 하나인 까치와 반달곰을 象徴動物로 指定하고 모든 國民이 누구나 親近感을 느끼고 山林을 愛護할 수 있도록 이를 圖謀하여 全國에 普及할 計劃이다.

그리고今年度 狩獵場 運營은 濟州道 및 慶南 巨濟郡의 常設 狩獵場과 全羅北道에 循環狩獵場을 設定하여 運營할 計劃이며, 순환수렵장의 獵期는 '87年 11月부터 '88年 2月까지로 計劃하고 있다.

第4章 林業基盤의 擴充

第1節 林業經營의 合理化

1. 林道施設의 擴充

林業經營基盤의 擴充을 위한 林道施設은 '86年末까지 總 710km를 開發하였으나 앞으로 山地資源化 10年計劃이 끝나는 '97년까지 林道密度를 1.72m로 높이고 2030년까지는 ha當 密度를 先進林業國 水準인 10m까지 提高시킬 計劃이다.

〈表 2-4 1〉

林道施設 實績 및 計劃

(單位: km)

	'85 以前	'86	'87 計劃	88~'97
計	471	230	295	9,705
國 有 林	266	41	45	975
民 有 林	205	189	250	8,730
總 延 長 (ha 當 密 度)	471 (0.07)	701 (0.1)	996 (0.15)	10,701 (1.72)

資料: 山林廳 營林局

이를 위하여 今年에는 '86年計劃보다 크게 늘어난 295km(民有林 250, 國有林 45)의 林道를 施設할 計劃이며, 林道の 活用度를 提高시키기 위해 經濟林團地, 協業經營林地, 間伐促進團地등에 集中 施設하는 한편 國有林道 施工能力을 培養하기 위해 直營林道 10km를 施工할 計劃이다. 아울러 林道の

經濟的施工과 適正 林道路線配置方法을 究明하기 위해 林業機械訓練院에서 15km를 示範 施設하고 있다.

2. 私有林 協業經營의 擴大強化

協業經營事業은 零細私有林의 利用開發을 促進하기 위해 '75年 韓·獨 技術協力事業의 일환으로 慶南 梁山에서 처음으로 私有林協業經營 Model事業을 실시한 결과 그 成果과 좋아 '84年 各道에 1個所씩 總 7個地域에 協業經營示範事業을 擴散하였으며, 그동안 이들 協業經營林地內 山主들의 자율적 참여로 각종 山林事業이 활발하게 進行중에 있다.

〈表 2-4-2〉 私有林 協業經營事業地 現況

	'84~'86			'87		
	事業地域	協業體數	面積	事業地域	協業體數	面積
計	8 個所	34 個	37,577 ^{ha}	4	19	19,559
京 畿	楊 平	6	5,161	—	—	—
江 原	平 昌	4	4,589	橫 城	5	4,592
忠 北	清 原	5	4,135	堤 原	4	4,229
忠 南	公 州	4	4,994	—	—	—
全 北	鎮 安	3	4,810	—	—	—
全 南	長 城	3	3,909	昇 州	5	4,896
慶 北	尙 蔚	3	5,436	—	—	—
慶 南	蔚 州	4	4,543	咸 陽	5	5,842

資料：山林廳 造林局

今年에는 江原 橫城, 忠北 堤原, 全南 昇州, 慶南 咸陽 등 4개지역에 새로 協業經營指導所를 설치하여 協業經營事業을 擴大 推進해 나가되 이들 新規

地域의 協業經營事業을 早期에 定着시키고 山林事業의 원활한 수행을 위해 協業體 專擔指導員을 指導所當 4名씩 배치하여 協業體 運營支援과 技術指導를 擔當케 하고 있으며, 기존 協業體의 協同經營事業인 造林, 育林 및 短期共同收益事業을 위한 技術指導와 財政 및 裝備支援을 強化하여 總 6,317ha의 造林, 育林事業을 實施할 計劃이다.

3. 國有林 擴大

우리나라의 國有林은 대부분 奧地에 位置해 있고 主要河川의 上流水源地域에 分布되어 있어 木材生産뿐만 아니라 水源涵養 및 國上保全 등 公益機能을 發揮하는데 매우 重要的 役割을 擔當하고 있다.

現在 우리나라의 國有林率은 20%에 不過한 實情이지만 國家에서 必須的으로 保存 經營해야 할 林地를 確保하고 山林의 集約經營基盤을 造成하기 위해서 앞으로 2030년까지 國有林率을 日本 및 獨逸水準인 30%까지 提高시킬 計劃이다.

今年에는 要存 國有林에 連接 또는 介在해 있는 未開發 私有林 1,000ha를 買入하고 小規模 分散 國有林과 私有林의 交換 및 無主山林取得 등으로 1,500ha를 確保할 計劃이다.

<表 2-4-3>

國有林擴大計劃

	單位	'87	'88	'89	'90	'91	'92 以後
取得	ha	2,500	7,500	10,000	10,000	10,000	326,000
總面積	千 ha	1,317	1,324	1,334	1,349	1,364	1,680
國有林率	%	21	21	21	21	22	30

資料：山林廳 營林局

第2節 林業專門人力的 養成

1. 篤林家 支援擴大 및 林業後繼者 養成

山主에 依한 自律的인 林業經營을 유도하기 위하여 '74年 처음으로 244名의 篤林家를 發掘하기 始作하여 現在 484名의 篤林家가 있으며 그동안 各種支援을 해오고 있으나 아직까지 經營活性化를 도모하기에는 未洽한 實情이다.

따라서 篤林家들이 私有林 經營의 先導的 役割을 다할 수 있도록 하기 위해 今年에도 계속하여 자기 山林을 着實하게 經營하고 있는 山主를 찾아 篤林家로 認定함으로써 그 數를 늘려감과 아울러 經營을 助長해 주기 위해 營林計劃林地에 대한 伐採施業을 自律的으로 할 수 있도록 制度化하고 林業金融 및 技術指導 등 各種 支援을 強化할 計劃이다.

또한 篤林家 身上 및 經營現況을 카드化하여 持續的인 事後管理를 實施하고 포상 확대, 現地 研鑽會開催 등으로 篤林家의 士氣를 振作시키고 認定感을 심어줄 計劃이다.

한편 篤林家의 相續對象者나 農山村 居住 農高林料 以上 卒業者로서 山林經營意慾이 높은 靑少年을 林業後繼者로 선발, 私有林 開發의 선도자가 되도록 育成할 계획이며 이를 위해 올해에는 農漁民後繼者育成事業에 林業後繼者가 包含되도록 關係法規의 改正을 적극 추진해 나갈 것이다.

<表 2-4-4>

篤林家 現況

	基 準		認定權者	人 員
	所有規模	造林實績		
加 規 範	300ha 以上	100ha 以上	山林廳長	71 名
優 秀	100 "	50 "	道 知 事	192 "
入 自 營	50 "	20 "	市長 · 郡守	209 "
法 人	500 "	300 "	山林廳長	12 法人

資料：山林廳 造林局

2. 專門 林業勞働力の 養成

數年前까지만 해도 山林作業은 대부분 手作業에 依해 이루어져 왔으나 最近 勞働力の 都市流出에 따른 農山村 勞働力不足과 生活水準의 向上으로 因한 山地勞働을 기피하는 傾向에 따라 林業勞働의 機械化 및 專門化의필요성이 대두되고 있어 '82年 韓獨事業의 일환으로 林業機械訓練院을 江陵에 設置하고 林業勞働者에 대한 訓練을 實施하여 지금까지 116名의 專門技能人을 養成하였다.

올해에는 既養成 作業團員의 補修教育에 重點을 두고 營林署의 管理所別로 構成되어 있는 技能人 作業團을 完全히 定着시키고 民有林에 대해서는 協業經營指導所 中心의 作業團 育成을 積極 推進하되, 이들이 1年동안계속하여 作業할 수 있도록 作業物量의 優先的 配定과 適正勞賃保障等 支援을 強化함으로써 教育을 받은 技能人들이 作業團에서 離脫하지 않도록 條件을 造成할 計劃이다.

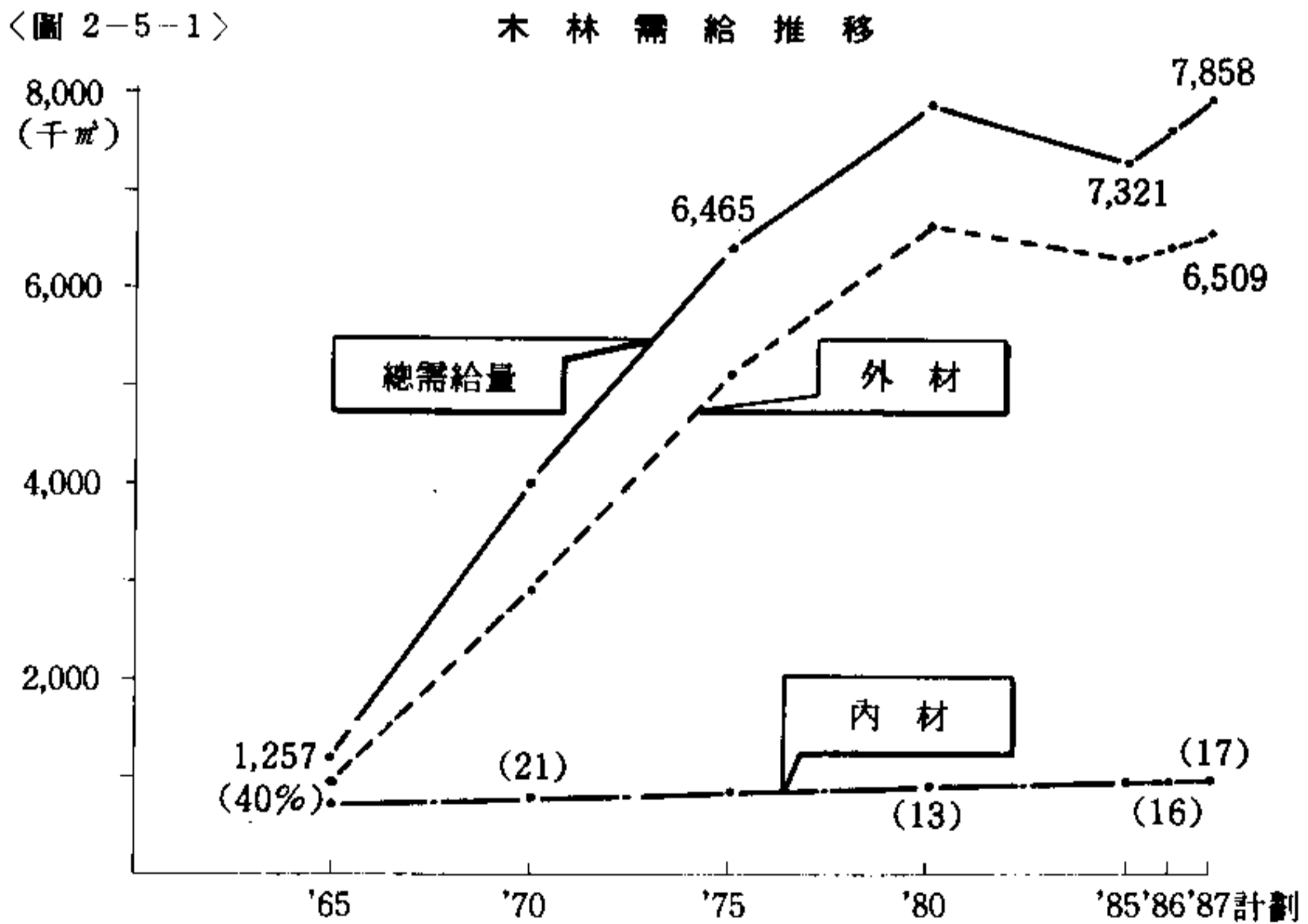
今年度 新規作業團訓練은 京畿道 協業體 作業團員 12名에 對해서 訓練을 實施中에 있다.

第5章 林產物 需給安定과 所得源 開發

第1節 木材需給安定

1. 木材의 安定的 供給

'87年度 木林需給計劃量은 '86年보다 4%나 늘어난 7,858千 m^3 이며, 이의 需給安定을 爲해 外材 6,509千 m^3 (83%), 內材 1,349千 m^3 (17%)을 供給할 計劃이다.



資料：山林廳 營林局

〈表 2-5-1〉

木材需給實績 及 計劃

(單位：千 π)

		'86	'87 計 劃	增 △ 減	%
需 要 量	計	7,582	7,858	276	3.6
	內 需 用	6,996	7,297	294	4.2
	輸 出 用	586	568	△18	△3.1
供 給 量	計	7,582	7,858	276	3.6
	內 材	1,242	1,259	17	1.4
	外 材	5,772	5,970	198	3.4
	(廢 殘 材)	(568)	(629)	(61)	(10.7)

資料：山林廳 營林局

〈表 2-5-2〉

海外山林資源開發實績 及 導入計劃

(單位：千 π)

業體別	業種別規模	實 績 '69~'86	開 發 木 導 入			'87計劃
			計 劃	'86 實 績	比 率	
合 計		5,642	300	65	22%	250
韓 國 南 方	林地開發 440千ha 合板 750萬枚/年	2,191	40	32	80	40
東 和 企 業	林地開發120千ha 合板 675萬枚/年	890	10	--	--	20
(株) 鮮 京	合 板 300萬枚/年	69	10	--	--	--
亞 洲 林 業	林地開發 115千ha	84	--	--	--	--
有 元 建 設	林地開發 395千ha	32	20	4	20	--
漢 擊 資 源	林地開發 181千ha 鋸 210千噸/年	437	100	--	--	150
東 映 物 產	單板 61千 π /年	24	10	--	--	--
現代綜合木材	林地開發 215千ha 林木伐採 70千 π /年	590	95	29	3--	40
利 健 產 業	林木伐採 50千 π /年	--	--	--	--	--

資料：山林廳 林政局

우리나라 山林의 齡級構造를 보면 IV齡級 以上の 伐採利用可能한 成林面積은 473千ha로 全體立木地の 7%에 지나지 않아 當分간 資源保全的 側面에서 國內材 節伐政策을 堅持함으로써 國內材生産은 間伐材爲主가 될 것이나 坑木, 펄프등과 같은 必須産業用材에 對해서는 國內材를 優先供給해 나갈 것이다.

한편 外材는 適正導入을 期할 수 있도록 木材工業協同組合, 海外山林 開發協會 등 民間主導에 依해 輸入自律管理가 이루어질 수 있도록 할 것이다.

아울러 安定的인 外材供給先確保를 爲해 海外山林開發을 東南亞爲主에서 南美, 아프리카 등지로 多邊化하고 資源保有國과의 外交를 한층 強化해 나갈 計劃이다.

2. 國產材 活用度提高

'86年度 國產材의 用途別 利用現況을 살펴보면 坑木用 60%, 펄프用 28%, 一般用材 12%로 대부분 坑木과 펄프用으로 使用되고 있다.

앞으로 當分간 大徑材보다는 間伐小徑材爲主로 國內材를 生産供給하려는 節伐政策에 맞추어 間伐小徑材의 用途開發을 強化할 것이며, 아울러 木材의 耐久年限을 延長시키고 廢殘材를 最大限活用, 木材消費節約을 積極推進해 나가되 今年에는 470千m³의 廢殘材를 파티클보드, 하드보드, 화학펄프 製造原料등으로 活用하고 建築用材, 枕木, 坑木등 85千m³를 防腐處理함으로써 使用年限을 延長하도록 할 計劃이다.

第2節 林產物 流通構造의 合理化

'86年度 林產物生産額을 內譯別로 보면 總 18,393億圓中 土石類가 11,565億圓, 燃料 및 農用資材가 4,656億圓으로 이들 두가지 品目이 全體林產額의 88%나 차지하고 있는 實情이며, 실제 山林主產物인 用材 및 竹材와 버섯,

種實 등 山林副産物의 構成比는 겨우 12%에 不過한 實情이다.

그러나 앞으로 主産物인 木材 特히 間伐小徑材의 需要가 開發되고 國民들의 食生活嗜好의 變化에 따라 밤, 버섯, 잣등 山林副産物의 需要가 늘어날 展望이므로 體系的인 流通秩序確立과 構造改善이 要請되고 있으며, 앞으로 農山村 所得事業으로 副産物生産이 늘어날 경우 林産物 流通問題에 대한중요성이 크게 提起될 것이다.

따라서 山林組合을 林産物流通의 求心體로 育成하여 各種林産物의 蒐集 및 供給幹旋은 勿論 國産材 集荷場과 林産物共販場을 擔當運營해 나가도록 할 計劃이며, 아울러 올해에는 全州에 새로 林産物直賣場을 設置 그地域 特産林産物을 消費者에게 直接供給하여 生産者와 消費者의 利益을 함께 保護하도록 할 計劃이다.

第3節 山林所得源開發 및 輸出擴大

1. 山地所得源 綜合開發

우리는 그동안 荒廢된 國土의 綠化를 위해 山地被覆과 山林資源保護에 總力을 기울여 온 結果 山지를 國民經濟的 側面에서 效率的으로 利用開發하 하는데는 消極的이었다.

그러나 社會經濟的인 與件變化에 따른 國民의 새로운 欲求에 副應하여 앞으로는 山지를 資源化하면서 草地, 果園, 桑田등으로 開發하고 藥草, 버섯을 栽培하는 등 農山村 住民의 所得을 높이기 위해서 山地의 用途別 特性을 고려하여 이를 多角的으로 活用해 나갈것이다.

따라서 山林廳은 '81년부터 '85년까지 全山林에 걸쳐 山地利用區分調査를 實施하고 山지를 一定基準에 따라 林産資源增殖 및 公益增進을 위해 活用할 保全林地와 草地, 副産物生産, 桑田 등으로 開發할 수 있는 準保全林地로 區分한 山地利用體系를 今年에는 立地條件別로 다시 補完 整備하여 效

率的인 山地利用을 期할 수 있도록 調整할 計劃이며, 아울러 山林所得源開發擴大를 위해 各地域別로 山林副產物 主要團地를 指定하고 이를 特化産業으로 育成해 나갈 計劃이다.

2. 林產物輸出擴大

'80年代에 들어서면서 合板輸出의 不振으로 林產物輸出은 계속 減少趨勢에 있었지만 '86년부터 石材 및 밤輸出이 好調를 보이고 合板輸出도 점차 늘어나면서 林產物輸出은 增加趨勢에 있다.

이와같은 輸出增加勢를 加速化시키기 위해 外貨稼得率이 높은 有望輸出品目을 中心으로 資金支援을 '86年 28億원에서 올해에는 49億원으로 擴大하고 新市場 開拓 및 多邊化를 推進해 나갈 計劃이다.

<表 2-5-3>

林產物 輸出實績 및 計劃

(單位:百萬\$)

		'85	'86 (A)	'87 (B)	增減率(B/A)
計		263	333	350	5.1 %
合	板	40	51	55	7.8
木	材	21	27	26	△ 3.7
木	製	13	20	20	0.0
壁	紙	16	13	15	15.4
石	材	84	122	125	2.5
버	섯	43	43	47	9.3
	밤	37	53	55	3.8
其	他	4	4	7	75.0

資料: 山林廳 林政局

第6章 山林의 公益機能增進

第1節 山林의 國土保全機能提高

1. 砂防事業

이제까지의 砂防事業은 주로 集團荒廢山地 復舊를 위한 山地砂防에 力點을 두어 온 결과 山地砂防 對象地는 3千ha밖에 남지 않아 來年까지 復舊完了할 계획이며, 앞으로의 砂防事業은 理水機能을 增進시키고 下流 農耕地 등을 保護하기 위한 野溪砂防과 砂防댐設置에 重點을 둘 계획이다.

今年에는 1,535ha의 山地砂防을 實施하고 飛砂防止와 砂丘地 固定을 위한 海岸砂防도 20ha實施할 計劃이며, 특히 '86년부터 시작한 砂防댐을 올해에는 30 個所 設置하고 野溪砂防은 작년보다 30km 늘어난 100km를 施設할 計劃으로 推進中에 있다.

<表 2-6-1>

砂防事業計劃 및 實績

	'86	'87		進度 (%)
		計 劃	實 績(6月末)	
山地砂防 (ha)	2,230	1,535	1,535	100
海岸砂防 (ha)	60	20	20	100
野溪砂防 (km)	70	100	40	40
砂防 댐 (個所)	30	30	16	53

資料：山林廳 造林局

2. 保安林 管理

先進社會로 進入함에 따라 國民들의 休養需要增大는 물론 環境汚染·食水問題등 公害에 關한 問題가 크게 擡頭되고 있다. 우리나라와 같이 國土面積이 좁고 夏季에 降雨가 集中되며 溪流의 傾斜가 急한 與件에서는 水源保護, 土砂流出防備 등 國土保全機能을 지니고 있는 山林의 役割은 매우 重要하다고 할 수 있다.

이에 따라 山林廳에서는 水源地 部近의 山林, 土砂流出이 豫想되는 山林 등 公益上 꼭 必要로 하는 山林을 保安林으로 指定 管理해 오고 있다.

今年은 「保安林 一齊 整備의 해」로 全國 354千ha의 保安林 實態調査를 실시하여 與件變化로 必要性이 없어졌거나 이미 目的을 達成한 保安林은 이를 解除하고 公益上 特別히 필요한 山林만 指定管理해 나갈 計劃이며, 保安林內에서의 施業은 指定目的에 障害가 없는 범위내에서 許可하여 山主의 權益을 보호하도록 할 것이다.

第2節 山林休養空間擴充 및 景觀造成

1. 山林樹木園과 博物館 完工

林業史料의 保存과 傳統樹種의 展示로 國民의 自然學習教育場으로 活用하고 나아가 韓國의 林業을 世界에 紹介하기 위해 83년부터 光陵 林業試驗林內에 造成해온 山林樹木園과 博物館을 今年 4月 4日 植木日 行事와 더불어 준공식을 갖고 4月21일부터 一般國民에게 開場하였다.

樹木園 規模는 總 500ha로서 盲人植物園, 藥用植物園, 花木園 등 15個園으로 構成되어 있고 樹木 1,716種, 草類 1,059種, 總 2,775種이 이곳에 植栽되어 있으며, 博物館은 地下1層, 地上2層의 建物로서 動·植物標本, 木製品 등 14千餘種이 展示되어 있다.

2. 街路樹 植栽管理

'86年末 現在 全國 50千km의 道路邊에 2,415千本の 街路樹가 造成管理되고 있으며 이태리포플러, 현사시, 플라타너스, 은행나무 등이 主로 植栽되어 있다.

今年에는 '88올림픽 對備區間 및 名勝古蹟地 周邊에 街路樹를 集中 植栽하고 은행나무 등 公害에 強하고 美觀이 좋은 樹種의 植栽를 擴大해 나갈 計劃이며, 또한 忠北 永同의 감나무 街路樹와 같이 各地域에 特色있는 傳統 樹種을 普及하여地域別 固有한 街路景觀을 造成할 計劃이다.

그리고 市·道別로 1個所씩 總 13個所의 剪定示範區間을 指定教育場으로 活用함으로써 樹種別 樹型을 감안한 適正剪枝를 實施하여 街路景觀을 美化하고 颱風등 各種被害 豫防에 對備해 나갈 것이다.

春期 街路樹 植栽實績은 181千本으로 計劃物量 217千本の 83%를 達成하였으며 殘量은 秋期와 被害地 補植으로 實施할 計劃이다.

3. 올림픽關聯地域 景觀造成

'88서울올림픽에 대비하여 '82년부터 主要 史蹟地 및 觀光地 景觀 造成을 위한 大苗造林을 實施하고 있다.

今年에도 올림픽關聯 道路邊의 切開地나 裸地의 被覆造林과 獨立記念館 등 史蹟地 및 觀光地의 景觀 造林을 9,355ha에 8,734千本の 大苗를 植栽하였으며 아울러 競技場 周邊과 聖火奉送路 周邊 山林에 對한 病害蟲 防除를 強化하여 美觀이 損傷되지 않도록 힘쓰고 있다.

그리고 既造成되어 있는 無窮花 管理를 徹底히 하여 나라꽃으로서의 이미지를 높이는데 주력하고 있다.

4. 休養林 및 林間學校運營

都市近郊 山林에 國民休養과 情緒涵養에 寄與할 수 있는 休養林을 年次的으로 擴大造成하여 國民에게 開放, 利用할 수 있도록 休養林 造成의 法的 根據를 마련하는 한편 慶南에 既造成되어 있는 6個所의 休養林을 地域住民의 休息空間으로 活用해 나가고 있다.

또한 靑少年의 心身을 단련함은 물론 自然學習場으로 利用하기 위해 中部營林署 麟蹄 管理所 管轄 國有林內에 林間學校를 設置運營하고 있으며 앞으로 이를 점차 擴散시켜 나갈 計劃이다.

第7章 林業試驗研究促進과 技術普及

第1節 林業試驗研究 促進

1. 林業試驗研究方向

'87林業試驗研究의 方向은 새로운 山林行政需要를 감안한 林業技術開發에 두고 林業所得 및 生産性向上을 위한 技術改善과 林產物利用의 高度化, 山林被害防止研究에 重點을 두고 推進할 計劃이며, 林木育種研究方向은 山地 資源化를 위한 經濟樹種開發에 두고 生物工學을 應用한 優良樹種의 大量增殖開發과 生長이 빠르고 耐病蟲性인 新品種育成에 注力해 나갈 計劃으로 林業試驗研究 49個課題, 育種研究 24個課題를 推進중에 있다.

그리고 研究職員의 士氣振作을 위해 '82年 林業試驗研究獎勵金 2億원을 造成하고 '84년부터 優秀研究實績에 대한 褒賞 과 海外研修에 사용해 오고 있으며 今年에도 이를 위해 28百萬원을 支給할 計劃이다.

<表 2-7 1> 林業試驗研究 獎勵金 運營現況

	'84~'86		'87 使用計劃	
	人 員	金 額	人 員	金 額
計	71 名	74,417	12 名	28,300
功 績 褒 賞 金	53 名	40,000	8 名	17,000
綠 色 賞	2 "	6,000	1 "	5,000
研 究 賞	43 "	26,000	5 "	10,000
功 勞 賞	8 "	8,000	2 "	2,000
海 外 研 修	18 "	34,417	4 "	11,300

資料：山林廳 造林局

2. 山林 生産性 向上研究

林道施設이 貧弱하고 機械化率이 낮은 우리나라의 경우 林業生産費의 대부분을 차지하고 있는 伐採, 運材費에 대한 投入費用이 커서 林業低收益性의 主要要因이 되고 있다.

따라서 今年에도 干先 集材方法 改善을 위해 21個 調査區에서 트랙터와 케이블크레인등을 利用한 大徑木 集材試驗을 實施하고, 아울러 耕耘機와 小型 林內車를 利用한 小徑木集材 試驗을 12個所에서 實施할 計劃이며, 또한 林道の 利用度 提高와 經濟的 施工을 위한 林道路線 選定方法을 究明함과 아울러 經濟的 側面을 감안한 適正 林道密度 究明에 注力할 것이다.

그리고 林業所得을 增大시키기 위해 木材의 用途別 需要別 展望에 依한 適正伐期齡를 究明하는 한편 山林副産物의 所得實態를 調査하고 炭 및 石材의 利用加工法을 開發할 計劃이다.

3. 低利用 林産資源 活用技術開發

2次에 걸린 治山綠化期의 集中的인 造林으로 間伐對象地가 늘어나는데도 間伐이 제대로 이루어지지 못하고 있는 것은 間伐木등 小徑材의 利用이 활발하지 못하는데도 큰 原因이 있는 것으로서, 國內材 利用擴大에 의한 外貨節減과 間伐擴大에 의한 山林資源化 促進을 위해 低利用材 活用技術開發이 크게 要請되고 있다.

따라서 今年에는 현사시, 아까시나무를 粗飼料로 利用하기 위해 消化率과 粗蛋白率 提高試驗을 實施하면서 표고廢櫓木과 물오리나무의 粗飼料製造試驗을 並行해 나갈 計劃이며 木質의 酒精化를 위해서 새로운 木質 分解菌 및 高効率 糖化菌株開發에 힘쓸 계획이다.

4. 山林被害防止 研究

過去에는 주로 山火 및 山林病虫害에 의해 山林이 被害를 입었지만 最近 歐美 先進國의 경우 大氣汚染과 酸性雨로 인한 山林被害가 深刻한 問題로 擡頭되고 있다.

우리나라도 工業化過程에서 벌써 環境汚染이 問題가 되고 있고 日本 등 周邊 國家의 影響圈안에 위치하고 있기 때문에 公害 및 酸性雨에 의한 山林被害는 멀지 않아 크게 問題가 될 것으로 豫想된다.

따라서 작년부터 酸性雨로 인한 山林被害究明을 위한 基礎調査에 착수하고 地域別 降雨酸度を 測定하였으며, 今年에는 地域別 降雨酸도에 따른 山林植生の 生態的 變化 및 山林土壤汚染度を 調査하고 있다.

이밖에 山火 및 病虫害에 의한 山林被害防止를 위해 山火發生因子의 內容糾明과 함께 山火發生林地의 土壤變化相을 調査하고 솔잎혹파리 綜合防除體系를 定立할 計劃이다.

5. 山林資源 調査事業

全國山林資源을 調査하여 山林統計作成 및 山林基本計劃樹立資料로 提供하기 위해 '86년부터 第3次 山林資源調査事業 ('86~'90)을 실시하고 있으며 지난해에 이어 今年에도 中部營林署, 南部營林署 管轄 山林과 慶北一部 山林 등 950 Fha에 대한 山林調査를 實行中에 있다.

<表 2-7-2>

第3次 山林資源調査計劃

(單位：千ha)

	合 計	'86	計 劃	
			'87	'88 ~ 90
山 林 調 查 事 業	6,540	1,059	950	4,521
航 空 寫 眞 撮 影	8,500	650	700	7,150

資料：林業試驗場

6. 生物工學을 應用한 新品種 育成

從來의 林木育種方法은 選拔育種 및 交雜育種이 大宗을 이루어 왔으나 最近 急激히 發達한 生物工學技術을 林木育種研究分野에 導入함으로써 育種期間을 短縮하고 優良苗木을 大量生産할 수 있게 되었으며 遺傳子操作이나 細胞融合에 依한 새로운 品種開發도 可能하게 되었다.

우리나라도 '80年代에 生物工學을 應用한 育種研究를 꾸준히 推進해온 결과 그동안 剛松大量增殖法 및 交配不能樹種間 細胞融合可能性 究明등 育種研究에 新紀元을 이룰 상당한 成果를 거두었다.

今年에도 藥培養, 칼루스 器官分化, 細胞培養등을 통한 新品種 開發研究를 계속하고 특히 細胞融合技術에 依한 試驗管内 交配實施 및 組織培養過程 短縮研究를 實施하여 實用化를 앞당겨 나갈 計劃이다.

第2節 林業技術指導 普及擴大

1. 林業技術指導力量 強化

'86年末 現在 우리나라의 私有林面積은 4,698千ha이나 林業技術指導員數는 377名에 不過해 技術指導員 1人當 管轄面積은 12.5千ha에 達하고 있고, 指導員 1人當 山主 5千名을 指導해야 하는 實情이므로 體系的이고 能動的인 林業技術指導事業을 展開하는 데는 많은 어려움이 따르고 있다.

이에 따라 앞으로 私有林經營의 活性化를 위해서는 林業技術指導員의 擴充이 絶對적으로 必要하다는 認識아래 6次經濟社會發展 5個年 計劃期間동안 總 450名의 林業技術指導員을 增員할 計劃을 樹立하고, 첫째인 今年度에는 일차적으로 150名을 增員 基本教育을 실시한 후 市·郡 山林組合에 配置함으로써 一線의 林業技術指導를 大幅 強化하였다.

'87年度 林業技術指導 事業은 山主가 效率的으로 자기 山을 經營할 수 있

도록 現地 實演指導를 통한 山林經營指導를 적극 推進해 나갈 計劃이며, 技術指導員의 指導業務를 원활히 遂行할 수 있도록 指導員 給與의 80%를 國庫에서 補助해 주어 生活安定에 도움을 주는 한편 二輪車 9대를 支援하여 機動力을 向上시킬 計劃이다.

아울러 技術指導員의 指導能力을 培養시키기 위하여 林業研修院에서 專門技術過程을 실시하는 한편 山林組合中央會에서 自體職務教育을 실시하고 現地 研鑽教育을 併行해 나가고 있다.

<表 2-7-3>

林業技術指導員 配置現況

(單位:名)

	計	山組中央會	山組道支部	山林組合
計	527	10	51	466
1級指導員	10	2	8	..
2級指導員	152	2	9	141
3級指導員	365	6	34	325

資料: 山林廳 造林局

2. 林業技術情報

篤林家 및 山林契員등은 물론 山林行政機關과 關聯團體에 山林施策을 널리 알리고 새로운 林業技術과 情報 등을 신속하게 提供해 주기 위해 山林組合中央會에서 國內唯一의 林業專門 技術誌인 山林誌를 月 23千部씩 發刊普及하고 있으며, 이에 所要되는 發刊經費의 70%를 國庫에서 補助해 주고 있다.

그리고 山主가 손쉽게 자기 山에 알맞는 造林樹種을 선택할 수 있도록 地域別 適地 適樹基準表 11千部를 製作하여 山林行政機關과 山林組合, 團體 등에 普及하였다.

또한 우리나라에 自生하고 있는 主要 樹木의 컬러 化보와 特性을 결들인 樹木圖鑑 500部를 製作하여 各級 機關에 配付하는 한편 우리나라에 自生하

는 野生鳥獸圖鑑을 年內에 發刊 普及함으로써 野生動植物 愛護意識과 山林에 대한 親近感을 鼓吹시켜 나갈 計劃이다.

第3節 林業研修

今年度 林業研修의 目標를 林業人의 特性에 알맞는 實用的 教育實施로 精銳林業 指導者를 育成하는데 두고, 林業을 天職으로 알고 투철한 使命感을 定立할 수 있도록 精神教育을 強化하는 것은 물론 變化하는 山林行政與件에 能動的으로 대처할 수 있도록 職務에 실질적으로 연결될 수 있는 實習爲主의 實演教育을 적극 推進해 나가고 있다.

아울러 林業公務員 教育外에도 政府의 農山村所得 增大 施策에 副應하여 山林契長, 篤林家등 林業關聯民間人에게 山林所得을 增大시킬 수 있는 副產物 生産技術등의 傳播 및 林業成功事例發表와 함께 先進地 視察을 통하여 林業人으로서 認定感을 갖도록 特別教育에도 力點을 두어 추진하고 있다.

今年度は 精神教育, 基本教育, 統合實務者補修教育, 專門教育, 特別教育 등 5個課程 16個班을 設定 總 1,585名을 教育할 計劃으로 推進하고 있다.

여백

〈附 錄〉

圖表로 본 農業動向

農 業

1. 經濟成長率과 農林漁業成長率
2. 產業別 構成
3. 總人口와 農家人口
4. 耕地利用
5. 農業生產基盤
6. 農機械 普及狀況
7. 肥料 및 農藥消費量
8. 食糧作物 生産量
9. 쌀 및 보리쌀 生産量
10. 家畜飼育動向
11. 양념류 生産 및 價格推移
12. 農業 生産性
13. 農業粗收入
14. 農家所得
15. 可處分所得 및 家計費
16. 農家負債
17. 食糧 自給度
18. 1人當 食品消費量
19. 農家交易條件
20. 農水産物 輸出入動向

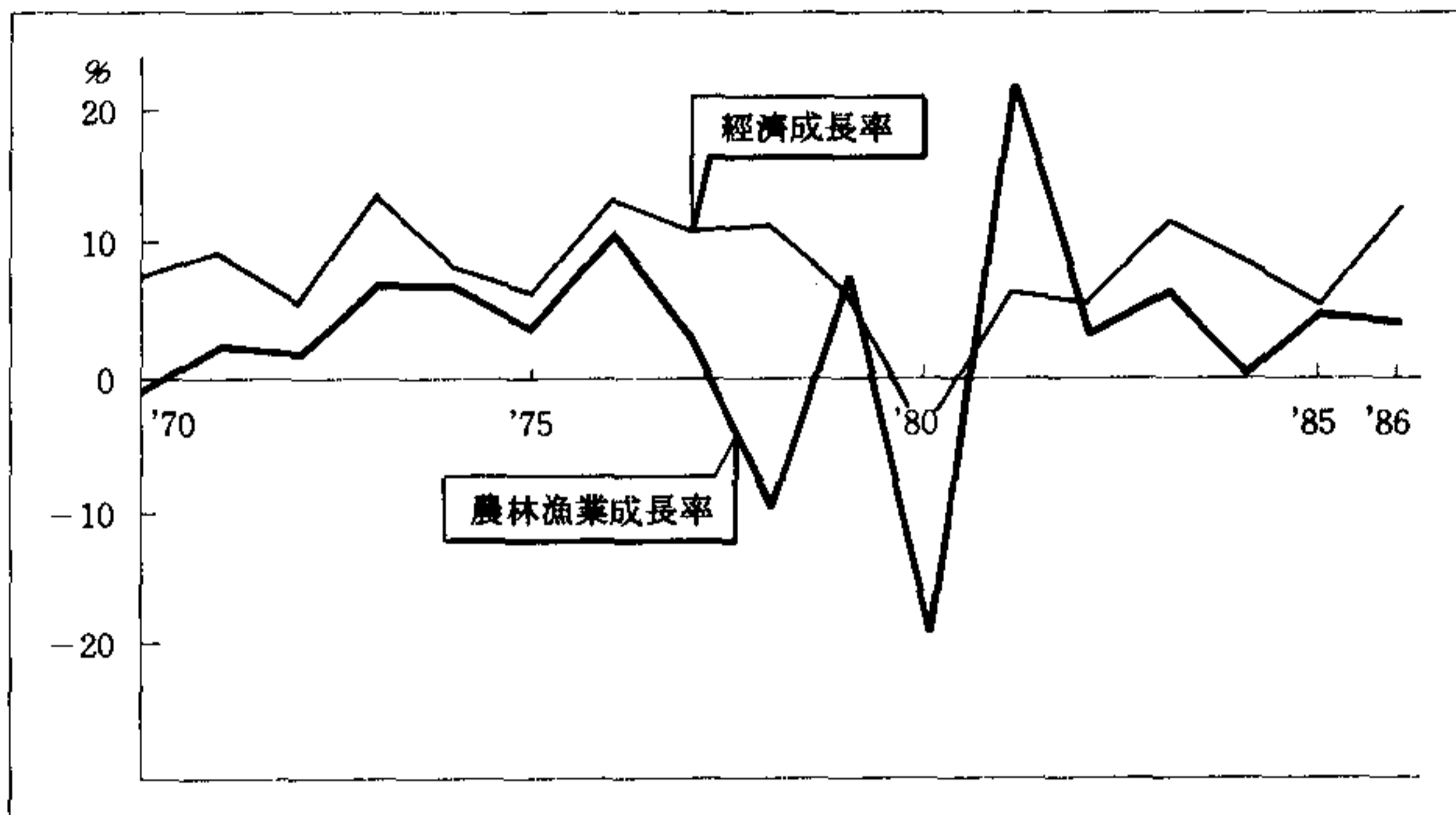
林 業

1. 林業成長
2. 林相別 林野面積
3. 林木蓄積
4. 山林所有 構造
5. 樹種別 造林實績
6. 林道
7. 木材需給
8. 用途別 內材供給
9. 主要 山林副産物 生産
10. 林産物 輸出入

여백

農業

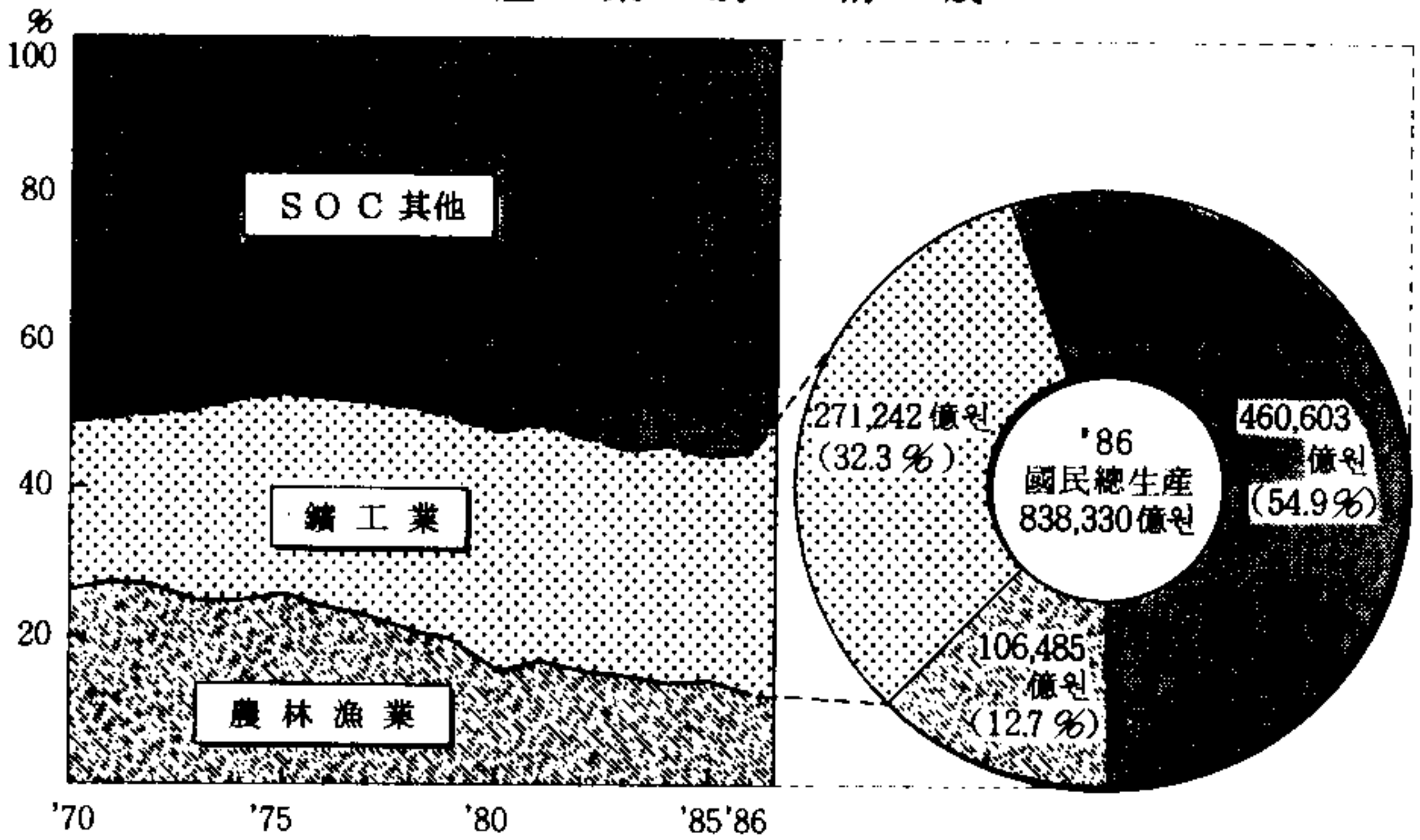
1. 經濟成長率斗 農林漁業 成長率



(單位：80不變，%)

	國民 總生產	農 林 漁 業			礦 工 業	社 會 間接資本	其 他 서어비스	
		農 業	林 業	漁 業				
70	7.6	△ 1.4	△2.2	△0.1	19.2	19.6	11.9	8.8
71	9.1	3.4	4.1	△4.4	1.3	16.5	6.4	11.0
72	5.3	2.0	1.2	1.9	15.6	11.9	4.7	4.7
73	14.0	7.1	5.7	12.8	20.8	27.8	22.2	9.4
74	8.5	7.1	7.2	△3.6	15.3	15.1	10.2	5.2
75	6.8	4.2	5.3	△3.4	2.2	12.3	11.0	3.6
76	13.4	10.2	11.2	3.2	1.9	22.5	14.5	9.1
77	10.7	3.0	3.1	2.4	2.0	15.1	22.5	7.8
78	11.0	△9.9	△11.0	5.0	△5.6	20.3	23.0	11.5
79	7.0	7.4	8.9	△18.2	8.9	9.6	9.6	3.4
80	△4.8	△19.9	△23.8	17.0	4.1	△1.4	2.1	△3.3
81	6.6	22.4	24.3	5.7	16.0	8.0	1.5	1.1
82	5.4	3.3	4.4	△11.9	1.6	4.0	11.7	4.6
83	11.9	6.5	6.3	31.1	△4.4	12.1	16.9	11.6
84	8.4	0.2	△1.0	7.7	8.3	14.5	9.5	5.9
85	5.4	4.8	5.3	△4.7	6.7	3.9	9.9	12.3
86(P)	12.5	4.4	4.5	△8.7	12.6	21.2	11.8	15.5

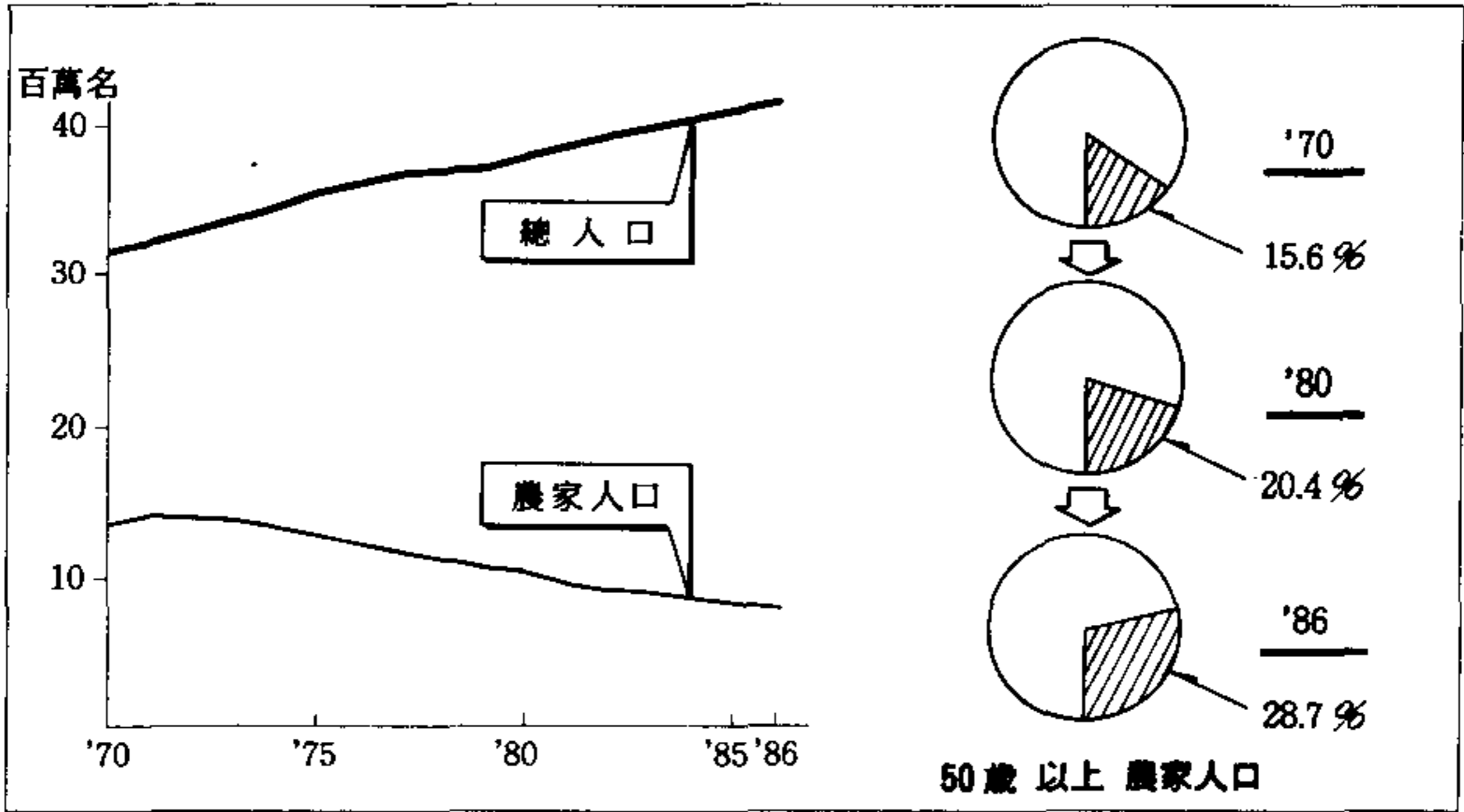
2. 產 業 別 構 成



(單位：經常 10億圓)

	國 民 總 生 產	農 林 漁 業			鑛 工 業	社 會 間 接 資 本	其 他 서어비스	
		農 業	林 業	漁 業				
		%						
70	2,776.9	25.8	22.5	1.6	1.7	22.3	13.4	38.5
71	3,406.9	26.6	23.1	1.4	2.0	22.3	12.7	38.2
72	4,177.5	26.2	23.1	1.3	1.8	23.6	12.3	37.9
73	5,355.5	24.7	20.9	1.4	2.4	26.4	12.7	36.2
74	7,564.5	24.6	21.5	1.4	1.7	27.4	11.5	36.5
75	10,064.6	24.9	21.8	1.3	1.8	28.0	12.1	35.0
76	13,818.2	23.5	20.7	1.1	1.7	29.2	12.0	35.3
77	17,728.6	22.3	19.1	1.2	2.1	29.3	13.8	34.6
78	23,936.8	20.4	18.1	1.0	1.8	29.8	15.8	34.0
79	30,741.1	19.1	16.4	0.9	1.8	30.3	17.5	33.1
80	36,672.3	15.1	12.7	0.9	1.4	32.0	18.7	34.3
81	45,126.2	16.5	4.1	0.9	1.6	32.0	18.5	33.0
82	50,724.6	15.2	12.5	1.2	1.4	31.1	19.7	34.0
83	58,985.8	14.1	11.4	1.1	1.5	30.8	20.1	35.0
84	66,408.2	13.8	11.5	0.9	1.3	31.6	20.2	34.4
85	72,849.8	13.9	11.6	0.9	1.5	30.7	20.2	35.1
86(P)	83,833.0	12.7	10.3	0.7	1.6	32.3	19.6	35.3

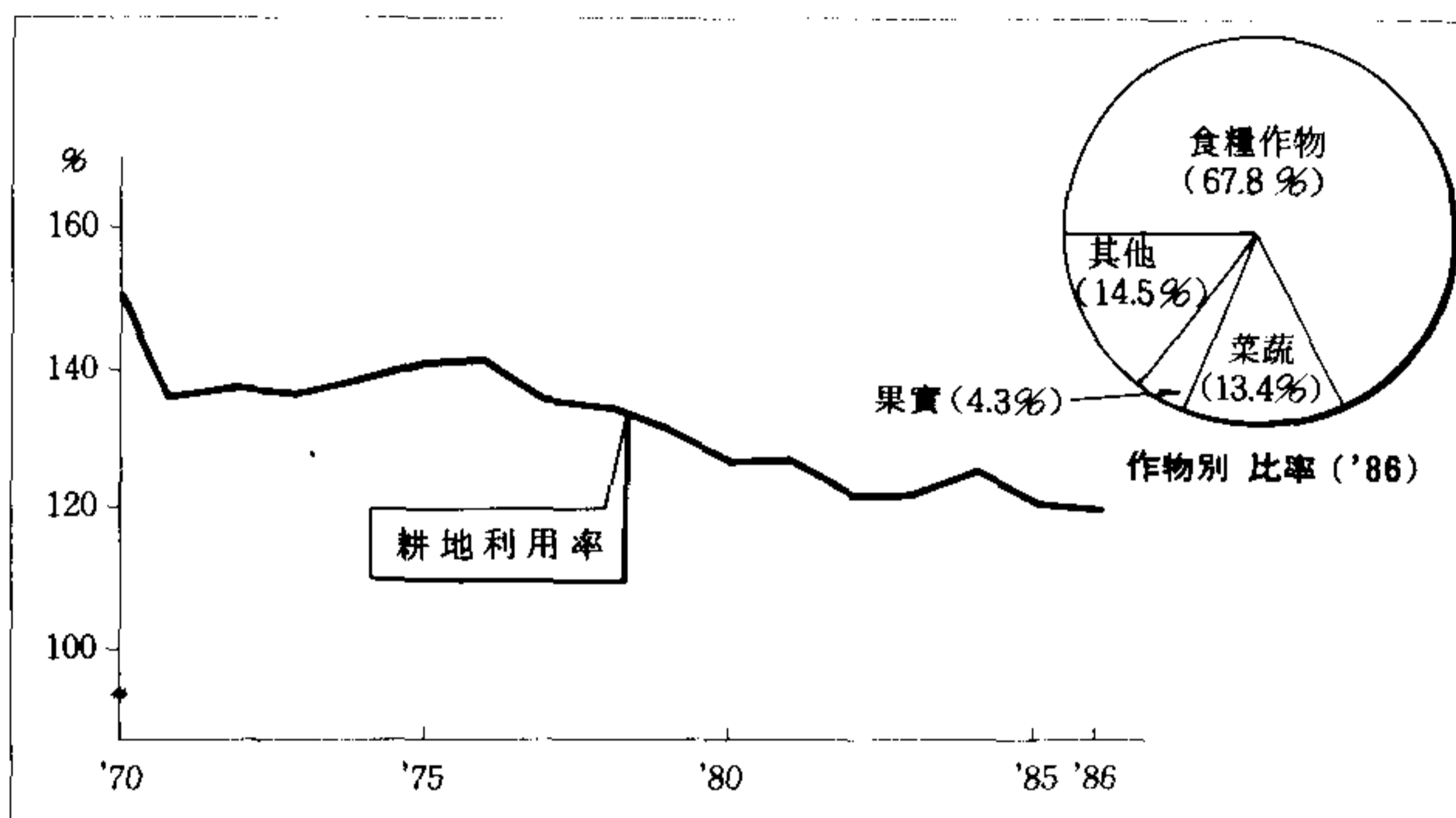
3. 總人口와 農家人口



(單位：千名)

	總人口		農家人口			漁家人口		
		增加率		構成比	增減率		構成比	增減率
70	32,241	1.77%	14,422	44.7	△7.5	1,165	3.6	△12.1
71	32,883	1.97	14,712	44.7	2.0
72	33,505	1.87	14,677	43.8	△0.2	1,062	3.2	△8.8
73	34,103	1.77	14,645	42.9	△0.2	979	2.9	△7.8
74	34,692	1.71	13,459	38.8	△8.1	914	2.6	△6.6
75	35,281	1.68	13,244	37.5	△1.6	894	2.6	△2.2
76	35,849	1.64	12,785	35.7	△3.5	880	2.5	△1.6
77	36,412	1.61	12,309	33.8	△3.7	871	2.4	△1.0
78	36,969	1.60	11,527	31.1	△6.3	827	2.2	△5.0
79	37,534	1.58	10,883	28.9	△5.6	791	2.1	△5.3
80	38,124	1.38	10,827	28.4	△0.5	843	2.2	6.6
81	38,723	1.57	9,999	25.8	△7.7	776	2.0	△7.9
82	39,326	1.56	9,688	24.6	△3.1	755	1.9	△2.7
83	39,929	1.53	9,475	23.7	△2.2	739	1.8	△2.1
84	40,513	1.46	9,015	22.3	△4.9	716	1.8	△3.2
85	41,055	1.34	8,521	20.8	△5.5	689	1.7	△3.8
86	41,569	1.25	8,180	19.7	△4.0	662	1.6	△3.9

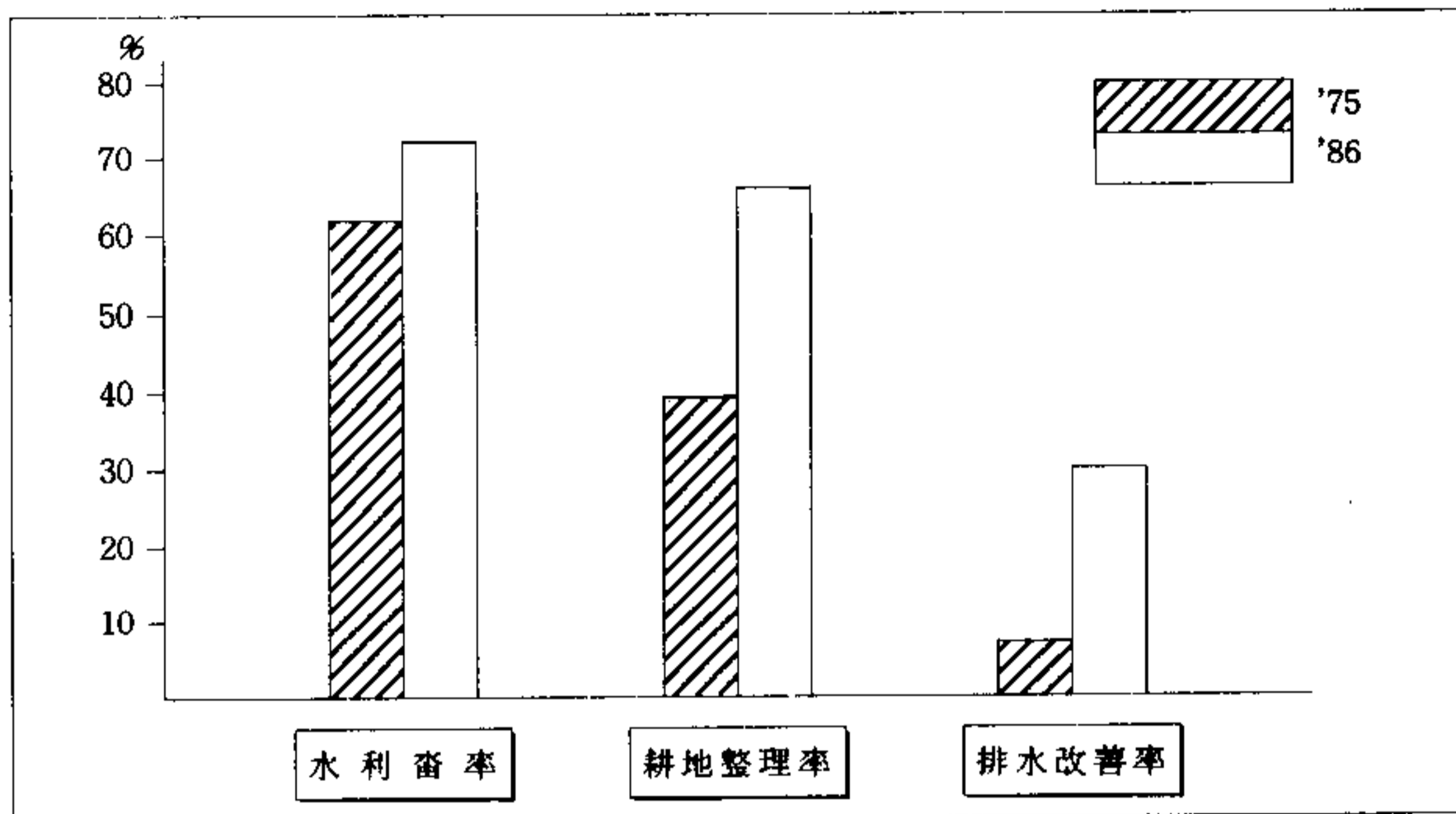
4. 耕 地 利 用



(單位：千ha)

	耕地 面積	耕 地 利 用 面 積											耕地 利用 率
		食 糧 作 物					特 作	菜 蔬	果 實	桑 田	其 他		
		米 穀	麥 類	豆 類	薯 類	雜 穀							
70	2,298	2,947	1,203	1,075	365	181	123	89	254	60	85	43	151.3
71	2,271	2,553	1,190	768	332	163	100	97	257	55	82	56	136.5
72	2,242	2,535	1,191	777	334	147	86	88	248	59	79	67	137.2
73	2,241	2,489	1,182	713	365	138	91	88	254	66	80	72	136.0
74	2,238	2,472	1,204	745	328	122	73	113	274	75	88	75	138.2
75	2,240	2,522	1,218	761	324	146	73	118	244	74	43	143	140.4
76	2,238	2,474	1,215	752	304	136	67	132	282	87	45	154	141.7
77	2,231	2,284	1,230	546	316	127	65	132	294	94	41	188	135.5
78	2,222	2,272	1,230	575	299	113	55	136	276	94	35	188	134.5
79	2,207	2,129	1,233	489	263	95	49	133	339	96	32	180	130.9
80	2,196	1,982	1,233	360	244	92	53	118	359	99	27	180	125.3
81	2,188	2,002	1,224	374	262	91	51	100	365	100	22	185	126.3
82	2,180	1,907	1,288	339	242	81	57	124	343	101	16	187	122.4
83	2,167	1,926	1,229	351	232	72	42	138	322	105	14	193	123.8
84	2,152	1,917	1,231	346	233	62	45	132	318	107	14	219	124.9
85	2,144	1,780	1,237	242	196	65	40	133	337	109	12	221	120.4
86	2,141	1,707	1,236	193	182	56	41	153	368	112	11	219	119.9

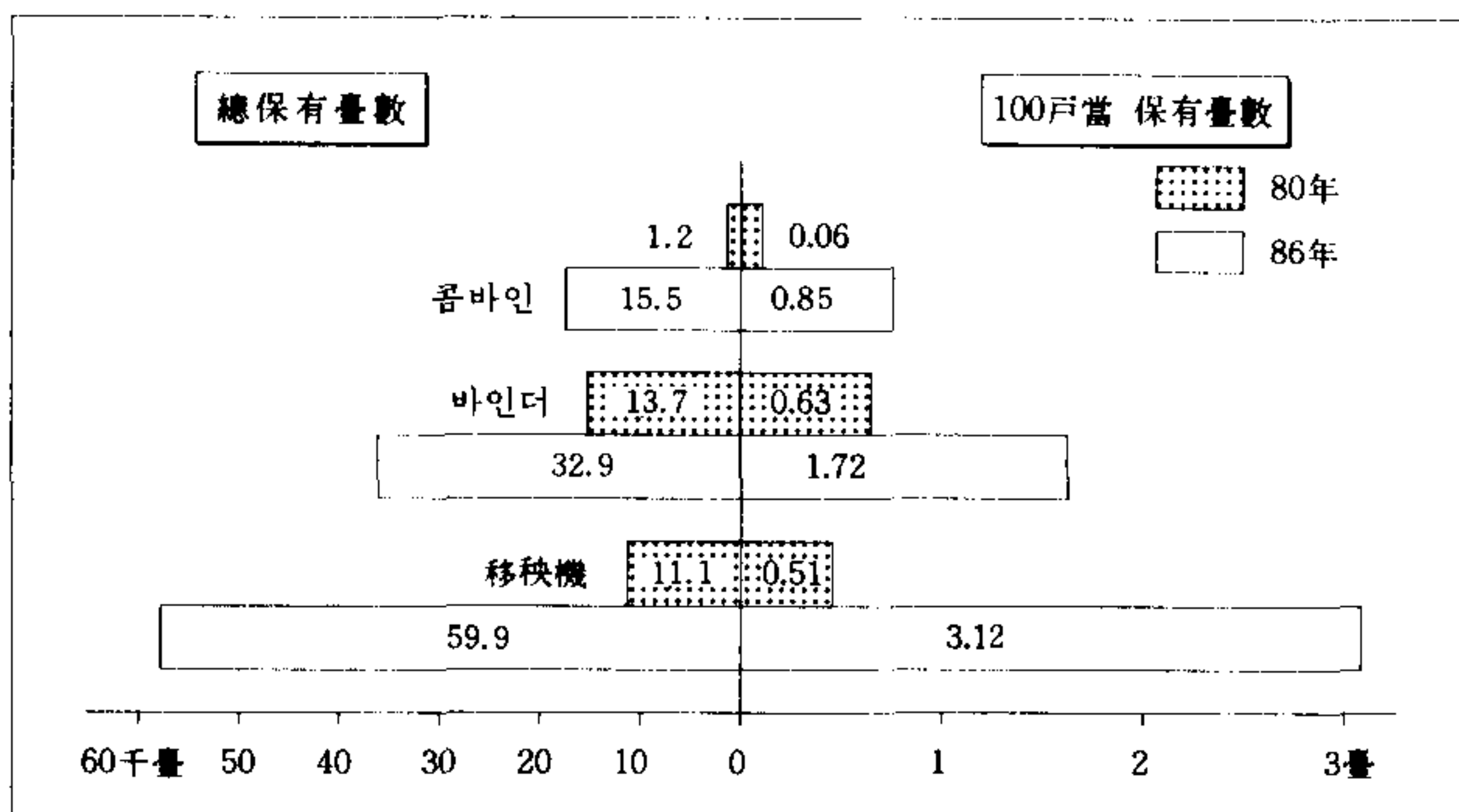
5. 農業生產基盤



(單位：千ha)

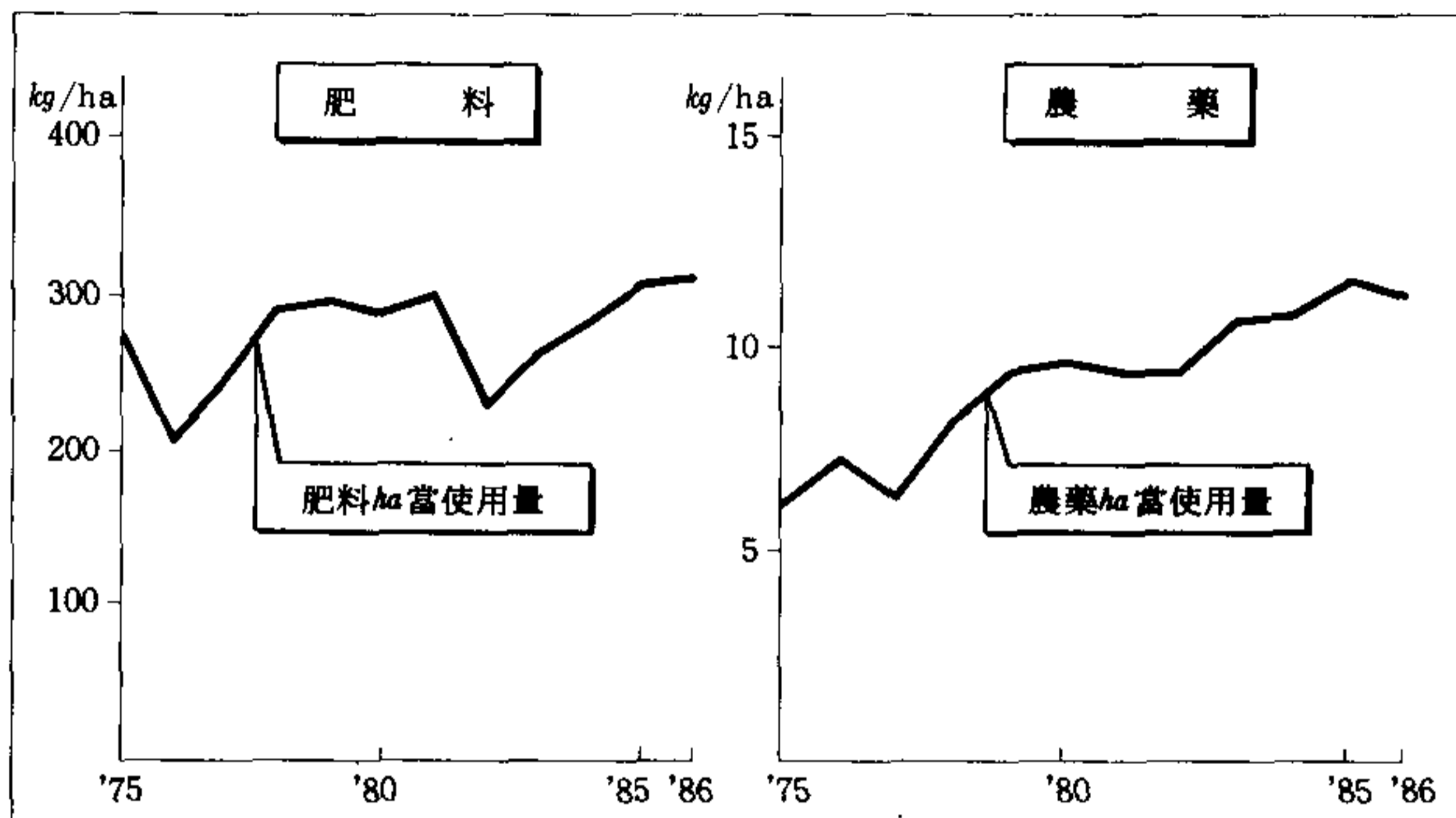
	畝面積	水利畝		耕地整理 (706千ha)		排水改善 (127千ha)	
		水利畝率	整理率	改善率			
70	1,284	745	58 %	144	20 %	—	— %
71	1,265	746	59	161	23	—	—
72	1,259	753	60	186	26	—	—
73	1,263	764	60	203	29	—	—
74	1,269	771	61	234	33	—	—
75	1,277	790	62	277	39	8	7
76	1,290	805	62	299	42	11	8
77	1,303	834	64	322	46	13	10
78	1,312	860	66	343	49	16	12
79	1,311	867	66	356	50	18	14
80	1,307	893	68	369	52	19	15
81	1,308	908	69	383	54	21	17
82	1,311	917	70	400	57	27	21
83	1,316	929	71	415	59	30	24
84	1,320	935	71	431	61	32	25
85	1,325	951	72	447	63	33	26
86	1,329	958	72	467	66	39	31

6. 農機械 普及 狀況



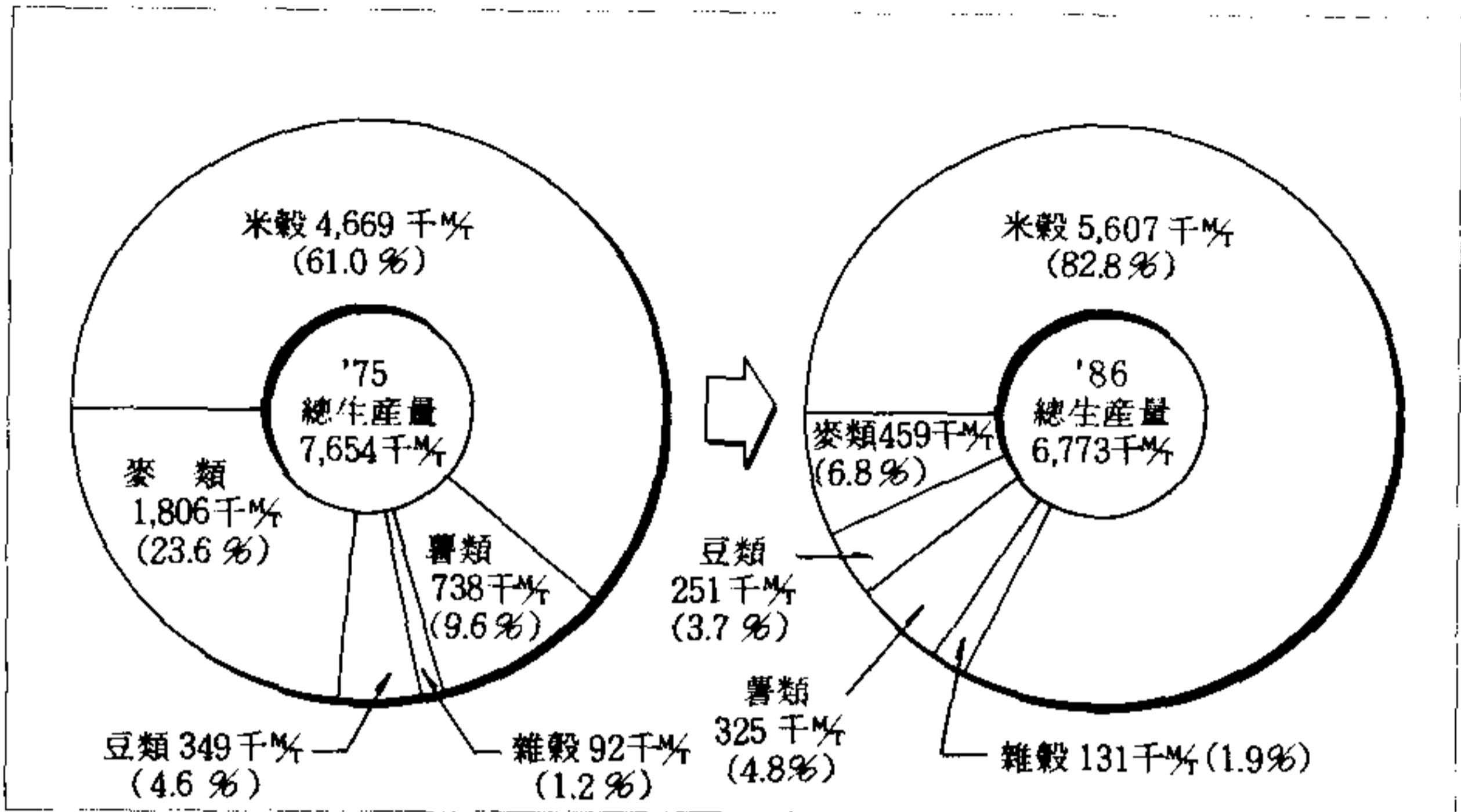
	總保有	耕耘機	트랙터	移秧機	바인더	콤바인	其他
70	153 ^{千臺}	12 ^{千臺}	61 ^臺	— ^臺	— ^臺	— ^臺	141 ^{千臺}
71	208	17	183	—	—	—	191
72	244	25	212	—	—	—	219
73	282	38	293	6	—	25	245
74	349	60	388	12	—	53	288
75	419	86	564	16	—	56	332
76	520	122	790	24	—	69	397
77	634	154	1,121	121	122	77	479
78	809	195	1,601	531	3,487	134	608
79	939	236	2,035	2,416	11,117	505	687
80	1,069	290	2,664	11,061	13,652	1,211	751
81	1,205	350	3,862	15,271	15,580	2,130	818
82	1,377	422	5,575	19,660	17,294	3,509	909
83	1,524	489	7,469	24,818	19,816	5,689	977
84	1,651	538	9,684	30,893	22,635	8,417	1,041
85	1,795	589	12,389	42,138	25,538	11,667	1,115
86	1,985	684	16,167	59,580	32,860	15,502	1,177

7. 肥料 及 農藥消費量



	肥 料				農 藥			
	生 產	消 費	ha 當	自 給 率	生 產	消 費	ha 當	自 給 率
	成分 千%		kg	%	基準量千%	千%	kg	%
75	860	886	282	97	22	21	6.15	106.2
76	833	643	203	129	26	24	7.27	110.2
77	1,089	736	243	148	31	24	6.18	130.5
78	1,330	866	289	154	30	26	8.22	116.5
79	1,438	863	297	167	37	31	9.56	121.3
80	1,345	828	285	162	42	33	9.88	126.5
81	1,208	832	300	145	46	35	9.52	121.9
82	1,201	617	230	195	44	34	9.57	132.1
83	1,197	809	263	169	47	40	10.88	117.5
84	1,394	762	281	183	48	38	10.95	127.4
85	1,398	807	311	173	51	42	11.79	120.1
86	1,374	825	317	167	68	52	11.21	132.0

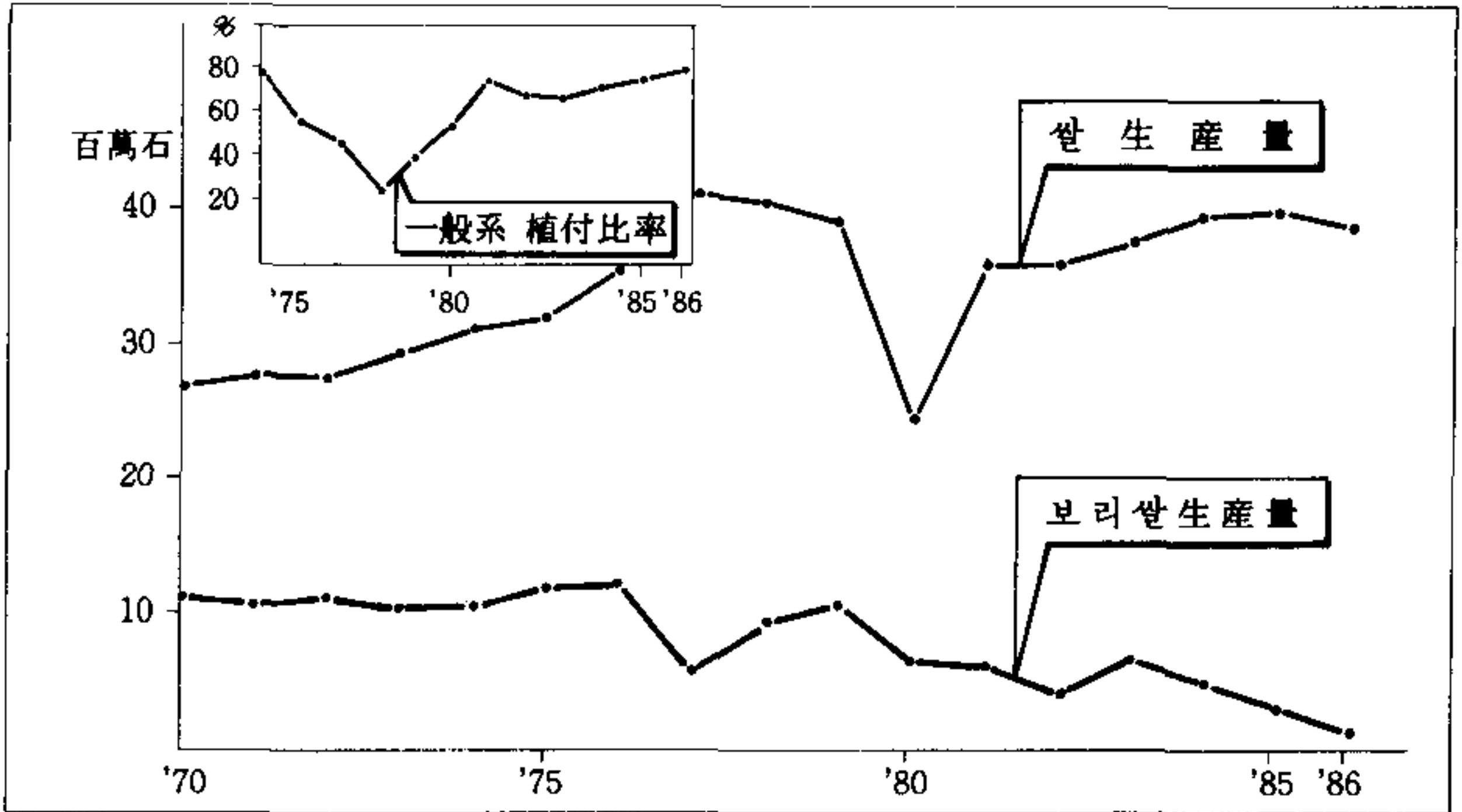
8. 食糧作物生產量



(單位：千ha, 千噸)

	計		米 穀		麥 類		豆 類		薯 類		雜 類	
	面積	生產量	面積	生產量	面積	生產量	面積	生產量	面積	生產量	面積	生產量
70	2,699	6,937	1,203	3,939	833	1,820	358	271	180	783	123	124
71	2,553	6,787	1,190	3,998	768	1,715	332	258	163	707	100	110
72	2,535	6,738	1,191	3,957	777	1,756	334	256	147	674	86	94
73	2,489	6,755	1,182	4,212	713	1,549	365	279	138	611	92	104
74	2,472	6,895	1,204	4,445	745	1,468	328	354	122	539	73	90
75	2,522	7,654	1,218	4,669	761	1,806	324	349	146	738	73	92
76	2,474	8,177	1,215	5,215	752	1,847	304	345	136	667	67	103
77	2,284	7,958	1,230	6,006	546	862	316	378	127	595	65	117
78	2,272	8,212	1,230	5,797	575	1,388	299	339	113	565	55	123
79	2,129	8,096	1,233	5,565	489	556	262	310	95	501	49	165
80	1,982	5,324	1,233	3,550	360	906	244	266	92	431	53	170
81	2,002	6,915	1,224	5,063	374	919	262	315	91	454	51	163
82	1,908	6,804	1,188	5,175	339	820	242	295	81	369	57	146
83	1,926	7,133	1,228	5,404	351	930	232	277	72	407	42	115
84	1,917	7,315	1,231	5,682	346	824	233	296	63	365	45	148
85	1,780	6,990	1,237	5,626	242	584	196	275	65	359	40	147
86	1,707	6,773	1,236	5,607	193	459	182	251	56	325	41	131

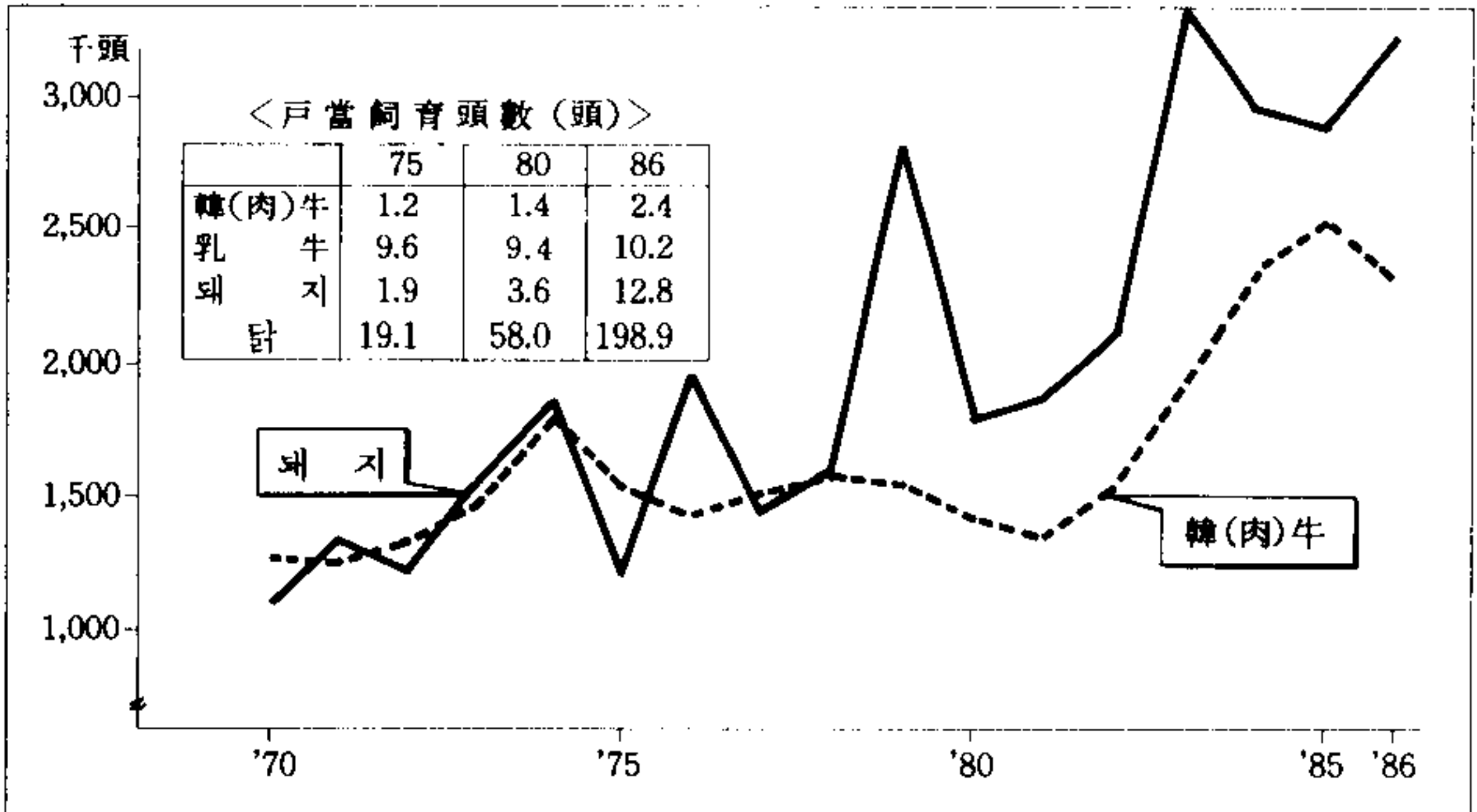
9. 쌀 및 보리쌀 生産量



(單位：千ha, 千石)

	쌀						보리쌀					
	計		一般系		多收系		計		大麥		裸麥	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
70	1,184	27,356	1,184	27,130	—	—	730	11,528	342	4,837	388	6,691
71	1,178	27,761	1,178	27,606	—	—	675	10,919	310	4,408	365	6,511
72	1,178	27,481	1,178	27,316	—	—	709	11,580	296	4,469	413	7,111
73	1,170	29,248	1,170	29,096	—	—	664	10,424	280	3,899	384	6,525
74	1,189	30,867	1,008	24,726	181	6,141	701	10,023	327	4,201	374	5,822
75	1,198	32,134	924	22,553	274	9,581	708	12,272	322	5,062	386	7,210
76	1,196	36,215	663	18,237	533	17,732	701	12,577	303	4,975	398	7,602
77	1,208	41,706	548	16,091	660	25,334	503	5,748	197	2,071	306	3,677
78	1,219	40,258	290	8,770	929	31,363	537	9,436	246	3,691	291	5,745
79	1,224	38,645	480	14,564	744	23,948	450	10,408	173	3,713	277	6,695
80	1,220	24,655	616	12,477	604	12,034	297	5,244	111	1,933	186	3,311
81	1,212	35,160	891	25,251	321	9,746	320	5,585	123	1,750	197	3,835
82	1,176	35,938	790	22,636	386	13,134	287	4,851	100	1,435	187	3,416
83	1,220	37,529	801	23,365	419	14,049	290	5,334	95	1,845	195	3,489
84	1,225	39,457	858	26,590	367	12,794	287	4,870	104	1,603	183	3,267
85	1,233	39,071	890	27,012	343	12,007	165	2,802	64	1,174	101	1,628
86	1,233	38,936	961	29,968	272	8,929	140	2,288	52	815	88	1,473

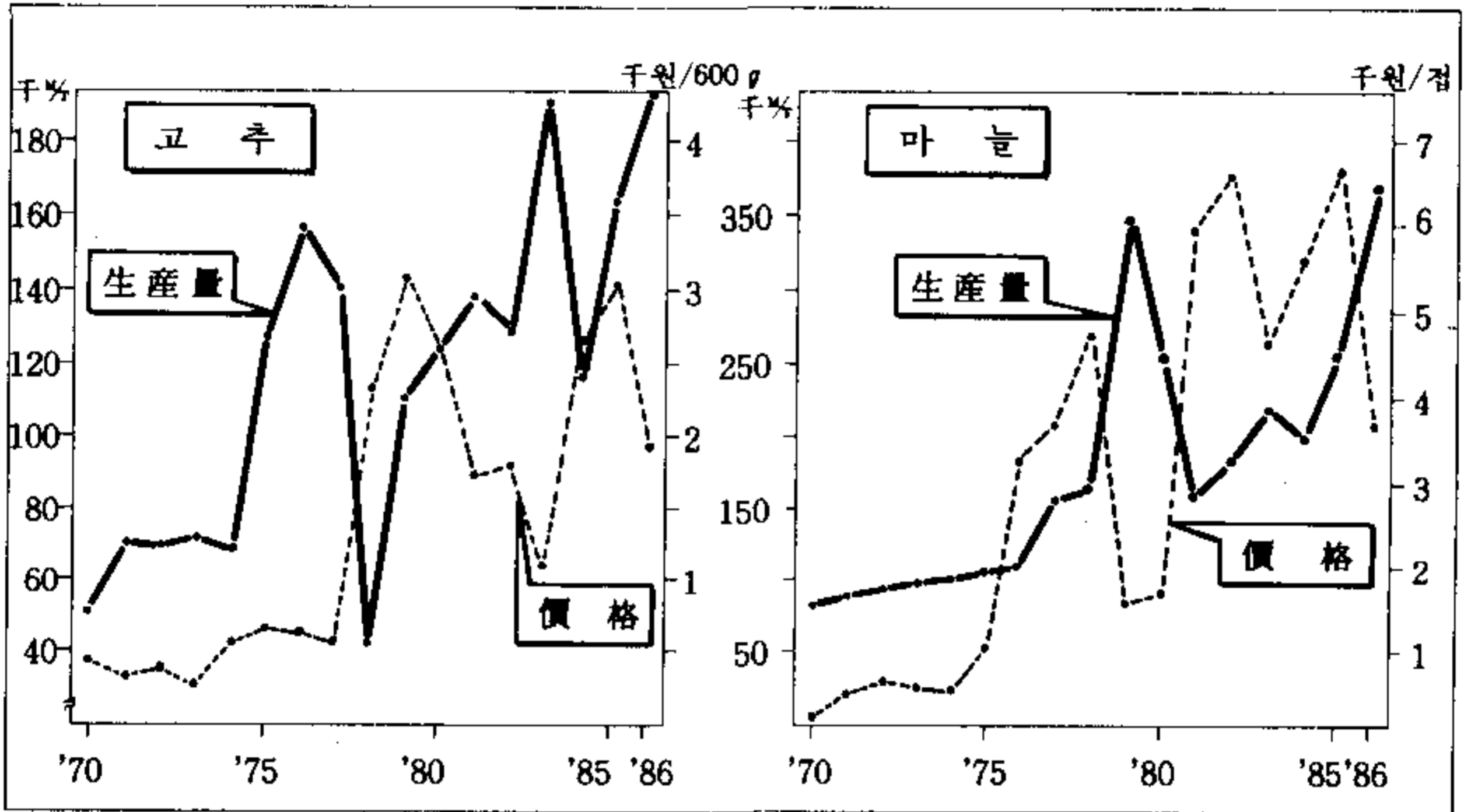
10. 家畜飼育動向



(單位：千頭, 千首, 千戶)

	韓(肉)牛		乳牛		돼지		닭	
	頭數	戶數	頭數	戶數	頭數	戶數	首數	戶數
70	1,286	1,102	24	3	1,121	884	23,633	1,338
71	1,250	1,049	30	3	1,333	925	25,903	1,110
72	1,338	1,107	36	4	1,248	861	24,537	1,045
73	1,493	1,191	52	5	1,595	817	23,701	1,004
74	1,785	1,359	73	7	1,818	890	18,814	1,002
75	1,556	1,277	86	9	1,247	654	20,939	1,094
76	1,463	1,196	90	10	1,953	910	26,325	1,237
77	1,508	1,173	109	14	1,482	689	30,224	1,179
78	1,651	1,176	136	16	1,719	658	40,753	1,172
79	1,599	1,092	163	17	2,843	758	41,120	923
80	1,427	997	207	22	1,784	503	40,130	692
81	1,312	858	194	18	1,832	425	42,999	628
82	1,526	896	228	23	2,183	444	46,592	618
83	1,940	971	275	30	3,649	539	49,239	538
84	2,318	1,037	334	38	2,958	362	46,483	367
85	2,553	1,048	390	44	2,853	251	51,081	303
86	2,370	991	437	43	3,347	262	56,095	282

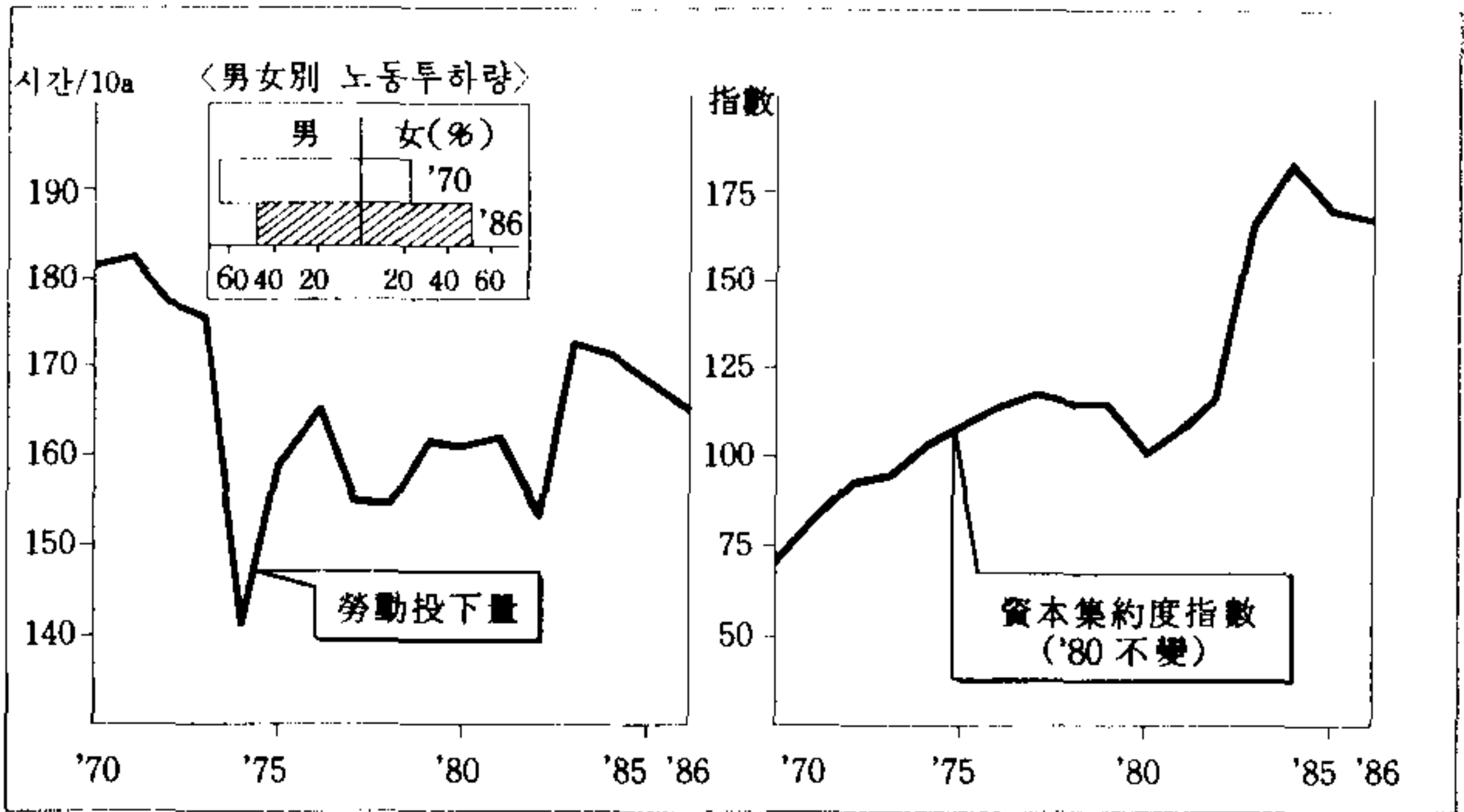
11. 양념類 生産 및 價格推移



	고 추			마 늘			양 파 ¹⁾		
	面 積	生産量	價 格	面 積	生産量	價 格	面 積	生産量	價 格
	千ha	千%	원/600g	千ha	千%	원/1점	千ha	千%	원/20kg
70	37	53	472	15	78	364	4.0	83	134
71	41	74	388	15	82	545	3.6	90	126
72	44	73	401	16	88	748	5.1	120	77
73	45	77	355	17	91	608	4.3	91	131
74	48	71	563	18	97	504	5.8	128	163
75	99	128	732	14	103	1,027	4.2	95	246
76	108	157	670	14	106	3,350	5.1	124	372
77	99	141	589	20	156	3,700	12.1	258	277
78	69	42	2,439	25	166	4,882	7.1	165	994
79	109	112	3,108	41	350	1,569	9.9	393	352
80	133	125	2,662	37	253	1,720	7.7	275	590
81	151	138	1,764	26	154	5,994	9.8	281	959
82	113	130	1,888	28	186	6,556	14.3	439	530
83	122	194	1,166	33	220	4,617	14.5	542	277
84	100	117	2,665	40	200	5,611	5.3	171	6,574
85	118	165	3,094	39	256	6,619	10.7	440	3,518
86	129	198	1,952	48	370	3,674	9.7	379	4,022

註：1)'83년까지는 3.75kg當 價格임.

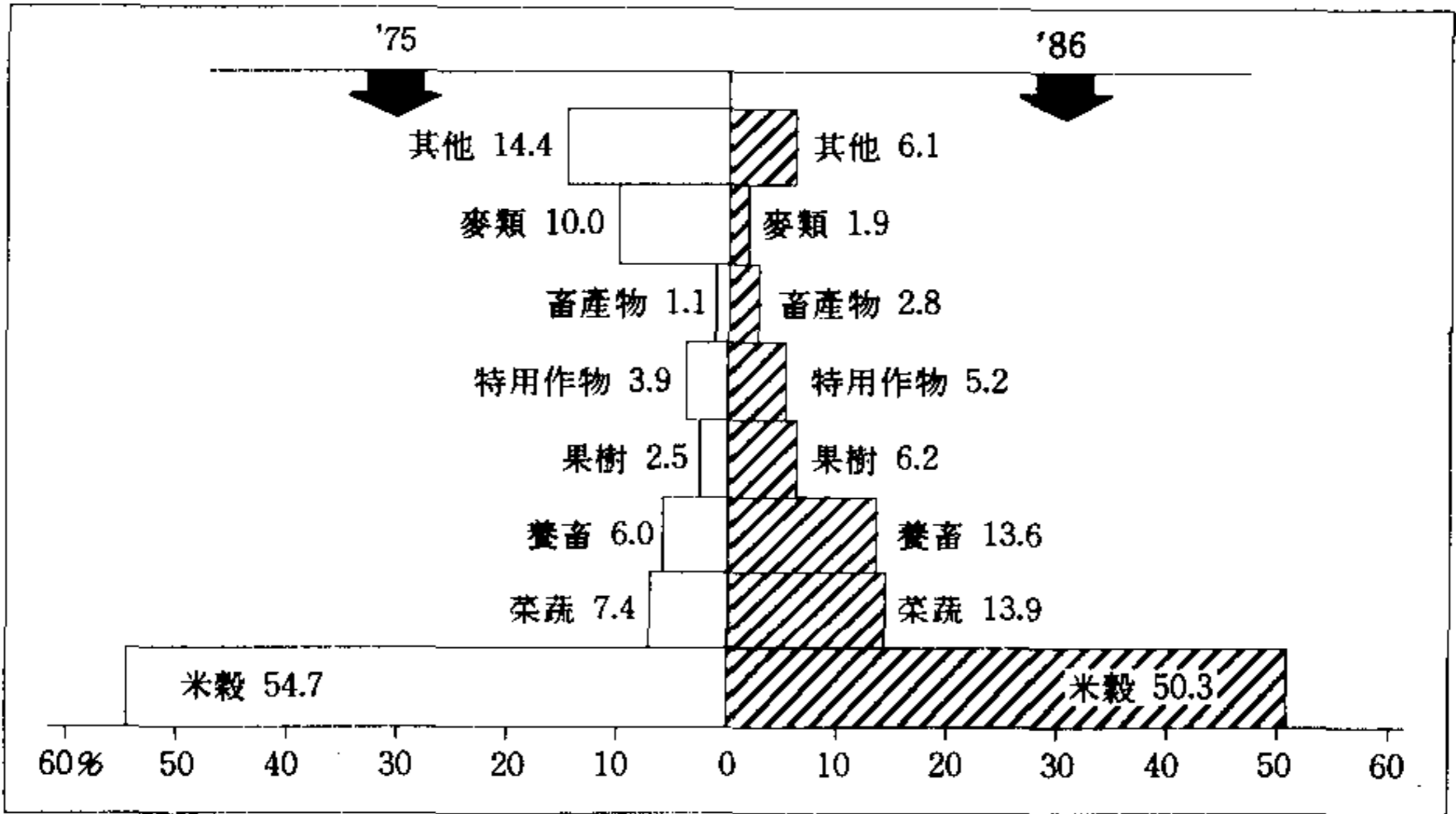
12. 農業生產性



	노동生産性	노동集約度	土地生産性	資本生産性	資本集約度	
					經常	'80不變
	원/時間	時間/10a	원/10a		원/10a	원/10a
70	107	183.23	19,639	0.74	26,394	167,051
71	159	184.25	29,338	0.81	36,194	201,078
72	200	177.79	35,551	0.77	46,459	222,292
73	223	175.33	39,071	0.71	54,757	231,042
74	378	148.23	56,040	0.72	77,642	252,906
77	467	159.04	74,307	0.74	100,904	261,409
76	575	165.38	95,066	0.74	128,796	276,386
77	660	156.94	103,614	0.67	154,915	287,412
78	855	155.98	133,432	0.72	185,195	281,880
79	926	162.97	150,865	0.67	224,385	281,891
80	1,061	161.03	170,868	0.70	243,143	243,143
81	1,454	162.85	236,756	0.77	306,229	264,218
82	1,860	154.07	286,518	0.80	358,578	288,943
83	1,750	172.90	302,540	0.58	517,847	405,201
84	1,949	171.02	333,272	0.57	589,289	443,742
85	1,925	168.84	325,038	0.57	570,159	414,360
86	1,936	165.19	319,763	0.56	570,008	403,224

註：不變價格은 GNP deflator로 換算한 것임.

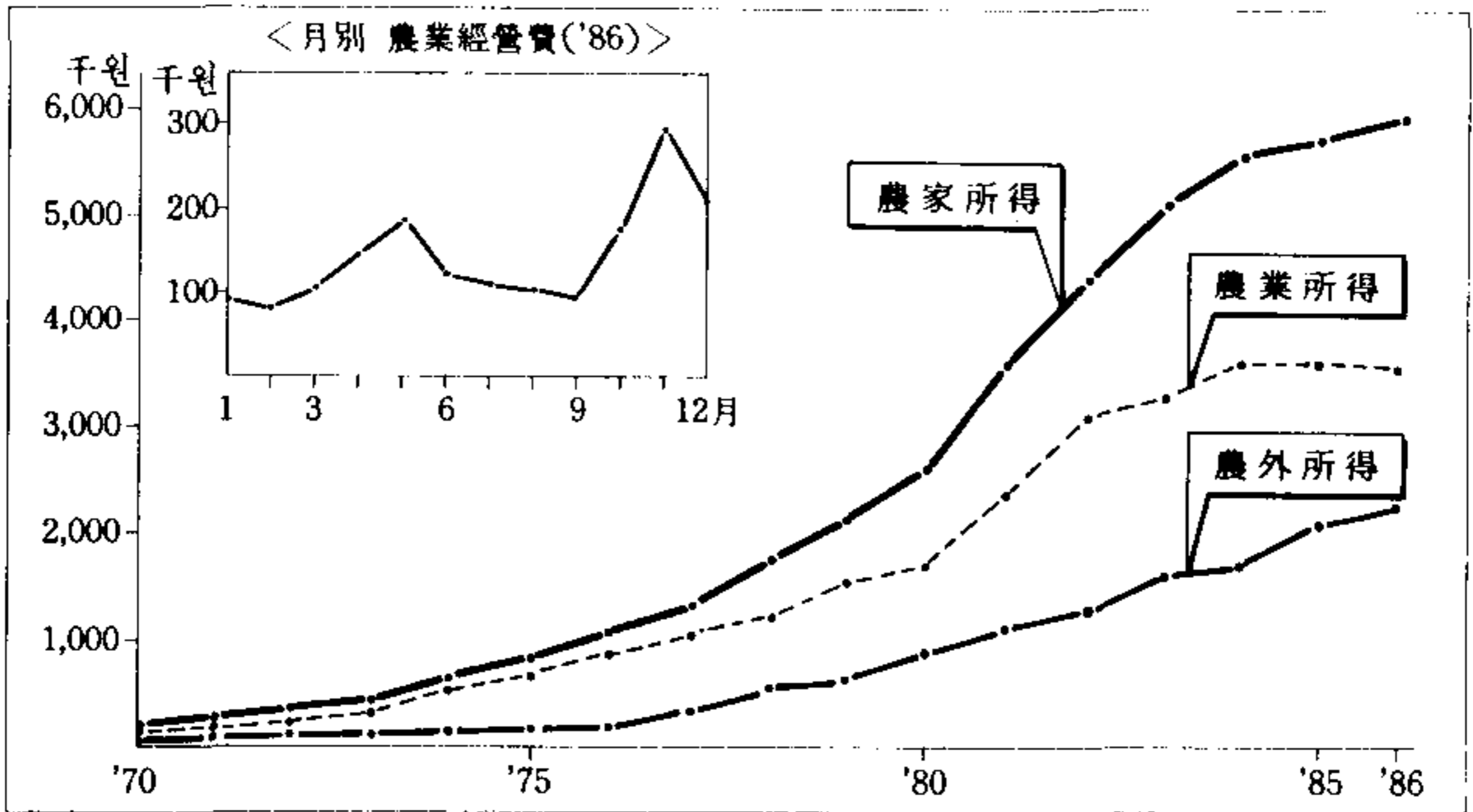
13. 農 業 粗 收 入



(單位：千圓)

	計	農 作 物 收 入					農 作 物 以 外 收 入				
		米 穀	麥 類	菜 蔬	特 用 作 物	其 他	畜 產 物	養 畜	養 蠶 · 其 他		
70	248	220	138	26	21	7	20	28	4	9	15
71	357	318	210	35	22	15	36	39	5	13	21
72	428	378	248	42	24	18	46	50	8	19	23
73	480	421	271	42	18	23	57	60	10	21	29
74	664	585	395	51	43	26	70	80	11	28	41
75	891	784	488	89	66	35	106	107	10	54	43
76	1,166	1,012	655	99	99	40	119	153	15	96	42
77	1,334	1,126	775	38	124	61	128	207	29	141	37
78	1,769	1,484	911	111	198	85	179	285	48	191	46
79	2,027	1,838	1,155	145	239	91	208	180	43	91	55
80	2,342	2,019	1,140	120	379	102	278	323	41	226	56
81	3,269	2,708	1,697	137	418	132	324	526	97	421	44
82	3,998	3,103	1,960	160	476	163	344	895	162	686	47
83	4,702	3,485	2,080	169	552	194	490	1,217	79	1,087	51
84	5,277	4,233	2,477	156	775	241	584	1,044	95	898	51
85	5,477	4,524	2,628	125	950	225	596	953	130	751	72
86	5,619	4,608	2,827	108	781	290	602	1,011	160	762	89

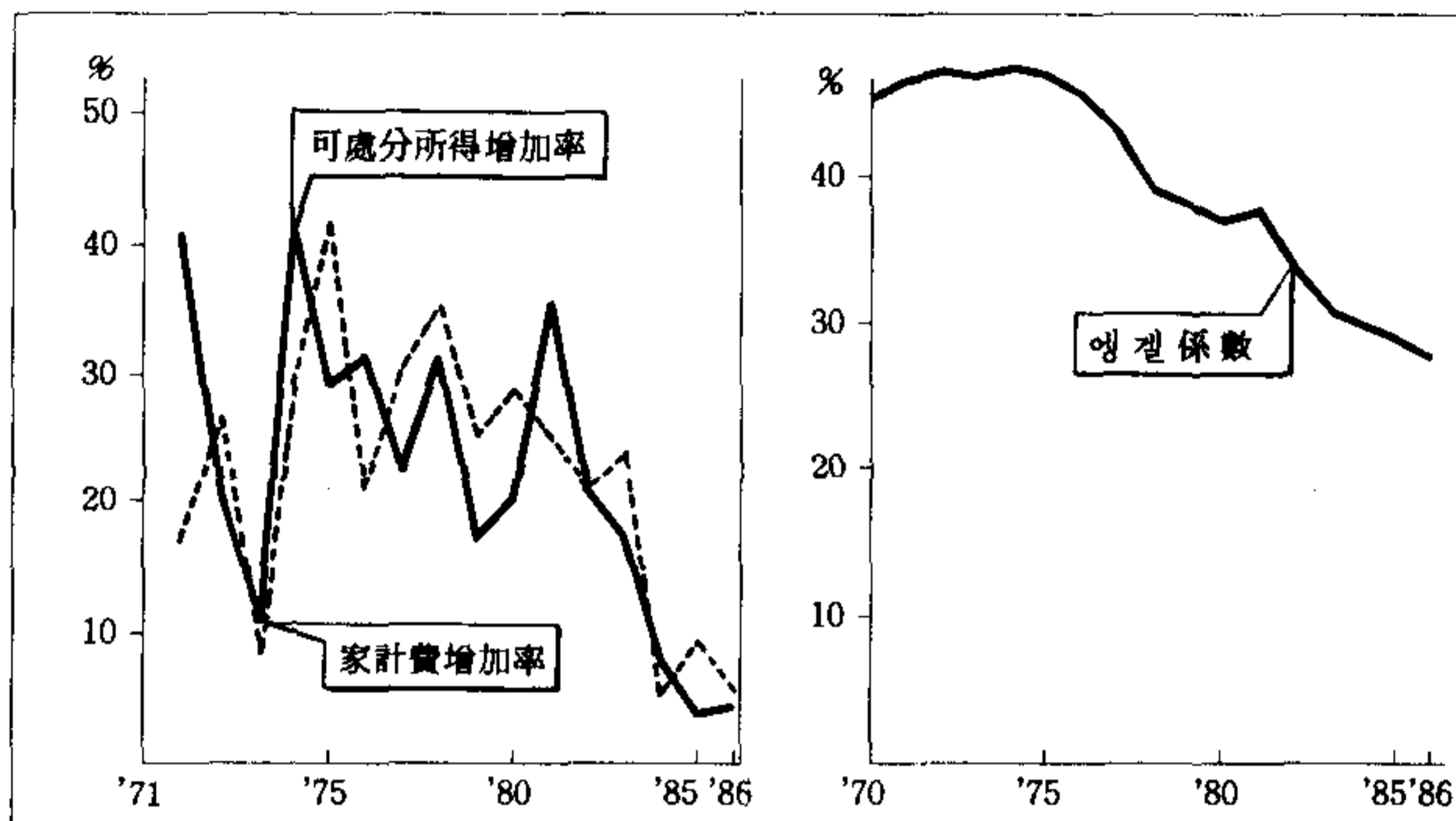
14. 農 家 所 得



(單位：千圓)

	農家所得	農 業 所 得			農 業 外 所 得			農外所得 構 成 比
		農 業 粗 收 入	農 業 經 營 費	兼 業 所 得	事 業 收 入	業 外 入 入		
70	256	194	248	54	62	10	52	24.2%
71	356	292	357	65	64	11	53	18.1
72	420	353	428	75	76	14	62	17.7
73	481	390	480	90	91	16	75	18.8
74	674	542	664	122	132	22	110	19.6
75	873	715	891	176	158	22	136	18.1
76	1,156	921	1,166	245	236	28	207	20.3
77	1,433	1,036	1,334	298	397	40	357	27.7
78	1,884	1,356	1,769	413	529	45	484	28.0
79	2,227	1,531	2,027	496	696	44	652	31.2
80	2,693	1,755	2,342	587	938	66	872	34.8
81	3,688	2,476	3,269	793	1,211	106	1,105	32.8
82	4,465	3,031	3,998	967	1,434	71	1,363	32.1
83	5,128	3,331	4,702	1,371	1,797	183	1,614	35.0
84	5,549	3,699	5,276	1,577	1,850	192	1,658	33.3
85	5,736	3,699	5,477	1,778	2,037	214	1,823	35.5
86	5,995	3,677	5,619	1,942	2,318	274	2,044	38.7

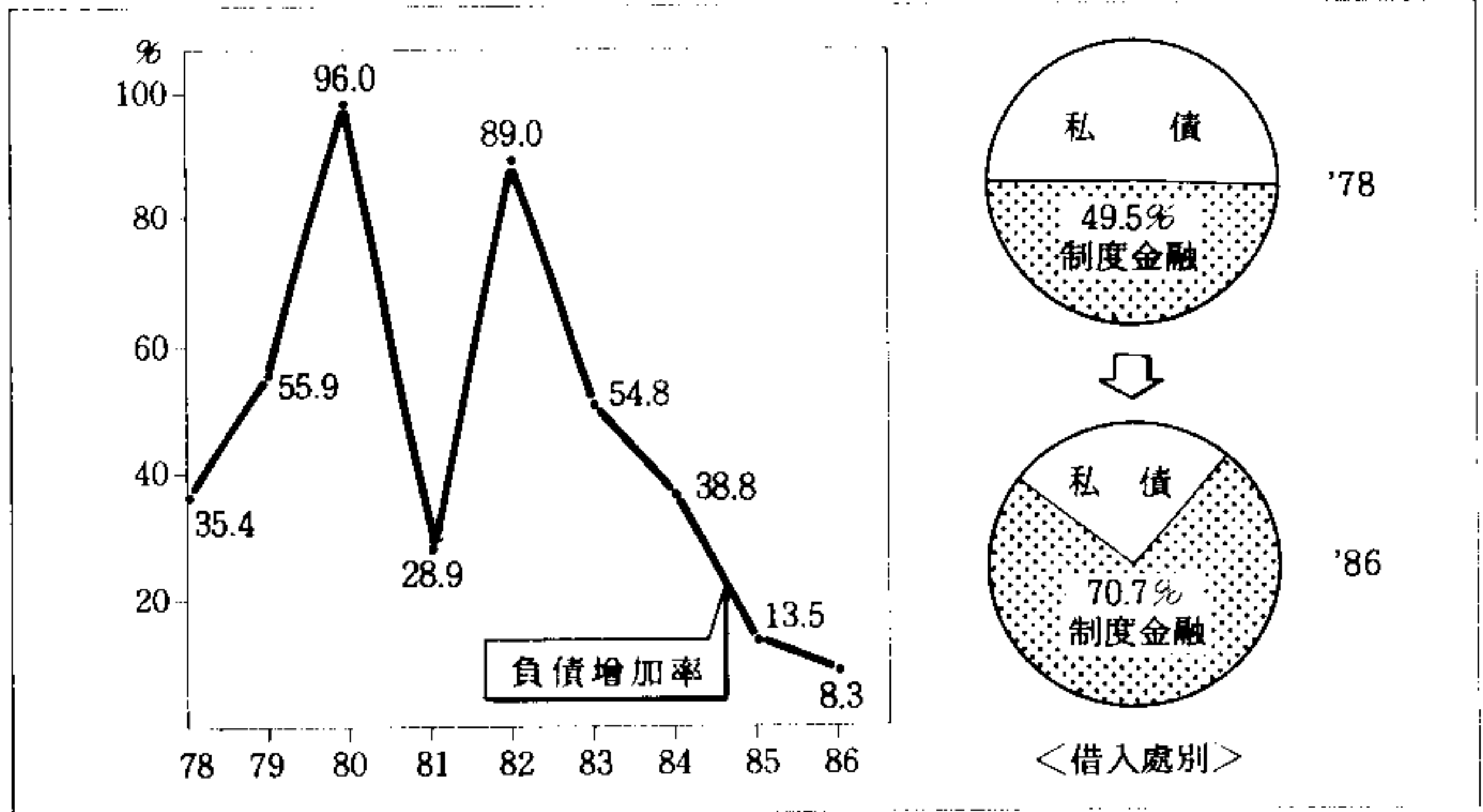
15. 可處分所得 및 家計費



(單位：千圓)

	農家所得	可處分所得	家計費						엔겔係數	
			飲食物費	住居費	光熱費	被服費	教育費	家計雜費		
70	256	249	208	95	9	16	18	14	56	45.9
71	356	349	244	116	10	20	19	18	61	47.4
72	429	422	310	149	18	21	23	20	79	48.2
73	481	470	337	160	22	22	25	24	84	47.3
74	675	660	436	211	33	31	31	28	102	48.4
75	873	853	616	292	43	39	42	38	162	47.3
76	1,156	1,127	749	343	57	46	54	58	191	45.7
77	1,433	1,387	976	418	77	56	66	79	280	42.8
78	1,884	1,826	1,321	505	114	61	93	105	443	38.3
79	2,228	2,148	1,662	629	136	74	112	147	564	37.8
80	2,693	2,579	2,138	788	144	101	131	200	774	36.8
81	3,688	3,542	2,676	1,008	167	126	145	253	977	37.7
82	4,465	4,294	3,258	1,086	208	140	168	345	1,311	33.3
83	5,128	5,050	4,054	1,233	307	170	183	500	1,661	30.4
84	5,549	5,467	4,272	1,258	315	179	179	547	1,794	29.4
85	5,736	5,690	4,691	1,333	359	192	190	609	2,008	28.4
86	5,995	5,950	4,995	1,371	387	199	189	643	2,206	27.4

16. 農 家 負 債



○用途別

(単位：千円)

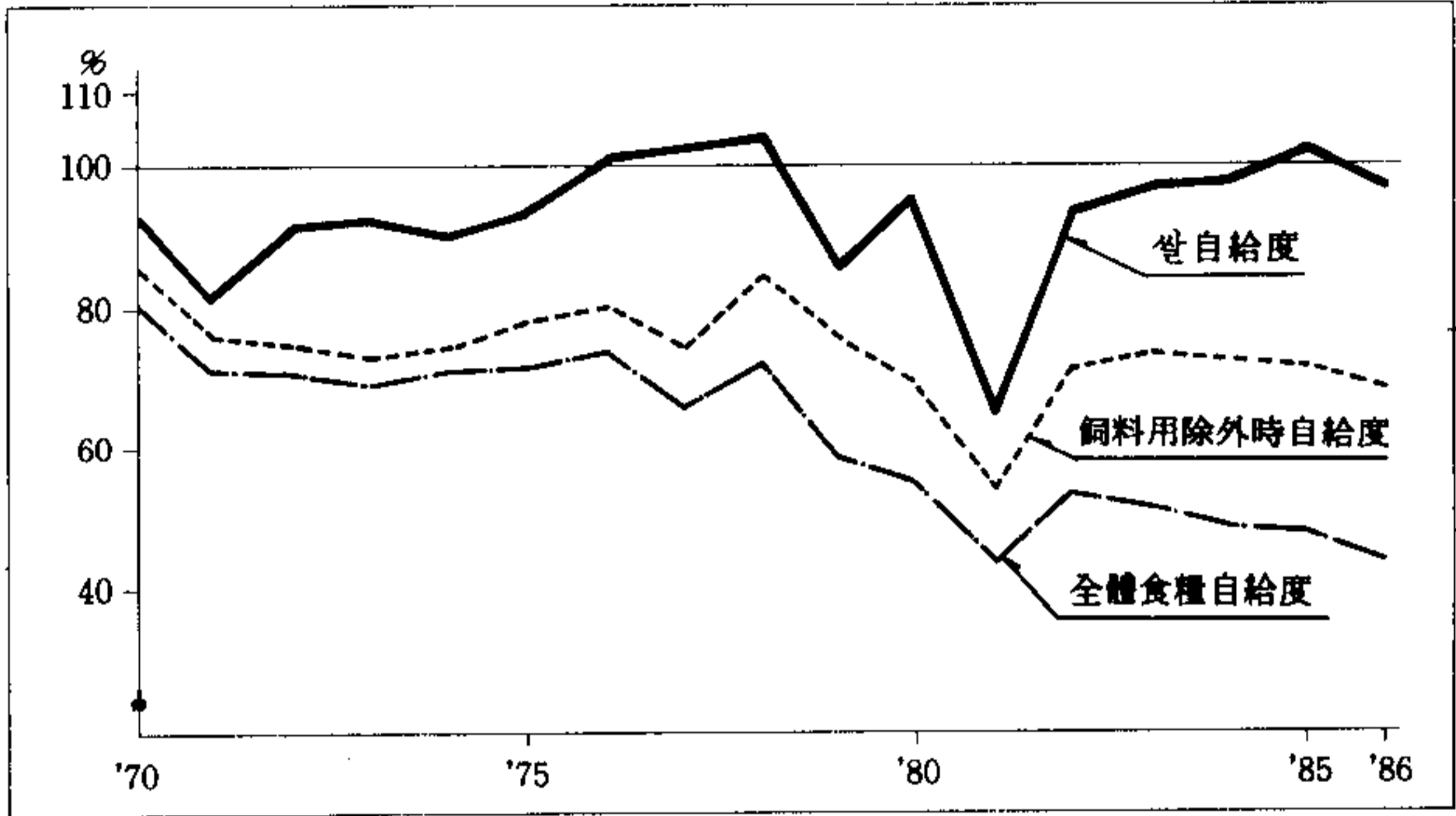
年次	計	生産性負債					消費性負債				負債償還用
		小計	管農施設	管農資材	動物飼料	兼業資金其他	小計	生計費	教育費	冠婚喪祭其他	
78	111	79	30	13	20	16	27	8	4	15	5
79	173	115	57	20	19	19	47	13	6	28	11
80	339	206	79	47	36	44	112	40	19	53	21
81	437	260	88	60	52	60	145	44	28	73	32
82	830	509	143	135	130	101	263	64	48	151	58
83	1,285	801	238	243	232	88	361	159	70	132	123
84	1,784	1,140	369	294	336	141	455	195	78	182	189
85	2,024	1,306	419	308	320	259	476	290	97	89	242
86	2,192	1,357	471	314	289	283	537	335	103	99	298

○借入處別

(単位：千円)

年次	計	制度金融			個人
		小計	農協	市中銀行, 其他	
78	111	55	53	2	56
79	173	145	86	59	28
80	339	173	165	8	166
81	437	227	216	11	210
82	830	554	524	30	276
83	1,285	864	823	41	421
84	1,784	1,226	1,148	78	558
85	2,024	1,441	1,337	104	583
86	2,192	1,550	1,436	114	642

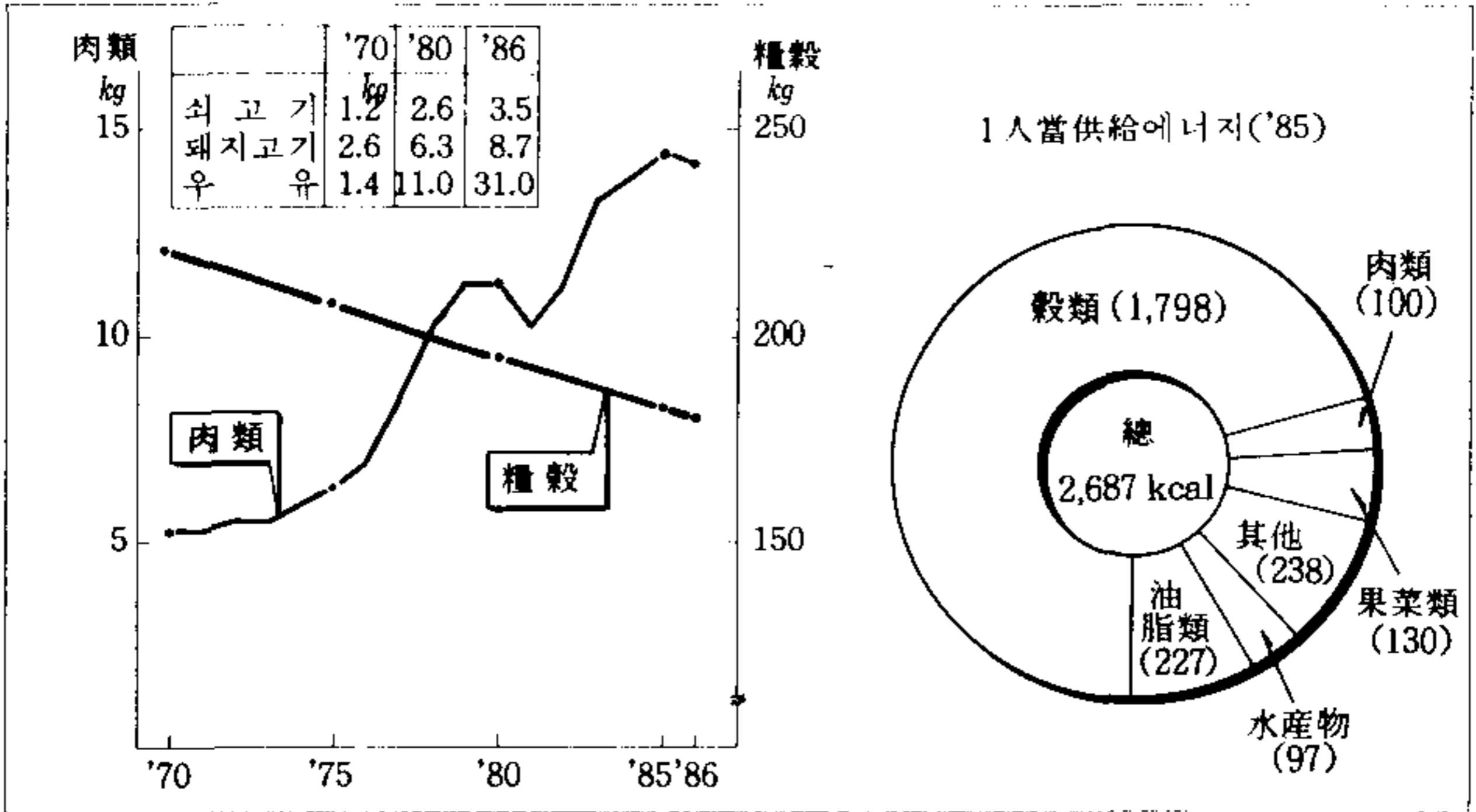
17. 食 糧 自 給 度



(單位：%)

	全 體	쌀	보리쌀	밀	옥수수	豆 類	薯 類	飼料用 除外時
70	80.5	93.1	106.3	15.4	18.9	86.1	100.0	86.2
71	71.2	82.5	91.8	11.8	18.6	82.6	100.0	76.0
72	70.8	91.6	93.2	7.3	13.8	85.1	100.0	75.8
73	69.4	92.1	82.9	5.3	12.4	75.2	100.0	74.0
74	70.3	90.8	78.4	4.9	10.3	84.5	100.0	75.9
75	73.0	94.6	92.0	5.7	8.3	85.8	100.0	79.1
76	74.1	100.5	97.9	4.5	6.7	74.4	100.0	81.7
77	65.1	103.4	53.4	2.3	6.2	67.5	100.0	74.2
78	72.6	103.9	119.9	2.1	6.0	59.3	100.0	85.8
79	59.8	85.7	117.3	2.4	3.4	43.4	99.8	75.5
80	56.0	95.1	57.6	4.8	5.9	35.1	100.0	69.6
81	43.2	66.2	72.7	2.7	6.1	29.7	100.0	53.9
82	53.0	93.7	85.9	3.4	4.9	32.4	100.0	70.7
83	50.2	97.6	129.0	6.0	2.8	25.7	100.0	73.7
84	48.7	97.5	103.9	0.6	3.1	23.5	100.0	72.3
85	48.4	103.3	82.6	0.4	4.1	22.5	100.0	71.6
86(P)	44.5	97.0	84.3	0.1	3.5	18.8	100.0	67.8

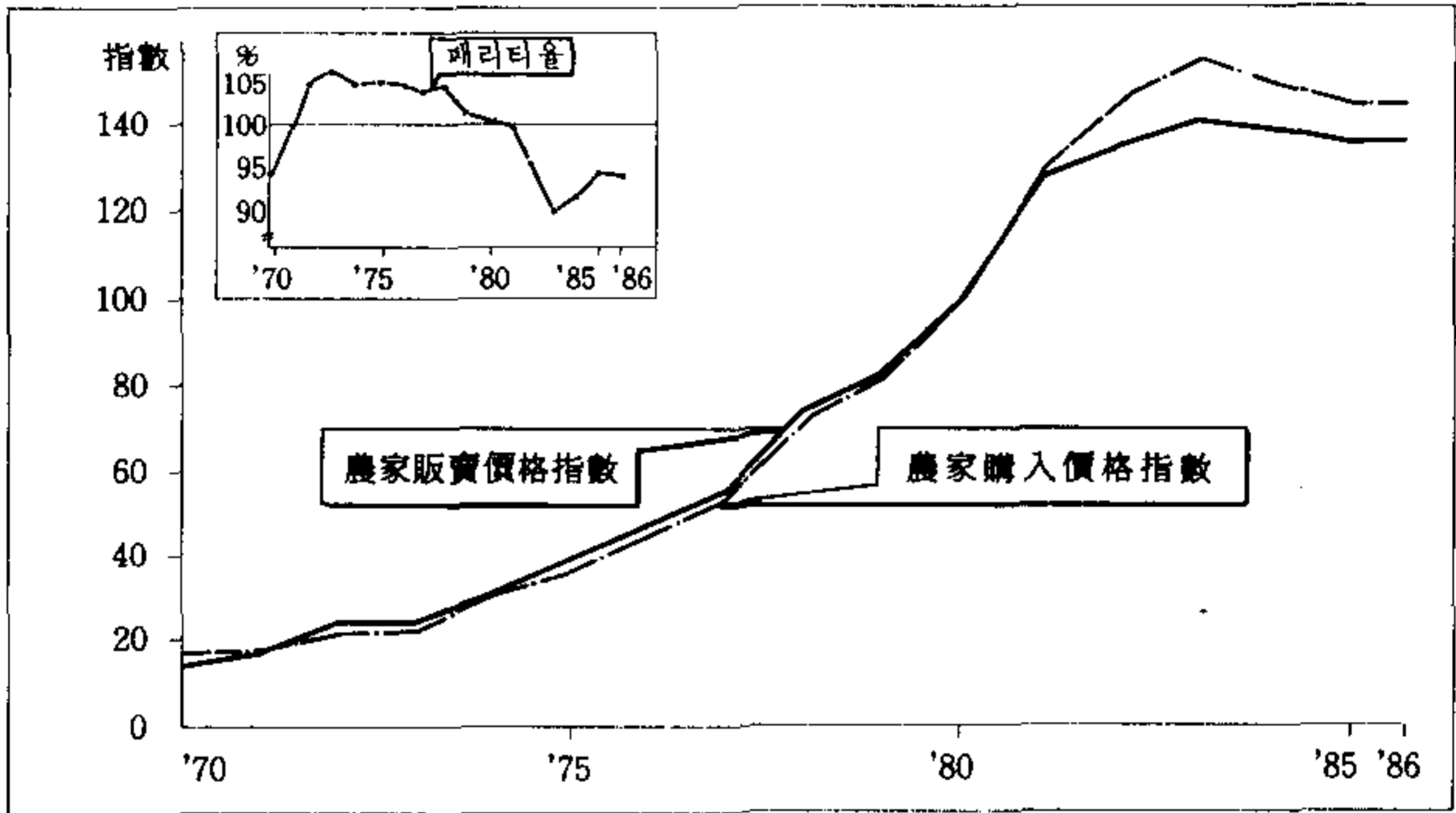
18. 1人當 食品消費量



(單位 : kg)

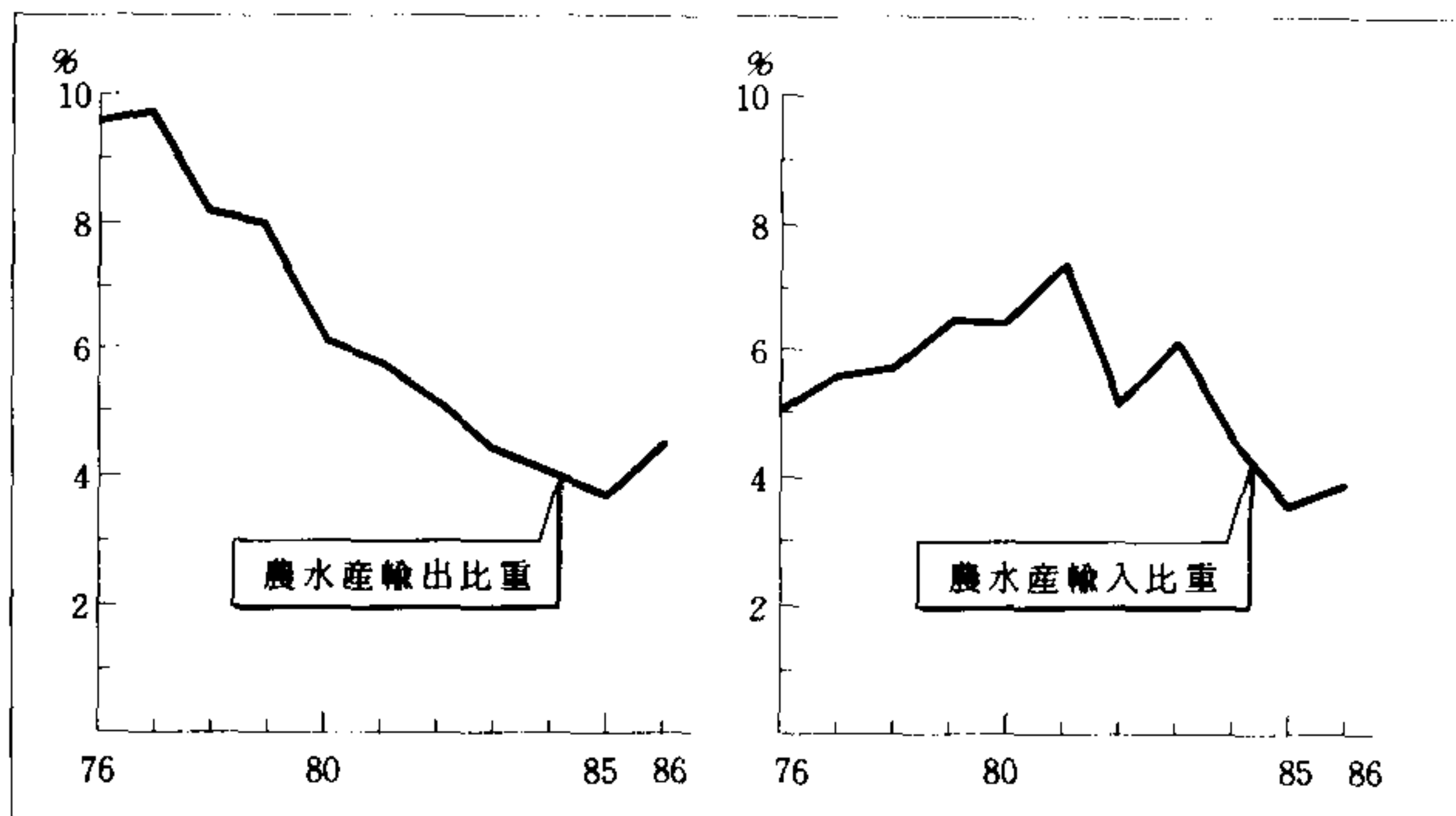
	糧 穀		菜 蔬 類	果 實 類	肉 類	쇠 고 기	牛 乳
	總	쌀					
70	219.4	136.4	59.9	13.1	5.2	1.2	1.4
71	224.3	134.8	67.5	12.3	5.2	1.2	1.9
72	225.9	134.5	62.3	14.6	5.5	1.2	2.5
73	222.1	129.4	58.8	16.1	5.5	1.3	3.2
74	208.8	127.8	65.2	16.8	5.8	1.5	3.6
75	207.3	123.6	62.5	15.0	6.4	2.0	4.6
76	203.5	120.1	68.2	16.7	6.8	2.1	5.5
77	203.9	126.4	62.5	21.1	8.1	2.2	7.0
78	201.5	134.7	104.0	21.6	10.1	3.1	8.8
79	198.8	135.6	122.5	22.8	11.3	3.0	10.0
80	195.1	132.7	120.6	21.8	11.3	2.6	11.0
81	196.0	131.4	124.0	26.4	10.2	2.4	14.4
82	192.2	130.2	130.4	30.3	11.2	2.7	15.1
83	185.2	129.5	110.3	35.0	13.3	2.9	18.2
84	183.5	130.1	102.8	30.2	13.9	2.6	20.5
85	181.7	128.1	109.2	35.2	14.4	2.9	23.3
86(P)	178.9	127.7	119.3	35.2	14.3	3.5	27.8

19. 農家交易條件



	農家販賣價格指數					農家購入價格指數			패리 티 율 (%)	
	穀物	青果物	畜產物	其他	家計 用品	農業 用品	農村 賃料金			
70	14.7	12.6	20.3	15.8	18.8	15.6	16.4	17.9	8.7	94.2
71	17.8	15.8	20.7	19.1	24.4	17.8	18.4	20.9	10.4	100.0
72	21.7	20.0	21.5	22.5	30.2	20.4	20.5	24.4	12.4	106.3
73	24.1	21.4	22.9	26.4	37.3	22.3	21.9	28.3	13.6	108.1
74	31.6	30.3	30.5	29.9	44.8	30.0	31.1	34.0	18.1	105.3
75	39.2	38.3	42.4	36.2	49.2	37.1	39.0	39.5	23.3	105.7
76	48.7	46.0	51.8	52.3	52.3	46.3	46.1	53.5	29.5	105.2
77	56.8	52.8	60.2	65.5	54.6	54.2	52.6	64.0	36.6	104.8
78	74.0	62.2	104.6	92.1	63.0	70.5	62.2	91.5	51.8	105.0
79	82.1	78.0	100.1	85.4	76.4	80.2	76.1	87.7	78.1	102.4
80	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
81	128.2	118.0	125.3	153.0	115.3	128.5	123.6	139.8	116.0	99.8
82	137.1	122.4	115.2	186.1	115.2	144.3	133.6	165.0	128.9	95.0
83	140.3	123.8	98.1	207.1	117.0	156.2	139.2	187.7	136.5	89.8
84	139.1	127.3	128.6	174.9	116.8	150.1	142.3	164.1	142.1	92.7
85	138.2	137.7	134.6	145.7	124.7	146.4	146.3	145.6	149.7	94.4
86	138.6	149.2	116.8	136.1	132.8	147.5	151.6	138.9	156.1	94.0

20. 農水產物 輸出入 動向

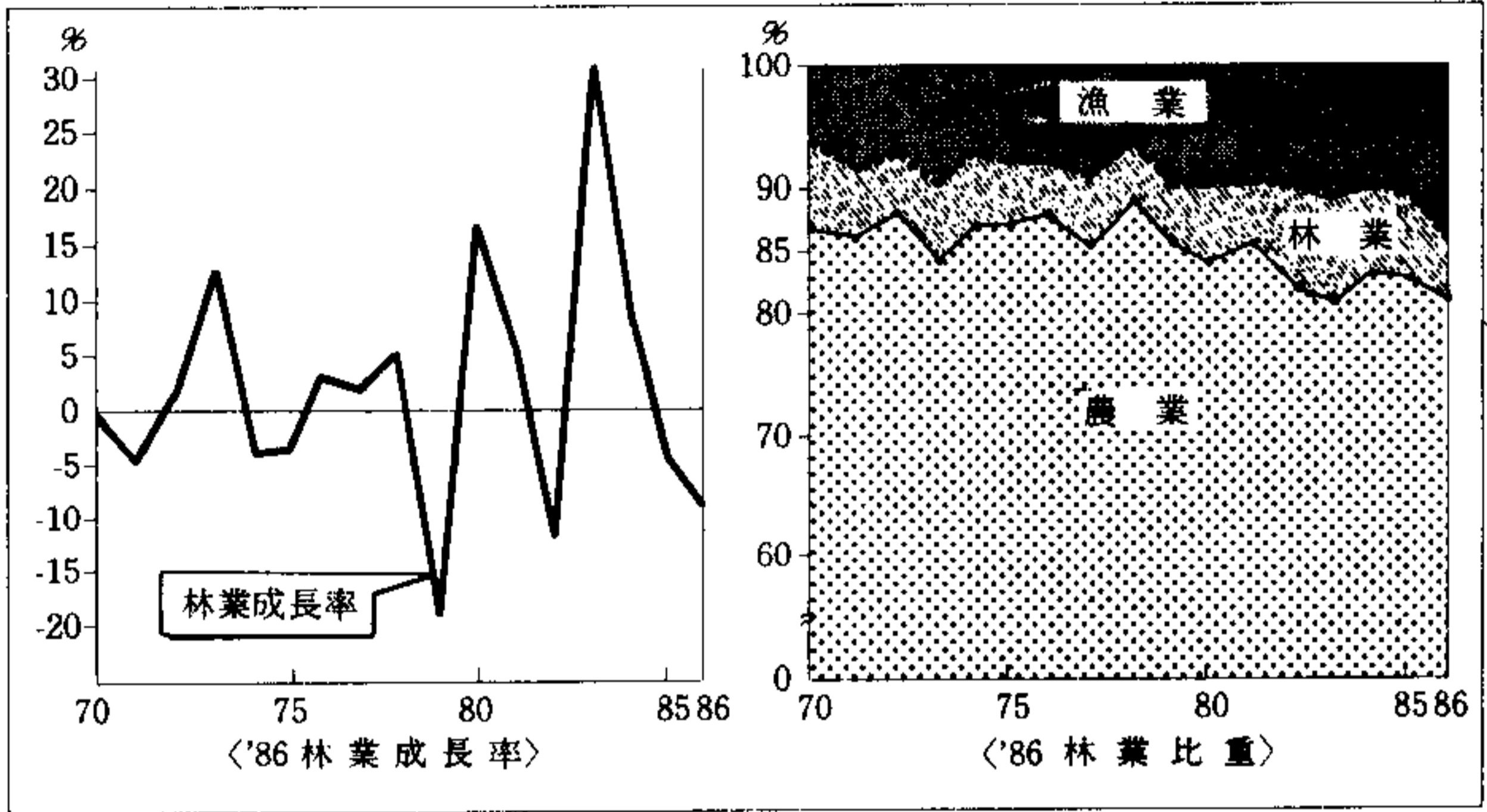


(單位：百萬\$)

	輸 出				輸 入			
	總 輸 出	農水產物	農產物	水產物	總 輸 入	農水產物	糧穀	飼料穀
76	7,715	744	176	568	8,774	451	409	111
77	10,046	979	275	703	10,811	613	569	221
78	12,711	1,033	281	752	14,972	871	576	60
79	15,065	1,202	266	936	20,339	1,316	1,018	486
80	17,505	1,096	225	871	22,292	1,444	1,355	393
81	20,993	1,233	182	1,051	26,131	1,938	1,703	421
82	21,616	1,102	155	947	24,251	1,241	969	444
83	24,223	1,062	155	907	26,192	1,605	1,191	744
84	29,245	1,172	217	955	30,631	1,447	1,167	688
85	30,283	1,134	164	970	31,136	1,151	983	575
86	34,714	1,592	208	1,384	31,584	1,231	1,016	611

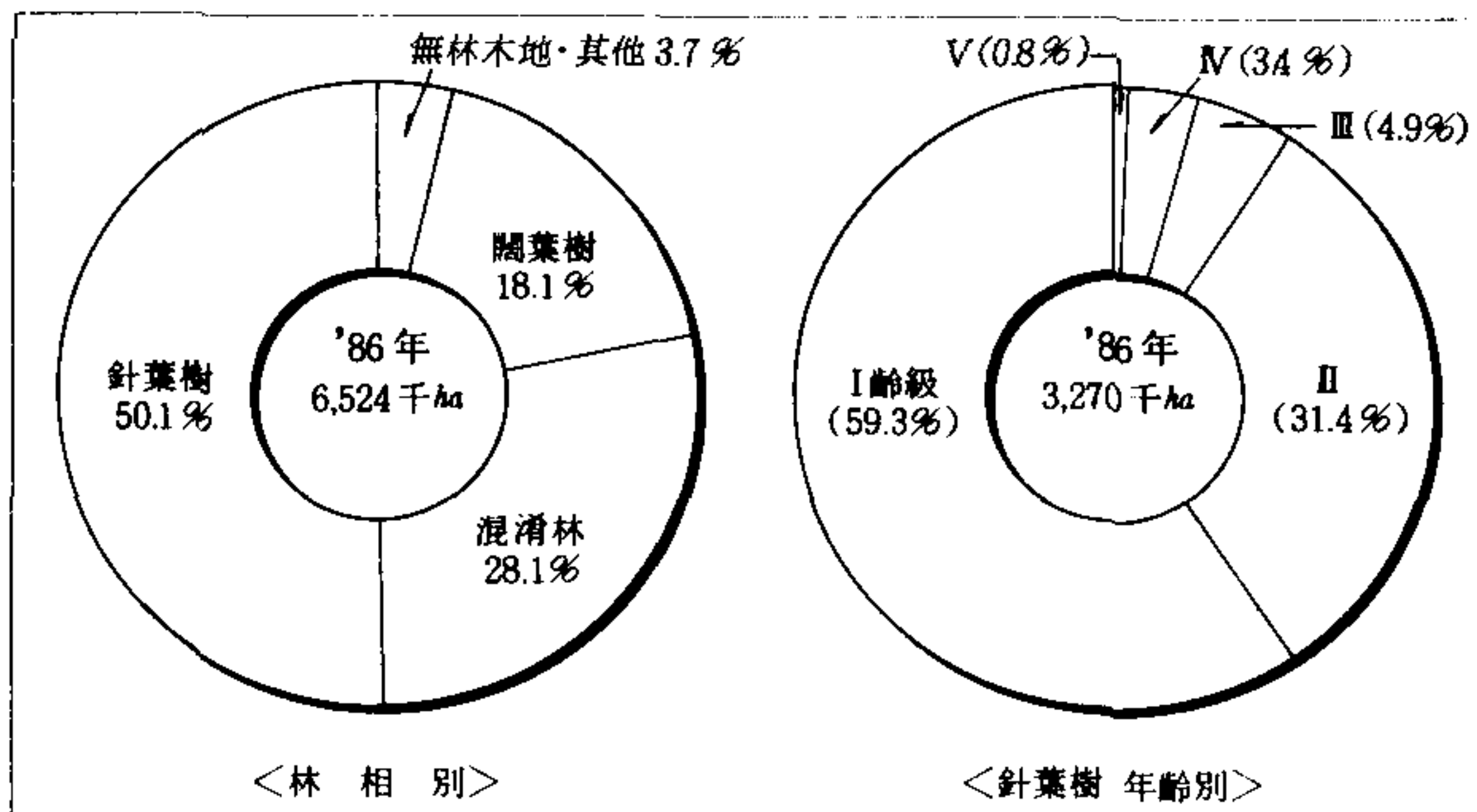
林業

1. 林業成長



	產業構造					成長率				
	國民 總生產	農 業	林業		漁業	國民 總生產	農 業	林業		漁業
			農業	林業				農業	林業	
	經常10億圓	%				80不變%				
70	2,776.9	25.8	22.5	1.6	1.7	7.6	△ 1.4	△2.2	△0.1	19.2
71	3,406.9	26.6	23.1	1.4	2.0	9.1	3.4	4.1	△4.4	1.3
72	4,177.5	26.2	23.1	1.3	1.8	5.3	2.0	1.2	1.9	15.6
73	5,355.5	24.7	20.9	1.4	2.4	14.0	7.1	5.7	12.8	20.8
74	7,564.5	24.6	21.5	1.4	1.7	8.5	7.1	7.2	△3.6	15.3
75	10,064.6	24.9	21.8	1.3	1.8	6.8	4.2	5.3	△3.4	2.2
76	13,818.2	23.5	20.7	1.1	1.7	13.4	10.2	11.2	3.2	1.9
77	17,728.6	22.3	19.1	1.2	2.1	10.7	3.0	3.1	2.4	2.0
78	23,936.8	20.4	18.1	1.0	1.8	11.0	△ 9.9	△11.0	5.0	△5.6
79	30,741.1	19.1	16.4	0.9	1.8	7.0	7.4	8.9	△18.2	8.9
80	36,672.3	15.1	12.7	0.9	1.4	△4.8	△19.9	△23.7	17.0	4.1
81	45,126.2	16.5	14.0	0.9	1.6	6.6	22.4	24.3	5.7	16.0
82	50,724.6	15.2	12.5	1.2	1.4	5.4	3.3	4.4	△11.9	1.6
83	58,985.8	14.1	11.4	1.1	1.5	11.9	6.5	6.3	31.1	△4.4
84	66,408.2	13.8	11.5	0.9	1.3	8.4	0.2	△1.0	7.7	8.3
85	72,849.8	13.9	11.6	0.9	1.5	5.4	4.8	5.3	△4.7	6.7
86(暫定)	83,833.0	12.7	10.3	0.7	1.6	12.5	4.4	4.5	△8.7	12.6

2. 林相別 林野面積

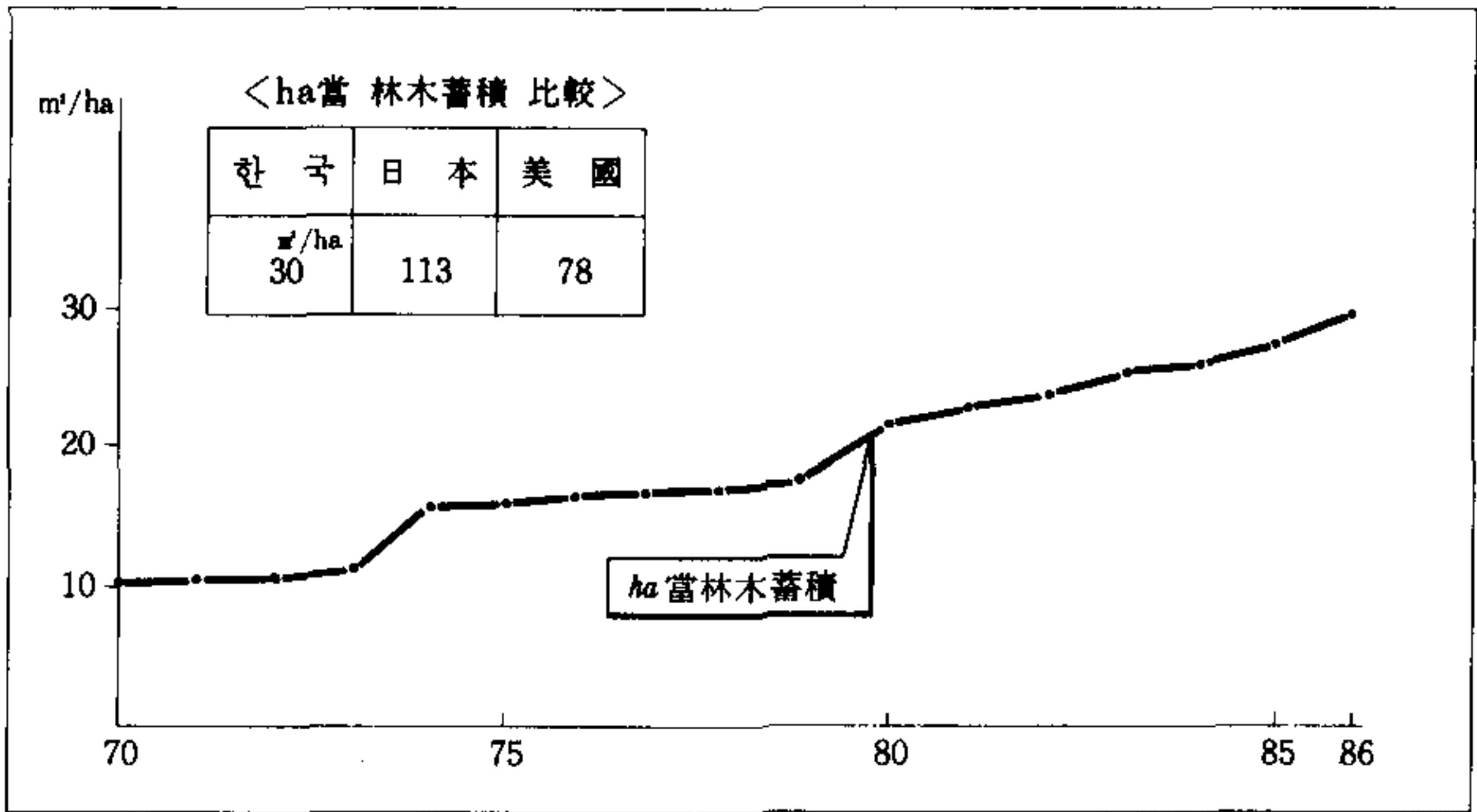


(單位：千ha)

	計	針葉樹	闊葉樹	混淆林	竹林	無立木地	未調査地
70	6,611	3,268	1,207	1,219	6	860	51
71	6,611	3,306	1,209	1,216	7	826	47
72	6,597	3,306	1,208	1,210	7	822	43
73	6,586	3,317	1,217	1,201	7	799	45
74	6,641	3,211	1,038	1,677	4	703	8
75	6,635	3,201	1,099	1,676	4	647	8
76	6,613	3,185	1,147	1,680	4	589	8
77	6,593	3,178	1,182	1,693	4	528	8
78	6,578	3,178	1,229	1,681	4	478	8
79	6,571	3,193	1,252	1,667	5	446	8
80	6,567	3,249	1,148	1,899	5	241	25
81	6,563	3,256	1,150	1,881	5	246	25
82	6,554	3,260	1,159	1,860	5	245	25
83	6,547	3,274	1,157	1,847	5	239	25
84	6,539	3,280	1,161	1,832	5	242	19
85	6,531	3,281	1,158	1,823	5	245	19
86	6,524	3,270	1,182	1,831	5	217	19

註：I級(1~9年) II(10~19) III(20~29) IV(30~39) V(40~49)

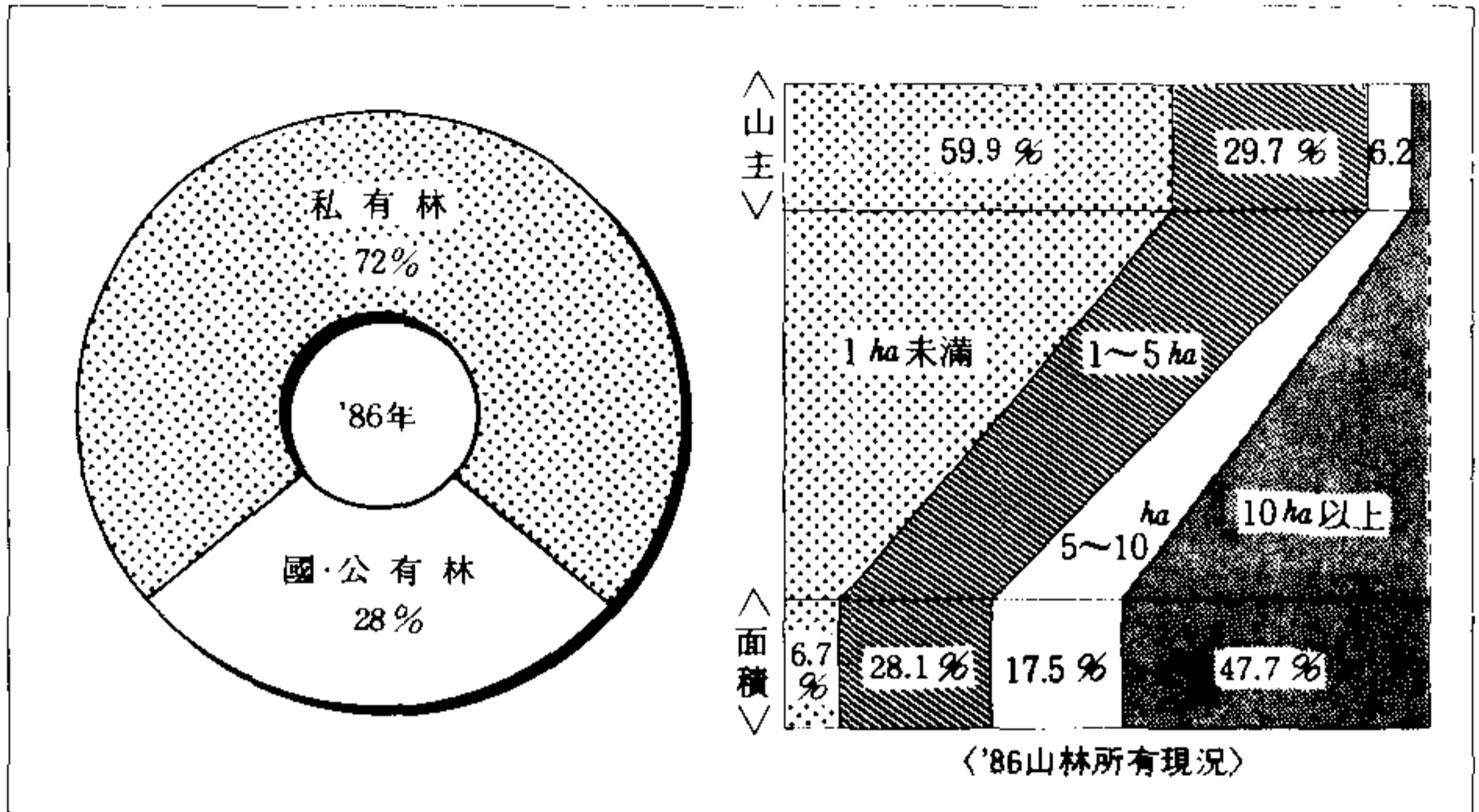
3. 林 木 蓄 積



〈單位：千噸〉

	計	國 有 林	公 有 林	私 有 林	ha當 林木蓄積
70	68,773	34,307	5,041	29,425	10.32
71	70,770	35,306	5,234	30,230	10.61
72	72,696	36,450	5,475	30,772	10.93
73	74,468	37,342	5,692	31,432	11.21
74	102,458	43,781	6,963	51,714	15.43
75	105,343	44,893	7,218	53,232	15.88
76	108,161	46,024	7,483	54,655	16.35
77	111,011	47,208	7,748	56,055	16.84
78	114,008	48,422	8,058	57,526	17.33
79	117,281	49,740	8,345	59,196	17.85
80	145,694	57,295	10,033	78,366	22.18
81	151,550	59,177	10,492	81,881	23.09
82	157,756	61,398	10,981	85,377	24.07
83	164,362	63,557	11,503	89,302	25.10
84	171,946	66,283	12,094	93,569	26.29
85	179,381	68,665	12,661	98,055	27.47
86	192,931	72,289	13,657	106,985	29.57

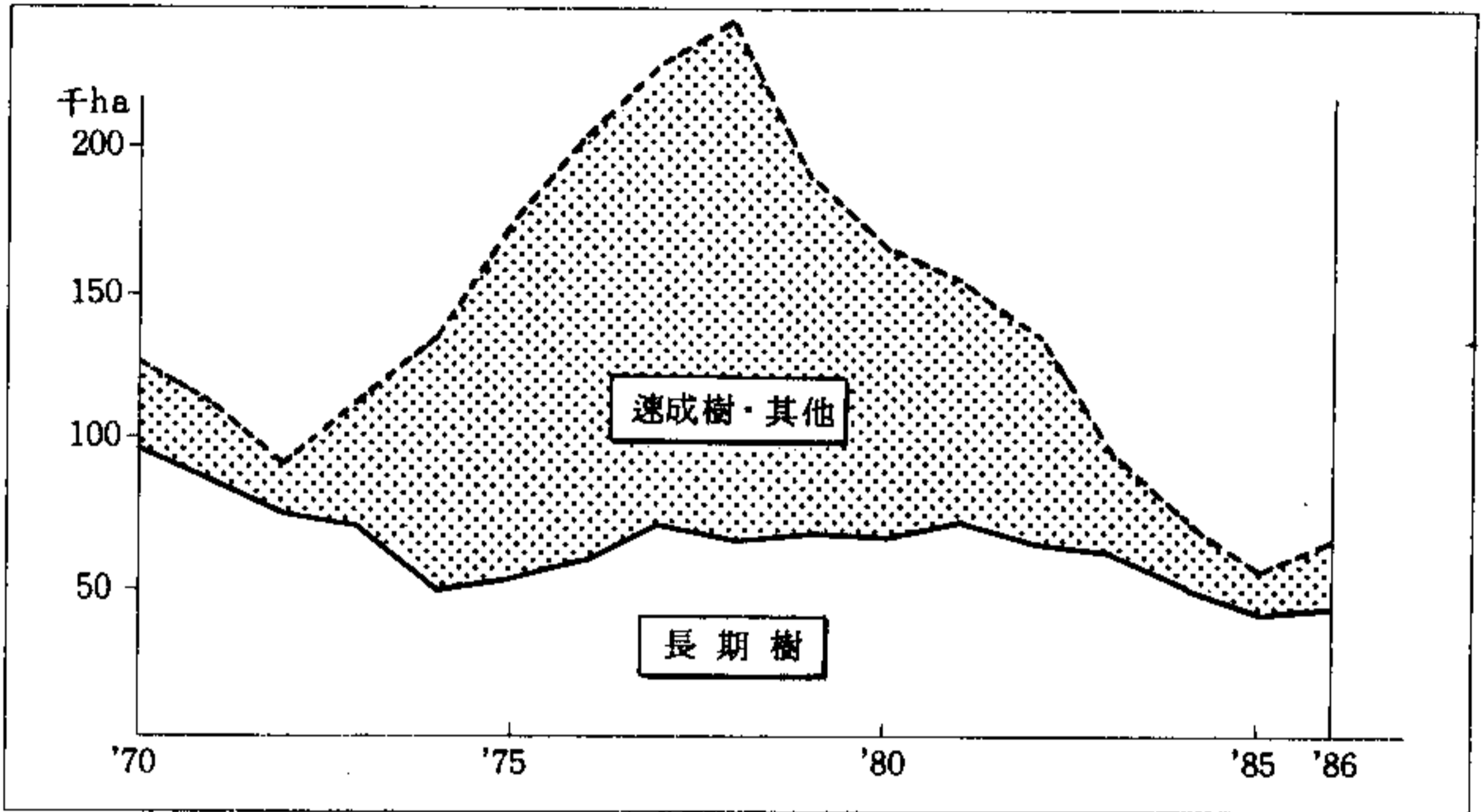
4. 山林所有 構造



(單位：千ha)

	計 面積	面積		
		國有林 面積	公有林 面積	私有林 面積
70	6,611	1,276	489	4,846
71	6,611	1,285	490	4,836
72	6,597	1,287	497	4,813
73	6,586	1,292	496	4,798
74	6,641	1,304	510	4,827
75	6,635	1,310	506	4,819
76	6,613	1,309	503	4,801
77	6,593	1,308	502	4,783
78	6,578	1,308	501	4,769
79	6,571	1,307	501	4,763
80	6,567	1,314	520	4,733
81	6,563	1,310	520	4,733
82	6,554	1,314	518	4,722
83	6,547	1,315	518	4,714
84	6,539	1,318	513	4,708
85	6,531	1,314	512	4,705
86	6,524	1,318	508	4,698

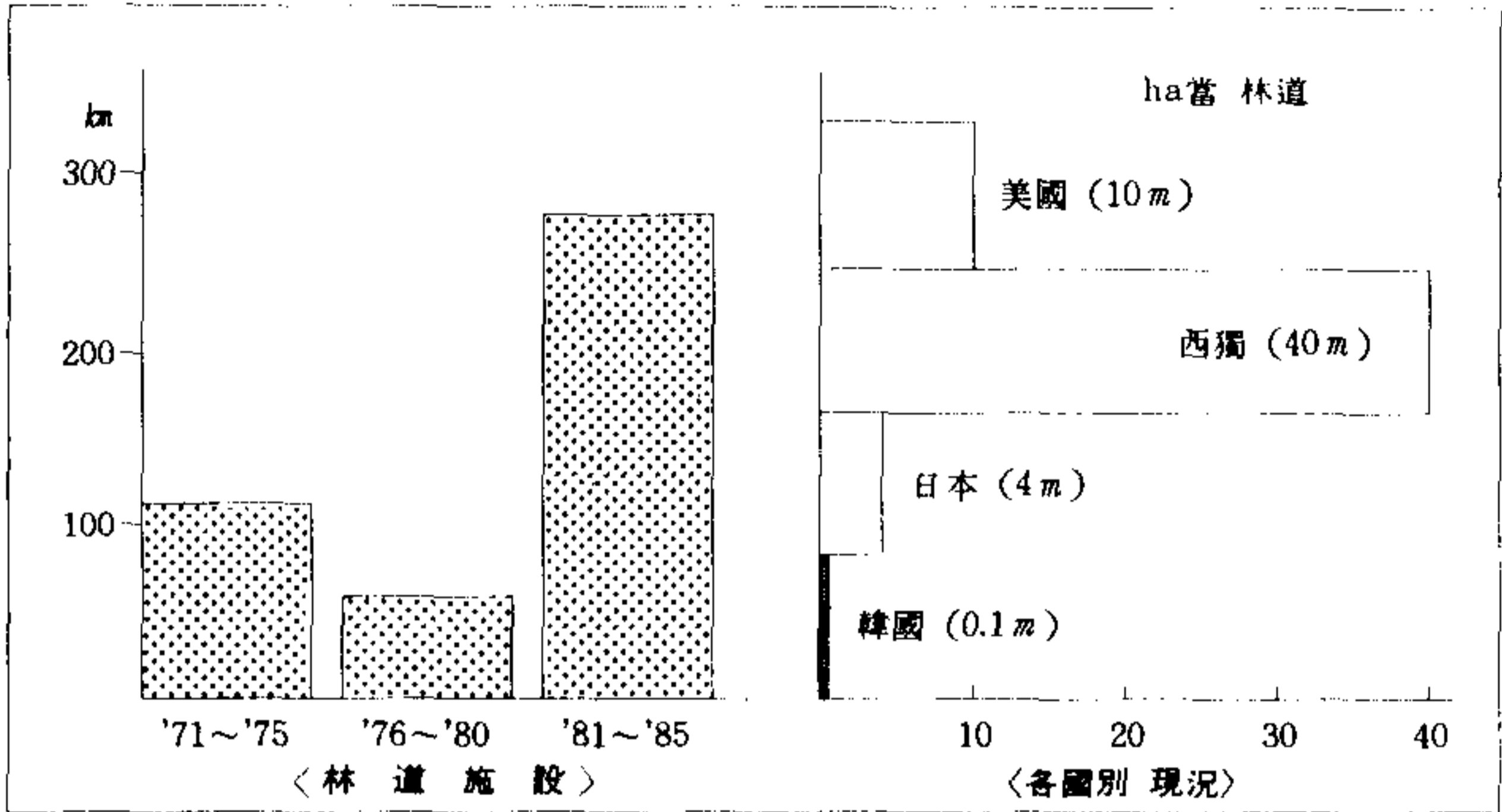
5. 樹種別造林實績



(單位：千ha, 百萬本)

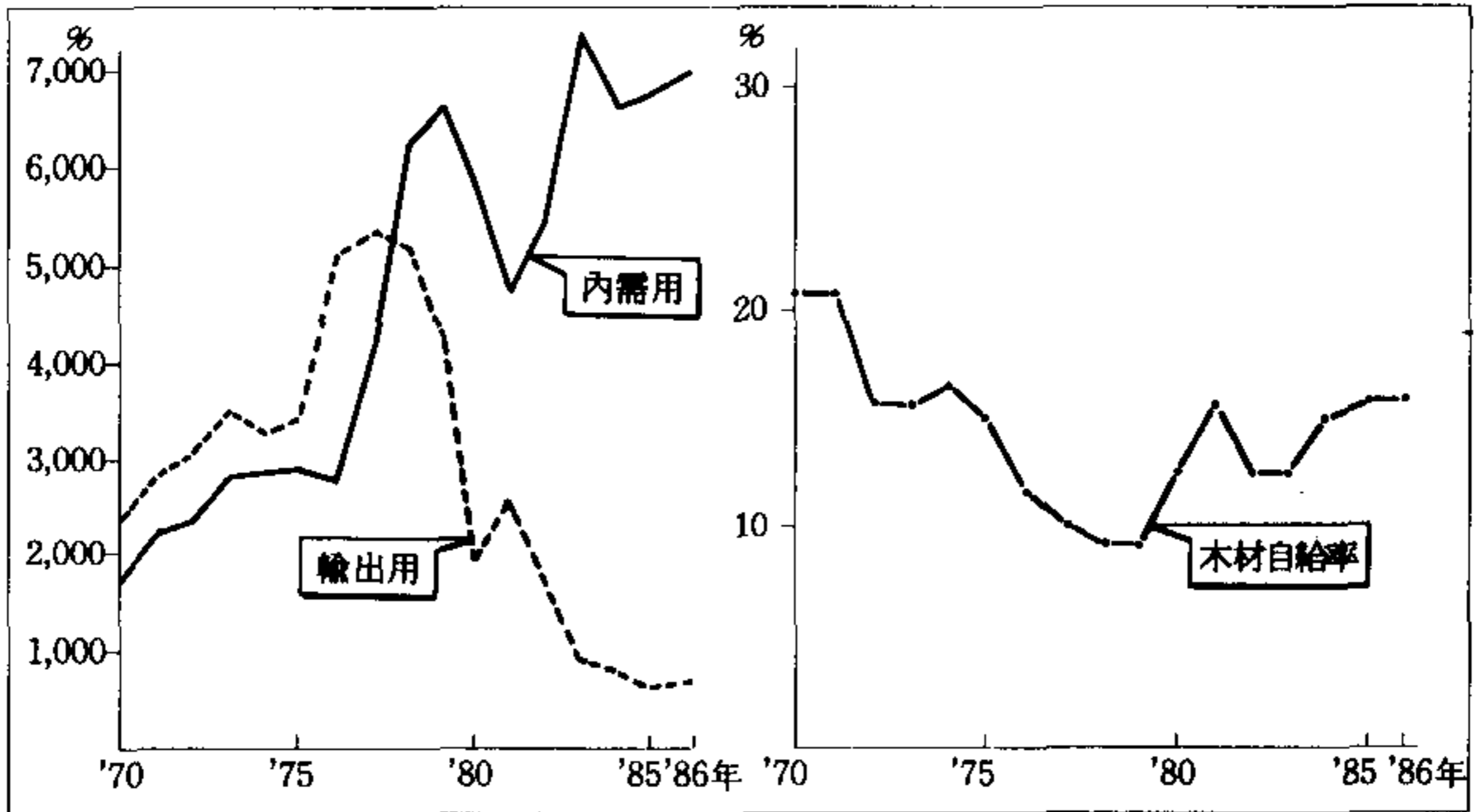
	計		長期樹		有實樹		速成樹		其他	
	面積	本數	面積	本數	面積	本數	面積	本數	面積	本數
70	125	318	95	292	12	5	15	8	3	14
71	109	272	83	255	20	8	5	3	1	6
72	89	229	73	218	12	5	3	2	1	5
73	112	311	79	259	19	8	4	3	10	42
74	135	352	48	184	25	11	31	16	30	140
75	174	562	52	166	24	10	57	200	41	186
76	204	600	59	183	39	15	55	158	50	244
77	226	711	70	216	31	12	48	80	77	402
78	229	423	64	194	20	8	146	180	10	41
79	189	308	67	202	8	3	115	55	—	48
80	166	281	65	195	2	1	98	51	—	33
81	153	273	70	214	2	1	80	38	—	70
82	136	257	63	189	2	1	61	30	9	36
83	94	210	60	180	3	1	28	16	2	13
84	72	175	48	144	2	1	21	13	—	17
85	52	137	40	117	2	1	11	6	—	14
86	53	139	41	124	2	1	21	13	—	17

6. 林 道



	施 設 量			投 資 額			
	計	國 有 林	民 有 林	計	國 費	地 方 費	自 力
70	6.46 ^{km}	6.46	-	6,490 ^{千圓}	6,490	-	-
71	11.18	11.18	-	25,541	25,541	-	-
72	11.04	11.04	-	48,534	48,534	-	-
73	6.41	6.41	-	27,130	27,130	-	-
74	8.09	8.09	-	42,122	42,122	-	-
75	86.68	86.68	-	397,211	397,211	-	-
76	46.63	46.63	-	262,906	262,906	-	-
77	14.00	14.00	-	116,342	116,342	-	-
78	0.55	0.55	-	12,254	12,254	-	-
79	0.43	0.43	-	10,850	10,850	-	-
80	2.86	2.86	-	52,404	52,404	-	-
81	-	-	-	-	-	-	-
82	-	-	-	-	-	-	-
83	8.66	3.66	5.0	228,178	131,998	53,605	42,575
84	77.32	11.60	65.72	1,637,352	633,712	842,042	161,598
85	160.74	26.82	133.92	2,899,257	1,374,045	1,005,442	519,770
86	230	41	189	4,118,967	2,061,523	1,348,409	709,037

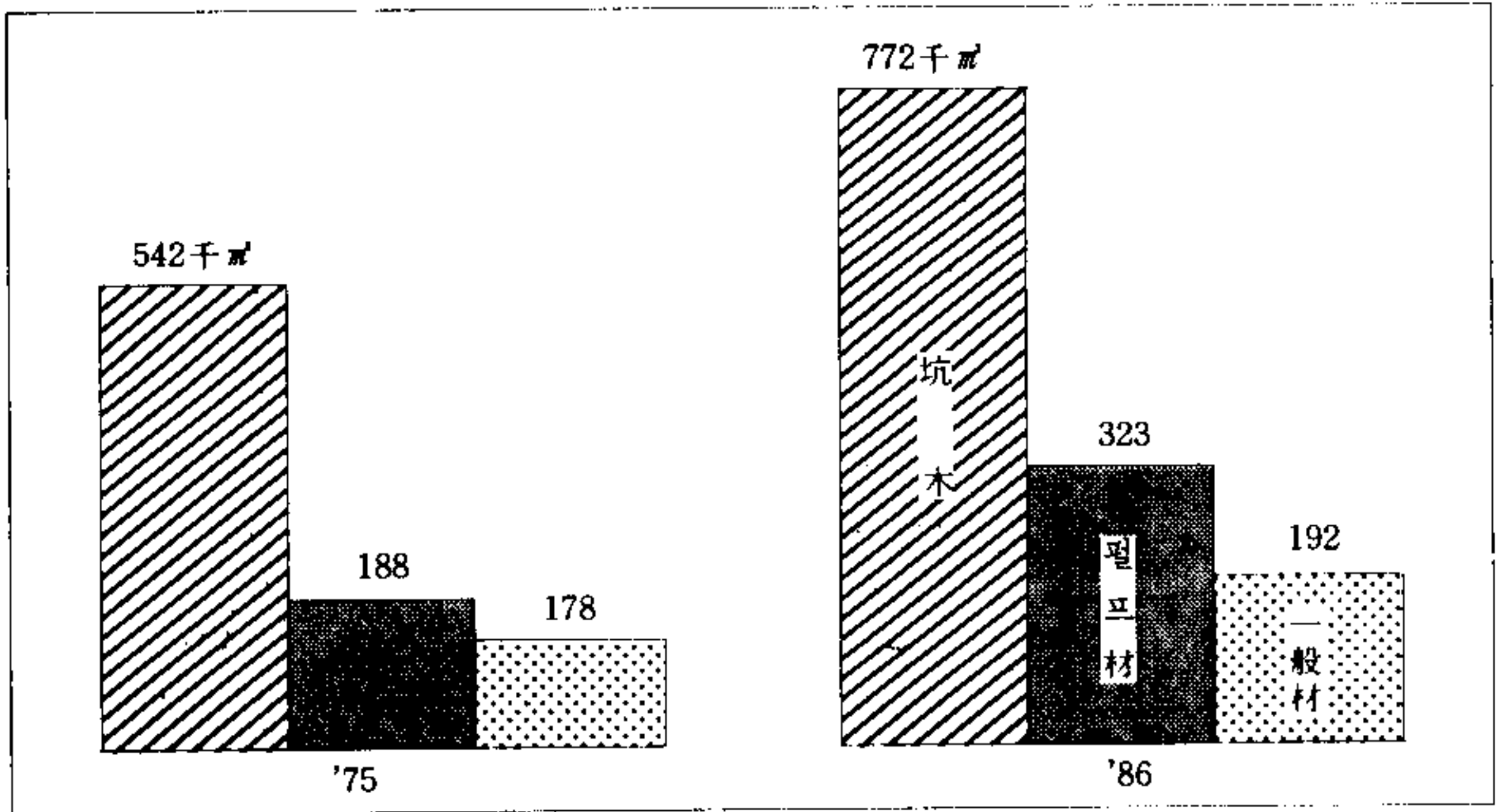
7. 木 材 需 給



(單位：千cc)

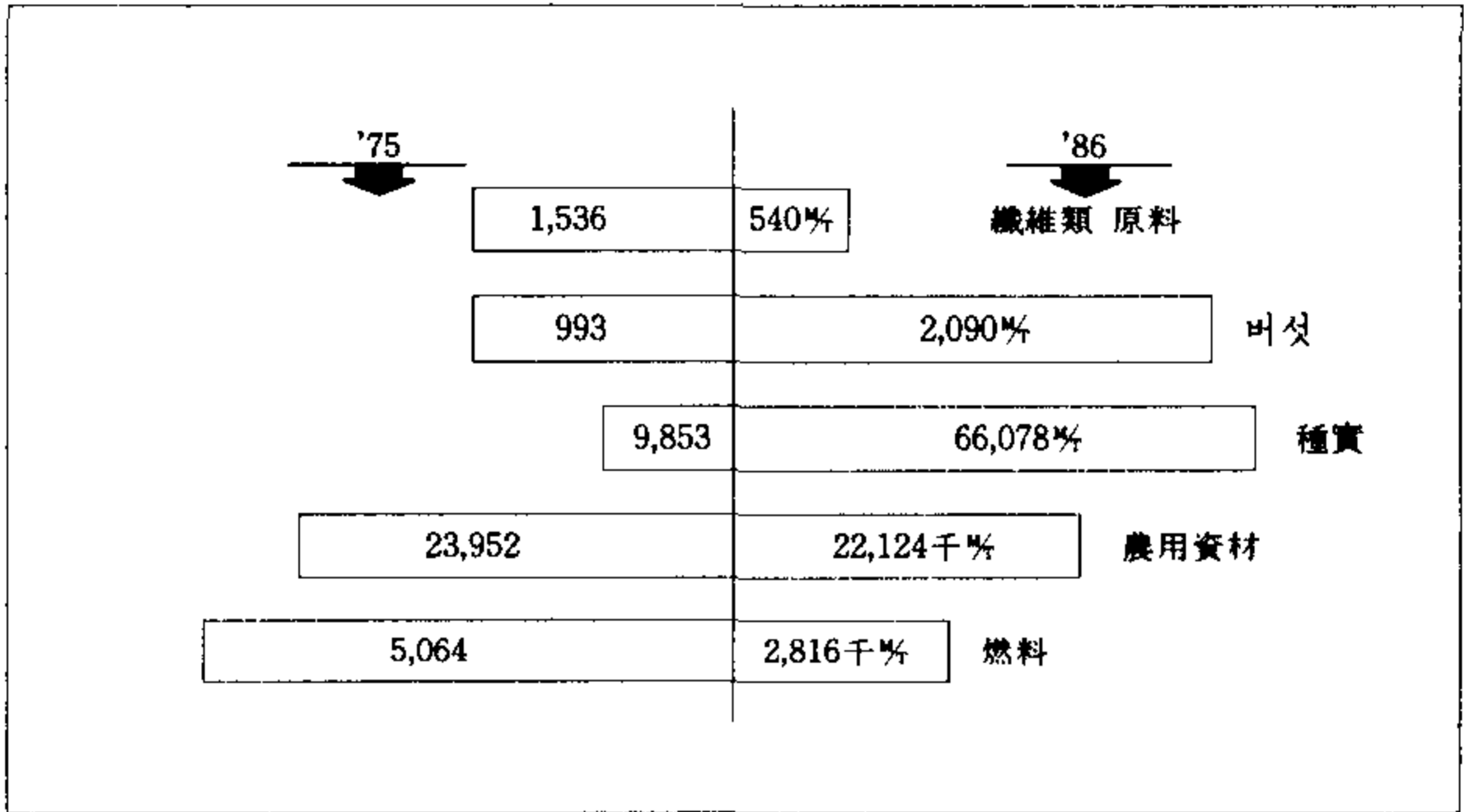
	需 要			供 給			廢 殘 材 利 用	自 給 率
	計	内 需 用	輸 出 用	原 木 供 給				
				計	内 材	外 材		
70	4,000	1,713	2,287	4,000	845	3,155	—	21 %
71	5,060	2,192	2,868	4,772	1,016	3,756	288	21
72	5,348	2,293	3,055	4,949	782	4,167	399	16
73	6,412	2,782	3,630	5,945	943	5,002	467	16
74	6,356	2,873	3,483	5,799	969	4,830	557	17
75	6,465	2,889	3,576	6,015	896	5,119	450	15
76	7,825	2,700	5,125	7,266	943	6,323	559	12
77	9,817	4,406	5,411	8,834	1,027	7,807	983	10
78	11,611	6,346	5,265	10,423	996	9,427	1,188	9
79	10,940	6,616	4,324	10,038	952	9,086	902	9
80	7,750	5,785	1,965	7,149	1,008	6,141	601	13
81	7,265	4,585	2,680	6,688	1,130	5,558	577	16
82	7,417	5,661	1,756	6,772	1,157	5,615	645	13
83	8,302	7,340	962	7,625	1,101	6,524	677	13
84	7,472	6,727	745	6,891	1,118	5,773	581	15
85	7,321	6,792	529	6,766	1,188	5,578	555	16
86	7,582	6,996	586	7,014	1,242	5,772	568	16

8. 用途別 内材供給



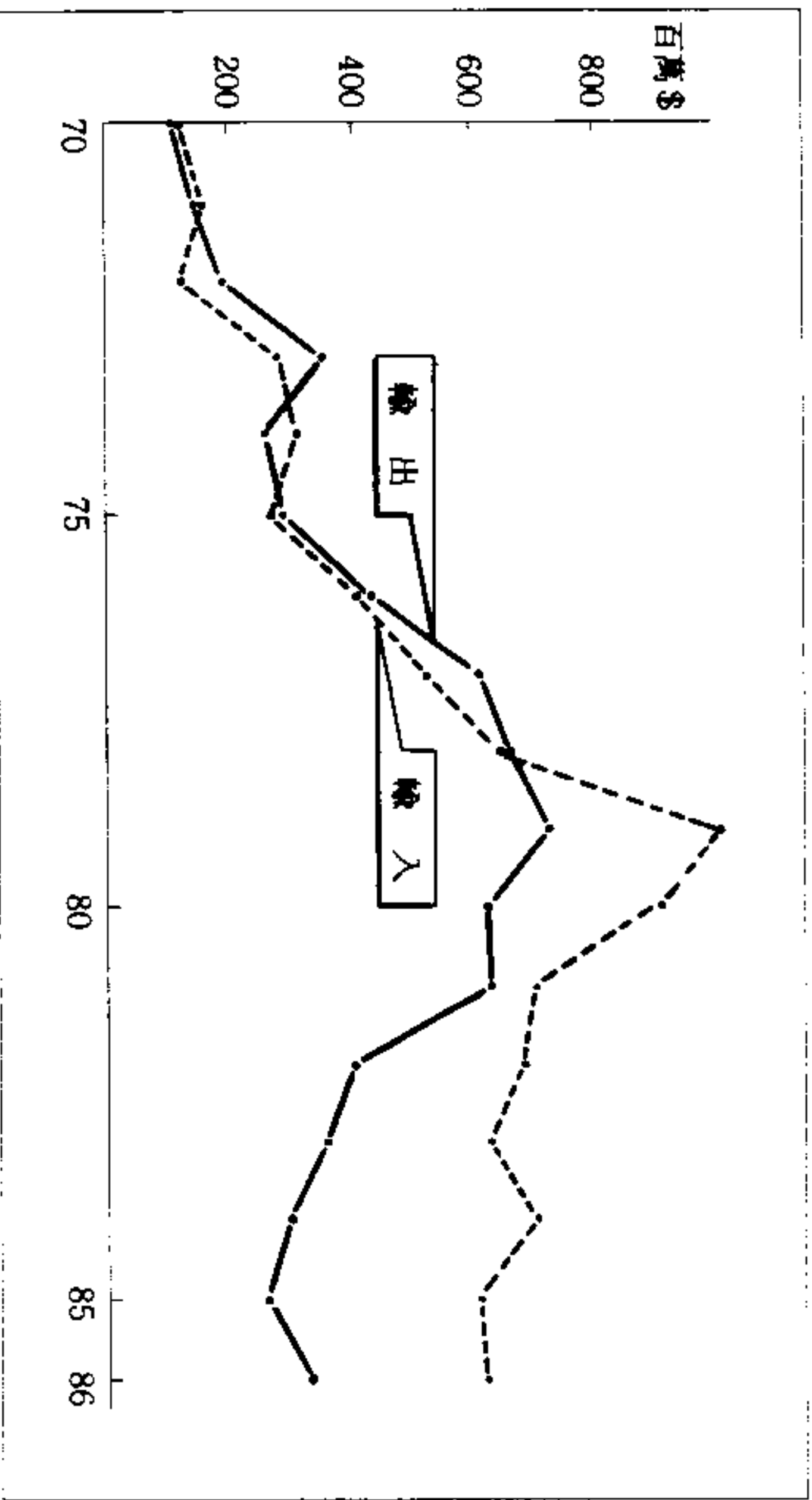
	合 計	坑 木	펄 프 材	一 般 材
	千㎡			
70	845	450	206	189
71	1,034	470	265	299
72	795	395	216	184
73	959	418	204	337
74	1,000	456	239	305
75	908	542	188	178
76	959	498	254	207
77	1,047	534	241	272
78	1,013	617	313	83
79	958	626	206	126
80	1,013	515	393	105
81	1,201	628	287	286
82	1,252	639	339	274
83	1,143	633	317	193
84	1,160	683	290	187
85	1,236	719	293	224
86	1,287	772	323	192

9. 主要山林 副產物 生產



	燃 料		農 用 資 材		種 實		버 섯		纖 維 類 原 料	
	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額
	千%	百萬元	千%		%		%		%	
70	6,353	11,378	26,183	27,618	8,334	971	419	413	441	239
75	5,604	27,493	23,952	67,855	9,853	7,426	993	4,087	1,536	1,041
76	5,037	28,151	23,794	73,953	11,095	7,860	798	4,453	1,381	901
77	4,926	31,481	25,373	104,664	21,581	21,303	1,054	7,831	1,617	1,747
78	5,084	38,037	26,233	132,031	32,950	26,893	1,844	15,050	1,284	1,349
79	4,713	41,601	18,472	151,898	44,271	44,185	1,545	12,199	1,008	1,106
80	4,700	48,402	25,495	258,721	45,455	45,925	1,528	16,401	821	1,196
81	4,443	51,937	25,560	318,428	66,459	45,944	1,833	17,526	730	1,062
82	4,343	83,891	19,057	265,706	70,861	73,963	1,725	15,401	933	861
83	4,404	120,058	26,692	388,650	77,841	48,892	3,497	34,406	961	1,259
84	3,990	113,764	29,414	428,272	74,089	63,928	2,745	29,156	725	762
85	3,181	97,381	26,345	402,814	80,393	64,521	3,067	38,237	653	586
86	2,816	93,291	22,124	372,349	66,078	67,579	2,090	40,132	540	478

10. 林產物 輸出入



	輸 出		輸 入	
	計	合 板	計	木 材
70	110,130	102,396	126,725	125,451
71	150,581	138,724	162,139	160,995
72	197,027	175,236	132,629	131,223
73	352,041	286,439	285,410	283,590
74	270,272	188,888	315,572	312,572
75	293,666	228,754	271,253	269,190
76	459,914	347,589	417,997	415,298
77	549,218	389,000	540,039	533,375
78	856,864	411,954	670,750	660,795
79	737,588	447,928	1,047,386	1,036,526
80	629,036	352,199	912,086	899,155
81	630,972	391,645	706,205	686,169
82	400,701	210,126	697,545	673,541
83	353,413	109,857	629,263	666,260
84	300,428	66,579	705,211	667,229
85	263,564	39,807	615,708	580,459
86	332,813	50,703	624,252	596,570

1987年度 農業動向에 關한 年次報告書

1987年 9月 日 印刷

1987年 9月 日 發行

編纂：企劃管理室長

發行：農林水産部

印刷：東洋文化印刷株式會社

737-2101~2, 2104~6

〈非賣品〉